

早来町

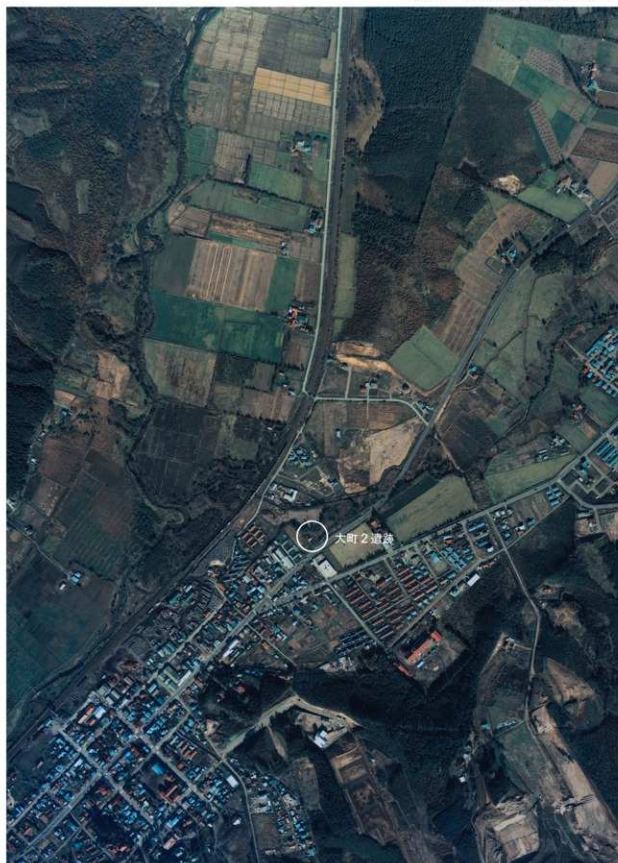
大町 2 遺跡

—一般国道234号早来町早来道路改良工事用地内埋蔵文化財調査報告書—

平成 17 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

口絵1 遺跡周辺の航空写真

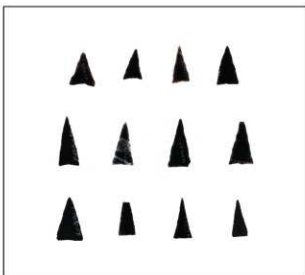


(国土地理院 C HO-75-9 C13-47より複製・加筆)

口絵2 出土遺物



後北C₁式土器



Ⅲ層出土の石鏃



フィゴ羽口(1) (包含層No110)



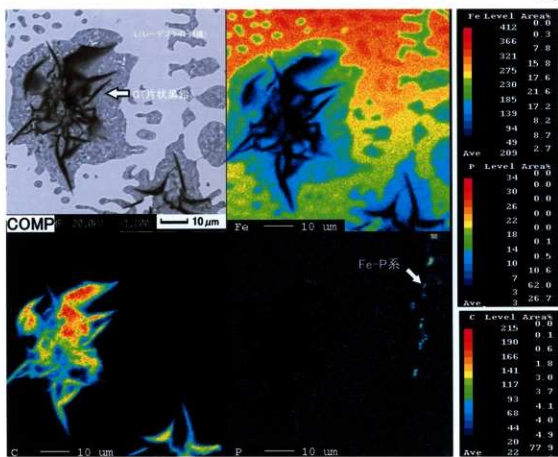
フィゴ羽口(2) (包含層No111)



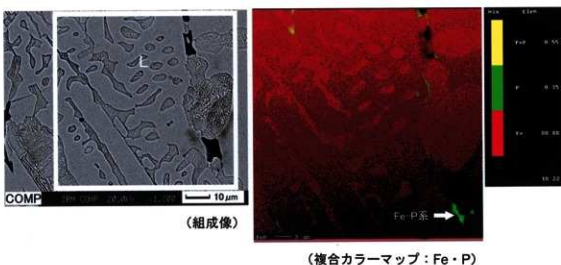
内耳鉄鍋 (US-15)



小刀 (UF-16)



No. 1 鉄鋼から抽出した試料に含有される元素の濃度分布のEPMAによるカラーマップ



No. 5 鉄鋼から抽出した試料のEPMAによる組成像(COMP)と含有される元素の濃度分布の複合カラーマップ

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部がおこなう早来町早来道路改良工事にともない、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成16年度および平成17年度に発掘調査を実施した、早来町大町2遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書（第228集）である。
2. 発掘調査は、平成16年度を第1調査部第4調査課が、平成17年度を第2調査部第3調査課が担当し、報告書の作成は第2調査部第3調査課がおこなった。
3. 本書の執筆は坂本尚史、佐藤 剛、熊谷仁志、谷島由貴、藤原秀樹、宗像公司がおこない、担当箇所は文末に記載した。全体の編集は坂本尚史が担当し、写真図版の編集は佐藤がおこなった。
4. 現地での写真撮影は担当調査員がおこない、遺物の撮影は立川トマスが担当し、写真の整理は佐藤が担当した。
5. 動物遺存体種同定、種実遺体種同定、炭化材樹種同定、放射性炭素年代測定、赤色顔料分析、黒曜石産地分析についてはパリオ・サーヴェイ株式会社 に依頼した。
6. 金属製品成分分析については、財団法人岩手県文化振興事業団岩手県立博物館に依頼した。
7. 一次整理は坂本が担当し、佐藤が補佐した。分類については土器を佐藤、石器を坂本がおこなった。
8. 二次整理は坂本・佐藤が担当し、データ管理を坂本がおこなった。
9. テフラ層の鑑定は、第1調査部第1調査課花岡正光がおこなった。
10. 鉄製品の保存処理は、第1調査部第1調査課田口 尚がおこない、整理は田口の指導の下、佐藤が担当した。
11. 報告書刊行後、遺物および図面・台帳は早来町教育委員会が、写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
12. 調査にあたっては、下記の機関および諸氏の御指導、御協力をいただいた（順不同、敬称略）。
北海道教育庁生涯学習部文化課、早来町教育委員会、早来小学校、北海道開拓記念館 山田悟郎・平川善祥・右代啓祝・鈴木琢也、北海道北方博物館交流協会 野村 崇、札幌大学 木村英明・山田和史、札幌学院大学 鶴丸俊明、札幌国際大学 長崎調一、帝京大学 阿部朝衛、東北学院大学 辻 秀人、苫小牧市博物館 工藤 肇・赤石慎三、札幌市教育委員会 上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司・藤井誠二・石井 淳、小樽市教育委員会 石神 敏・石川直章、千歳市教育委員会 大谷敏三・田村俊之・松田淳子・豊田宏良、恵庭市教育委員会 上屋真一・松谷純一・森 秀之・長町章弘、石狩市教育委員会 石橋孝夫・工藤義衛、江別市教育委員会 稲垣和幸、北広島市教育委員会 遠藤龍敏、帯広市百年記念館 北沢 実・山原敏朗、旭川市教育委員会 瀬川拓郎・友田哲弘・大倉千加子、深川市教育委員会 葛西智義、富良野市教育委員会 杉浦重信・澤田 健、厚真町教育委員会 乾 哲也・小野哲也・奈良智法、平取町教育委員会 森岡健治・長田佳宏、余市町 乾 芳弘、厚沢部町教育委員会 石井淳平、浦幌町教育委員会 後藤彦彦、浦幌町立博物館 佐藤芳雄、常呂町教育委員会 武田 修・熊木俊朗、稚内市教育委員会 内山真澄、岩手県立博物館 赤沼英男、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 丸山浩治、国立科学博物館 金子浩昌、京都大学 石丸恵利子、札幌市 大沼忠春・中村賢太郎、苫小牧市 宮夫靖夫

記号等の説明

1. 遺構の表記には、本文および図表中では次の略号を使用した。調査区名と区別するため、「LH-1」、「LSP-2」のように、アルファベットとアラビア数字の間にはハイフンを挿入した。また、IV層（樽前c降下軽石層）を境界に上層（Ⅲ層）と下層（V層）に分け、Ⅲ層構築遺構にはUを、V層構築遺構にはLを冠することとした。ただし、TPのみは検出がV層に限定されるため、Lは付していない。また、同一の遺構種類でも、Ⅲ層・V層それぞれに別の連続番号を付した。

H：堅穴住居跡 P：土坑 TP：Tピット SP：柱穴状土坑 F：焼土 CB：炭化物集中
S：礫集中 中：遺物集中 V層検出の土坑であれば、LP-1と記号化されることとなる。
遺構内の施設に関しては以下の略号を用いた。

HP：堅穴住居跡内の土坑 HF：堅穴住居跡内の焼土

2. 実測図、拓影図の縮尺は、原則として次のとおりである。ただし例外的なものがあるため、図にはスケールを付した。

遺構平面・土層断面図 1：40 遺物出土状況拡大図 1：20

土器・礫石器 1：3 剥片石器・石斧類・土製品・石製品・鉄製品 1：2

3. 調査区の設定は開発局の工事用設計図を基にした。そのため作成した図面は「北が上」の体裁をとっていない。

4. 基本土層図、遺構の土層堆積図に表記した数字は標高（単位m）を示す。
5. 本文および表中で、遺構の規模は次の要領で計測値を示した（単位m）。なお一部破壊されているもの等については、現存長を（丸括弧）で示した。

- ・住居・土坑：（確認面の長軸長/床・坑底面の長軸長）×（確認面の短軸長/床・坑底面の短軸長）×確認面からの最大深
- ・柱穴状ピット：（確認面の長軸長/坑底面の長軸長）×確認面からの最大深
- ・焼土・炭化物集中：確認面の長軸長×短軸長×層厚
- ・礫集中・遺物集中：確認面の長軸長×短軸長

6. 遺構平面図において、遺構の範囲は実線、遺構出土物の範囲は破線で示した。また、破線については、図の内容に応じて個々に線種を変更している。

7. 遺構平面図では、土坑検出の遺体層、焼土確認の灰層を網掛けで表現している。

8. 遺構の遺物出土状況図における遺物のシンボルマークは次のとおりである。

土器：●（遺構に伴うもの）○（伴わないもの） 礫：■（遺構に伴うもの）□（伴わないもの）
石器：▲（遺構に伴うもの）△（伴わないもの） 縄文時代石鏃：★（遺構に伴うもの）
ベンガラ：×

9. 土層の表記は、基本土層はローマ数字、遺構外で基本土層に該当しないものは小文字アルファベットで、遺構内の層位はアラビア数字で示した。土層の色調表現は、『新版 標準土色帖』（小山・竹原 1967）を使用した。粘度、土性分析の観察方法は、『土壌調査ハンドブック』（ペドロジスト懇談会 1984）を参考にした。また、土層の混在状態を、基本土層記号などを用いて以下のように表示する場合がある。

A+B：AとBがほぼ同量混じる A>B：AにBが微量混じる

A>B：AにBが少量混じる A≒B：AとBはほぼ同質である

10. 石器の断面、側面等の表現で、敲打痕はV-V、すり痕は|—|で範囲を示した。節理面は実線と破線を組み合わせたもので表現した。

11. VI章掲載石器一覧の残存率の分類内容は、0：完形、1：2/3以上残存、2：半分程度残存、3：残存が1/3以下、4：破損品を再加工もしくは再使用しているもの、である。

12. VI章掲載石器一覧の付着物・被熱については、観察されるものを1で表現した。

目 次

口 絵

例 言

記号等の説明

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

I 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	2
4 調査結果の概要	2

II 遺跡の立地と周辺の環境

1 遺跡の立地と環境	11
2 周辺の遺跡	11
3 遺跡周辺の石材環境	15

III 調査の方法

1 調査区の設定	23
2 調査の方法	23
3 基本層序	24
4 整理の方法	27
5 金属製品保存処理の工程	29
6 遺物の分類	31

IV 遺構と遺構出土の遺物

1 概 要	35
2 III層の遺構と出土遺物	36
3 V層の遺構と出土遺物	133

V 包含層出土の遺物

1 概 要	337
2 土器・土製品	338
3 石器・石製品	356
4 鉄製品	366

VI 遺構一覧・集計結果・掲載遺物一覧

VII 自然科学的手法による分析結果

1 大町2遺跡出土金属資料の自然科学的調査結果	419
2 大町2遺跡出土遺物の自然科学分析	
I 炭化種子および炭化材の放射性炭素年代	438
II 獣骨・貝類の同定	444
III 種実および炭化材同定	449
IV 土器付着赤色顔料の分析	457
V 黒曜石の原産地推定	458

VIII 総括

1 遺跡と遺構	469
2 石器	478
3 後北C ₁ 式期について	482

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

I 章 調査の概要

図 I-1 遺跡の位置	3
図 I-2 III層遺構位置図	4
図 I-3 V層遺構位置図	5

II 章 遺跡の位置と周辺の環境

図 II-1 周辺の地形(1)	12
図 II-2 周辺の地形(2)	13
図 II-3 周辺の地形(3)	14
図 II-4 周辺の地形と遺跡の範囲	14
図 II-5 周辺の遺跡(早来町)	16
図 II-6 周辺の遺跡(追分町)	19
図 II-7 範囲確認調査出土の遺物	20
図 II-8 石材調査地点	21

III 章 調査の方法

図 III-1 調査区設定図	25
図 III-2 年度別調査範囲	25
図 III-3 遺構確認調査範囲	25
図 III-4 土層断面図	26
図 III-5 金属保存処理の工程	30

IV 章 遺構と遺構出土遺物

図 IV-1 UP-1・2	38
図 IV-2 UP-2・3	39
図 IV-3 UP-4	42
図 IV-4 UP-4	43
図 IV-5 UP土坑群	44
図 IV-6 UP-5・6	45
図 IV-7 UP-7・8・9	46
図 IV-8 UP-9・10・11	49
図 IV-9 UP-11・12・13	50
図 IV-10 UP-14・15	51
図 IV-11 USP-1・2・8	53
図 IV-12 USP-3~7	55
図 IV-13 USP-9~11	57
図 IV-14 UF-1~4	59
図 IV-15 UF-5~7	61
図 IV-16 UF-8・9	65
図 IV-17 UF-10・12	66
図 IV-18 UF-11	67
図 IV-19 UF-13	69
図 IV-20 UF-14・15	71
図 IV-21 UF-16・17	73
図 IV-22 UF-18・19	75
図 IV-23 UF-20・21	77
図 IV-24 UF-22・23	79
図 IV-25 UF-24~26	81
図 IV-26 UCB-2~4	83
図 IV-27 UCB-5, 灰集中	84

図 IV-28 US-1~3	86
図 IV-29 US-4~7	87
図 IV-30 US-8~12・14	91
図 IV-31 US-13・15	93
図 IV-32 U遺物集中-1~3	95
図 IV-33 U遺物集中-4~7	97
図 IV-34 U遺物集中-8・9	101
図 IV-35 U遺物集中-10・11	103
図 IV-36 U遺物集中-12	104
図 IV-37 U遺物集中-13~15・28・29	105
図 IV-38 U遺物集中-16~18	109
図 IV-39 U遺物集中-19~22	111
図 IV-40 U遺物集中-23~25	113
図 IV-41 U遺物集中-26・27	115
図 IV-42 U遺物集中-30・101・103・107・108	119
図 IV-43 U遺物集中-104・105・109・111	121
図 IV-44 U遺物集中-116・119・121	125
図 IV-45 U遺物集中-122・123・125・126	127
図 IV-46 U遺物集中-128・131・134	129
図 IV-47 U遺物集中-136~138・140	131
図 IV-48 U遺物集中-142・143	132
図 IV-49 LH-1・2	134
図 IV-50 LH-3	136
図 IV-51 LH-3	137
図 IV-52 LH-3	138
図 IV-53 LH-4	139
図 IV-54 LP-1・2	143
図 IV-55 LP-3・6	144
図 IV-56 LP-4・5	145
図 IV-57 LP-7~10	147
図 IV-58 LP-11・12	149
図 IV-59 LP-14~16	151
図 IV-60 LP-17~19	153
図 IV-61 LP-19・22・24	155
図 IV-62 LP-25・28・29	157
図 IV-63 LP-30~33	159
図 IV-64 LP-31~34	161
図 IV-65 LP-35~37・39	163
図 IV-66 LP-38	165
図 IV-67 LP-41・42	167
図 IV-68 TP-1	169
図 IV-69 TP-2	171
図 IV-70 TP-3・4	173
図 IV-71 TP-5・6	174
図 IV-72 TP-7・8	175
図 IV-73 TP-9・10	177
図 IV-74 LF-1~5	179
図 IV-75 LF-6~12	183
図 IV-76 LF-13~17・19	184
図 IV-77 LF-20・22・23・39	188

図IV-78 縄文時代晩期後葉の焼土群 (LF-25~33・37)	191
図IV-79 LF-21・24~26	192
図IV-80 LF-27~31・37	193
図IV-81 LF-32~36・50	197
図IV-82 LF-40~43・47	199
図IV-83 LF-48・49・53	201
図IV-84 LF-51・52・54~56	204
図IV-85 LF-57~60・94	207
図IV-86 LF-61~65	209
図IV-87 LF-66~68・70	211
図IV-88 LF-69・71・72	214
図IV-89 LF-73~76	215
図IV-90 縄文時代晩期後葉の焼土群 (LF-77~81・87・88)	218
図IV-91 LF-77~79・87	219
図IV-92 LF-78~81・87	221
図IV-93 LF-82~86	223
図IV-94 LF-88~91	227
図IV-95 LF-92・93・95	229
図IV-96 LCB-1	231
図IV-97 LS-1~3	234
図IV-98 LS-4	235
図IV-99 LS-5・7	237
図IV-100 LS-8~10	239
図IV-101 LS-12・13・17	241
図IV-102 LS-14	243
図IV-103 LS-15・16・18	245
図IV-104 LS-19~21	247
図IV-105 LS-22~25	248
図IV-106 L遺物集中-1~4	251
図IV-107 L遺物集中-5・10	253
図IV-108 L遺物集中-6~8	256
図IV-109 L遺物集中-6・9・13	257
図IV-110 L遺物集中-11・12・14	259
図IV-111 L遺物集中-15・16・19・21	262
図IV-112 L遺物集中-17・18	264
図IV-113 L遺物集中-22~24・101・103	266
図IV-114 L遺物集中-104・127	267
図IV-115 L遺物集中-104	269
図IV-116 L遺物集中-106・108・112・114	271
図IV-117 L遺物集中-117・118・120	273
図IV-118 L遺物集中-121~123・126	275
図IV-119 遺構の土器(1)	278
図IV-120 遺構の土器(2)	279
図IV-121 遺構の土器(3)	280
図IV-122 遺構の土器(4)	281
図IV-123 遺構の土器(5)	282
図IV-124 遺構の土器(6)	283
図IV-125 遺構の土器(7)	284
図IV-126 遺構の土器(8)	285
図IV-127 遺構の土器(9)	286
図IV-128 遺構の土器(10)	287

図IV-129 遺構の土器(11)	288
図IV-130 遺構の土器(12)	289
図IV-131 遺構の土器(13)	290
図IV-132 遺構の土器(14)	291
図IV-133 遺構の土器(15)	292
図IV-134 遺構の土器(16)	293
図IV-135 遺構の土器(17)	294
図IV-136 遺構の土器(18)	295
図IV-137 遺構の土器(19)	296
図IV-138 遺構の土器(20)	297
図IV-139 遺構の土器(21)	298
図IV-140 遺構の土器(22)	299
図IV-141 遺構の土器(23)	300
図IV-142 遺構の土器(24)	301
図IV-143 遺構の土器(25)	302
図IV-144 遺構の土器(26)	303
図IV-145 遺構の土器(27)	304
図IV-146 遺構の土器(28)	305
図IV-147 遺構の土器(29)	306
図IV-148 遺構の土器(30)	307
図IV-149 遺構の土器(31)	308
図IV-150 遺構の土器(32)	309
図IV-151 遺構の土器(33)	310
図IV-152 遺構の土器(34)	311
図IV-153 遺構の土器(35)	312
図IV-154 遺構の土器(36)	313
図IV-155 遺構の土器(37)	314
図IV-156 遺構の土器(38)	315
図IV-157 遺構の土器(39)	316
図IV-158 遺構の土器(40)	317
図IV-159 遺構の土器(41)	318
図IV-160 遺構の土器(42)	319
図IV-161 遺構の土器(43)	320
図IV-162 遺構の土器(44)	321
図IV-163 遺構の土器(45)	322
図IV-164 遺構の土器(46)	323
図IV-165 遺構の土器(47)	324
図IV-166 遺構の石器(1)	325
図IV-167 遺構の石器(2)	326
図IV-168 遺構の石器(3)	327
図IV-169 遺構の石器(4)	328
図IV-170 遺構の石器(5)	329
図IV-171 遺構の石器(6)	330
図IV-172 遺構の石器(7)	331
図IV-173 遺構の石器(8)	332
図IV-174 遺構の石器(9)	333
図IV-175 遺構の鉄製品(1)	334
図IV-176 遺構の鉄製品(2)	335

V章 包含層出土の遺物

図V-1 包含層の土器(1)	339
図V-2 包含層の土器(2)	340
図V-3 包含層の土器(3)	341

図V-4	包含層の土器(4)	342
図V-5	包含層の土器(5)	343
図V-6	包含層の土器(6)	344
図V-7	包含層の土器(7)	345
図V-8	包含層の土器(8)	346
図V-9	包含層の土器(9)	347
図V-10	包含層の土器(10)	348
図V-11	包含層の土器(11)	349
図V-12	包含層の土器(12)	350
図V-13	包含層の土器(13)	351
図V-14	包含層の土器(14)	352
図V-15	包含層の土器(15)	353
図V-16	包含層の土製品	354
図V-17	包含層の石器(1)	357
図V-18	包含層の石器(2)	359
図V-19	包含層の石器(3)	361
図V-20	包含層の石器(4)・石製品	365
図V-21	包含層の鉄製品	367
図V-22	出土分布図(1)	368
図V-23	出土分布図(2)	369
図V-24	出土分布図(3)	370
図V-25	出土分布図(4)	371
図V-26	出土分布図(5)	372
図V-27	出土分布図(6)	373
図V-28	出土分布図(7)	374
図V-29	出土分布図(8)	375
図V-30	出土分布図(9)	376
図V-31	出土分布図(10)	377
図V-32	出土分布図(11)	378
図V-33	出土分布図(12)	379

Ⅴ章 自然科学的手法による分析結果

1	大町2遺跡出土金属資料の自然科学的調査結果	
図1	No.4の外観と抽出した試料の組織 観察結果	421
図2	No.6の外観と抽出した試料の組織 観察結果	422
図3	No.2・No.3・No.7の外観と抽出 した試料の組織観察結果	423
図4	No.9の外観と抽出した試料のマクロ組織	423
図5	No.1・No.5の外観と抽出した 試料の組織観察結果	424
図6	No.8の外観と抽出した試料の組織 観察結果	425

図7	No.8固着赤色物質およびその周辺の 蛍光X線による定性チャート	426
図8	No.8固着物質のEPMAによる組成 像(COMP)と定性チャート	426
図9	Rf ₆ ・Rf ₇ の外観と抽出した試料の 組織観察結果	427
図10	Rf ₇ の外観と抽出した試料の組織観察 結果	428
図11	Rf ₁ ・Rf ₂ ・Rf ₃ ・Rf ₄ ・Rf ₅ の外観と 抽出した試料の組織観察結果	429
図12	鉄器・鉄片に含有されるCu・Ni・Co 三成分比	430

2 大町2遺跡の自然科学分析

図1	暦年校正曲線(1)	441
図1	暦年校正曲線(2)	442
図1	暦年校正曲線(3)	443
図1	暦年校正曲線(4)	444
図2	赤色顔料のX線回折図	459
図3	原産地黒曜石(分析No.1~31)の判別図 [Fe-Rb法]	463
図4	原産地黒曜石(分析No.1~31)の判別図 [Sr-Zr法]	463
図5	遺跡出土黒曜石(分析No.1~30)の 原産地判別図[Fe-Rb法]	464
図6	遺跡出土黒曜石(分析No.1~30)の 原産地判別図[Sr-Zr法]	464
図7	遺跡出土黒曜石(分析No.31~49)の 原産地判別図[Fe-Rb法]	465
図8	遺跡出土黒曜石(分析No.31~49)の 原産地判別図[Sr-Zr法]	465

Ⅵ章 総括

図Ⅵ-1	時期別集石遺構数	473
図Ⅵ-2	平地式と地下式の検出数	473
図Ⅵ-3	加熱可能施設の有無	473
図Ⅵ-4	集石遺構位置図	473
図Ⅵ-5	縄文時代遺構の石器組成	477
図Ⅵ-6	Ⅲ層出土の三角形石鏃	479
図Ⅵ-7	後北C ₁ 式期の分布	483
図Ⅵ-8	後北C ₁ 式石器の器種	485
図Ⅵ-9	恵山式土器の文様を持つ 後北C ₁ 式土器	485
図Ⅵ-10	深鉢の口径の分布	485
図Ⅵ-11	後北C ₁ 式土器の副器器種	487

目 次

I章 調査の概要

表 I-1	Ⅲ層検出遺構数	8
表 I-2	V層検出遺構数	8
表 I-3	Ⅲ層遺構出土遺物集計結果	8
表 I-4	V層遺構出土遺物集計結果	9
表 I-5	包含層・その他出土遺物集計結果	9

Ⅱ章 遺跡の位置と周辺の環境

表 II-1	周辺の遺跡一覧(1)	17
表 II-1	周辺の遺跡一覧(2)	18

Ⅲ章 遺構一覧・集計結果・掲載遺物一覧

表 VI-1	遺構一覧(1)	381
表 VI-1	遺構一覧(2)	382
表 VI-1	遺構一覧(3)	383
表 VI-1	遺構一覧(4)	384
表 VI-1	遺構一覧(5)	385
表 VI-1	遺構一覧(6)	386
表 VI-1	遺構一覧(7)	387
表 VI-2	Ⅲ層遺構出土遺物集計結果(1)	388
表 VI-2	Ⅲ層遺構出土遺物集計結果(2)	389
表 VI-2	Ⅲ層遺構出土遺物集計結果(3)	390
表 VI-2	Ⅲ層遺構出土遺物集計結果(4)	391
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(1)	392
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(2)	393
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(3)	394
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(4)	395
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(5)	396
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(6)	397
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(7)	398
表 VI-3	V層遺構出土遺物集計結果(8)	399
表 VI-4	包含層出土遺物集計結果	400
表 VI-5	Ⅲ層遺構出土石器と礫の分類・ 石材別点数・重量集計結果	401
表 VI-6	V層遺構出土石器と礫の分類・ 石材別点数・重量集計結果	402
表 VI-7	Ⅲ層包含層石器と礫の分類・石材 別点数・重量集計結果	403
表 VI-8	V層包含層石器と礫の分類・石材 別点数・重量集計結果	404
表 VI-9	遺構出土掲載石器一覧(1)	405
表 VI-9	遺構出土掲載石器一覧(2)	406
表 VI-9	遺構出土掲載石器一覧(3)	407
表 VI-9	遺構出土掲載石器一覧(4)	408
表 VI-10	遺構出土掲載石器一覧(1)	409
表 VI-10	遺構出土掲載石器一覧(2)	410
表 VI-10	遺構出土掲載石器一覧(3)	411

表 VI-10	遺構出土掲載石器一覧(4)	412
表 IV-11	遺構出土掲載鉄製品一覧	412
表 VI-12	包含層出土掲載土器一覧(1)	413
表 VI-12	包含層出土掲載土器一覧(2)	414
表 VI-12	包含層出土掲載土器一覧(3)	415
表 VI-13	包含層出土掲載石器一覧(1)	416
表 VI-13	包含層出土掲載石器一覧(2)	417
表 VI-14	包含層出土掲載鉄製品一覧	418

Ⅳ章 自然科学的手法による分析結果

1	大町2遺跡出土金属資料の自然科学的 調査結果	
表 1	調査資料の概要	431
表 2	鉄器の分析結果	431
表 3	No.8 羽口先端村着物の化学成分分析 結果	431
表 4	参考資料の概要	432
表 5	野尻遺跡出土鉄器の分析結果	432
2	大町2遺跡の自然科学分析	
表 1	放射性炭素年代測定結果	439
表 2	暦年校正結果	448
表 3	検出分類群の一覧	445
表 4	貝同定結果	446
表 5	骨同定結果(1)	447
表 5	骨同定結果(2)	448
表 6	種実同定結果	451
表 7	遺構別種実検出状況	453
表 8	樹種同定結果	454
表 9	遺構種類別の樹種構成	455
表 10	顔料分析試料一覧	457
表 11	原産地黒曜石の元素分析結果 (非破壊EDX分析法)	460
表 12	遺跡出土黒曜石の元素分析結果 (非破壊EDX分析法)	462
表 13	遺跡出土黒曜石の元素分析結果 (非破壊EDX分析法、マイラー膜使用、吸 収補正)	462
Ⅳ章	総括	
表Ⅳ-1	集石遺構一覧	471
表Ⅳ-2	構成礫の被熱率	473
表Ⅳ-3	構成礫の岩石種類	473
表Ⅳ-4	形式別の口縁部破片数	485
表Ⅳ-5	後北C ₁ 式期の焼土と付属施設・ 遺物	485

写真図版目次

口絵1	遺跡周辺の航空写真	
口絵2	出土遺物	
口絵3	(Ⅷ章第1節より、口絵写真1・2)	
Ⅷ章 自然科学的手法による分析結果		
図版1	種実遺体	452
図版2	炭化材(1)	456
図版3	炭化材(2)	457
図版4	黒曜石産地分析試料	461
写真図版		
図版1	調査状況(1) 完掘(1)	495
図版2	調査状況(2) 完掘(2)	496
図版3	調査状況(3) 完掘(3)	497
図版4	調査状況(4) 完掘(4)	498
図版5	調査状況(5) Ⅲ層確認 25%調査	499
図版6	調査状況(6) Ⅲ層完掘(1)	500
図版7	調査状況(7) Ⅲ層完掘(2)	501
図版8	調査状況(8) V層確認(1)	502
図版9	調査状況(9) V層確認(2)	503
図版10	作業状況(1) 作業風景(1)	504
図版11	作業状況(2) 作業風景(2)	505
図版12	作業状況(3) 作業風景(3)	506
図版13	基本層序 土層	507
図版14	Ⅲ層の遺構(1) 土坑(UP)(1)	508
図版15	Ⅲ層の遺構(2) 土坑(UP)(2)	509
図版16	Ⅲ層の遺構(3) 土坑(UP)(3)	510
図版17	Ⅲ層の遺構(4) 土坑(UP)(4)	
	土坑群詳	511
図版18	Ⅲ層の遺構(5) 土坑(UP)(5)	512
図版19	Ⅲ層の遺構(6) 土坑(UP)(6)	513
図版20	Ⅲ層の遺構(7) 土坑(UP)(7)	514
図版21	Ⅲ層の遺構(8) 土坑(UP)(8)	515
図版22	Ⅲ層の遺構(9) 柱穴状土坑(USP)(1)	516
図版23	Ⅲ層の遺構(10) 柱穴状土坑(USP)(2)	517
図版24	Ⅲ層の遺構(11) 柱穴状土坑(USP)(3)	518
図版25	Ⅲ層の遺構(12) 焼土(UF)(1)	519
図版26	Ⅲ層の遺構(13) 焼土(UF)(2)	520
図版27	Ⅲ層の遺構(14) 焼土(UF)(3)	521
図版28	Ⅲ層の遺構(15) 焼土(UF)(4)	522
図版29	Ⅲ層の遺構(16) 焼土(UF)(5)	523
図版30	Ⅲ層の遺構(17) 焼土(UF)(6)	524
図版31	Ⅲ層の遺構(18) 焼土(UF)(7)	525
図版32	Ⅲ層の遺構(19) 焼土(UF)(8)	526
図版33	Ⅲ層の遺構(20) 炭化物集中(UCB)	
	炭集中	527
図版34	Ⅲ層の遺構(21) 集石(US)(1)	528
図版35	Ⅲ層の遺構(22) 集石(US)(2)	529
図版36	Ⅲ層の遺構(23) 集石(US)(3)	530
図版37	Ⅲ層の遺構(24) 集石(US)(4)	531
図版38	Ⅲ層の遺構(25) 遺物集中(U遺物集中)(1)	532
図版39	Ⅲ層の遺構(26) 遺物集中(U遺物集中)(2)	533
図版40	Ⅲ層の遺構(27) 遺物集中(U遺物集中)(3)	534
図版41	Ⅲ層の遺構(28) 遺物集中(U遺物集中)(4)	535
図版42	Ⅲ層の遺構(29) 遺物集中(U遺物集中)(5)	536
図版43	Ⅲ層の遺構(30) 遺物集中(U遺物集中)(6)	537
図版44	Ⅲ層の遺構(31) 遺物集中(U遺物集中)(7)	538
図版45	Ⅲ層の遺構(32) 遺物集中(U遺物集中)(8)	539
図版46	Ⅲ層の遺構(33) 遺物集中(U遺物集中)(9)	540
図版47	Ⅲ層の遺構(34) 遺物集中(U遺物集中)(10)	541
図版48	V層の遺構(1) 竪穴住居跡(LH)(1)	542
図版49	V層の遺構(2) 竪穴住居跡(LH)(2)	543
図版50	V層の遺構(3) 竪穴住居跡(LH)(3)	544
図版51	V層の遺構(4) 竪穴住居跡(LH)(4)	545
図版52	V層の遺構(5) 竪穴住居跡(LH)(5)	546
図版53	V層の遺構(6) 竪穴住居跡(LH)(6)	547
図版54	V層の遺構(7) 竪穴住居跡(LH)(7)	548
図版55	V層の遺構(8) 竪穴住居跡(LH)(8)	549
図版56	V層の遺構(9) 竪穴住居跡(LH)(9)	550
図版57	V層の遺構(10) 土坑(LP)(1)	551
図版58	V層の遺構(11) 土坑(LP)(2)	552
図版59	V層の遺構(12) 土坑(LP)(3)	553
図版60	V層の遺構(13) 土坑(LP)(4)	554
図版61	V層の遺構(14) 土坑(LP)(5)	555
図版62	V層の遺構(15) 土坑(LP)(6)	556
図版63	V層の遺構(16) 土坑(LP)(7)	557
図版64	V層の遺構(17) 土坑(LP)(8)	558
図版65	V層の遺構(18) 土坑(LP)(9)	559
図版66	V層の遺構(19) 土坑(LP)(10)	560
	土坑群詳	561
図版67	V層の遺構(20) 土坑(LP)(11)	561
図版68	V層の遺構(21) 土坑(LP)(12)	562
図版69	V層の遺構(22) 土坑(LP)(13)	563
図版70	V層の遺構(23) 土坑(LP)(14)	564
図版71	V層の遺構(24) Tビット(TP)(1)	565
図版72	V層の遺構(25) Tビット(TP)(2)	566
図版73	V層の遺構(26) Tビット(TP)(3)	567
図版74	V層の遺構(27) Tビット(TP)(4)	568
図版75	V層の遺構(28) Tビット(TP)(5)	569
図版76	V層の遺構(29) 焼土(LF)(1)	570

図版77	V層の遺構(30)	焼土(LF)(2)焼土群	571
図版78	V層の遺構(31)	焼土(LF)(3) 炭化物集中(LCB)	572
図版79	V層の遺構(32)	集石(LS)(1)	573
図版80	V層の遺構(33)	集石(LS)(2)	574
図版81	V層の遺構(34)	集石(LS)(3)	575
図版82	V層の遺構(35)	集石(LS)(4)	576
図版83	V層の遺構(36)	集石(LS)(5)	577
図版84	V層の遺構(37)	遺物集中(L遺物集中)(1)	578
図版85	V層の遺構(38)	遺物集中(L遺物集中)(2)	579
図版86	V層の遺構(39)	遺物集中(L遺物集中)(3)	580
図版87	V層の遺構(40)	遺物集中(L遺物集中)(4)	581
図版88	Ⅲ層の遺構出土土器(1)	土坑(UP)(1)	582
図版89	Ⅲ層の遺構出土土器(2)	土坑(UP)(2)	583
図版90	Ⅲ層の遺構出土土器(3)	土坑(UP)(3)	584
図版91	Ⅲ層の遺構出土土器(4)	土坑(UP)(4)	585
図版92	Ⅲ層の遺構出土土器(5)	土坑(UP)(5)	586
図版93	Ⅲ層の遺構出土土器(6)	土坑(UP)(6)	587
図版94	Ⅲ層の遺構出土土器(7)	土坑(UP)(7) 焼土(UF)(1)	588
図版95	Ⅲ層の遺構出土土器(8)	焼土(UF)(2)	589
図版96	Ⅲ層の遺構出土土器(9)	焼土(UF)(3)	590
図版97	Ⅲ層の遺構出土土器(10)	焼土(UF)(4) 炭化物集中(UCB) 遺物集中(U遺物集中)(1)	591
図版98	Ⅲ層の遺構出土土器(11)	遺物集中(U遺物集中)(2)	592
図版99	Ⅲ層の遺構出土土器(12)	遺物集中(U遺物集中)(3)	593
図版100	Ⅲ層の遺構出土土器(13)	遺物集中(U遺物集中)(4)	594
図版101	Ⅲ層の遺構出土土器(14)	遺物集中(U遺物集中)(5)	595
図版102	Ⅲ層の遺構出土土器(15)	遺物集中(U遺物集中)(6)	596
図版103	Ⅲ層の遺構出土土器(16)・V層の遺構 出土土器	遺物集中(U遺物集中)(7) 竪穴住居跡(LH)(1)	597
図版104	V層の遺構出土土器(2)	竪穴住居跡(LH)(2) 土坑(LP)(1)	598
図版105	V層の遺構出土土器(3)	土坑(LP)(2)	599
図版106	V層の遺構出土土器(4)	土坑(LP)(3) Tピット(TP) 焼土(LF)(1)	600
図版107	V層の遺構出土土器(5)	焼土(LF)(2)	601
図版108	V層の遺構出土土器(6)	焼土(LF)(3) 炭化物集中(LCB) 集石(LS)(1)	602
図版109	V層の遺構出土土器(7)	集石(LS)(2) 遺物集中(L遺物集中)(1)	603

図版110	V層の遺構出土土器(8)	遺物集中(L遺物集中)(2)	604
図版111	V層の遺構出土土器(9)	遺物集中(L遺物集中)(3)	605
図版112	Ⅲ層の遺構出土土器(1)	土坑(UP)(1)	606
図版113	Ⅲ層の遺構出土土器(2)	土坑(UP)(2) 焼土(UF)(1)	607
図版114	Ⅲ層の遺構出土土器(3)	焼土(UF)(2)	608
図版115	Ⅲ層の遺構出土土器(4)	焼土(UF)(3) 集石(US)(1)	609
図版116	Ⅲ層の遺構出土土器(5)	集石(US)(2) 遺物集中(U遺物集中)(1)	610
図版117	Ⅲ層の遺構出土土器(6)	遺物集中(U遺物集中)(2)	611
図版118	Ⅲ層の遺構出土土器(7)	遺物集中(U遺物集中)(3)	612
図版119	Ⅲ層の遺構出土土器(8)	V層の遺構出土土器(1) 遺物集中(U遺物集中)(4) 竪穴住居跡(LH) 土坑(LP)(1)	613
図版120	V層の遺構出土土器(9)	土坑(LP)(2) Tピット(TP) 焼土(LF)(1)	614
図版121	V層の遺構出土土器(10)	土坑(LP)(3) 焼土(LF)(2)	615
図版122	V層の遺構出土土器(11)	集石(LS) 遺物集中(L遺物集中)	616
図版123	遺構出土鉄製品(1)		617
図版124	遺構出土鉄製品(2)		618
図版125	包含層の出土遺物(1)	土器(1)	619
図版126	包含層の出土遺物(2)	土器(2)	620
図版127	包含層の出土遺物(3)	土器(3)	621
図版128	包含層の出土遺物(4)	土器(4)	622
図版129	包含層の出土遺物(5)	土器(5)	623
図版130	包含層の出土遺物(6)	土器(6)	624
図版131	包含層の出土遺物(7)	土器(7)	625
図版132	包含層の出土遺物(8)	土器(8)	626
図版133	包含層の出土遺物(9)	土器(9)	627
図版134	包含層の出土遺物(10)	土器(10)	628
図版135	包含層の出土遺物(11)	土器(11) 土製品	629
図版136	包含層の出土遺物(12)	石器(1)	630
図版137	包含層の出土遺物(13)	石器(2)	631
図版138	包含層の出土遺物(14)	石器(3)	632
図版139	包含層の出土遺物(15)	石器(4) 石製品	633
図版140	包含層の出土遺物(16)	鉄製品	634

I 調査の概要

1 調査要項

事業名 一般国道234号早来町早来道路改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委託者 国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名 大町2遺跡（北海道教育委員会登録番号J-11-7）
所在地 早来町大町137ほか
調査面積 6,000㎡
発掘期間 平成16年8月2日～10月29日
平成17年5月9日～8月12日
整理期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日

2 調査体制

平成16年度調査体制

理事長 森重 楯一
専務理事 宮崎 勝
常務理事 佐藤 俊和
第1調査部長 千葉 英一（発掘担当者）
第2調査部長 西田 茂（発掘担当者）
第4調査課長 三浦 正人
主 任 佐藤 剛（発掘担当者）
北海道教育委員会生涯学習部文化課文化財調査グループ主任 藤原 秀樹
主任 宗像 公司

平成17年度調査体制

理事長 森重 楯一
専務理事 宮崎 勝
常務理事 佐藤 俊和
第2調査部長 西田 茂
第4調査課長 熊谷 仁志（発掘担当者）
主 査 谷島 由貴
主 任 坂本 尚史（発掘担当者）
主 任 佐藤 剛（発掘担当者）

3 調査に至る経緯

平成15年12月、北海道教育委員会（以下 道教委と呼称する）が委嘱している遺跡パトロールの調査員である苫小牧市博物館赤石慎三のパトロール報告で、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部（以下 室蘭開発建設部と呼称する）が実施している苫小牧市から岩見沢市に通じる一般国道234号早来町早来道路改良工事の用地内において土器片が出土していることを道教委に報告した。

道教委は、この報告を受け遺跡台帳と出土地点を照合した結果、その出土地点が周知の埋蔵文化財包蔵地である大町2遺跡であることがわかった。

同月、道教委は、室蘭開発建設部に工事の経緯、工事の進捗状況の説明を求め、工事については一時中断とし、今後の対処方法について協議がなされた。

平成16年4月、道教委は、現地確認を実施、工事予定範囲内に遺跡が残存している部分があることがわかり、雪解けを待って試掘調査を実施し、その結果を基に、調査範囲・調査方法について再度協議することとした。

試掘調査は、平成16年6月に実施され、縄文時代晩期・統縄文時代の多量の遺物とともに縄文時代前期・後期の遺物も出土した。また、同本線内追分町側のニタツポロ川対岸の本線内からも縄文時代早期の東廻路Ⅳ式・中期の北筒式が出土し、新たにニタツポロ1遺跡と呼称された。

これらの試掘調査の結果を基に調査方法について道教委と室蘭開発建設部の協議が行われた。

平成16年度中に2車線部分だけでも調査を実施してほしいとの室蘭開発建設部からの強い要望があり、文化課と（財）北海道埋蔵文化財センターとの協議の結果、急速調査を実施することとなった。

しかし、この調査は、年度当初の計画に盛り込まれていない事業であったため、文化課とセンター両者で対応することとなった。

平成16年度の調査は、8月から開始され、2車線部分及び進入路部分の3,600㎡を実施し、終了した。

調査終了後、室蘭開発建設部苫小牧道路事務所による2車線部分の工事が再開され、まもなく供用開始となった。

平成17年度の調査は5月に開始した。調査面積は昨年度の供用開始した2車線に隣接する部分の2,400㎡を実施し、8月中旬に終了した。

現地での発掘作業を優先して行ったため、本格的な整理作業は、平成17年度4月から実施した。

（熊谷）

4 調査結果の概要（図Ⅰ-2・3、表Ⅰ-1～5）

今回の調査では、縄文時代早期～アイヌ文化期までの遺構・遺物が検出された。Ⅲ層が縄文時代晩期後葉～アイヌ文化期、Ⅴ層が縄文時代早期～縄文時代晩期後葉までの包含層である。

Ⅲ層の遺構は、土坑（UP）15基、柱穴状土坑（USP）11基、焼土（UF）26か所、炭化物集中（UCB）4か所、灰集中1か所、遺物集中（U中）60か所で、計132件確認された。

Ⅴ層の遺構は、竪穴住居跡（LH）4軒、土坑（LP）35基、Tピット（TP）10基、焼土（LF）90か所、炭化物集中（LCB）1か所、礫集中23基、L遺物集中39か所で、計202件確認された。

Ⅲ層で確認された遺構は、縄文時代晩期後葉、統縄文時代後北B式期、後北C式期、アイヌ文化期

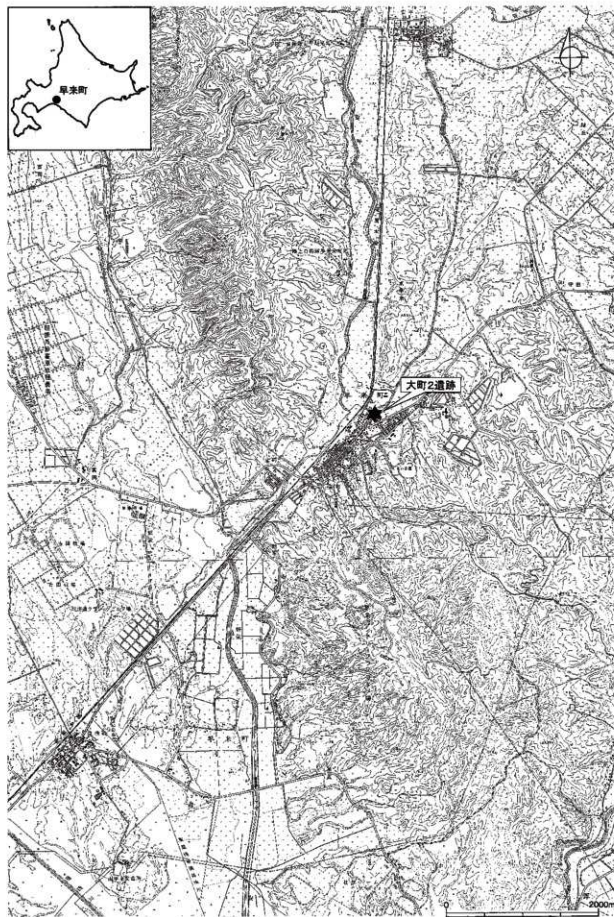


図 I-1 遺跡の位置

この図は、国土地理院発行/25,000地形図「早来」(昭和59年8月発行)、「遠浅」(平成6年4月発行)を、複製加筆したものである。

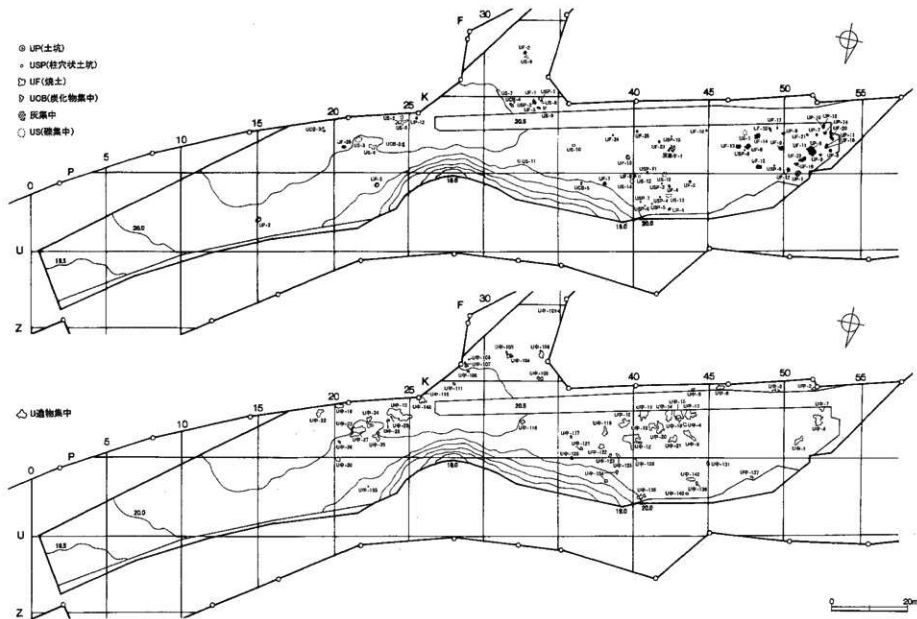


図 1-2 III層遺構位置図

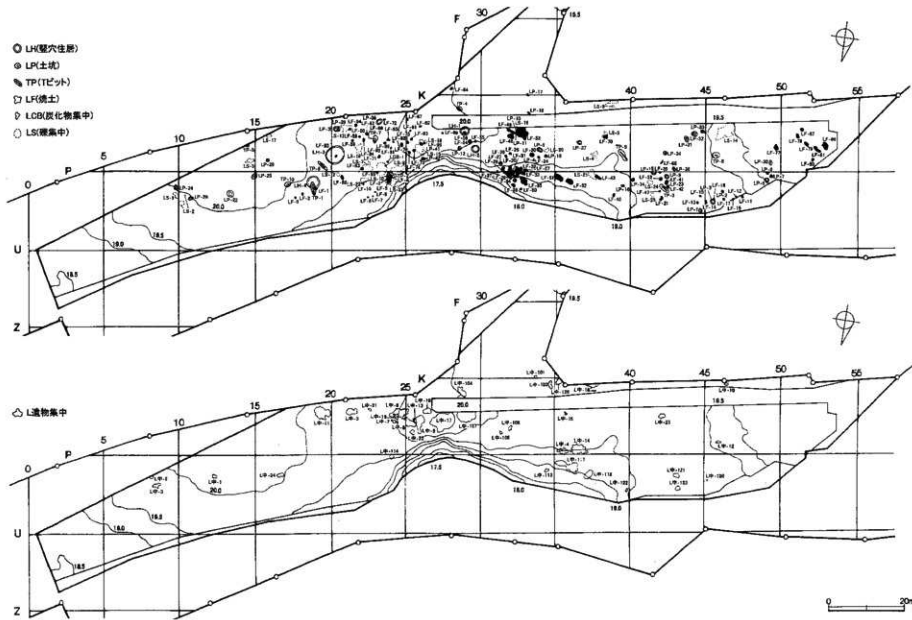


図 I-3 V層遺構位置図

4 調査結果の概要

に属するものがある。

縄文時代晩期後葉の遺構は、土坑13基、焼土4か所、炭化物集中1か所、礫集中1基、遺物集中11か所がある。主にタンネットU式期に属するものである。土坑は墓と判断できるものが調査区の西側51～53ラインの間にまとまって検出され、墓坑群を形成していた。

続縄文時代の遺構は85件と多数検出されている。内容は、土坑2基、柱穴状土坑6基、焼土18か所、炭化物集中3か所、礫集中9基、遺物集中49か所で、そのほとんどが後北C₁式期に形成されたものと捉えられる。焼土は調査区の西側、46～53ラインの間にまとまって検出されている。焼土には骨片を含有するものが多くみられた。遺物集中はほぼ単一時期のものと判断できる遺物で構成されることが多く、組成を検討する上で良好な資料と考えている。

アイヌ文化期のもは、柱穴列（5基一組）、焼土3か所、灰集中1か所、礫集中3基である。河川湾入部西側、40～45ラインの間にまとまって検出された。礫集中には、一文字湯口の鉄鍋、刀子などが伴って出土している。また遺構分布範囲周辺からは、鉄片、フイゴの羽口などが出土している。

V層で確認された遺構は、縄文時代早期後半、中期後半、後期前葉～中葉、晩期前葉～後葉に属するものである。

早期後半のものは焼土1か所、遺物集中1か所を検出しており、中茶路式期と考えられる。検出層位はVI～VIII層である。

中期後半のものは、竪穴住居3軒、土坑6基、Tピット5基、焼土7か所、礫集中10基、遺物集中4か所がある。住居は2～3.5mほどの小型のものが確認されている。土坑には浅皿状の掘り込みに被熱礫が充填されるものがあり、周囲の礫集中と一連のものと捉えている。Tピットは溝状を呈するものである。

後期に属するものは、竪穴住居1軒、土坑2基、Tピット1基、焼土10か所、礫集中4基、遺物集中10か所がある。竪穴住居は後期初頭、伊達山式期前後と捉えられる。遺物集中はすべて後期中葉のもので、周辺に焼土、礫集中などが形成されている。

晩期の遺構は土坑20基、焼土67か所、炭化物集中1か所、礫集中6基、遺物集中21か所がある。主に前葉と後葉に属するもので、とりわけ後葉に属するものが多数を占める。また、遺物量も後葉が突出して多い。焼土は河川湾入部周辺に多量の遺物と共に検出され、骨片を含有するものが多くみられた。

遺物は遺構から99,629点、包含層・その他から94,033点、総計193,662点が出土している。層位別、遺物別でみると、Ⅲ層検出遺構（土器23,291点、石器27,727点、鉄製品4個体、礫1,194点、その他429点）、Ⅳ層包含層（土器・土製品15,127点、石器8,964点、鉄製品84点、礫1940点、その他5点）、V層検出遺構（土器13,690点、石器27,373、礫5,886点、その他35点）、V・VI層包含層（土器34,962点、石器・石製品21,249点、礫10,540点、その他20点）である。この他に、表採・攪乱・排土遺物を合計すると総計の点数となる。（坂本）

包含層の土器はI群からⅦ群までが出土している。

Ⅲ層では縄文時代晩期後葉のV群c類、続縄文時代のⅥ群、擦文時代のⅦ群がある。主体はV群c類とⅥ群である。Ⅵ群は続縄文時代前半期後葉の後北C₁式が多くを占める。それぞれの個体は遺構に近接してまとまって出土しているものが多く、本来はほかの遺構に伴っていたものの可能性が高い。V群c類は遺構の分布の密な調査区中央、東側に多く見られる。Ⅶ群は図化した、この1個体のみが出土した。土製品は、フイゴの羽口が2個体出土し、図化した。

V層では縄文時代早期のI群b類、前期のⅡ群a類、中期のⅢ群b類、後期のⅣ群a類・b類、V群が

ある。I群b-3・4類は調査区西側に分布する。II群a類は調査区西側に分布する。III群b類は調査区全体にみられる。IV群では、IV群a類は調査区全体、IV群b類は調査区西側、中央に多く分布する。V群では、V群a類は調査区東側、中央、V群b類は調査区西側、V群c類は調査区全体に見られる。
(佐藤)

石器は、III層では、石鏃、石槍、両面調整石器、つまみ付きナイフ、石錐、スクレイパー、ピエス・エスキュー、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核、原石、棒状原石、石斧、石斧原材、敲石、すり石、砥石、矢柄研磨器、台石、石皿、いかり石、方割石、直縁刃石器、加工痕ある礫、火打ち石が出土している。その大半が縄文時代晩期および縄文時代に遺されたものと考えられる。特に石鏃は定形石器の5割、スクレイパーは2割を占めている。石鏃は三角形を呈するものが7割以上と多く、出土状況から判断して主に縄文時代後北C₁式期に遺されたものと捉えられる。また、黒曜石製・粘板岩製のフレイクが35,000点以上出土しており、これらは主に石鏃・石槍・両面調整石器を製作した際に生じたものと考えられる。

V層では、石鏃、石槍、両面調整石器、つまみ付きナイフ、石錐、スクレイパー、ヘラ状石器、石斧、ピエス・エスキュー、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核、原石、棒状原石、石斧、石斧原材、研磨石材、敲石、すり石、北海道式石冠、砥石、矢柄研磨器、石皿、加工痕ある礫が出土している。III層同様、石鏃とスクレイパーで定形石器の5割近くを占める。両面調整石器も146点と多数みられる。また、フレイクはV層出土石器の9割に及び、これらは主に石鏃・石槍・両面調整石器を製作した際に生じたものと考えられる。

石材はIII層、V層とも9割近くの点数を黒曜石が占めている。黒曜石への依存度が非常に高く、遠隔地（黒曜石産地）からの頻繁な流通が推測される。
(坂本)

表 I-1 Ⅲ層検出遺構数

時期	遺構名							総計	
	LP	USP	UF	UCB	反集中	US	L遺構中		
縄文時代前期後葉	13		4	1		1	11	30	
縄文時代前期後葉から縄文時代後葉C-式期						2		2	
縄文時代	前半期中葉			1			2	3	
	後半	B-式期	1					4	5
		C-式期	1	8	10	2		9	43
縄文時代後葉から縄文時代後葉C-式期			1					1	
アイヌ文化期		5	3		1	3		12	
総計	15	11	28	4	1	15	60	132	

表 I-2 V層検出遺構数

時期	遺構名							総計			
	LH	LP	TP	LF	LCB	LS	L遺構中				
縄文時代	前期後半							1	2		
	中期後半							3	34		
	中期後半～前期前半								2		
	中期後半～前期中葉							1	5		
	中期後半～前期後葉							2	2		
	中期後半もしくは後期前半							1	1		
	中期後半もしくは後期前半							1	1		
	後葉より古い							1	1		
	後葉							1	5		
	後葉～中葉							1	5		
	中葉							1	10	18	
	後葉中葉～前期前半								1		
	後葉中葉～前期後半							1	1		
	後葉中葉もしくは後期前半							2	2	4	
	後葉							5	3	7	18
縄中	前期もしくは後葉							1	0		
	中葉							1	1		
	中葉もしくは後葉							1	1		
	後葉以前の							1	1		
	後葉							14	55	13	88
	不明								1	4	
総計	4	32	10	30	1	23	39	202			

※遺物集では形成時期が重複する場合があります。両者を集計することとした。よって合計件数は確認遺構数よりも多い結果となっている。

表 I-3 Ⅲ層遺構出土遺物集計結果

	土器・土製品										石器									
	Za	IVa	Vo	Vt	土製品	計	石核	石錐	両面打石	つまみかきナイフ	石槌	スクレイパー	ビューストーン	ロフレイク	フレイク	石核	磨石	棒状磨石	石斧	
Ⅲ層遺構	LP	2	2	11113	259	11377	6	3			1	14	3	17		493	1		1	1
	USP			3		3										1				
	UF			2000	371	2271	94	7	1	2	20	3	39	1	6405	1	4	1		
	UCB			4	1	5									9					
	US			102	34	136		2		1		1			10					
	L遺物集計			2781	3538	9399	95	7	26	2	27	4	112	3	20183	5	1			
反集中					0															
計	2	2	18993	4303	1	22011	196	7	38	1	6	61	11	308	4	27095	6	1	6	2

	石器										縄				自然遺物・その他			総計		
	石斧磨石	磨石	磨石	すり石	砥石	糸織り磨石	公石	矢打石	方眼石	磨石	いかり石	加工品	計	縄	縄片	計	自然遺物		ペンタゴン	骨片
Ⅲ層遺構	LP	1			1	1							344	18	88	106		41		12068
	USP						1						2	1	1					6
	UF			2	1	2	1	4	1	1			6830	82	94	156	1	2	384	3545
	UCB							1					4	1	2	3				12
	US		4	2		46						1	85	380	424	784	3			891
	L遺物集計	3	1	3	2		1	1	1			1	20478	45	95	140		1		30019
反集中												0	1	3	4					4
計	4	5	7	3	48	3	5	4	2	1	1	2	27727	488	706	1194	4	45	384	32845

表 I-4 V層遺構出土遺物集計結果

	土器・土製品								石器													
	1b-3	目b	目a	目b	Va	Vb	Vc	土製品	計	石鏃	石槍	磨製 石鏃	つまみ付 ナイフ	石鏃	ヘラ状石 鏃	スクレイ パー	ヒスエ スカー プ	RFレイ ク	UFレイ ク	フレイク		
V層遺構	LH		37	1092				2	1131	2	2			1						1	23	
	LP	9	25	1	4	151		810	1008	1	1	2			1	1	3	12			851	
	TP		1	5		104		1	111													10
	LF	1	274	27	46	84	28	3187	3	3860	28	4	9				17	21	48			3888
	LCB							1	1													
	LS	2	114	4	223	9		203	1	598	9						1		3			2737
土産物集計	101	1253	30	1381	1343		3238		7226	44	7	33	1	4		9	9	94	1		19489	
計	112	1704	1159	1534	1697	28	7452	4	13882	85	14	48	1	12	1	28	29	116	1		27006	

	石器							鏃		その他		総計	
	石鏃	磨石	石斧	石片 計	敲石	石鏃	加工 品 ある 鏃	鏃	破片	計	ペン チ ク		
V層遺構	LH			1	2		32	173	151	324		1487	
	LP	1	2		2	1	878	353	708	1061		2944	
	TP				1			11	1	10	11	133	
	LF	2		2	8			4031	103	237	340	34	8065
	LCB							0				0	1
	LS				1	1	1	2758	882	3888	3750		7084
土産物集計	3	1	1	2			19963	148	254	400	1	27290	
計	6	2	4	1	14	1	27373	1658	4228	5888	35	46884	

表 I-5 包含層・その他出土遺物集計結果

	土器・土製品											石器・石製品									
	1b-2	1b-4	目a	目b	目a	目b	目c	Va	Vb	Vc	Vt	目	不明	土製品	計	石鏃	石槍	磨製 石鏃	つまみ付 ナイフ	石鏃	
包含層・その他	目層				4	1	23	74	1	11304	3708	10		2	15137	345	13	92	1	1	7
	V・VI層	547	11	365	4216	1130	2759	28	8911	225	39181		1	11	34882	423	95	146	26	82	
	I層・遺跡・埋土	3		2	13	4	10		43	4	383	89		1	1	513	15	1	2		2
	計	550	11	367	4332	1135	2762	28	8826	230	31828	3777	10	2	14	50602	783	68	300	27	71

	石器・石製品																				
	ヘラ状石 鏃	スクレイ パー	ヒスエ スカー プ	RFレイ ク	UFレイ ク	フレイク	石鏃	磨石	砕石 石	石斧	石片 計	敲石 計	敲石	すり石	北海道 式石鏃	磨石	矢形研 磨石	台石	石匙	尖形石	
包含層・その他	目層	144	47	357	4	7824	18	2	4	6	5			14	3						1
	V・VI層	1	172	133	831	27	19285	64	15	1	40	14	2	86	11	3	33	2			3
	I層・遺跡・埋土	7		25		431	15			1	1			2			1	1			
	計	1	323	180	1013	31	27640	87	17	5	47	20	2	102	14	3	29	8	3	5	1

	加工品 ある 石製品		鏃		鉄製品		その他 ペンチ ク	総計	
	計	計	鏃	破片	計	計			
包含層・その他	目層	5	8964	732	1208	1940	84	5	28120
	V・VI層	18	21240	2811	7728	10540		20	66771
	I層・遺跡・埋土	2	506	45	77	122	1		1142
	計	23	30719	3088	9014	12602	85	25	94033

II 遺跡の立地と周辺の環境

1 遺跡の立地と環境 (図II-1~4)

遺跡は、標高100~200mの夕張山地から連なる丘陵と馬追丘陵に挟まれた地点に位置し、安平川が形成した河岸段丘上に立地している。早来町市街地の南側では両丘陵の末端部が迫るため平坦地の幅がすぼまっており、その南側は低湿地帯となって勇払原野に接している。周囲の丘陵裾野は波状形傾斜地帯をなしている。

巨視的にみると、石狩低地帯の東側に添う様に南の勇払原野から安平盆地、角田盆地、栗山盆地といわれる由仁安平低地が石狩川で連なる。アイヌ語「サク・ルベ・シベ」(夏を越えて行く沢道)の上部に早来(さつくる)の字をあてはめ、後に「はききた」に転化したように、古くから南の太平洋側から北の石狩川方向や東の厚真を越える内陸部への交通の要所であったと考えられる。

周辺の地形の形成について年代を追ってみると、洪積世前期(約100万年以上前)は海底であったように、ウルム期後半(約3万2千年前)の海退期頃に支笏テフラが堆積したが、周水河現象による擾乱作用で、表層が波状地になった。約1万3千年前には恵庭テフラがその上を覆い、さらに縄文時代に至り、樽前系テフラが覆っている。約4千~5千年前の縄文海進(縄文時代前記~中期)期に周辺は内湾を呈し、ナガカキなど汽水域に生息する貝化石が採集されている。その後、陸地化し幾度かの樽前系テフラの堆積などがあり、現在に至っている。そのため、遺跡周辺は浮石質火山灰砂土の広がる平坦地となっているが、安平川やニタッポロ川の氾濫の影響もみられる。

安平川は、安平川水系の本流であり、追分町シアピラスプリを水源とし、東部の山地から早来町を貫流して苫小牧北東部で遠浅川を合流、さらに河口付近で勇払川を合流して太平洋に注ぐ流路延長約49.8km、流域面積約561.1kmの河川である。その支流であるニタッポロ川は東側の丘陵地帯から発し流路長11.5km、流域面積27.3kmで、本遺跡の西側約300mで安平川に合流している。

気候は太平洋西部気候区に属し、南北の地形条件の違いから北側の高原気候と南側の海洋性気候を併せ持つが、夏は30℃、冬は-20℃を記録する日もある。通年して日照時間が長く乾燥しており、年間の降水量は1000mm程度である。積雪量は、30~50cm程度と雪が少ないため地下凍結が著しい。年間を通して比較的安定した気象条件を有し、降水量は夏季に比較的多く、冬期間は少なくなっている。温暖で秋から冬にかけて晴天が多い地域である。

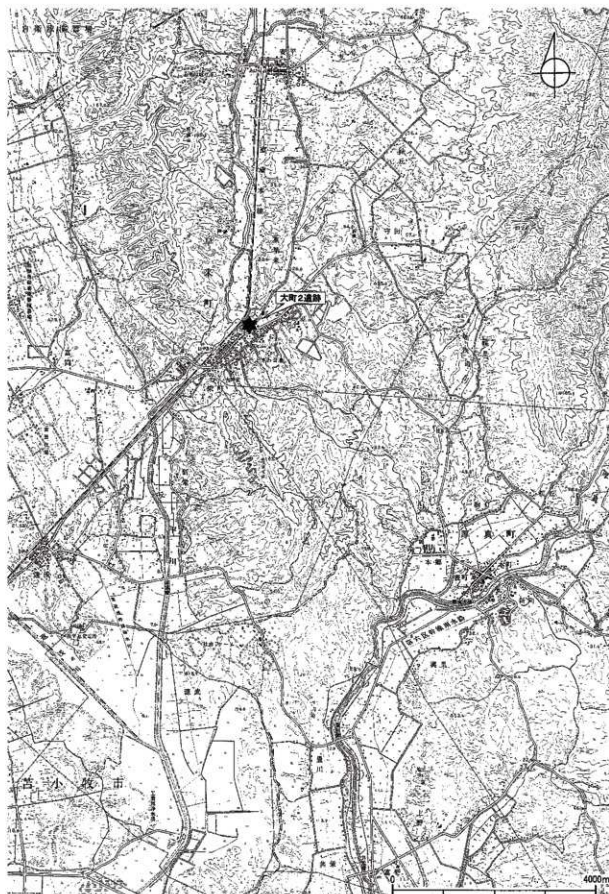
周辺の山々は開拓前には広葉樹の原生林が広がり、明治から大正期にかけては木材や木炭の生産が主要な産業であった。それらを採り尽くした後、農業や酪農が盛んとなり、現在では河畔の平地には畑や水田が見られる。北側の安平川の流域は農業地帯として最も早く開拓され、古くからの水田地帯で、典型的な田園風景が展開している。南側は樽前山の火山灰の影響で土地が悪く、牧場などに利用され酪農地帯となっている。(谷島)

2 周辺の遺跡 (図II-5・6)

早来町内では、現在、縄文時代からアイヌ文化期まで45箇所の遺跡が確認されている。

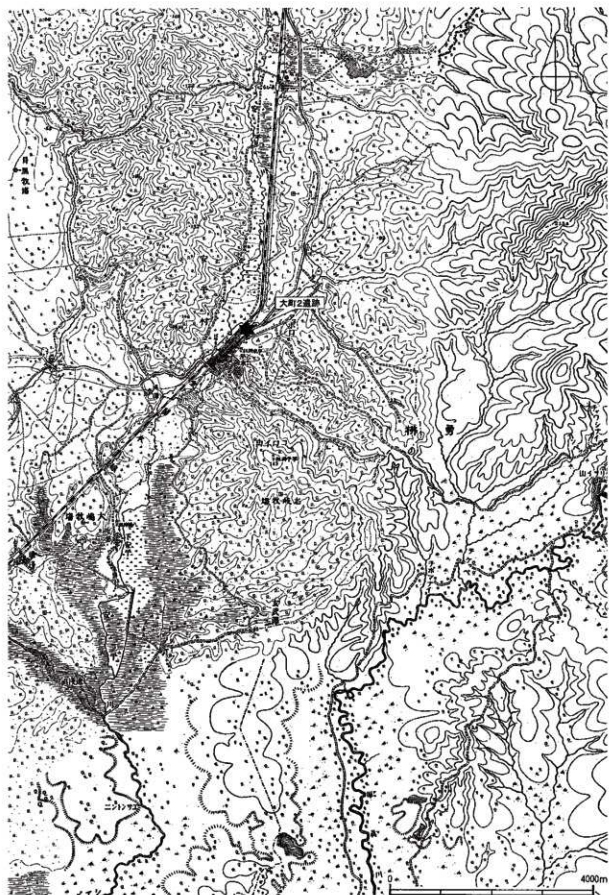
昭和49・50年には安平A~F地点、瑞穂A等が調査され、縄文時代中期、後期末から晩期初頭の良

1 遺跡の立地と環境



図Ⅱ-1 周辺の地形(1)

この図は、国土地理院刊行1/50,000地形図「早来」(昭和62年5月発行)を、複製加筆したものである。



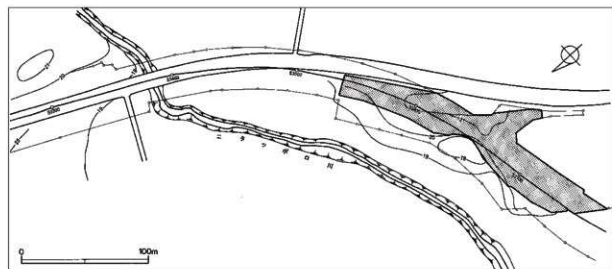
図Ⅱ-2 周辺の地形(2)

この図は、大日本帝國陸地測量部、明治44年2月製版の複製1/50,000地形図を複製加筆したものである。

1 遺跡の立地と環境



図Ⅱ-3 周辺の地形(3)



図Ⅱ-4 周辺の地形と遺跡の範囲

好な資料や縄文時代、擦文期・アイヌ文化期の貴重な資料が出土し、『早来町史』・『あびら』で報告されている。これらの資料は早来町郷土資料館に収蔵・展示されている。そして、近年、早来町で実施されたニタッポロ1遺跡、源武2遺跡等の試掘調査の遺物が保管されている。これまで発掘調査が少なかった早来町内の遺跡を理解するために、これらも併せて報告する。

町内の遺跡の位置については「周辺の遺跡（早来町）」（図Ⅱ-5）に、遺跡の時期・性格・立地等については「周辺の遺跡一覧」（表Ⅱ-1）に示している。また、安平川の thượng部である追分町の遺跡分布、遺跡一覧（図Ⅱ-6）についても掲載した。

ニタッポロ1遺跡は、平成16年の試掘調査で確認された。土器・礫等が出土した。1は縄文時代早期の東銅路Ⅳ式土器、2は同中期の綾格文が施された北筒式土器、3は薄手の無文土器、4は被熱が認められる礫である。

平成17年に源武地区の試掘調査が実施され、源武12遺跡からはTビット1基、源武13遺跡からはTビット1基とともに前期の大麻Ⅴ式、中期、後期の土器片が出土した。源武14遺跡からは早期の東銅路Ⅳ式、晩期の土器等が出土、東銅路Ⅳ式は丸底の底部破片である。源武チャシは樽前b降下火山灰（1667年降下）以前に構築された、丘先式のチャシ跡が発見されている。また、源武2遺跡・源武6遺跡は、昭和55年・平成16年に試掘調査が実施され、平成16年に得られた資料が早来町教育委員会に保管されている。源武2遺跡の1は同一原体の方向を変えることにより羽状縄文を作り出している。胎土には砂粒を多量に含む。内面調整は粗雑である。後期前葉の北筒式と考えられる。2は扁平な礫を素材とするすり石で、両側縁に抉りが増えられている。すり面周縁部には剝離痕、すり面には敲打によるくぼみが大小2か所あり、大は幅広側に、小は幅の狭い側に認められる。両側縁の抉りより下位は被熱によって赤色化している。石材は安山岩である。源武6遺跡の1・2は斜行縄文が施された土器片で中期のものと考えられる。3は赤井川産の黒曜石の剥片、4・5は同一個体、わずかに磨りが認められる礫片で、被熱によって赤色化している。6～11は安山岩・片麻岩の礫片である。

富岡1遺跡は平成15年度の試掘調査で確認された。1は髹調式土器の口縁部、2は基部は欠失しているが黒曜石製の有茎凸基の石鏃である。他に礫が出土している。土器は、刻みの加えられた貼り付けが施され、器形は注口土器の可能性が高い。富岡2遺跡は平成15年度の試掘調査で発見された。1は斜行縄文が施された土器片で礫を含む。後期のものと思われる。2は断面三角形のすり石で、1か所の後部に使用痕が認められる。3・4は礫である。

新栄2遺跡は平成17年度に工事立会調査でTビットが確認され、道教委文化課による本報告予定である。

なお、苫小牧市に隣接する遠浅地区の遠浅4遺跡・遠浅5遺跡や源武地区の源武遺跡・源武2遺跡～源武10遺跡の試掘調査の遺物は、苫小牧市教育委員会が保管している。（熊谷）

3 遺跡周辺の石材環境（図Ⅱ-8）

（1）石材調査の目的

遺跡内に持ち込まれた、礫と石器の石材が、近隣で採取可能なものかを知るために石材調査をおこなった。

大町2遺跡では多数の礫を集め形成された遺構が検出されている。平面的に礫が集まる「礫集中」、覆土内から礫が多量に出土した「土坑」、礫をともなう「焼土」がこれに該当する。Ⅲ層およびⅤ層



図Ⅱ-5 周辺の遺跡（早来町）

この図は、国土地理院刊行1/50,000地形図「早来」（昭和62年5月発行）を、複製加筆したものである。

表II-1 周辺の遺跡一覧(1)

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	跡目(歴史)	位置	高さ	特徴・その点	出土遺物	遺物保管者	文書等
J-11-1	大畑1遺跡	大畑町1-29	遺物包含地	縄文	磯崎(大畑A)	トキキラツタツツ(石原)段丘上	25-30 m	旧大畑(A)遺跡、6.6m程度の段丘上に、長方形の築物跡(毛織土)が見られる。縦11.5m	完整土器、鉄製銅剣	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-2	緑丘1遺跡	宇美町141-1-7、118-1-7、412-1-4	遺物包含地	縄文	磯崎(大畑A)、中畑、磯	七遺跡間(旧宇美町南平原)と磯崎(大畑A)との間に埋まっている。	35-40 m	S 40m ² の発見。	土器、銅玉、石製、鹿角、同様状土製品	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査『早東町史』
J-11-3	東平2遺跡	宇美町312-2、318、320-1、321	畑跡	縄文	中畑(旧磯上土堀、赤谷)	支東平川右岸 磯崎台地上	40-45 m	築物3基、(田原平B)	土器、石器、骨製土製品	早東町教育委員会	昭和59・60年試掘調査『早東町史』
J-11-4	東平1遺跡	宇美町471-1-6	遺物包含地	縄文	磯崎(東三川式)	東平川左岸 段丘上	30-33 m		土器、石器	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-5	南畑2遺跡	宇美町1000-2-3	遺物包含地	縄文・畿周	東三川式(磯崎)、池山式	支平川右岸 段丘上	40-45 m	S 60m ² と7月1日抄録の発見、S 200m ² 10月抄録多量遺物発見、石片の発見。	土器	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-6	南畑1遺跡	宇美町1272	遺物包含地	不明	不明	支平川右岸 段丘上	32 m		石片	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-7	大畑2遺跡	大畑町106、131-1-2-4	遺物包含地	縄文	磯崎(カンネトクL)	東平川左岸 段丘上	18-20 m	S 100m ² の発見。	土器	早東町教育委員会	平成10年(13)年度試掘調査『早東町史』
J-11-8	北畑2遺跡	宇美町22-1	遺物包含地	縄文	磯崎(カンネトクL)	仁連瀬川右岸 段丘上	25 m		土器	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-9	東平3遺跡	宇美町583、584	畑跡	縄文・畿周	磯崎(磯内中畑、行間)、磯崎(磯山田)、磯崎(大畑A)遺跡	東平川の小さな支線の砂丘上	40 m	築物3、土器片、有柄石環5、土製土製石、土製釘等	土器、石器、骨製土製品	早東町教育委員会	昭和63年度試掘調査『早東町史』
J-11-10	東平4遺跡	宇美町600-1	遺物包含地	縄文	磯崎、磯崎	磯山田右岸の段丘上	40-50 m	豊丘(磯崎)、(田原平D)	土器、刀石、骨製土製品	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-11	通丸2遺跡	宇美町600-4、5、601-2	畑跡	縄文	磯崎、磯崎	磯山田右岸の段丘上	14-15 m	築物跡ピット20基検出。	骨製、石環、銅片	早東町教育委員会	昭和63年度試掘調査
J-11-12	通丸1遺跡	宇美町682	畑跡	縄文	磯崎(カンネトクL)	通丸川左岸台地跡辺部	15 m		土器、土製品、土製釘、鹿角	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-13	通丸3遺跡	宇美町690-4	遺物包含地	縄文	中畑、中畑~磯崎	通丸川右岸台地跡辺部	15 m		土器、石器、骨製土製品	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-14	北畑1遺跡	宇美町30-7、5、136	遺物包含地	縄文	磯崎、老入式	仁連瀬川左岸 石原平田部	40-45 m		石器	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-15	S93遺跡	宇美町131-3-6、132-2、133-5-10	遺物包含地	縄文・畿周	磯崎、老入式	仁連瀬川右岸 石原平田部	35-38 m	坪場跡(7m ²)、土製品、土製釘、鹿角	土器、石器	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-16	緑丘2遺跡	宇美町131-2-4、字東原302-5	遺物包含地	縄文	中畑、磯崎、磯崎	仁連瀬川左岸 石原平田部	43-45 m	坪場跡(7m ²)、土製品、土製釘、鹿角	土器、石器	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-17	緑丘3遺跡	宇美町131-2-4、字東原302-5	遺物包含地	縄文	中畑、磯崎、磯崎	仁連瀬川右岸 石原平田部	35-40 m	目録にて中畑遺跡を主体とし、中畑を主体とし、(7m ² ×5m ² ×1m ²)	目録、土器、石器	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-18	東原3遺跡	宇美町131-1-5	目録	中畑式	中畑式	丘陵台地	41 m	ピット1	目録、土器、石器	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-19	緑丘4遺跡	宇美町1305-7、1306-1	遺物包含地	縄文	磯崎	仁連瀬川右岸 石原平田部	30-35 m		土器、石器	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-20	通丸4遺跡	宇美町681-2	遺物包含地	縄文・畿周	磯崎、磯崎~磯崎	通丸川右岸台地 南端部	15 m		土器、鹿角	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-21	南畑3遺跡	宇美町589-3、4、729-2	遺物包含地	縄文、中畑	磯崎、中畑	東平川右岸にわたる平地北端部	18-20 m	築物付帯の長方形を向きの3つ方向から石環にまとまっている。	石環、石瓦	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査 平成10年度試掘調査
J-11-22	南畑4遺跡	宇美町280-1	遺物包含地	縄文・中畑、磯文	中畑、中畑、磯文	東平川右岸の長方形を向きの3つ方向から石環にまとまっている。	11 m		土器片	早東町教育委員会	『早東町史』
J-11-23	南畑5遺跡	宇美町301-1-2	遺物包含地	縄文	中畑~磯崎	厚狭台地の東部で東西向きの丘の頂部から発見。	16 m		土器片、石器、鹿角、銅片	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査
J-11-24	南畑6遺跡	宇美町301、300-1、305	遺物包含地	縄文	中畑、磯崎	厚狭台地の東部で南向きの2つの丘頂部から発見。	16 m		石器、鹿角	早東町教育委員会	昭和65年試掘調査

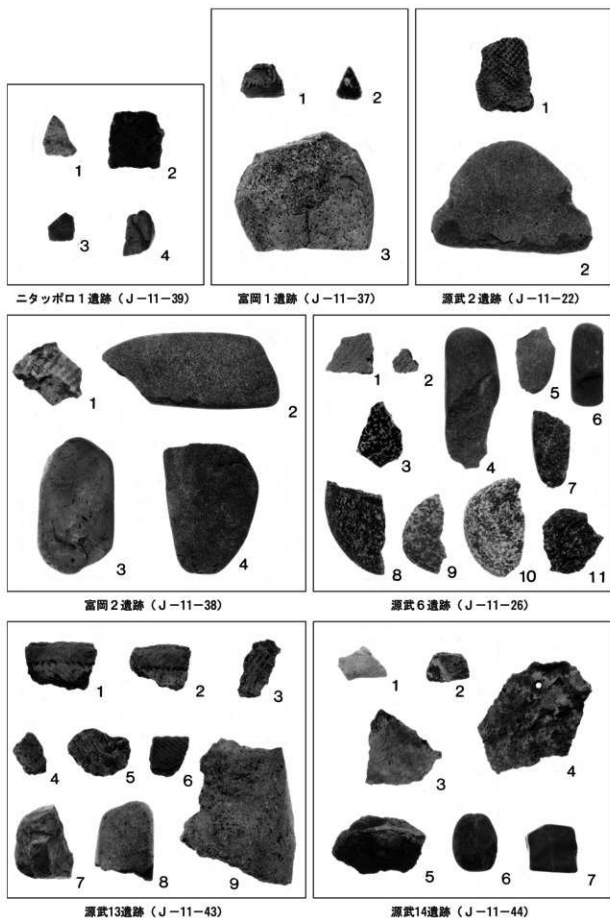
表II-1 周辺の遺跡一覧(2)

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	時期 (推定)	出土品	遺構	高さ	特徴・その他	出土遺物	遺物管理	文書等
J-11-25	堀成3遺跡	字面式284-395-1, 396, 35 47, 60	遺物埋合地	縄文・前期	縄文・前期	野高台地の北端で南向きの台地。土壇の上を走る石帯。	14 m	層別に層式を認める。南東に堀成4	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-26	堀成3遺跡	字面式284	遺物埋合地	縄文・中期	縄文・中期	野高台地の北端で南向きの小	15 m	層別の層式を認める。南東に堀成4	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-27	堀成3遺跡	早栗町字面式200-1	遺物埋合地	縄文・中期	縄文・中期	野高台地の北端で南向きの石壇	16 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-28	堀成3遺跡	字面式284-553-4	遺物埋合地	縄文・晩期	縄文・晩期	野高台地の北端で南向きの石壇	16 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-29	堀成3遺跡	字面式281-392, 396, 398	遺物埋合地	中期	中期	野高台地の北端で南向きの石壇	16 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-30	堀成3遺跡	字面式230-1	遺物埋合地	縄文・前期	縄文・前期	野高台地の北端で南向きの石壇	16 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-31	堀成3遺跡	字面式697-1	遺物埋合地	縄文・前期	縄文・前期	野高台地の北端で南向きの石壇	16 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-32	新栄1遺跡	字面式793	遺物埋合地	縄文・前期	縄文・前期	野高台地の北端で南向きの石壇	13 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-33	遠成7遺跡	字面式732-4	遺物埋合地	縄文・前期	縄文・前期	野高台地の北端で南向きの石壇	15 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-34	堀成11遺跡	字面式230-1	遺物埋合地	縄文・前期	縄文・前期	野高台地の北端で南向きの石壇	15 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-35	遠成7遺跡	字面式721-3	遺物埋合地	縄文	縄文	遠成川の支流の左岸の石壇	12~18 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-36	櫻田神社遺跡	字面式117	遺物埋合地	縄文	縄文	石壇	90~100 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-37	宮河1遺跡	字面式116-54	遺物埋合地	縄文	縄文	石壇	62~65 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-38	宮河2遺跡	字面式199-4	遺物埋合地	縄文	縄文	石壇	58~60 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-39	ニヶツボロ1遺跡	字面式7-3・5・9	遺物埋合地	縄文	縄文	ニヶツボロ川河段段丘	24~26 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-40	宮河3遺跡	字面式225-2	遺物埋合地	縄文	縄文	河段段丘	32~35 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-41	新栄2遺跡	字面式181-2, 183-6	遺物埋合地	縄文	縄文	河段段丘	14~16 m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-42	堀成12遺跡	字面式330-3, 330-1, 6	遺物埋合地	縄文	縄文	河段段丘	10~10m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-43	堀成13遺跡	字面式330-3	遺物埋合地	縄文・中期	縄文・中期	河段段丘	12~12m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-44	堀成14遺跡	字面式330-3	遺物埋合地	縄文	縄文	河段段丘	12~12m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		
J-11-45	堀成15遺跡	字面式330-3	遺物埋合地	縄文	縄文	河段段丘	12~12m	層別の層式を認める。北東部	縄文教育委員会	堀成5年試掘調査		

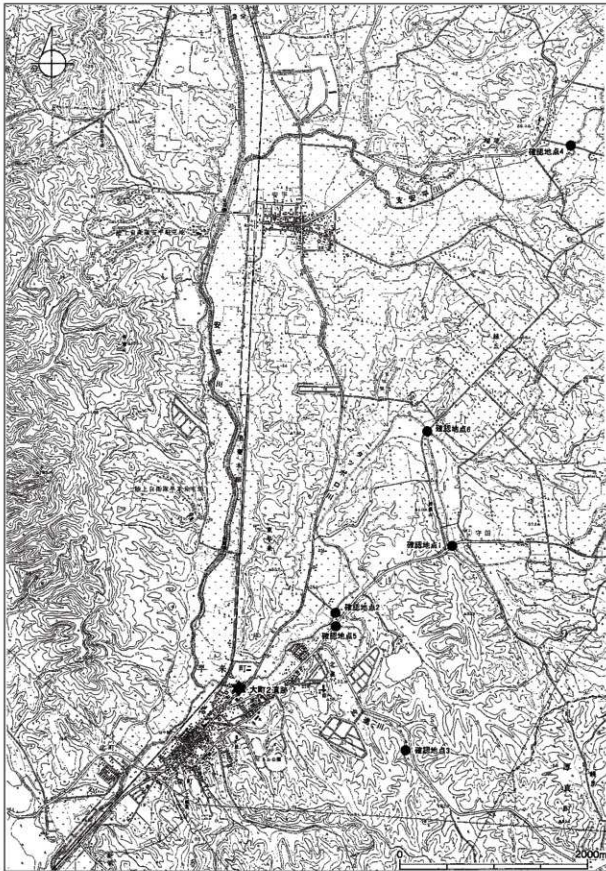


遺跡番号	名称	所在場所	種別	種別(部)	所在地	標高	併存その他	調査機関
メ-1	メ-1ア(1)遺跡	遺跡番号315	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	76.00m		遺跡発掘委員会
メ-2	メ-2ア(2)遺跡	遺跡番号316	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	73.00m		遺跡発掘委員会
メ-3	メ-3ア(3)遺跡	遺跡番号320	遺跡地	遺跡	アライシバ(1)河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-4	メ-4ア(4)遺跡	遺跡番号117	遺跡地	遺跡	尾崎野原(遺跡)河原原上	80.70m		遺跡発掘委員会
メ-5	メ-5ア(5)遺跡	遺跡番号724	遺跡地	遺跡	宮川河原 宮川原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-6	メ-6ア(6)遺跡	遺跡番号430	遺跡地	遺跡	宮川河原 宮川原上	80.70m		遺跡発掘委員会
メ-7	メ-7ア(7)遺跡	遺跡番号227	遺跡地	遺跡	(1)宮川河原河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-8	メ-8ア(8)遺跡	遺跡番号131	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-9	メ-9ア(9)遺跡	遺跡番号189	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-10	メ-10ア(10)遺跡	遺跡番号231	遺跡地	遺跡	(1)宮川河原河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-11	メ-11ア(11)遺跡	遺跡番号248	遺跡地	遺跡	(1)宮川河原河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-12	メ-12ア(12)遺跡	遺跡番号441	遺跡地	遺跡	(1)宮川河原河原原上	80.00m		遺跡発掘委員会
メ-13	メ-13ア(13)遺跡	遺跡番号333	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	100.00m		遺跡発掘委員会
メ-14	メ-14ア(14)遺跡	遺跡番号150	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	79.00m		遺跡発掘委員会
メ-15	メ-15ア(15)遺跡	遺跡番号176	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	79.00m		遺跡発掘委員会
メ-16	メ-16ア(16)遺跡	遺跡番号327	遺跡地	遺跡	宮川河原 河原原上	100.00m		遺跡発掘委員会

図II-6 周辺の遺跡(遺分町)
この図は、国土地理院発行/50,000地形図「遺分」(平成14年5月発行)を、複製加工したものである。



図Ⅱ-7 範囲確認調査出土の遺物



図Ⅱ-8 石材調査地点

この図は、国土地理院刊行1/25,000地形図「早来」（昭和59年8月発行）を、複製加筆したものである。

3 遺跡周辺の石材環境

の両方から検出されており、遺跡内に多数の礫を持ち込んで機能させる行為を、時代が推移しても継続的もしくは断続的におこなっていたと理解できる。

大町2遺跡は河岸段丘上に立地するが、基盤層と遺物包含層の間に粘質土と樽前d降下軽石層が分厚く堆積すること、周囲は平坦地形であることから、包含層から出土する礫は基本的に持ち込まれたものと理解している。また、包含層遺物として取り上げた礫も本来集石遺構に伴っていた可能性がある。

石材調査は、①集石遺構の多量の礫がどこから持ち込まれたのか、②石器石材は在地と遠隔地のものがどのような比率で利用されるか、の2点を考察する材料を得るためおこなうこととした。また、石器に好んで利用される特殊な石質が採取できるかにも注意を払うこととした。

(2) 調査の内容と結果

調査河川はニタッポロ川、北進川、安平川、支安平川を対象とする計画をたてた。しかし、安平川については水深が深く、流れが速かったため調査をすることができなかった。実際に川に入って調査できたのは3河川であった。

ニタッポロ川

確認地点1：鈴蘭山の東側、道道北進平取線とニタッポロ川が交差する地点。遺跡からは直線で約2.5kmの距離がある。5cm大の砂岩・泥岩が主に採取できた。また、チャートも拳大程度のものを容易に採取することができた。

確認地点2：遺跡から道道北進平取線を約1.2km平取方面へ進んだ地点から、十字路を左折して50mほど先にある橋の下。最も良好に石を採取することができた。砂岩、泥岩、チャート、凝灰岩、安山岩などを容易に採取することができた。大きさは5～30cm以上のものまで豊富にみられた。また、緑色泥岩、珪岩とみられる石も採取することができた。

確認地点6：確認地点1・2の間に位置する。石を拾うことはできなかった。

北進川

確認地点3：道道千歳鶴川線沿いにあるゴルフ場出入口付近。道路西側で調査した。遺跡からは直線で約2kmの距離がある。護岸が進んでいたため良好な条件ではなかった。3～4cm程度の砂岩、泥岩が少量拾えたのみであった。

確認地点5：ニタッポロ川との合流点から10mほど上流部。石を拾うことはできなかった。

支安平川

確認地点4：安平市街から道道瑞穂安平停車場線を瑞穂ダム方面へ270mほど進み、神社の位置するT字路を右折した先、「ちゅうおう橋」の約20m下流にある蛇行部の河原。ダムとは別に東側から合流する川があり、その合流点よりも下流に位置する。砂岩・シルト岩・泥岩・凝灰岩の3cm大の円礫ばかりであった。

(3) 成果

護岸工事が進んでおり、良好な環境での調査ではなかったが、結果として、3河川では砂岩、泥岩を共通して拾うことができた。ニタッポロ川は、石の大きさと種類が豊富で、砂岩・泥岩などの堆積岩のほか、チャートが目立って拾えた。

遺跡で確認された集石遺構の礫のほとんどは、近接するニタッポロ川から採取することが可能であった。また、緑色泥岩が採取できたことから、石斧の石材も、小型の棒状礫を使用する程度であれば、供給することが可能であったかもしれない。(坂本)

Ⅲ 調査の方法

1 調査区の設定 (図Ⅲ-1)

大町2遺跡の調査区は、国道234号早来町早来道路工事用地内の基準杭SP53680とSP53700を結んだ直線を北東-南西方向ラインの基線とし、SP53700を基準点として基線に直交する南東-北西方向のラインを設定した。調査区は4m四方とし、区画(グリッド)の名称は、基線と並行する北東-南西方向ラインにアルファベット、直交する南東-北西方向のラインにアラビア数字を用い、それぞれ交差する地点に調査杭を打設した。基準点SP53700をP40に設定し、アルファベットは北西方向にQ・R・S…、南東方向にO・N・M…と、数字は南西方向に41・42・43…と進行することとした。南東側の交点はそのグリッドの名称で、アルファベットと数字を組み合わせて「M38」区のように表記した。アルファベットと数字の間にはハイフンを入れず、遺構名と区別した。また、このアラビア数字で示す直線は、真北に対して9°17'40"西偏する。基準点の平面直角座標系の座標値は下記のとおりである。

(坂本)

世界測地系第Ⅲ系

SP53680 X=-136859.082 Y=-34734.508

SP53700 X=-136862.313 Y=-34754.245

2 調査の方法 (図Ⅲ-2・3)

(1) 発掘調査

道路の片側暫定開通が計画されたため、調査区を旧国道からの合流部および本線部分を南北に区分し、平成16年度と平成17年度にわけて調査をおこなうこととした。平成17度は片側車線が開通した状態での調査であり、安全対策のため防御フェンスの設置をおこなった。

上述のように発掘調査は、年度ごとに範囲を区分しておこなった。平成16年度は合流部(調査区中央部)および北側調査区、平成17年度は南側調査区である。ただし、一部の範囲については、北海道教育委員会がおこなった範囲確認調査の結果を参考に、調査方法を変更して省力化・迅速化を図ることとした。平成16年度調査では、調査区北側の河川湾入部にトレンチ調査を実施し、急崖化し深く入り込む地形、湧水、遺物分布が希薄であることを確認し、40㎡を調査範囲から除外した。また、20ライン以東については25%調査を実施し、遺構・遺物が希薄であることを確認した。これにより、図Ⅲ-3に示した範囲について、Ⅲ層およびⅤ層は重機を用いた遺構確認調査に切り替えることとした。また、平成17年度は前年度の調査結果受け、17ライン以東のⅢ層調査については、遺構確認調査を実施することとした。15~28ラインまでのⅤ層調査は、25%調査および通常調査の結果から、Ⅴ層下部では遺物が希薄になると判断し、図Ⅲ-3に示した範囲について、示した各土層から遺構確認調査をおこなった。

調査の主な工程は、①重機によるⅠ・Ⅱ層の除去、②調査杭の設定、③Ⅲ層上面での地形測量、④包含層調査、⑤遺構調査、⑥Ⅶ層上面での地形測量である。基本的に生活面を意識した面的な調査をおこなった。包含層調査は、1回につき5cmを目安とした移植ゴテによる掘り下げをおこない、掘

2 調査の方法

り下げ終了後は順次調査区を移動・展開した。こうした方法で遺物・遺構の検出面および分布の広がりや各遺構相互の関連を把握することに努めた。また、遺物の分布がある程度希薄と判断した範囲については、スコップ・鋤簾を併用して掘り下げた。結果、Ⅲ層・Ⅴ層が遺物包含層と判断され、遺構・遺物が主に湾入部の周辺から西側にかけて多く分布することを確認した。

遺構調査は、検出面、土層堆積状況、遺構構造の確認に努めた。遺構内の特徴的な土層（焼土・炭化物集中・骨片の集中）については、出土状況を記録した上で土壌を採取し、フローテーション作業をおこなった。

調査状況や遺構等の情報（確認状況・平面・断面・遺物出土状況）は、図化作業と写真撮影により記録した。使用したフィルムは、6×7判リバーサル・モノクロ、35mm判リバーサルである。

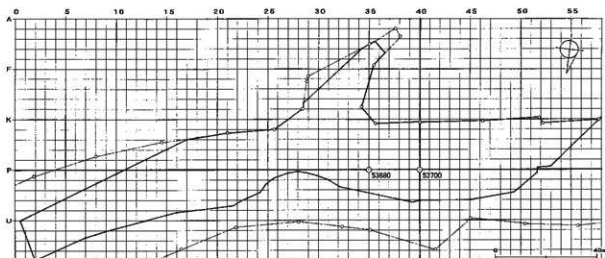
遺物の取上げは次のようにおこなった。包含層は、調査区単位で層位掘り下げ回数ごとに取上げをおこない、遺物が視覚的にまとまる範囲については、「遺物集中」として認識し、遺構として取り扱うこととした。とりわけ遺物が密集する範囲については土壌とともに採取し、水洗選別作業をおこなった。上記の遺物集中を含む遺構遺物は、基本的に写真撮影と地点計測を行い取上げることに努めた。しかし、密集部等については、範囲・土層単位での記録化と取上げをおこなう方法を併用した。地点計測した遺物については、「遺跡名」、「遺物名」（土器・石器・礫・鉄製品）を図面に記録した。遺物は、地点計測遺物については「遺跡名・遺構名・取上げ番号・層位・日付」を、遺構範囲取り上げ遺物および包含層は「遺跡名・遺構名もしくは調査区名・層位・日付・遺物名」を記載したチャック付ポリ袋に収納した。（坂本）

3 基本層序（図Ⅲ-4）

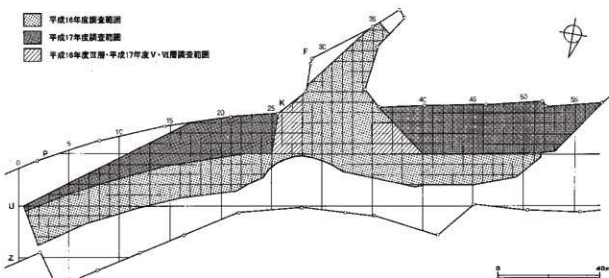
土層の確認は、段丘から段丘斜面部のR23～25ラインと段丘上のI20付近で行った。

なお、土層の観察には『標準土色帖』（小山・竹原1967）および『土壌調査ハンドブック』（ベトログジスト懇談会1984）を用いた。

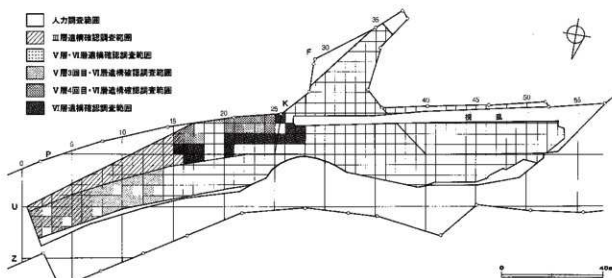
- I層：耕作表土 地表土、Ta-b、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層が耕作により混ぜられた結果生じた攪乱層。
- Ⅱ層：樽前b降下軽石層（Ta-b A.D.1667年降下） 層厚は20cmほどである。調査区東端で、部分的に樽前a降下軽石層（Ta-a A.D.1739年降下）とその下に黒褐色土を確認した。そのため、遺跡全体の土層の連続性から樽前b降下軽石層と判断した。黒褐色土は千歳市や苫小牧市などの周辺で、いわゆる「第0黒色土」と呼称される土層である。遺物は出土しなかった。
- Ⅲ層：黒褐色土 層厚は15～20cmほどで、縄文時代晩期後葉からアイヌ文化期の遺物が含まれる。千歳市や苫小牧市などの周辺で、いわゆる「第1黒色土」と呼称される土層である。調査区東端や段丘斜面部で、部分的に白頭山苫小牧火山灰（B-Tm A.D.935年頃降下）を直径1～2cmほどのブロック状で確認した。
- Ⅳ層：樽前c降下軽石層（Ta-c 2,600年前頃降下） 層厚は15～20cmで、無遺物層である。
- Ⅴ層：黒褐色土 層厚は20～30cmほどで、縄文時代早期後半から晩期後葉の遺物が含まれる。千歳市や苫小牧市などの周辺で、いわゆる「第2黒色土」と呼称される土層である。
- Ⅵ層：暗褐色土～暗黄褐色土 Ⅴ層とⅦ層の漸移層



図Ⅲ-1 調査区設定図



図Ⅲ-2 年度別調査範囲



図Ⅲ-3 遺構確認調査範囲

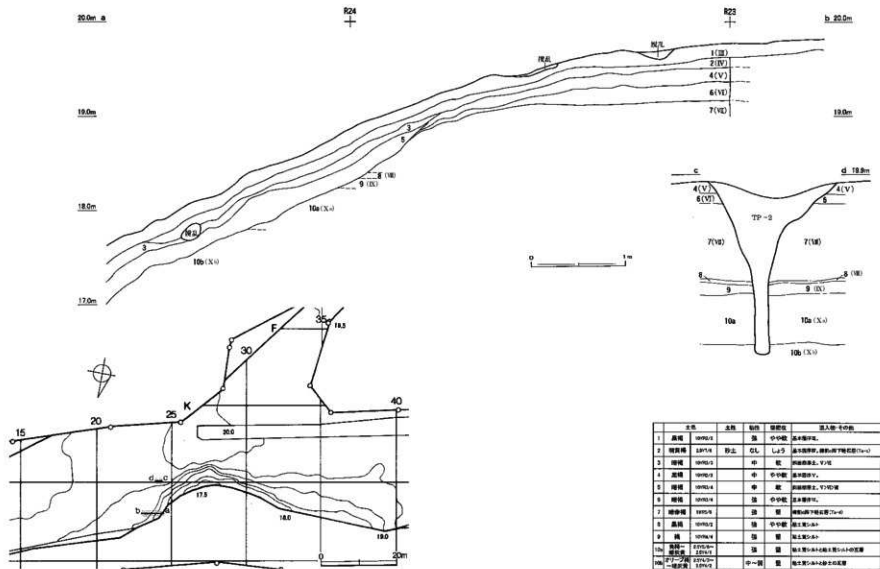


圖 III-4 土層剖面圖

- Ⅶ層：樽前d降下軽石層 (Ta-d 7,300～7,500年前降下) 層厚は80～95cmほどで、無遺物層である。
- Ⅷ層：黒褐色土 層厚は3～5cmほどである。今回の工事では影響しないため、調査を行っていない。千歳市や苫小牧市などの周辺で、いわゆる「第Ⅲ黒色土」と呼ばれる土層である。
- Ⅸ層：恵庭a降下火山灰層 (En-a 15,000～17,000年前降下) 層厚は15cm程度である。今回の工事では影響しないため、調査を行っていない。
- X層：黄褐色シルト質砂から細礫 全体の層厚は不明であるが、確認した範囲では140cmほどである。この河岸段丘の段丘堆積物と考えた。
- Xa層：黄褐色砂質シルト～砂 層厚は40cmほどで砂質シルト、砂、恵庭a降下軽石の互層である。
- Xb層：シルト質砂～細礫 全体の層厚は不明であるが、100cmほどまでを確認した。シルト質砂、砂、細礫の互層である。(佐藤)

4 整理の方法

(1) 一次整理

1) 遺物整理

平成16年度は一部について水洗・注記作業を実施したが、大部分は平成17年度に持ち越されることとなった。よって、一次整理は平成17年度に本格的に開始した。作業の工程は、①水洗、②注記、③分類・属性観察、④点数・重量計測、⑤遺物整理カード作成・台帳番号の登録、⑥台帳番号の注記、⑦台帳登録である。①～③は基本的に現地でおこない、遺物を定期的江別市の作業所に搬送し、④以下の作業を継続した。③の属性観察は石器・礫について石材・被熱・付着物を観察し、製品(Rフレイク・Uフレイク・加工痕ある礫を除く)に関しては器体の残存状況を記録した。

a. 台帳と台帳番号

台帳は、遺構と包含層の2種類に分けて作成した。手順は作業⑤で作成された遺物整理カードをもとに、直接コンピューターに入力するものである。属性観察結果を整理に反映させるためには個体認識をおこなう必要があり、全ての遺物に台帳番号(遺物番号)を付すこととした。よって、ひとつの取り上げ番号に複数の異なる属性の遺物が含まれている場合、それらは台帳番号を個々に付されることにより、区別され、管理されることとなる。ただし作業の省力化・迅速化を図るため、フレイクと礫の内取り上げ番号がないものについて、同じ出土地点・層位・属性のものは同一の台帳番号にまとめた。

平成16年度では遺物台帳を作成しなかったため、出土遺物の内容把握は、平成17年度の台帳作成の結果を待つこととなった。約20万分の遺物台帳の作成は、平成17年4月中旬より開始し、11月中旬に完成をみた。

b. 注記

注記は原則として全ての遺物におこなった。ただし、1.5cm以下のものについては、作業の迅速化を考慮し作業を省いている。注記の内容は以下のとおりである。

(遺跡名) (遺構名) (層位) (取り上げ番号)(台帳番号)

遺構出土遺物： 大2 - UP-1 - フク1 - 38 - 7023

4 整理の方法

(遺跡名) (遺構名) (層位) (台帳番号)

包含層出土遺物： 大2 - M38 - V3 - 30

遺構出土遺物の内、取り上げ番号がないものは、取り上げ番号の注記がない。また、取り上げ番号と台帳番号が同じ番号の場合は、台帳番号の注記は省いている。取り上げ番号があるものは台帳番号と区別するため、注記時には台帳番号に下線を付けることとした。

注記の作業は、遺構の地点計測遺物の場合、「遺跡名～取り上げ番号」まで、遺構出土で取り上げ番号がないものと包含層遺物は「遺跡名～層位」までを現地で注記し、台帳番号は江別の作業所で注記した。ただし、土器の台帳番号の注記については、二次整理作業上不要と判断したため、おこなっていない。

平成17年度では、調査期間後半に遺構・遺物の調査が増加・集中したため発掘作業を優先し、調査終了時未完の注記作業は、江別の作業所で引き継いでおこなった。

c. 遺構名の振り替え

平成16年度調査では、遺構「遺物集中」について、調査区名に「集中」と付すことで、遺構名として認識していた。注記は、調査区名に「中」を付して区別するものであった。しかし、整理作業上の不都合が生じること、個々の「遺物集中」を正確に認識するために、平成17年度からは、「遺物集中」を遺構名として冠し、連続番号を付して認識する方法を選択した。また、平成16年度において遺物集中に含めていた集石遺構については「疎集中」(US・LS)として分離し、連続番号を付すこととした。平成16年度検出遺構名の振り替えは、平成17年度の遺物の整理・台帳登録と並行しておこなった。そのため、整理作業と同時進行で調査されている平成17年度の「遺物集中」、「疎集中」に若い番号を付け、平成16年度のは桁数を変えるなどした後付けの番号を振っている。これらの遺物の内、平成16年度中に注記作業をおこなったものは、注記内容の変更作業をおこなっていない。

2) フローテーション作業

フローテーション作業は平成17年度に全ておこなった。平成16年度に採取した土壌が、土藁袋で150袋ほどあり、これらの水洗から開始した。作業はフローテーションマシンを用い、選別が終了したものは乾燥小屋を設けて乾かし、順次紙の封筒に収納した。(坂本)

(2) 二次整理

図書類については、実測図面の整理、遺構分布図の作成、地形図の作成、トレース作業をおこなった。遺物については、再・細分類、遺物台帳・図面と遺物の照合、台帳の補正、集計、表作成、土器の接合・復元作業、遺物属性観察、報告書掲載遺物の実測・拓影図とトレース図作成をおこなった。

写真については、現地撮影フィルムの整理・収納と、台帳作成、遺物撮影、報告書掲載図版の作成をおこなった。遺物の整理の詳細については、土器と石器に分けて説明する。(坂本)

土器の整理

接合は、遺構出土のものについては遺構内を中心に行い、出来る限り包含層出土資料とも行った。包含層についてはまとまって出土した資料、特徴的な資料を中心におこなった。復元個体はVI群土器については実測図を作成し、それ以外の復元個体と破片資料は、時期のわかるものや文様が明瞭なものを中心に抽出し、拓影図・断面図を作成した。(佐藤)

石器の整理

石器は分類後、遺構と包含層に分けて収納し、遺構は遺構単位で、包含層は分類別に管理した。フ

レイクに関しては、さらに石材別に細分した。しかし、作業期間の関係上、接合作業や各器種に対するより細かな属性観察などはおこなえていない。

報告書に図化掲載した遺物は、作業工程上の都合から、整理作業の進行途上、遺物総体の把握がおこなわれないままに選択したものである。よって、運び出しには偏りがあり、総体を代表するものが出揃っていない状態ではない。これらについては、集計表、概要説明、写真掲載で補うこととした。

掲載石器については「長さ」、「幅」、「厚さ」、「重量」の計測をおこない、結果を掲載遺物一覧表に掲載した。石器計測で欠損部分があるものは、残存長の数値を（丸括弧）でくくった。「重さ」の数値は2kg未満のものについては小数点第1位まで、2kgを越えるものは1gを最小単位とする数値で示した。 (坂本)

5 金属製品保存処理の工程

出土した金属製品は、図Ⅲ-5保存処理工程図のとおり、基本的な手順は美々8遺跡低湿部（北理調報114）の方法に従っている。ここでは大町2遺跡の金属製品保存処理について概略を述べる。

大町2遺跡金属製品は平成16年度と平成17年度の2か年の調査で出土したものである。金属製品は出土後、発掘調査事務所内で仮保管されていたものである。仮保管は、乾燥後に土を落とし、シリカゲルを入れたシール容器に内容を記載して梱包した。

保存処理予定の金属製品には紙ラベルにグリッド、遺構名、出土層位、遺物番号などの取上げデータをBまたはHBなどの鉛筆で記載し、金属保存処理の作業連続番号（金属No. ○○○○）を付した。さらに、製品の種類や材質（鉄・銅など）、劣化状況ごとにグルーピングし、それぞれ同一の処理工程となるようにした。この段階で脆弱な金属製品や数点に分断されているものは、補強材などをあててシリカゲルを入れたシール容器にラベルとともに梱包した。剥落や粉砕が予想される遺物にはアクリル樹脂（パラロイドB72）7%溶液を塗布して仮強化し、接合資料などはセルローズ系接着剤（セメダインC）で仮接合した。

金属製品の保存処理作業は、骨角や変形や収縮の予想される樹皮・木質の残るものなど、各素材の現況と複合素材の状態観察に注意を払った。遺物は取り上げ台帳確認後に順に、劣化状況や破片数などを観察カードに詳細に記録した。特に処理・修復後に実測となる遺物は、接合・劣化の模式図を作成して受入時の現状をスケッチで記録した。遺物観察は肉眼と実体顕微鏡を中心に、HDビデオマイクロナ装置や光学顕微鏡を併用して実施した。

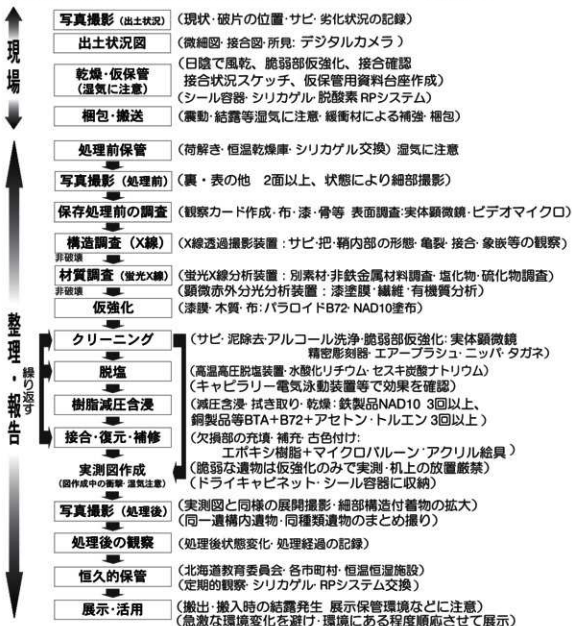
X線透視撮影はイメージインテンシファイア（IIシステム）の画像で観察したのち、2面以上を原としてフィルム撮影を実施した。X線透視撮影で得られた内部構造は現状のスケッチ図に赤鉛筆で付記した。透視によると大町2遺跡の金属製品うち、刀など鍛造品では内部や刃部の劣化が著しく、メタル分が溶脱して中空状態となっているものが多く見られた。鉄鋼などの鋳造品では内部に泡状の空隙が多く分布することが確認された。

脱塩処理は塩化物イオンと硫化物イオンの両方に効果がある高温高压脱塩法（高温蒸気法）を4～7回ほど実施した。

鉄製品の強化には非水系のアクリル樹脂（パラロイドNAD10）を7日程度の間隔おいて3回以上減圧含浸した。樹脂含浸強化については写真撮影、実測図作成、遺物搬送に耐えうる程度の強度を目標とし、資料表面は実測図作成及び写真撮影の障害とならないように、光沢を押しさげみ処理した。

金属製品の保存処理

応急措置を施し、発掘時の現状を保存処理担当者に正確に伝達する



X線透過撮影装置



録先X線画像



NAD10樹脂含浸タンク

図Ⅲ-5 金属保存処理の工程

樹脂含浸後の接着・補填・充填にはエポキシ系樹脂（セメダインハイスーパー）とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストや市販のエポキシパテを使用した。明瞭な折損にはシアノアクリレート系樹脂（アロンアルファ）を使用した。

充填箇所の古色付けは、実測・写真撮影後にアクリル絵の具を使用した。金属製品は各種作業や原稿執筆まではシール容器にシリカゲルとともに保管しているが、返却時は高気密フィルム（エスカル）に脱酸素材（エージレス）とともに封入することが望ましい。

なお、保存処理後の遺物は、保存処理期日、処理方法・保存処理先を必ず記録し、できる限り急激な温度変化や湿度変化の少ない環境に保管すること。北海道のような寒冷地では、冬期間の搬入・搬出時の結露が問題となる。温湿度に注意し、十分に環境順応させてから展示や収納を実施することが大切である。また、保管施設では担当を決め、定期的な経過観察を心がけるべきである。

（第1調査部第1調査課 保存処理部門 田口 尚）

6 遺物の分類

(1) 土器

以下の分類基準を用いて行った。なお、土製品は特異な形態を呈するものを分類した。

I群

- a類：胎土が密で、貝殻痕文、貝殻文、及び燃糸文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの（本調査では出土していない）。
- b類：胎土が粗で、燃糸文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの。

II群

- a類：厚みがあり、縄文原体（0段多縄が多い）は条の幅が広く、地文の縄文が器面に深く施文される、丸底、尖底を特色とするもの。
- b類：地文が絡条体、燃糸文で、内面が磨かれる円筒土器下層式に相当するもの（本調査では出土していない）。

III群

- a類：貼付け文及びその文様構成を引く沈線文で文様帯が構成される、円筒土器上層式に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるもの、および萩ヶ岡1・2式に相当するもの（本調査では出土していない）。
- b類：萩ヶ岡3・4式、天神山式、柏木川式、北筒式（トコロ6類）、および地文を施文する前に隆起する貼付けを行い、刺突文等で文様を構成する煉瓦台式に相当するもの。

IV群

- a類：余市式、伊達山式、タブコブ式、ウサクマイC式、十腰内Ia式に相当するもの。（余市式として分類される、幅の広い貼付け文と無文帯をもち、刺突文、縄線文、沈線文などで文様帯が構成される一群は遺跡の状況によりIII群b類またはIV群a類の中で扱う。当遺跡ではIV群a類に分類した。）
- b類：手稲式、鯉淵式に相当するもの。
- c類：堂林式、三ツ谷式、指の爪などによる器表面への斜めからの刺突である爪文が施される御殿山式、湯の里3式に相当するもの。

6 遺物の分類

V群

- a類：指の爪などによる器面表面への斜めからの刺突である爪文が施される東三川I式、大洞B式、大洞BC式に相当するもの。
- b類：主に半截竹管状工具による器表面への垂直な刺突の施される上ノ国式、縄線文を主体とするタンネトウL式、大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの。
- c類：沈線文を主体とするタンネトウL式、大洞A₁式、大洞A₂式に相当するもの。

VI群

続縄文時代に属する土器群（北大皿式土器群も含む）。

VII群

擦文時代に属する土器群。

（佐藤）

（2）石器

石器は遺跡内で出土したのに対し、その器種名称と定義を述べることにする。なお、石製品は特異な形態を呈するものを分類した。

石鏃

押圧剥離や平坦剥離により片面・両面調整された、尖頭形を呈す5cm未満のもの。

石槍

押圧剥離や平坦剥離により両面調整された、尖頭形を呈す5cm以上のもの。

両面調整石器

剥離が素材の両面に施されるが尖頭形でないもの。

つまみ付きナイフ

剥片を素材とし、ノッチ状の加工により端部につまみ部が作り出されたもの。

石錐

端部に錐状の突出部が作り出されたもの。

スクレイパー

剥片を素材とし、調整剥離面が側縁に10面以上連続して加えられたもの。

へら状石器

器体を楕形・短冊形に整形し、末端部にへら状を呈する直線的で鋭利な縁辺を有するもの。

ビス・エスキュー

剥片もしくは礫を素材とし、対向する小剥離が素材の両端部にあるもの。また、いわゆる両極剥離打法により発生する各種の割れの特徴を持つもの。

Rフレイク（二次加工ある剥片）

剥片を素材とし、10面未満の不規則で散漫な剥離が加えられた不定形のもの。

Uフレイク（使用痕ある剥片）

剥片に微細剥離が不連続的に観察されるもの。

フレイク

石核、石器（ツール）、剥片などから剥離されたもので、二次的な剥離を受けていないもの。

石核

剥片もしくは礫を素材とし、石器（ツール）の素材となりえる大きさ・形状の剥片を剥離した痕

跡が複数あるもの。

原石

剥片石器・石斧の素材を供給する石材の礫のうち、素材剥片の剥離がおこなわれていないか、もしくは不明瞭なもの。石器の原材料とみられるもの。

棒状原石

柱状節理による棒状を呈した黒曜石の原石。

石斧

剥片もしくは礫を素材とし、敲打・打欠き・研磨により整形され、斧状の刃部があるもの。

石斧原材

石斧の原材となると捉えられるもので、打ち欠き調整のみが施されるもの。

研磨石材

石斧の原材となると捉えられるもので、研磨が施されるもの。

敲石

礫を素材とし、敲打痕があるものの内、能動的と考えられるもの。

すり石

礫を素材とし、擦り痕があるものの内、能動的と考えられるもの。

北海道式石冠

分厚い礫を素材とし、打ち欠き、敲打により、石冠椽の形状に整形されたもので、下面に幅広い擦痕を有するもの。器体中央部付近には敲打による帯状の凹みが巡る。

砥石

礫に被加工物を擦り付けた様な状態の擦り痕を有するもの。特に砂岩、泥岩、軽石を石材とするもの。

矢柄研磨器

軽石に溝状の擦痕が観察されるもの。技術形態学的には「有溝砥石」の名称が相応しいが、広く使用されている矢柄研磨器を用いることとした。

台石

礫を素材とし、まとまった敲打痕があるものの内、受動的と考えられるもの。

石皿

擦り痕、すり面を有するものの内、受動的と考えられるもの。

直縁刃石器

扁平礫を素材とし、縁辺を直線状に連続加工したものの、Ⅲ層出土のものに限定する。東北地方の弥生時代の遺跡から出土する「直縁刃石器」に形態が類似するため、この名称を用いた。両者が直接対比できるものかは不明である。

方割石

円形、楕円形の扁平な礫を折断したもの。Ⅲ層出土のものに限定する。北大式期に特徴的に出土する「方割石」と直接対比しうるものかは不明である。

火打ち石

チャート製で、角状の礫片。Ⅲ層上部出土のものに限定する。

いかり石

20cmを超える大型で扁平な礫を素材とし、敲打・研磨により楕円形に整形し、溝・突起などの特殊な形状を作り出すもの。機能に関しては実用品（杉浦1988）、非実用品（旭川市教育委員会2003）の

6 遺物の分類

考察があるが、一応、石器として分類した。

加工痕ある鏝

鏝に加工を施しているが、定形的ではないもの。

(坂本)

(3) 鉄製品

鉄製品は出土点数が少ないため、器種のみを記載し、細かい分類は行っていない。内耳鉄鍋、刀子、U字鋏（鋤）先、不明な鉄片、細かな鉄片が出土した。ファイゴの羽口が出土しており、鍛冶遺構の存在が想定されるが、鉄滓は出土していない。周辺の調査終了後にファイゴの羽口の出土を確認しているため、細かな鉄滓を確認できる精度での調査は行っていない。細かな鉄片以外は自然科学的分析を行っており、詳細については第七章に示した。

(佐藤)

(4) その他

土器・石器・鉄製品以外の遺物では、炭化材、炭化種子、動物遺存体、赤色顔料（ベンガラ）等がある。これらは遺構等のフローテーション作業で検出を試みた結果、微細遺物として採取されたものを含んでいる。

いずれも出土場所、層位、日付、採取質量等を記載した整理台帳を作成し、自然科学的分析をおこなったものもある。分析結果の詳細については、第七章に示した。

(坂本)

IV 遺構と遺構出土の遺物

1 概要

遺跡は馬追丘陵の南側を流れる安平川の支流であるニタッポロ川左岸の河岸段丘上、標高20m前後に立地する。遺跡の地形はほぼ平坦である。調査区中央部北側には、ニタッポロ川が湾入した際に形成された段丘縁がみられる。遺構は湾入部の周辺および西側にとりわけ多く分布している。

Ⅲ層では、縄文時代晩期後葉、続縄文時代、アイヌ文化期に属する遺構が確認されている。

縄文時代晩期後葉の遺構は、土坑13基、焼土4か所、炭化物集中1か所、礫集中1基、遺物集中11か所が検出されている。主に調査区西側の平坦部、45～55ラインの間に分布する。土坑は遺体層、副葬品の検出例を含む、直径0.6m前後の円形・楕円形のものごとまとめて確認されており、これらは土坑墓群と捉えている。

続縄文時代の遺構は、土坑2基、柱穴状土坑6基、焼土18か所、炭化物集中3か所、礫集中9基、遺物集中49か所が検出されている。主に調査区西側の平坦部、45～55ラインの間に分布する。焼土は規模1mを超えるものが多く、骨片、黒曜石・粘板岩のフレイクを伴うものが多い。

アイヌ文化期の遺構は、柱穴状土坑5基、焼土3か所、礫集中3基が検出されている。柱穴状土坑は湾入部縁辺からPラインの間15×10mの範囲にまとまり、柱穴列として捉えられ、同じ構造物を構成する一連のものと考えられる。この柱穴列の分布範囲に焼土と礫集中も位置し、包含層からは鉄製品やファイゴの羽口が出土している。

V層では、縄文時代早期後半、中期後半、後期前葉～中葉、晩期前葉～後葉に属する遺構が確認されている。早期後半のものは焼土1か所、遺物集中1か所を検出しており、中茶路式期と考えられる。検出層位はⅥ～Ⅷ層である。

中期後半のものは、竪穴住居3軒、土坑6基、Tピット5基、焼土6か所、礫集中10基、遺物集中4か所がある。住居は2～3.5mほどの小型のものが確認されている。土坑には浅皿状の掘り込みに被熱礫が充填されるものがあり、周囲の礫集中と一連のものとして捉えている。礫集中は、河川湾入部段丘縁の周囲にまとまり、他の時期の集石より規模が大きく礫が多量、被熱率が高いなどの特徴がある。Tピットは溝状を呈するものである。

後期に属するものは、竪穴住居1軒、土坑2基、Tピット1基、焼土11か所、礫集中4基、遺物集中10か所がある。竪穴住居は後期初頭、伊達山式期前後と捉えられ、石組炉を有する。Tピットは後期に属する可能性があるものを含めれば4基が認められ、楕円形を呈し杭穴を有するものが主体である。

遺物集中はすべて後期中葉のもので、周辺に焼土、礫集中などが形成されている。

晩期の遺構は土坑20基、焼土67か所、炭化物集中1か所、礫集中6基、遺物集中21か所がある。主に前葉と後葉に属するもので、とりわけ後葉に属するものが多数を占める。遺物量も、全時期と比較して後葉が突出して多く、遺跡は晩期後葉の時期に継続的に利用されたことが考えられる。焼土は湾入部周辺に多量の遺物と共に検出され、骨片を含有するものが多くみられた。(坂本)

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

(1) 土坑

UP-1 (図IV-1, 119-1, 166-1, 図版14・88・112)

位置・立地：O・P50・51、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：(1.72/1.47) × (1.05/0.71) × 0.59m 長軸方向：N-50°-E 平面形：長楕円形

確認・調査・土層：Ⅲ層中に小型の土器片が散在していた。注意して、Ⅳ層上面まで掘り下げた際に、黒色土の落ち込みを確認した。覆土はTa-cが混じる人為的埋め戻し土である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は平らで、壁は急角度で立ち上がる。また、坑底面西側に粘性の強い黒色土が確認され、遺体層と推測される。

遺物出土状況：土坑周辺のⅢ層には晩期後葉の小型土器片が散在していた。また、坑口部には大型土器片がまとまっていた。覆土中からはⅡ群a類土器2点、Ⅳ群a類土器1点、Ⅴ群c類土器81点、すり石1点、フレイク10点、礫片8点などが出土した。

性格：坑口部の遺物出土状況および遺体層の存在、埋め戻しであることから、墓坑と推測される。

時期：縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構である。(藤原)

掲載遺物

土器：1は小型の鉢。口縁部に沈線文が巡る。タンネトウL式。(佐藤)

石器：1はすり石である。安山岩製である。覆土から出土している。断面が不等辺三角形を呈する棒状の礫を素材とし、稜の一边をすり面に設定している。すり面を下に水平に据えた際に、断面三角形の最長辺が片面側でおおむね垂直に、頂部が逆面の上半部に突出するように位置する。すり面縁には小剥離面が連続する。縄文時代前期に特徴的に出土するすり石に類似することから、本来Ⅴ層に包含されていた遺物が、土坑構築の際の掘上げ土とともに掘り出され、覆土として埋め戻されたと考えられる。(坂本)

UP-2 (図IV-1・2, 119-2~4, 図版14・88)

位置・立地：S・T14・15、調査区東側の標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：(1.48/1.29) × ((1.17) / (0.91)) × 0.48m 長軸方向：N-36°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で暗褐色の楕円形プランを検出した。半裁し断面観察を行った結果、Ⅴ層を約20cm掘り込んだ土坑であることを確認した。北西側は一部攪乱を受けている。覆土は、全体的にTa-cが混入。上部はⅢ層、下部はⅤ層が主体となる。埋め戻しの可能性がある。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底は北東側に向かってやや傾斜。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：上面(Ⅲ層下部)でⅥ群土器片233点がまとまって出土した。覆土からは土器片9点(Ⅵ群)、フレイク3点、礫1点及び礫片1点が出土した。

性格：不明である。

時期：上面及び覆土の土器出土状況から、続縄文時代後北B式期とみられる。(宗像)

掲載遺物

土器：2~4は深鉢。2は口縁部から胴部上半。4は口縁部から胴部上半と胴部下半から底部。同一個体と考える。2~3の突起は1個で、4は欠損している。口縁部と胴部上半に竹管状工具による擬

縄貼付文の文様を施文する。横位の短沈線文を連続して施文する。4は3の同一個体の可能性もあるが、①3では横位に展開するハの字状の文様が4では異なっている、②復元をするうえで破片の組み合わせから3に4を組み込むことが出来ない、③3は4より口径が小さいことから別個体と考えた。すべて後北B式。(佐藤)

UP-3 (図IV-2、図版15)

位置・立地: P23、調査区東側の標高19.6mの河川湾入部段丘縁。

規模: (1.17/0.98) × (1.13)/(0.88) × 0.47m **長軸方向:** N-79°-W **平面形:** 不整形円形

確認・調査・土層: 周辺と比べて、Ⅲ層中に縄文時代晩期の遺物がやや多くまとまっていた。Ⅳ層上面まで掘り下げた際に、黒色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積で、小礫が多く入っていた。**重複関係:** Ⅴ層の遺構であるTP-2を切っている。

坑底・壁面: 坑底面は平らで、南側の壁は急角度で立ち上がる。北側の壁はTP-2があり不明瞭であった。

遺物出土状況: 覆土中から割れた小礫63点、Ⅳ群a類土器1点、フレイク5点が出土した。なお、周辺の包含層から小礫の出土はほとんど無い。礫には砂岩36点、泥岩21点、チャート4点、礫岩2点がある。

性格: 覆土の遺物出土状況から、礫を用いた何らかの作業に使われた土坑と推測される。

時期: 縄文時代晩期後葉の遺構である。

掲載遺物: なし。(藤原)

UP-4 (図IV-3・4、120~126-5~23、166-2~7、図版15・16・88~91・112)

位置・立地: R50・51、調査区西側の標高20.1mの河岸段丘上。

規模: (0.60/0.42) × (0.42/0.18) × 0.24m **長軸方向:** N-37°-E **平面形:** 楕円形

確認・調査・土層: Ⅲ層を掘り始めてすぐに大量の土器片がまとまって検出された。土器のまとまりは直径3mほどであるが、両端は攪乱により、削平を受けている。この土器集中は3回に分けて取り上げた。

取り上げ1回目は小破片が多く、他に焼成を受けた大型の礫3点が半ば埋まっている状況であった。2回目は破片がやや大きくなり、最も広範囲に広がっていた。また、焼成を受けた礫、フレイクも数点見られた。この段階で、分布の中央に遺物の少ない部分が確認できた。3回目は大型の土器片が多く、UP-4坑口部に並べたような出土状況であった。

土器を取り上げ、Ⅳ層状面まで掘り下げた段階で遺物の分布が少ない部分に黒色土の楕円形の落ち込みを確認した。覆土はTa-cが混じる人為的埋め戻し土で、覆土中からも大型の土器片が出土した。**重複関係:** 重複する遺構は無い。

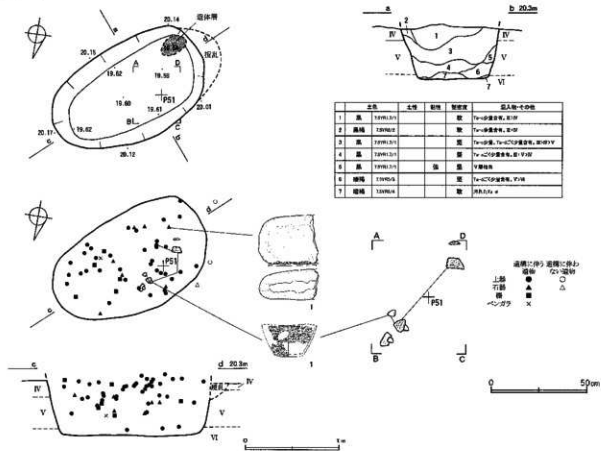
坑底・壁面: 坑底面はくぼみ気味で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況: 土坑上位の土器集中から晩期後葉、タンネトウL式の土器片が10,727点出土した。また、焼成を受けた大型礫や、黒曜石製の石器も少数出土した。土坑内部からも上位の土器集中と同一個体の大型土器片、スクレイパーなどが出土している。

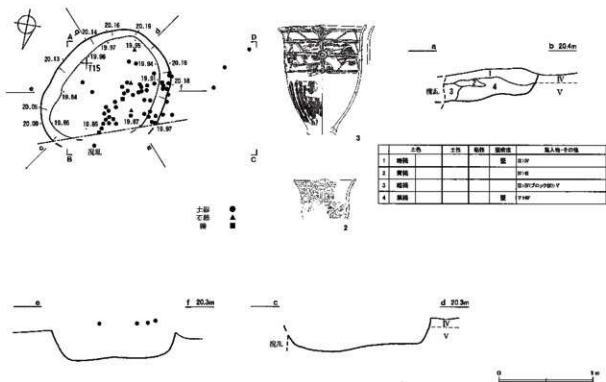
性格: 土坑上位および坑口部の遺物出土状況から、土器集中に伴う何らかの物送りのな祭りに関連したものと推測される。

時期: 縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構である。(藤原)

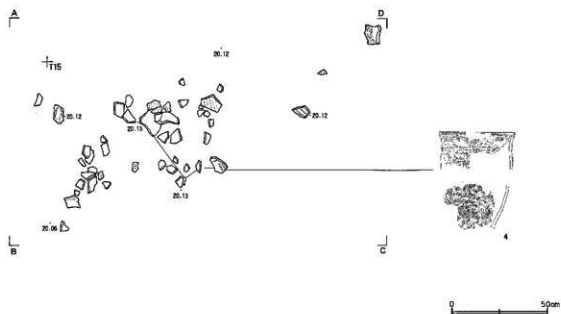
UP-1



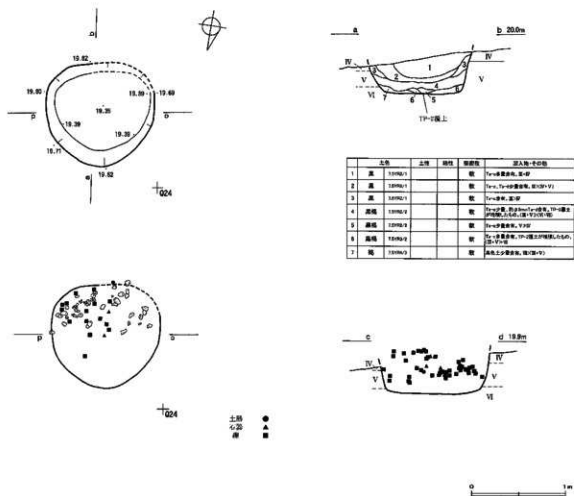
UP-2



図IV-1 UP-1・2



UP-3



図IV-2 UP-2・3

掲載遺物

土器：遺構平面図に掲載した資料は、主体的に接合した層位に示した。5～16は深鉢、5～11は沈線文で文様を施文する。16は竹管状工具の刺突が巡る。17は鉢。18は深鉢または鉢の底部。19～21は浅鉢。22～23は壺。22は大型の壺で、口縁部内側は受口状に内面に張り出す。口縁部外面は貼付文、口縁部内面と肩部は沈線文で文様を施文する。23は中型の壺で、沈線文で文様を施文する。すべてタンネットウL式。 (佐藤)

石器：2～7は全て黒曜石製のスクレイパーである。3は覆土から、他は土坑検出面の遺物集中から出土している。2～4は縦長剥片を素材としている。2・3は平坦剥離による側縁加工で、刃部角は50°とやや緩角度である。5～7は剥片を素材としている。5の側縁加工も平坦剥離による緩角度刃部である。刃部平面形は外湾している。6はスクレイパー製作後、素材打面を打面とし、腹面側に複数回の剥離を施しており、さらにその後、縁辺の刃部加工をおこなっている。 (坂本)

縄文時代晩期の土坑墓群 (UP-5～11・14～15) (図IV-5、図版17)

位置・立地：M49・50・52・53、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：8.60×8.28×m **長軸方向**：— **平面形**：円形

確認・調査・土層：Ⅲ層中位から下位で小型の土坑墓群を確認した。周辺には同時期の焼土があり、関連するものと考える。

重複関係：周辺にUP-5～11・14～15がまとまり、小型の土坑墓が配置される土坑墓群と認識した。 (佐藤)

UP-5 (図IV-6、127-24、166-8～10、167-11、図版17・91・112・113)

位置・立地：M52・53、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.66/0.45) × (0.58/0.45) × 0.14m **長軸方向**：— **平面形**：円形

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で砥石、石斧、いかり石のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。

覆土は埋め戻しである。周辺の遺物との接合関係から、掘り込み面はⅢ層中位と考えた。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器11点、両面調整石器1点、Rフレイク2点、石斧1点、砥石1点、いかり石1点がまとまって出土した。石斧、砥石、いかり石は折り重なった状態で確認した。土器は石斧の下から破片で出土したものが、周辺のUP-7、UF-11・19・20、U遺物集中-8と接合した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物

土器：24は深鉢。胴部に段があり、そこから口縁部が内湾する。口縁部から胴部の段と底部外面、底部の立ち上がりに、沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：掲載した4点は全て覆土から出土している。8はスクレイパーである。黒曜石製である。素材の打磨部を平坦剥離で除去した後、全周を刃部加工している。刃部角は60°程度である。9は石斧である。緑色泥岩の棒状礫を素材とし、素材形状を利用して刃部のみを砥ぎ出している。刃部研磨は正裏両面に施されている。長軸方向からの剥離と横方向からの研磨が繰り返され、刃部見通しでは斜め

に歪んでいる。使用と再生を繰り返したものであろう。10はいかり石と分類した。やや扁平で多孔質の安山岩礫を素材とし、正面側に研磨を加えている。上端部には敲打と研磨による溝状の凹みが観察される。11は砥石である。分厚い安山岩礫片を素材とし、正裏面、両側面にすり面が形成されている。すり面は湾曲しており、使い込まれているようである。(坂本)

UP-6 (図IV-6, 127-25, 図版18・72)

位置・立地：M49・50、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.74/0.55) × (0.42/0.23) × 0.16m 長軸方向：N-70°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で、赤彩土器を確認し、Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、赤彩されたV群c類土器の底部3点がまとまって出土した。覆土中からV群c類土器7点、礫2点が出土した。赤彩土器は周辺のUF-11と接合した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物

土器：25は大型の壺の口縁部から肩部と胴部下半。同一個体と考える。口縁部内側は受口状に内面に張り出す。口縁部外面と口縁部内面、肩部に、沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。(佐藤)

UP-7 (図IV-7, 128-26~32, 図版18・92)

位置・立地：M52、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.58/0.38) × (0.33/0.15) × 0.15m 長軸方向：N-36°-W 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層上面で、土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅣ層を含む埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器68点、スクレイパー2点、Rフレイク2点、フレイク3点、棒状原石1点がまとまって出土した。土器は周辺のUP-5、UF-11・19・20、U遺物集中-7・8と接合した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

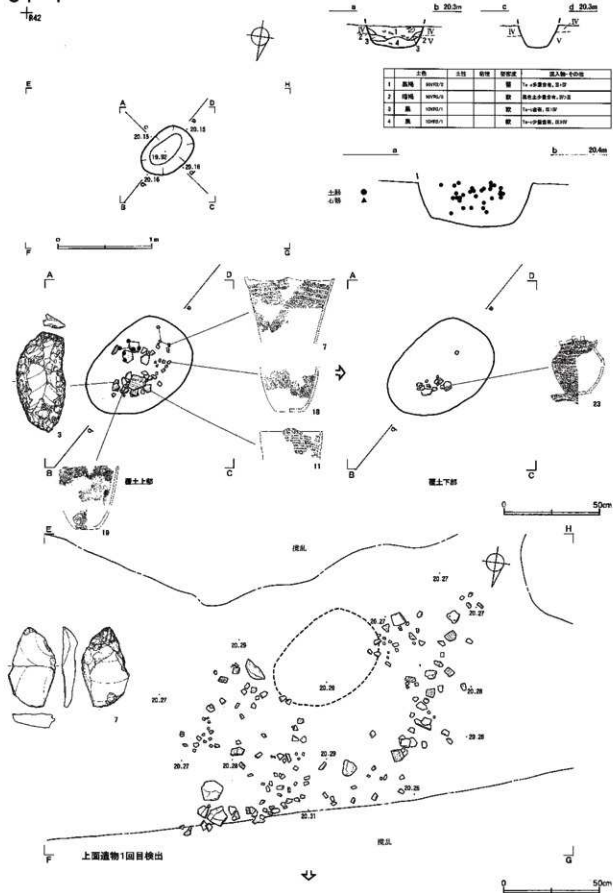
掲載遺物

土器：27は深鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。28は鉢。沈線文で文様を施文する。29~31は深鉢または鉢の底部。32は壺の口縁部と胴部。同一個体と考える。口縁部外面と口縁部内面、肩部に、沈線文で文様を施文する。26は土製品の玉。27~32はタンネットウL式。26はタンネットウL式に伴うものと考えられる。(佐藤)

UP-8 (図IV-7, 図版18)

位置・立地：M・N51、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

UP-4

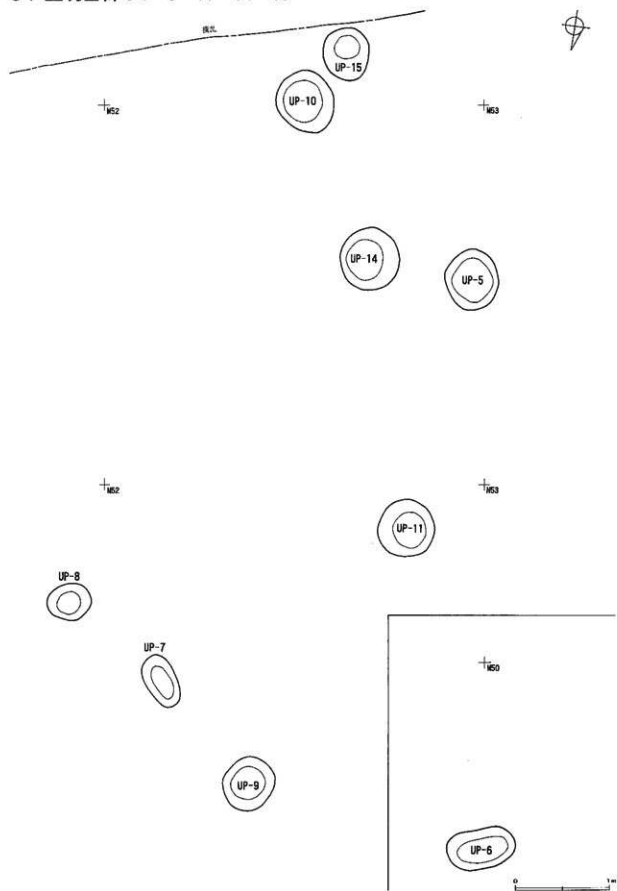


図IV-3 UP-4



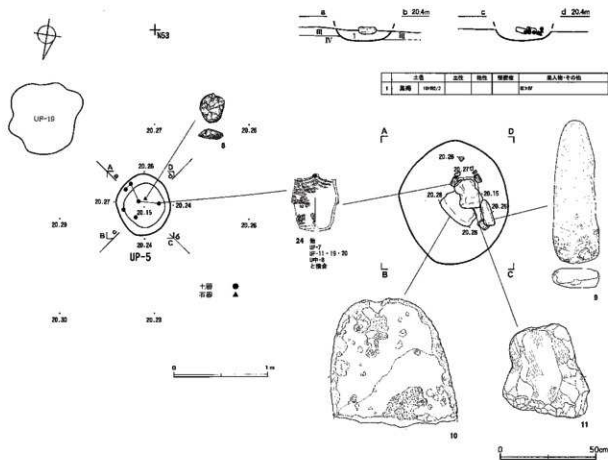
図IV-4 UP-4

UP土坑墓群UP-5~11・14・15

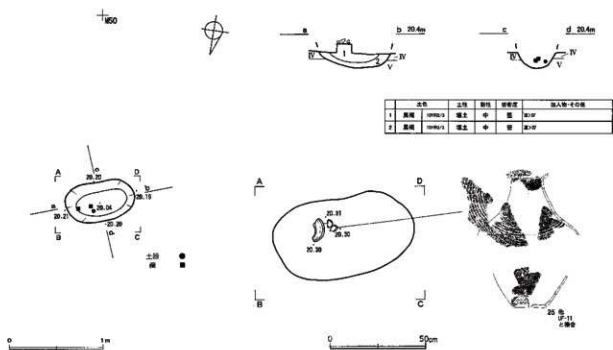


図IV-5 UP土坑群

UP-5

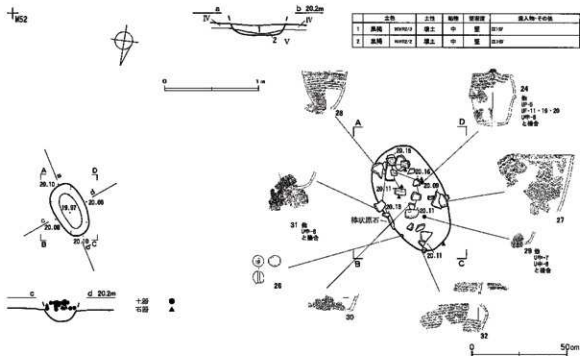


UP-6

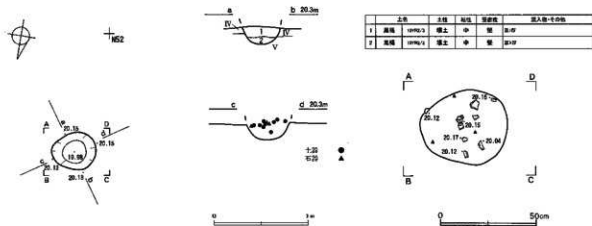


図IV-6 UP-5・6

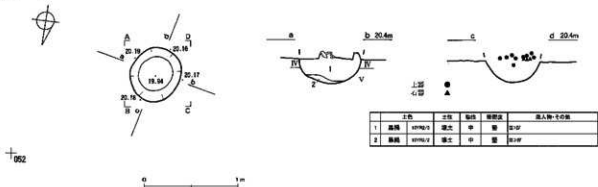
UP-7



UP-8



UP-9



図IV-7 UP-7・8・9

規模：(0.47/0.24) × (0.40/0.24) × 0.18m 長軸方向：N-34°-W 平面形：不整形円形
 確認・調査・土層：IV層上面で、散在する土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器19点、Rフレイク1点、フレイク3点が出土した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

UP-9 (図IV-7, 129-33~36, 167-12・13, 図版19・93・113)

位置・立地：N52, 調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.58/0.38) × (0.53/0.34) × 0.27m 長軸方向：- 平面形：円形

確認・調査・土層：IV層上面で、土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器43点、石鏃1点、石錐1点、Rフレイク1点、フレイク6点、礫片1点が出土した。土器は周辺のUP-11、UF-19と接合した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物

土器：33は深鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。34は鉢。35は深鉢または鉢の口縁部。36は浅鉢。口縁部内面に沿って縄線文で文様を施文する。すべてタンネットウ式。

(佐藤)

石器：12は覆土中、13は覆土上面から出土している。12は石鏃である。黒曜石製である。小型の有茎鏃でカエシは不明瞭である。13は石錐である。玉髓製の剥片を素材としている。錯向剥離による急角度の側縁調整を施し、上下両端部に突出部を作出している。

(坂本)

UP-10 (図IV-8, 129-37~39, 167-14~16, 図版19・93・113)

位置・立地：L・M52, 調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.69/0.44) × (0.61/0.41) × 0.28m 長軸方向：N-33°-E 平面形：不整形円形

確認・調査・土層：IV層上面で、土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器43点、石鏃1点、石錐1点、Rフレイク1点、フレイク6点、礫片1点、ベンガラ20か所が出土した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

掲載遺物

土器：37は深鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。38は深鉢または鉢の口縁部。口縁部は内傾する。細い沈線文で文様を施文する。39は浅鉢。沈線文による文様を施文する。胎土に雲母を多く含む。他地域からの搬入品の可能性がある。すべてタンネットウL式。 (佐藤)

石器：掲載した3点は全て覆土上面から出土している。14・15は石鏃である。石材は14が黒曜石、15が頁岩である。14は横長寸詰まりの小型剥片を素材としている。両者とも有茎族でカエシが不明瞭である。16はスクレイパーである。石材は黒曜石。素材打面部を残して全縁を70～85°の急角度に刃部調整している。 (坂本)

UP-11 (図IV-8・9, 129-40, 167-17, 図版20・93・113)

位置・立地：M52、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.61/0.35) × (0.60/0.38) × 0.27m 長軸方向：— 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で、土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器80点、覆土上位から下位にかけて石鏃1点、フレイク13点、礫1点、ベンガラ11か所が出土した。土器は周辺のUP-9、UF-19と接合した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物

土器：40は深鉢の胴部。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：17は石鏃である。覆土から出土している。石材は黒曜石。カエシが不明瞭な小型の有茎族である。 (坂本)

UP-12 (図IV-9、図版20)

位置・立地：L25、調査区中央、標高20.5m前後の河岸段丘上。

規模：(0.54/0.33) × (0.57/0.28) × 0.37m 長軸方向：N-6°-E 平面形：不整円形

確認・調査・土層：IV層上面精査作業時に黒色土の落ち込みを検出した。半截掘削し、土坑であることを確認した。覆土はTa-c火山灰を多く含有し、上・中位層には炭化物粒の混入を認めた。全て人為的な堆積と判断した。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土からV群c類土器7点、黒曜石製の小フレイク(1cm未満)5点が出土している。

性格：不明である。

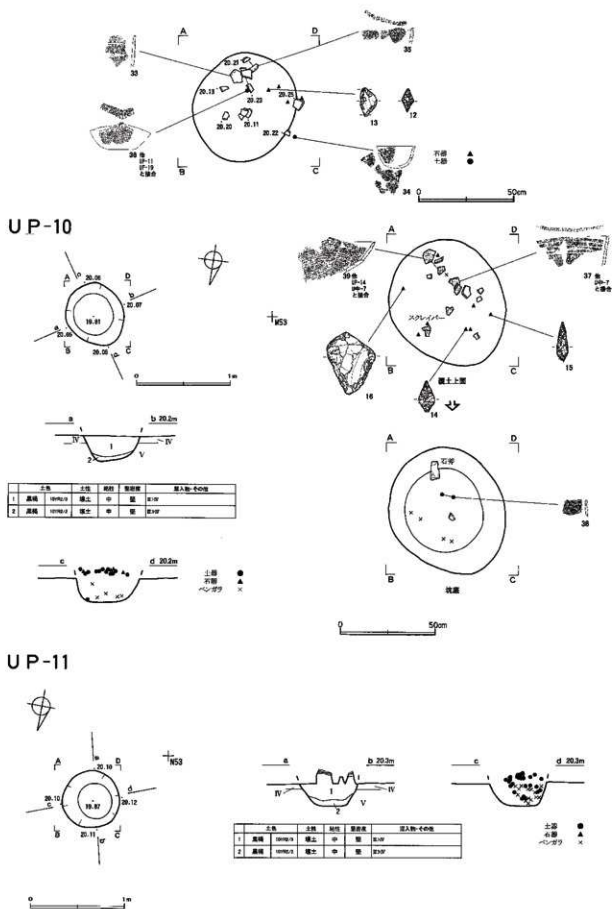
時期：縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

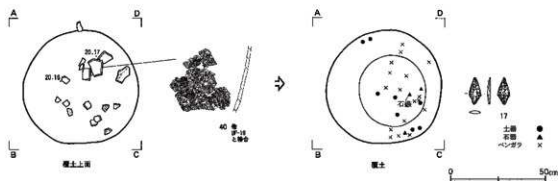
UP-13 (図IV-9, 130-41, 図版20・21・94)

位置・立地：N・O39、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

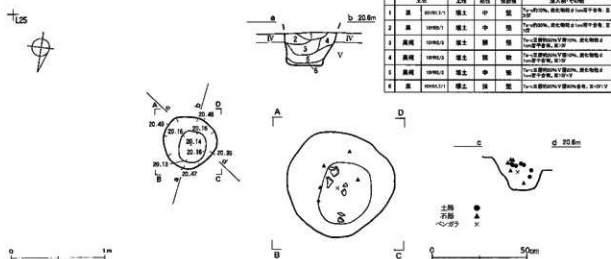


図IV-8 UP-9・10・11

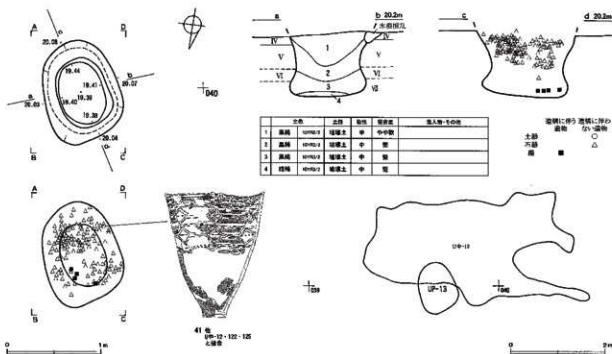
2 Ⅲ層の遺構と出土遺物



UP-12

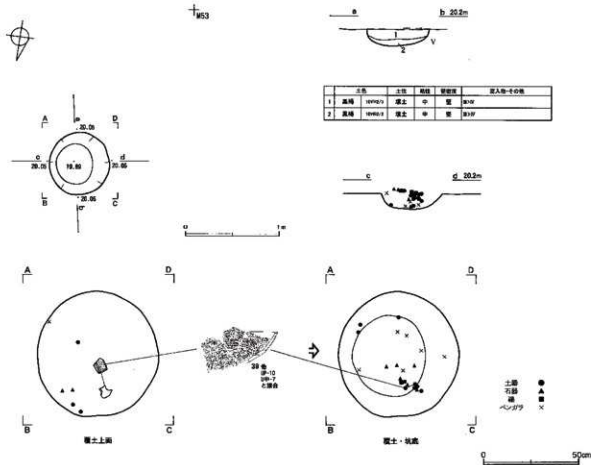


UP-13

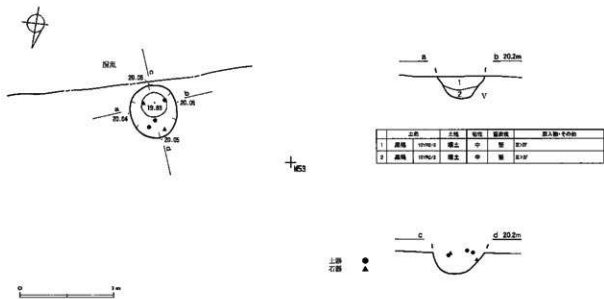


図IV-9 UP-11・12・13

UP-14



UP-15



図IV-10 UP-14・15

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

規模：(1.05/0.92) × (0.79/0.59) × 0.71m 長軸方向：N-30°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：U遺物集中-12を調査中にIV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。U遺物集中-12の形成時には3層まですでに堆積しており、2層上位および1層はその後に堆積したⅢ層の自然堆積である。そのため、1・2層中の遺物は本来U遺物集中-12に含まれるものである。

重複関係：U遺物集中-12より古い。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がりVI層でオーバーハンクスし、フラスコ状を呈する。

遺物出土状況：覆土上位から、VI群土器17点、ピエス・エスキュー1点、フレイク288点、石鏃1点、両面調整石器2点、石核1点、覆土下位を中心に礫2点、礫片13点が出土した。土器はU遺物集中-12・122・125と接合した。

性格：形態から貯蔵穴と考える。

時期：U遺物集中-12の遺物が覆土下位までおよんでいることから近接している時期と考え、縄文時代後北C₁式期である。

掲載遺物

土器：41は大型の深鉢。突起は2個1組と1個が2対で組み合う。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施す。後北C₁式。(佐藤)

UP-14 (図IV-9、図版21)

位置・立地：M52、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.64/0.38) × (0.66/0.43) × 0.17m 長軸方向：- 平面形：円形

確認・調査・土層：V層上面で、散在する土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はIV層を含む埋め戻しである。

重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土上位から下位にかけて、V群c類土器16点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク7点、礫片5点、ペンガラ9か所が出土した。土器はUP-10、U遺物集中-7と接合した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考えた。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物：39はUP-10で記載した。(佐藤)

UP-15 (図IV-9、図版21)

位置・立地：M52、調査区東側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.56/0.27) × (0.49/0.26) × 0.26m 長軸方向：N-22°-E 平面形：円形

確認・調査・土層：V層上面で、散在する土器のまとまりと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はIV層を含む埋め戻しである。

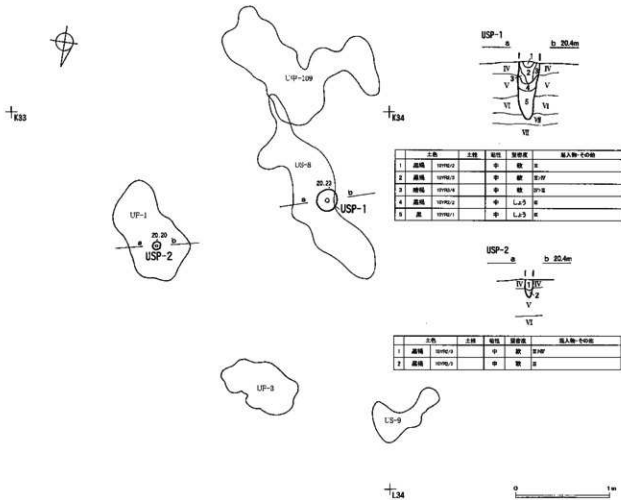
重複関係：晩期の土坑墓群の1基と認識した。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

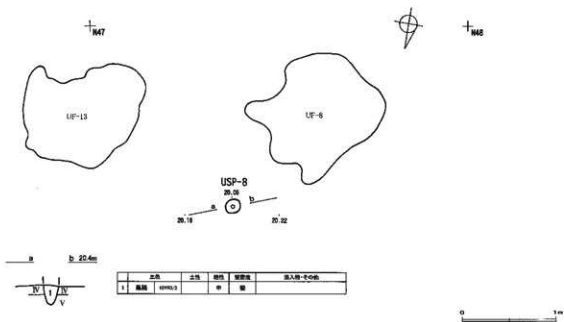
遺物出土状況：覆土上位から、V群c類土器3点、フレイク2点が出土した。

性格：土層の堆積状況および周辺の土坑墓との類似性から、墓坑と考えた。

USP-1・2



USP-8



図IV-11 USP-1・2・8

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

(2) 柱穴状土坑

USP-1 (図Ⅳ-11、図版22)

位置・立地：K33、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.23/0.05)×0.61m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。

重複関係：US-8と重なるが、その部分には礫がみられないことから同時期の可能性が高い。また周辺にUF-1、U遺物集中-109が近接していることから関連性が高いと考える。

坑底・壁面：先端が尖るための杭状である。

遺物出土状況：覆土中からフレイク1点が出土した。

性格：柱穴と考える。

時期：周辺の遺構との関連から縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-2 (図Ⅳ-11、図版22)

位置・立地：K33、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.09/0.02)×0.19m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。

重複関係：UF-1を確認した際にはUSP-2は確認できなかったことから、UF-1より古い。近接しているUF-3、US-9と関連性が高いと考える。

坑底・壁面：先端が尖る細めの杭状である。

遺物出土状況：覆土中からV群c類土器1点が出土した。

性格：柱穴と考える。

時期：周辺の遺構との関連から縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

アイヌ文化期の柱穴列 (USP-3～7) (図Ⅳ-12)

位置・立地：Q・R40、P・Q・R41、調査区西側の標高20.1m以上の河岸段丘上。

規模：6.74×5.12m 長軸方向：N-1°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で楕円形に巡る黒褐色土の小さな落ち込みを5基確認した。覆土は自然堆積である。

重複関係：USP-3～7は弧状に巡る柱穴列と考える。

坑底・壁面：すべて先端が尖るための杭状である。

時期：周辺の遺構の状況からアイヌ文化期と考える。

(佐藤)

USP-3 (図Ⅳ-12、図版22)

位置・立地：P41、調査区西側の標高20.1m以上の河岸段丘上。

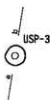
規模：(0.22/0.07)×0.48m 平面形：円形

アイヌ文化期の柱穴列USP-3~7

USP-3



土層	土質	形状	埋蔵品	遺入物・その他
1	腐植	円形	中	中口径 銅刀
2	腐植	円形	中	整 銅刀(折損)
2	腐植	円形	中	整 銅刀(折損)



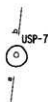
+041

+042

USP-4



土層	土質	形状	埋蔵品	遺入物・その他
1	腐植	円形	中	中口径 銅刀
2	腐植	円形	中	整 銅刀(折損)



+041



土層	土質	形状	埋蔵品	遺入物・その他
1	腐植	円形	中	中口径 銅刀
2	腐植	円形	中	整 銅刀(折損)



USP-7

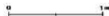


土層	土質	形状	埋蔵品	遺入物・その他
1	腐植	円形	中	中口径 銅刀
2	腐植	円形	中	整 銅刀

USP-6



土層	土質	形状	埋蔵品	遺入物・その他
1	腐植	円形	中	中口径 銅刀
2	腐植	円形	中	整 銅刀



図IV-12 USP-3~7

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

遺物出土状況：覆土中からV群c類土器2点が出土した。

性格：アイヌ文化期の柱穴列の1基と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-4 (図Ⅳ-12, 図版23)

位置・立地：Q41, 調査区西側の標高20.1m以上の河岸段丘上。

規模：(0.18/0.04) × 0.35m 平面形：円形

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：アイヌ文化期の柱穴列の1基と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-5 (図Ⅳ-12, 図版23)

位置・立地：R41, 調査区西側の標高20.1m以上の河岸段丘上。

規模：(0.18/0.04) × 0.43m 平面形：円形

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：アイヌ文化期の柱穴列の1基と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-6 (図Ⅳ-12, 図版23)

位置・立地：R40, 調査区西側の標高20.1m以上の河岸段丘上。

規模：(0.20/0.04) × 0.33m 平面形：円形

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：アイヌ文化期の柱穴列の1基と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-7 (図Ⅳ-12, 図版23)

位置・立地：Q40, 調査区西側の標高20.1m以上の河岸段丘上。

規模：(0.23/0.04) × 0.48m 平面形：円形

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：アイヌ文化期の柱穴列の1基と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-8 (図Ⅳ-11, 図版24)

位置・立地：K33, 調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.17/0.04) × 0.21m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。

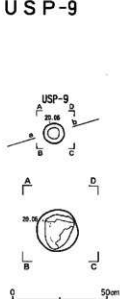
重複関係：近接しているUF-8・13と関連性が高いと考える。

坑底・壁面：先端が尖るための杭状である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：柱穴と考える。

USP-9



+058



+051



1	名称	土質	形状	埋蔵深	出土品・その他
1	基礎	砂質土	中	数	鉄釘・土釘



USP-10



USP-10



1	名称	土質	形状	埋蔵深	出土品・その他
1	基礎	砂質土	中	数	



+142

USP-11



+141



1	名称	土質	形状	埋蔵深	出土品・その他
1	基礎	砂質土	中	数	鉄釘・土釘



図IV-13 USP-9~11

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

時期：周辺の遺構との関連から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-9 (図Ⅳ-13、図版24)

位置・立地：O49、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：(0.22/0.12)×0.16m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で台石と黒褐色土の落ち込みを確認した。台石は敲打痕のみられる平坦面を上にして置かれている。覆土は自然堆積である。

重複関係：近接しているUF-12と関連性が高いと考える。

坑底・壁面：先端が尖るための杭状である。

遺物出土状況：覆土の最下位から台石が1点出土している。台石は平坦面を上にして置かれている状況から、柱が沈まないように置かれたものと考えられる。

性格：柱穴と考える。

時期：周辺の遺構との関連から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-10 (図Ⅳ-13、図版24)

位置・立地：M42、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：(0.08/0.03)×0.18m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。

重複関係：近接しているUF-23と関連性が高いと考える。

坑底・壁面：先端が尖る細めの杭状である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：柱穴と考える。

時期：周辺の遺構との関連から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

USP-11 (図Ⅳ-13、図版24)

位置・立地：O40、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：(0.22/0.12)×0.16m 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅳ層上面で礫と黒褐色土の落ち込みを確認した。礫は平坦面を上にして置かれている。覆土は自然堆積である。

重複関係：近接しているUS-12・14と関連性が高いと考える。

坑底・壁面：先端が尖るための杭状である。

遺物出土状況：覆土下位から礫が1点出土している。礫は平坦面を上に置いて置いている状況から、柱が沈まないように置かれたものと考えられる。

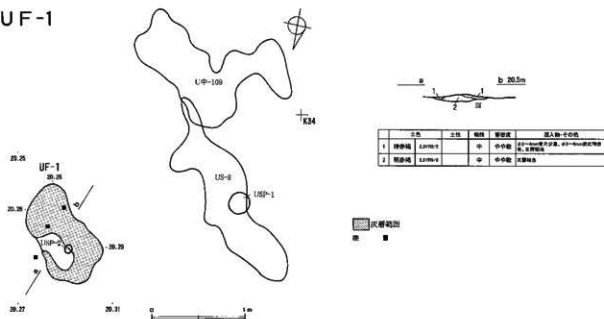
性格：柱穴と考える。

時期：周辺の遺構との関連からアイヌ文化期と考える。

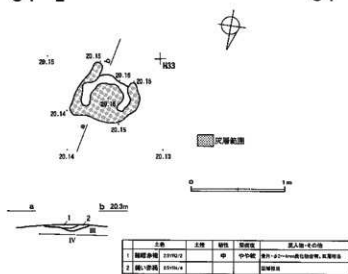
掲載遺物：なし。

(佐藤)

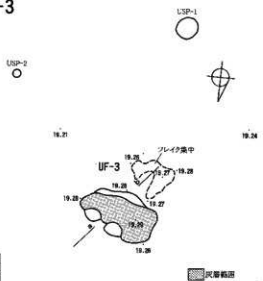
UF-1



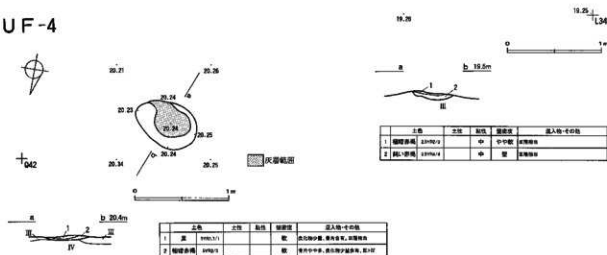
UF-2



UF-3



UF-4



図IV-14 UF-1～4

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

(3) 焼土

UF-1 (図Ⅳ-14、図版25)

位置・立地：K33、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.10×0.62×0.08m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：UF-1を確認した際にはUSP-2は確認できなかったことから、USP-2より新しい。

近接するUS-8、U遺物集中-109（フレイク集中）と関連すると考える。

遺物出土状況：1層から礫1点、礫片1点および周辺のⅢ層から礫片1点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

UF-2 (図Ⅳ-14、図版25)

位置・立地：H32、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.75×0.65×0.07m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：近接してUS-6があり、確認した高さが異なるものの、関連する可能性がある。

遺物出土状況：1層から礫1点、礫片1点および周辺のⅢ層から礫片1点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

UF-3 (図Ⅳ-14、図版25)

位置・立地：K33、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：0.84×0.50×0.07m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

至近にフレイク集中を確認した。

重複関係：近接するUS-9、USP-2と関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中内からフレイク10点、礫1点、礫片16点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

UF-4 (図Ⅳ-14、図版25)

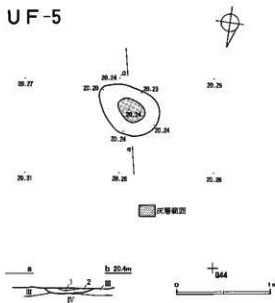
位置・立地：P42、調査区西側の標高20.2mの河岸段丘上。

規模：0.68×0.47×0.04m 平面形：卵形

確認・調査・土層：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に極暗赤褐色土のまとまりを確認した。薄く不明瞭な焼土で、周辺に炭化物・骨片が散在していた。なお、下位のTa-cも焼成を受け変色していた。

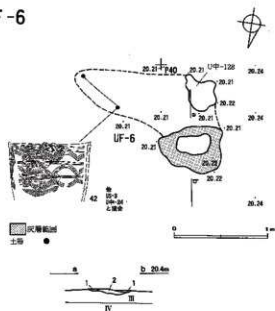
重複関係：重複する遺構は無いが、アイヌ文化期の礫集中US-13・15の中間に位置し、関連する可能性もある。

UF-5



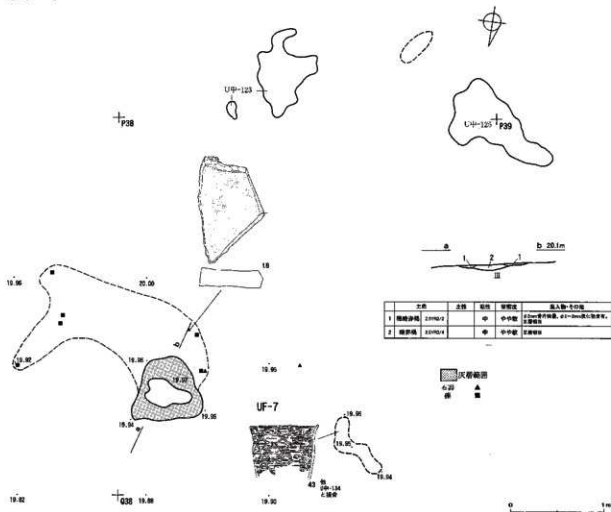
	土名	土位	方位	層厚表	埋入物・その他
1	黒砂	1996.1		取	陶土器、骨角器、土器類
2	褐	1976.4		取	土・砂土、骨角器、土器

UF-6



	土名	土位	方位	層厚表	埋入物・その他
1	黒砂	1996.1			土器・骨角器類、 ϕ 100mm以内の土器、土器類
2	赤砂	1976.4			土器類

UF-7



	土名	土位	方位	層厚表	埋入物・その他
1	黒砂	1996.1			中・小砂、 ϕ 100mm以内の土器、土器類
2	赤砂	1976.4			中・小砂

図IV-15 UF-5～7

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炉である。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代後北C₁式期、もしくはUS-13・15との関連からアイヌ文化期の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。(藤原)

UF-5 (図IV-15、図版26)

位置・立地：P43、調査区西側の標高20.2mの河岸段丘上。

規模：0.69×0.50×0.06m 平面形：卵形

確認・調査・土層：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に赤褐色土のまとまりを確認した。黄色味を帯びた明瞭な焼土で、骨片が散在していた。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土の周囲から焼成を受けた礫が5点出土した。

性格：炉である。

時期：焼土周辺に遺物の散布が少なく、詳細は不明である。検出層位から、縄文時代後北C₁式の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。(藤原)

UF-6 (図IV-15、131-42、図版26・94)

位置・立地：P39・40、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.69×0.51×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で極寒赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。至近にU遺物集中-128(土器集中)を確認した。

重複関係：至近のU遺物集中-128(土器集中)、近接する包含層から出土したVI群土器と関連性が高いと考える。またUS-3、U遺物集中-24と近接する包含層から出土した土器が接合していることから同時期と考える。

遺物出土状況：近接する包含層からVI群土器10点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および近接する包含層出土遺物から縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：42は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は2個1組がある。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。(佐藤)

UF-7 (図IV-15、131-43、167-18、図版26・94・113)

位置・立地：P38、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.80×0.75×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で極寒赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。近接して土器集中1か所、U遺物集中-123(土器集中)・125を確認した。

重複関係：近接する土器集中、U遺物集中-123(土器集中)・125と関連性が高いと考える。近接する土器集中はU遺物集中137(フレイク集中)と接合していることから同時期と考える。

遺物出土状況：近接する土器集中からVI群土器61点、近接する包含層からフレイク1点、チャート製の原石1点、礫4点、礫片2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および至近の包含層出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：43は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は2個1組と1個が2対で組み合う。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。 (佐藤)

石器：18は焼土の周辺、検出面の包含層から出土したもので、原石に分類した。石材はチャートである。節理割れにより盤状となっている。 (坂本)

UF-8 (図IV-16、図版26)

位置・立地：N47、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.50×1.36×0.13m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で多数のフレイク・骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。1層には多数のフレイク・骨片・炭化物、2層には少数のフレイク・骨片・炭化物を含む。焼土の範囲と重なる状態でフレイク集中が形成されている。

重複関係：近接するUSP-8、UF-13と関連すると考える。

遺物出土状況：1・2層およびフレイク集中からVI群土器2点、石礫4点、Rフレイク1点、フレイク390点、礫片4点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

UF-9 (図IV-16、132-44・45、167-19~28、図版26・94・113)

位置・立地：N49・50、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：1.44×0.83×0.14m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で多数のフレイク・骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。精査を行い、フレイク集中およびその下に骨片のまとまりを2か所、焼土1基、土器集中1か所を確認した。1層には多数のフレイク・骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器71点、フレイク集中からVI群土器34点、石礫15点、両面調整石器1点、Rフレイク12点、フレイク968点、直縁刃石器1点、礫石1点、礫片4点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：44~45は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は1個である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。すべて後北C₁式。 (佐藤)

石器：27が焼土中から、他は焼土の周辺、検出面の包含層から出土している。

19~26は石礫である。石材は24が粘板岩で他は全て黒曜石である。形態は全て三角形である。19・20・21は基部が平坦なものである。やや調整が粗く厚みを残し、形状も歪である。22・23はわずかに

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

基部が内湾するもの。22は薄手で整った形状だが、素材腹面を残置している。23は器体の中央部付近から、側縁がやや末広がりとなっている。24は紙状に剥がれたフレイクを素材とし、周囲を軽微に加工して三角に整形している。25・26は加工が縁辺にとどまり素材打面を大きく残している。また形状も19～23に比べ幅広である。

27は直縁刃石器とした。東北地方から出土する同名の石器に形態が類似する。ただし、両者が比定しうるものかは不明である。石材は粘板岩である。節理割れによる扁平な礫片を素材とし、周辺に縁辺加工を施している。上下縁は正面・下面観とも直線状で、片側縁が下縁に対しほぼ直交方向に設定される。この側縁辺は若干内湾するように加工され、中央部には擦痕が観察される。

29は礫石である。礫片を素材とし、自然面縁辺に敲打痕が観察される。下端部が欠損している。掲載資料の内、20・25・26は黒曜石産地分析をおこなった。分析結果についてはⅧ章に掲載している。
(坂本)

UF-10 (図IV-17, 133-46・47, 167-29, 図版27・94・95・113)

位置・立地：M・N49、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：1.41×0.62×0.12m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で多数のフレイク・骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。精査を行い、フレイク集中およびその下に骨片のまとまりを1か所、焼土1基、土器集中1か所を確認した。1層には多数のフレイク・骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層から石鏃1点、礫1点、土器集中からⅥ群土器18点、フレイク集中からⅥ群土器15点、石鏃5点、Rフレイク4点、棒状原石3点、フレイク314点、礫片3点、骨片の集中から石鏃1点、近接する包含層からⅥ群土器6点が出土した。

性格：刃と考える。

時期：確認面および出土遺物から統細文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：46は小型の深鉢の口縁部から胴部上半。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。突起は2個1組である。47は深鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。46は後北C₁式。47はタンネトウL式。
(佐藤)

石器：29は石鏃である。焼土の周辺、検出面の包含層から出土した。黒曜石製である。形態は三角形で基部は平坦である。素材腹面を広く残置するが、左右対称で丁寧に整形されている。
(坂本)

UF-11 (図IV-18, 133-48～50, 167-30, 図版28・95・113)

位置・立地：N51、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

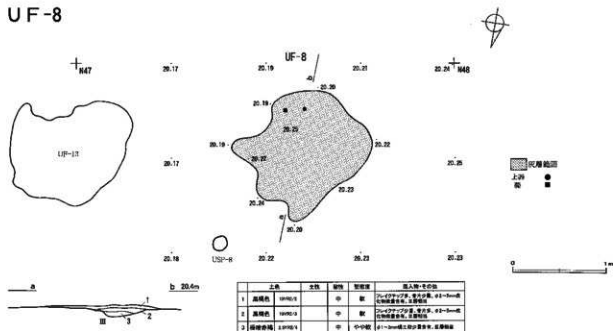
規模：1.76×1.59×0.11m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で土器のまとまりと極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

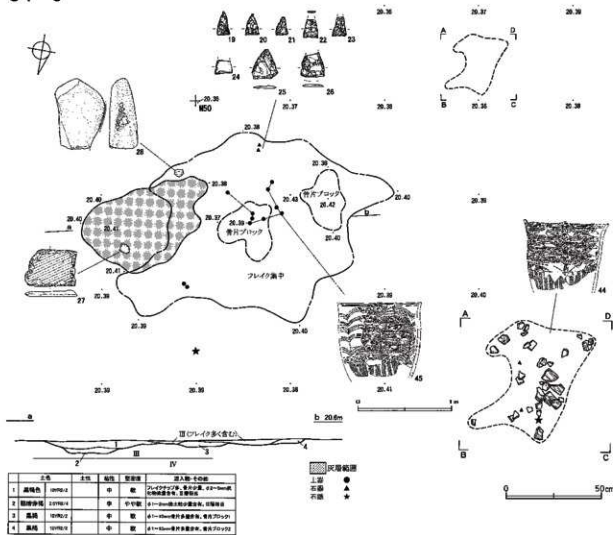
重複関係：なし。

遺物出土状況：焼土を中心にⅤ群c類土器794点、Ⅵ群土器1点、Rフレイク2点、Uフレイク1点、スクレイパー1点、フレイク26点、ベンガラ1か所、礫4点、礫片6点が出土した。Ⅴ群c類土器はUP-5・6・7、UF-19・20、U遺物集中-8と接合した。

UF-8

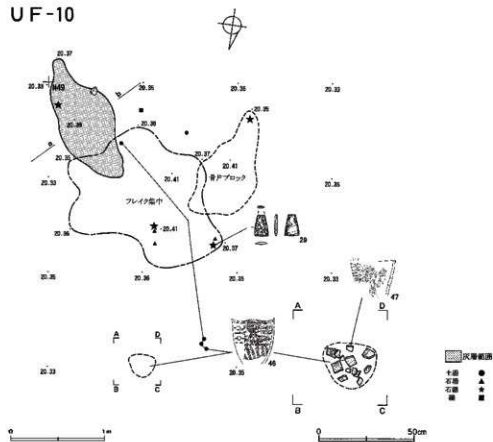


UF-9

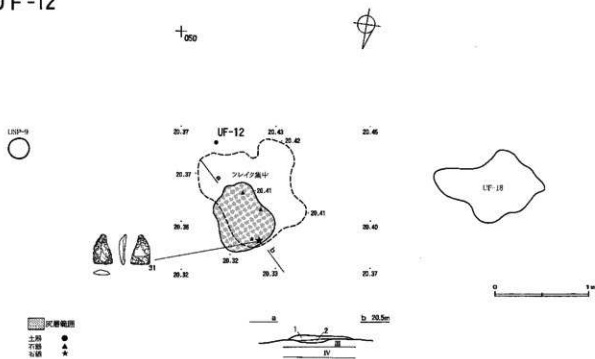


図IV-16 UF-8・9

UF-10



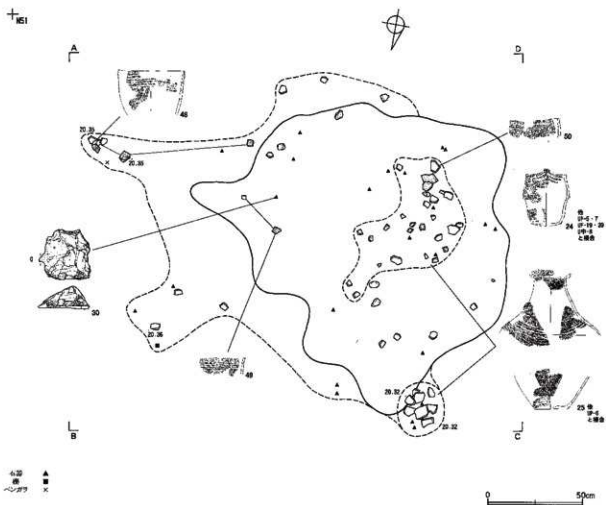
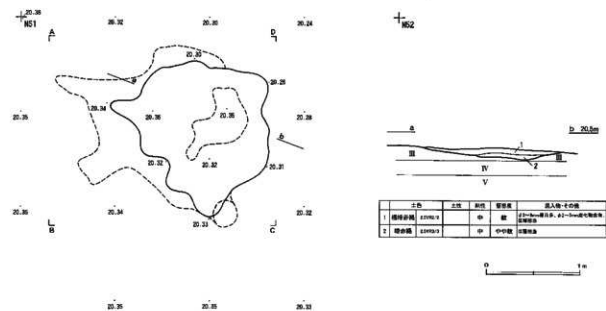
UF-12



土層	土質	年代	層位	出土物・特徴
1	黒褐色	4000-2	中	21-22cm厚の赤土層、22-40cm厚の赤土層
2	暗褐色	2000-2	中下部	21-30cm厚の赤土層、20cm厚の赤土層

図IV-17 UF-10・12

UF-11



図IV-18 UF-11

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

性格: 炉と考える。

時期: 確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器: 24はUP-5、25はUP-6で記載した。48～50は深鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。50の沈線文は途切れる部分がある。すべてタンネットウL式。 (佐藤)

石器: 30はスクレイパーである。焼土から出土した。石材は梨肌の黒曜石である。自然面を残置する剥片を素材とする。素材側縁を連続的に加工して刃角65°前後の刃部を作出している。形態はエンドスクレイパー状となっている。左側縁には錐状の突出部が観察される。 (坂本)

UF-12 (図IV-17, 133-51, 167-31, 図版28・95・113)

位置・立地: O50, 調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模: 0.74×0.65×0.08m 平面形: 不整形

確認・調査・土層: Ⅲ層上位で多数のフレイク・骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。精査を行い、フレイク集中およびその下に焼土1基を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。

重複関係: 近接するUSP-9と関連すると考える。

遺物出土状況: 1層からフレイク2点、フレイク集中からVI群土器5点、石鏃3点、フレイク498点、石斧1点、礫片3点、近接する包含層からVI群土器4点が出土した。

性格: 炉と考える。

時期: 確認面および出土遺物から続縄文時代後北C₁式期と考える。 (佐藤)

掲載遺物

石器: 31は石鏃である。焼土の周辺、検出面の包含層から出土した。黒曜石製である。背面側の加工は縁辺にとどまっており、正裏面に素材面を大きく残している。厚みを残し、形態も左右非対称で歪みである。 (坂本)

UF-13 (図IV-19, 168-32~51, 図版28・114)

位置・立地: N46・47, 調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模: 1.43×1.22×0.11m 平面形: 不整形

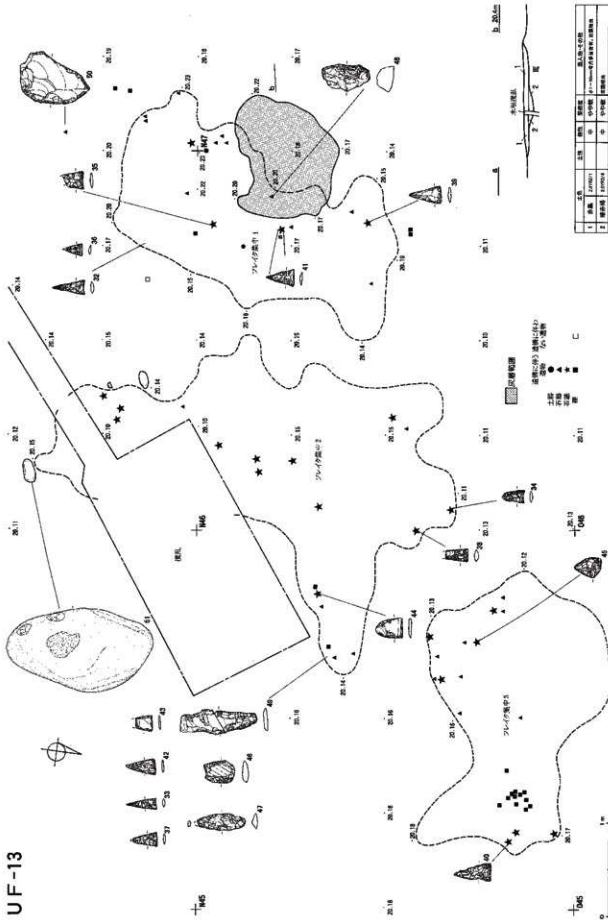
確認・調査・土層: Ⅲ層上位で多数の骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。精査を行い、フレイク集中1か所およびその下に焼土1基、近接してフレイク集中2か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。

重複関係: 近接するUF-8、USP-8と関連すると考える。

遺物出土状況: 焼土およびフレイク集中No. 1からは、VI群土器1点、石鏃18点、スクレイパー3点、両面調整石器1点、Rフレイク19点、フレイク566点、棒状原石1点、礫2点、礫片5点が出土した。フレイク集中No. 2からは、VI群土器20点、石鏃31点、石錐2点、スクレイパー4点、両面調整石器4点、ピエス・エスキューユ1点、Rフレイク21点、フレイク2,512点、礫片8点、つまみ付きナイフ1点が出土した。フレイク集中No. 3からは、VI群土器1点、石鏃9点、スクレイパー1点、Rフレイク9点、フレイク230点、礫1点、礫片23点が出土した。近接する包含層からスクレイパー2点、台石1点、礫4点、礫片1点、火打石1点が出土した。火打石はアイヌ文化期の遺構出土のものに接合する。つまみ付きナイフは縄文時代晩期のものである。

性格: 炉と考える。

UF-13



図IV-19 UF-13

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

(佐藤)

掲載遺物

石器：21点を掲載した。全て焼土の周辺、検出面の包含層から出土した。

32～45は石鏃である。石材は39・40・45が頁岩、42・43が粘板岩で、他は全て黒曜石である。32～44は三角形鏃である。32～35は基部がやや内湾するもの、36～44は基部が平坦なもの（平基）である。32の側縁は中央部でくびれ、やや末広がりととなっている。33の側縁は若干外湾する。34の先端部は欠損した後に再加工した可能性がある。平基の36～39・41～43は、側縁が直線的に整形されている。40は形態がやや歪で厚みを残す。42・43は紙状に剥がれたフレイクを素材とし、周囲を加工して三角に整形している。44は周囲を軽微に加工したもので、先端部が丸いままである。また素材面を広く残置している。45は素材打面を残したまま両面を調整しており、側縁が湾曲する歪な三角形を呈している。

46・47は黒曜石製の両面調整石器である。47は背面側の厚みを残したまま柳葉形に整形されている。

48～50はスクレイパーである。48・49が黒曜石製、50が頁岩製である。48は腹面側に調整が施された後、背面右側縁に急角度調整が施されている。49は縦長剥片を素材とする。両側縁に連続的な調整を加え、刃角45°前後の刃部を形成している。折れ接合しており、上半部のみが被熱している。50はやや軽微な側縁調整で、外湾およびやや内湾する刃部を有する。刃角は50°前後を測る。

51は台石である。分厚い礫を素材とし、平坦面に敲打痕がまとまって観察される。

掲載資料の内、35・38・41・48について黒曜石産地分析をおこなった。分析結果はⅦ章に掲載している。

(坂本)

UF-14 (図IV-20, 134-52・53, 168-52・53, 図版28・29・95・114)

位置・立地：M47・48、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.88×1.28×0.09m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で多数の骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。近接してフレイク集中1か所、土器集中1か所、遺物集中1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からは、VI群土器1点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、フレイク29点、方割石1点、礫片1点が出土した。近接する包含層からは、土器集中からVI群土器13点、フレイク3点、遺物集中からVI群土器29点、石鏃1点、礫片4点が出土した。VI群土器はU遺物集中-14と接合した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

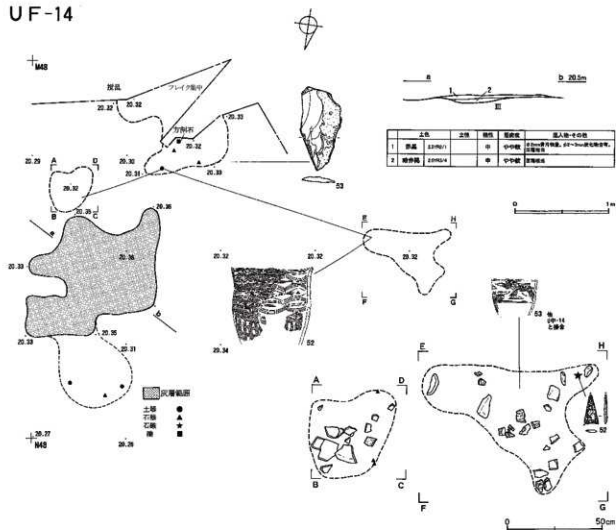
土器：52は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。口縁部と胴部上半に降隆起線文により文様を施文する。突起は1個である。53は小型の深鉢の口縁部から胴部上半。口縁部と胴部上半に沈線文に沿う帯状縄文により文様を施文する。52～53は後北C₁式。

(佐藤)

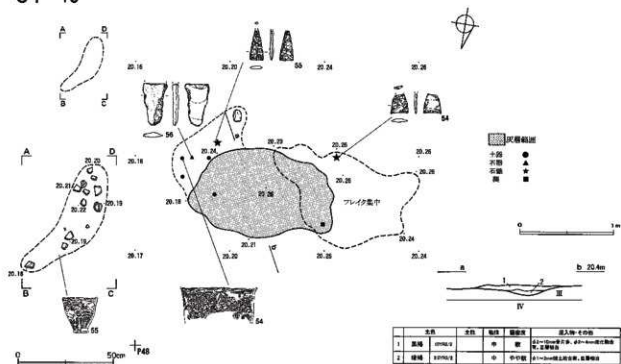
石器：掲載した2点は焼土の周辺、検出面の包含層から出土している。石材は52が黒曜石、53が頁岩である。52は石鏃である。三角形を呈し、基部はわずかに内湾する。側縁は直線的で、器体は薄手に整形されている。53はスクレイパーである。縦長の剥片を素材とし、側縁にやや軽微な調整を連続的に加えている。刃角は50°前後を測る。

(坂本)

UF-14



UF-15



図IV-20 UF-14・15

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

UF-15 (図IV-20, 135-54・55, 168-54~56, 図版29・95・96・114)

位置・立地：O48、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.55×0.94×0.11m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で多数の骨片・炭化物を含む黒褐色土のまとまりを確認した。焼土と重なってフレイク集中1か所、土器集中1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：焼土からはⅥ群土器3点、土器集中からⅥ群土器26点、フレイク集中から石鏃2点、Rフレイク3点、フレイク183点、近接する包含層からⅥ群土器1点、石鏃2点、スクレイパー2点、礫片2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：54は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。突起は2個1組がある。55は小型の深鉢。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。突起は確認できなかったが、欠損部分にはあるものと考ええる。すべて後北C₁式。 (佐藤)

石器：掲載した3点は全て焼土の周辺、検出面の包含層から出土している。石材は全て黒曜石である。54・55は石鏃である。形態は三角形を呈し、基部は54がやや内湾、55が平坦である。55の側縁はほぼ直線的と捉えられる。56はスクレイパーである。側縁にやや粗い調整を加えている。掲載資料の内、55・56については黒曜石産地分析をおこなった。分析結果についてはⅦ章に掲載した。 (坂本)

UF-16 (図IV-21, 図版29・30・123)

位置・立地：M44、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.42×0.27×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層を3cmほど掘り進めたところ、Ⅲ層上位で刀子と暗赤褐色土のまとまりを確認した。焼土の至近から火打石が出土した。また近接する包含層から礫集中を3か所確認した。礫集中はいずれもややまばらである。

重複関係：なし。

遺物出土状況：焼土から刀子1点、至近の包含層から火打石2点、礫1点近接する包含層から礫集中3か所(EFGHのまとまりから礫12点、礫片1点、IJKLのまとまりから礫16点、MNOPのまとまりから礫6点)が出土した。礫集中の礫は砂岩29点、泥岩2点、玉髓2点、珪岩1点がある。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物からアイヌ文化期と考える。

掲載遺物

鉄製品：1は小刀。先端が一部欠損する以外は、ほぼ完形品である。片面に1条、反対側に2条の樋がある。全体にメタル分が残っており、しっかりとしている。木質は残っていない。 (佐藤)

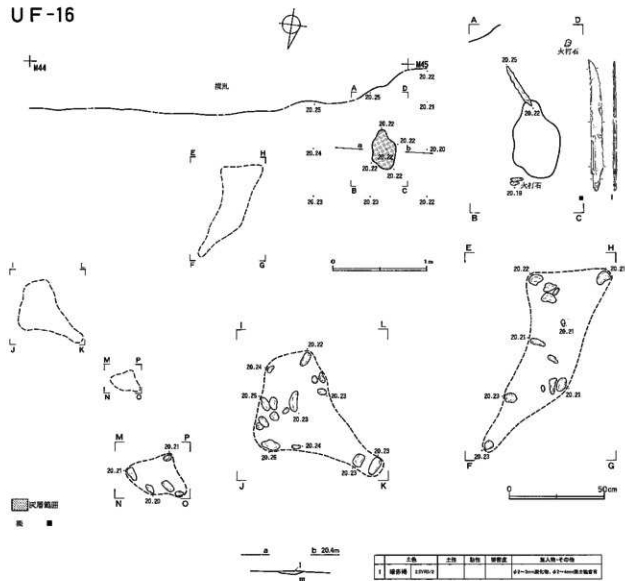
UF-17 (図IV-21, 図版30)

位置・立地：M49、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

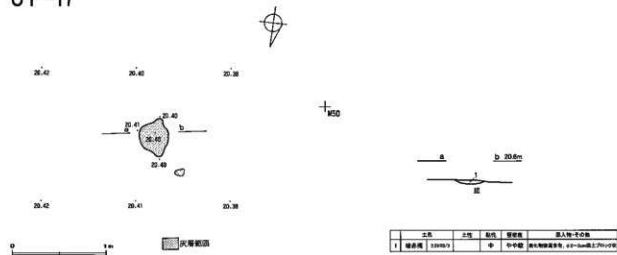
規模：0.40×0.30×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層を3cmほど掘り進めたところ、Ⅲ層上位で暗赤褐色土のまとまりを確認した。

UF-16



UF-17



図IV-21 UF-16・17

式。石器：57はスクレイパーである。焼土から出土した。大型で分厚い縦長剥片を素材とし、両側縁を連続的に調整している。刃部角は40° および60° を測る。上半部を欠損するが、折れ面には腹面側から1回の剝離が加えられている。(坂本)

土器：36はU P-9、40はU P-11に記載した。56～57は深鉢。56は縄線文で文様を施文する。57は口縁部内面に縄線文で文様を施文する。58は浅鉢。口縁部は波状口縁状である。すべてタンネトウL。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後半と考える。

性格：好と考える。

UF-5・7・9・11、UF-11・20、U遺物集中-8と接合した。フレク17点。近接する包含層からV群c類土器2点、礫1点が出土した。焼土に重なる土器集中からはV群c類土器615点、Rフレク1点、フレク9点、礫片4点、フレク集中からスクレイパー1点、遺物出土状況：焼土に重なる土器集中からV群c類土器149点、礫1点。近接する土器集中から

重複関係：なし。

土器集中1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。確認・調査・土層：Ⅲ層中位で多数のフレク・骨片・炭化物を含む極暗赤褐色土のましまりを確認した。精査を行い、フレク集中1か所とその下に土器集中1か所、焼土1か所、近接する包含層か

規模：0.85×0.75×0.10m 平面形：不整形

位置・立地：N52、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

UF-19 (図IV-22, 135-56~58, 168-57, 図版30・31・96・114)

(佐藤)

重複関係：なし。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後北C1式期と考える。

性格：好と考える。

フレク60点が出土した。

遺物出土状況：フレク集中からV群土器19点、石鏝2点、スクレイパー1点、Rフレク4点、フレク1点。近接する土器集中からV群c類土器19点、礫1点。近接する土器集中から

重複関係：なし。

なつてフレク集中1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で多数の骨片・炭化物を含む黒褐色土のましまりを確認した。焼土と重

規模：1.18×0.79×0.11m 平面形：不整形

位置・立地：O50、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

UF-18 (図IV-22, 図版30)

(佐藤)

重複関係：なし。

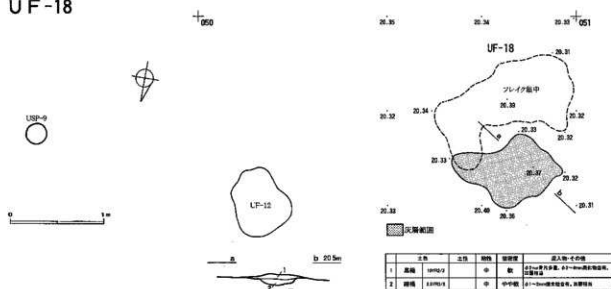
時期：確認面および周辺の遺構の状況からアヌ文化期と考える。

性格：好と考える。

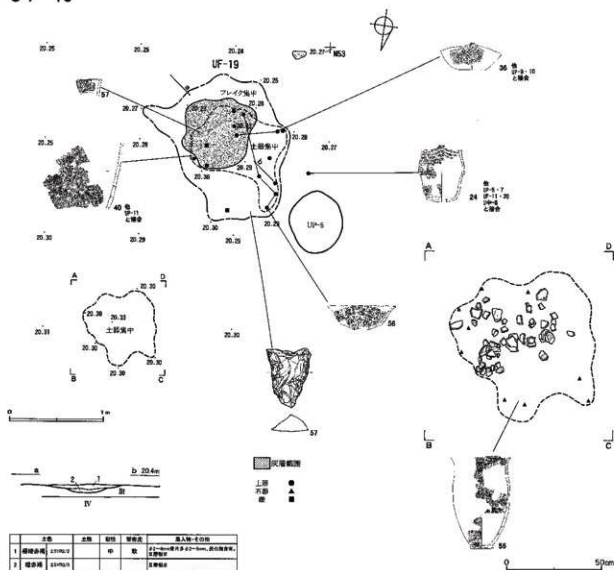
遺物出土状況：至近の包含層から礫1点が出土した。

重複関係：なし。

UF-18



UF-19



図IV-22 UF-18・19

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

UF-20 (図IV-23, 136-59・60, 169-58~65, 図版31・96・115)

位置・立地: M52・53, 調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模: 2.35×(0.46)×0.08m 平面形: 不整形

確認・調査・土層: Ⅲ層下位で多数のフレイク・骨片・炭化物を含む極暗赤褐色土のまとまりを確認した。精査を行い、フレイク集中1か所とその下に土器集中1か所、焼土1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。

重複関係: なし。

遺物出土状況: 焼土および焼土に重なる土器集中、フレイク集中、近接する包含層からV群c類土器211点、石鏃3点、砥石1点、矢柄研磨器2点、スクレイパー1点、Rフレイク3点、フレイク45点、礫3点、礫片2点が出土した。V群c類土器はUP-5・7、UF-11・19、U遺物集中-8と接合した。

性格: 炬と考える。

時期: 確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器: 59は深鉢。沈線文で文様を施文する。60は大型の壺の口縁部から肩部。口縁部外面と口縁部内面、肩部に、沈線文で文様を施文する。すべてタンネットウL式。 (佐藤)

石器・礫: 掲載した8点は全て焼土の周辺、検出面の包含層から出土している。

58~60は石鏃である。全て黒曜石製である。58・59は三角形鏃、60は有茎鏃である。58は基部が平坦で側縁が直線的である。59は基部が内湾し、側縁が緩やかに外湾する。遺跡内で出土した、続縄文時代後北式期に属する三角形鏃に比べ長身である。60は細身でカエシが比較的明瞭である。

61・62は矢柄研磨器である。石材は軽石である。61・62とも正面側に平坦面を有し、中央部が溝状に擦られ明瞭に凹んでいる。裏面側は湾曲するように整形されている。61裏面には円形の突起が作り出されている。62は裏面にもやや不明瞭な溝状の凹みがみられる。

63は砥石である。緻密な泥岩を石材とする。素材は角礫とみられる。正面側、長軸方向に並走する擦痕が観察され、すり面は長軸方向に浅く凹んでいる。

64・65は礫である。63の砥石と共にまとまって出土した。64は砂岩、65は片麻岩である。扁平・棒状で、下部がやや幅広となる特徴的な形態である。 (坂本)

UF-21 (図IV-23, 169-66・67, 図版31・115)

位置・立地: M51, 調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模: 0.64×0.43×0.05m 平面形: 不整形

確認・調査・土層: Ⅲ層中位で多数の骨片・炭化物を含む極暗赤褐色土のまとまりを確認した。至近の包含層から礫集中1基、近接してフレイク集中1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。礫集中は平坦面を上にして置かれていた。

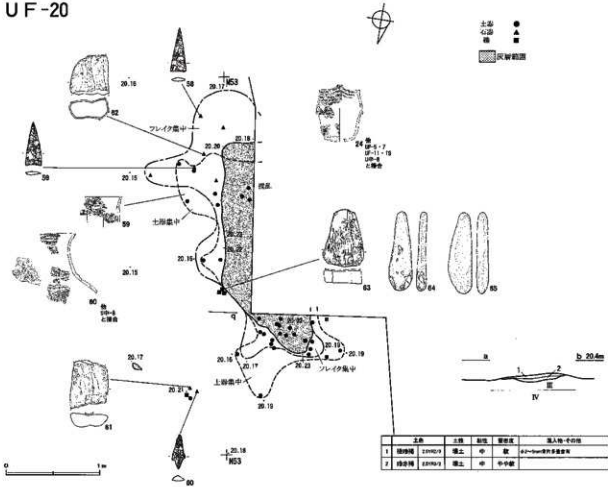
重複関係: なし。

遺物出土状況: フレイク集中からVI群土器13点、スクレイパー1点、フレイク53点、礫1点、礫片4点、礫集中から鋸石1点、礫2点が出土した。礫集中の礫はすべて砂岩である。

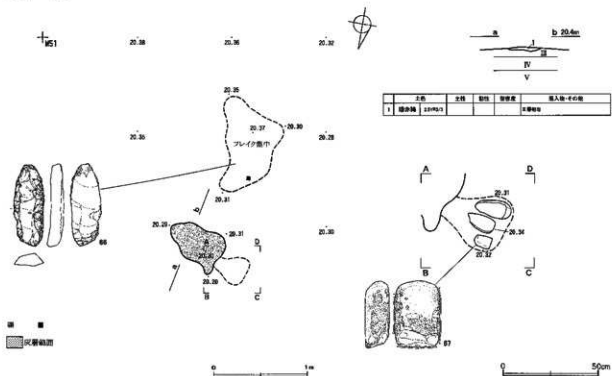
性格: 炬と考える。

時期: 確認面および出土遺物から続縄文時代後北C₁式期と考える。 (佐藤)

UF-20



UF-21



図IV-23 UF-20・21

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

掲載遺物

石器：掲載した2点は焼土の周辺、検出面の包含層から出土している。66はスクレイパーである。黒曜石製である。縦長剥片を素材とし、両側縁を連続的に急角度調整している。67は敲石である。やや厚手の砂岩亜角礫を素材とし、正面、上面の裏面側縁辺、両側面に敲打痕、剥離痕が観察される。掲載資料の内、66の産地分析をおこなった。分析結果についてはⅦ章に掲載した。（坂本）

UF-22 (図IV-24, 136-61・62, 169-68~70, 図版31・96・115)

位置・立地：N・O50・51、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.27×(1.00)×0.10m **平面形：**不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で多数のフレイク・骨片・炭化物を含む極暗赤褐色土のまとまりを確認した。精査を行い、フレイク集中1か所とその下に土器集中1か所、焼土1基、近接してフレイク集中1か所とその下に土器集中1か所、骨片ブロック1か所を確認した。1層は多数の骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：焼土および焼土に重なる土器集中、フレイク集中、近接するフレイク集中、土器集中、骨片ブロックから、Ⅴ群c類土器229点、Ⅵ群土器13点、石鏃2点、スクレイパー2点、ピエス・エスキュー2点、フレイク489点、礫片3点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：61は鉢。縦の貼付けがある。62は大型の壺の底部。すべてタンネットウL式。（佐藤）

石器：掲載した3点は焼土の周辺、検出面の包含層から出土している。石材は全て黒曜石である。68・69は石鏃である。有茎鏃で、68にはカエシが認められるが、69は不明瞭である。70はスクレイパーである。左側縁に45°程度の緩角度の調整を、連続的に加えている。右側縁側には使用痕とみられる微細剥離が、背腹両面側に顕著に観察される。（坂本）

UF-23 (図IV-24)

位置・立地：M・N41、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：0.60×0.49×0.05m **平面形：**不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で炭化物を含む極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層は炭化物を含む。

重複関係：近接してUSP-10があり関連すると考える。

遺物出土状況：なし。

性格：炬と考える。

時期：確認面および周辺の遺構の状況から縄文時代後北C₁時期と考える。

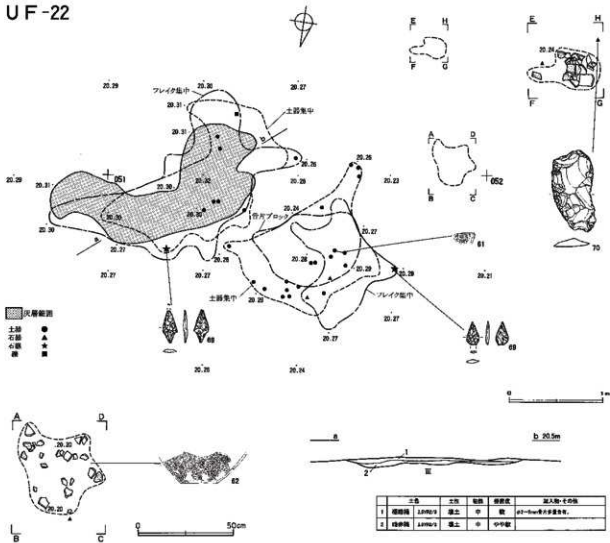
掲載遺物：なし。（佐藤）

UF-24 (図IV-25)

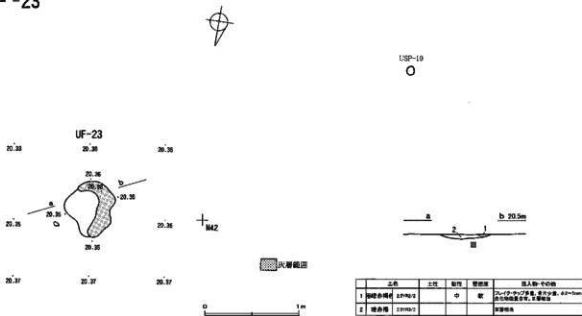
位置・立地：M38、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(0.50)×0.40×0.05m **平面形：**不整形

UF-22



UF-23



図IV-24 UF-22・23

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：Ⅲ層を3cmほど掘り進めたところ、Ⅲ層上位で暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層は炭化物と焼土粒が混じっており、掻き混ぜられたか短期間に形成したものと考える。

重複関係：なし。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炉と考える。

時期：確認面からアイヌ文化期と考える。

(佐藤)

UF-25 (図IV-25、図版32)

位置・立地：M44、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.56×0.45×0.04m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。焼成部のみを確認であり、本来はⅢ層上位に形成されていたと考える。

重複関係：近接してU遺物集中-16 (フレイク集中)・17 (フレイク・土器集中) があり関連すると考える。

遺物出土状況：なし。

性格：炉と考える。

時期：確認面および周辺の遺構の状況から縄文時代後北C₁期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

UF-26 (図IV-25、図版32)

位置・立地：N21、調査区東側、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：1.01×0.67×0.08m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cm程掘り下げた際、U遺物集中-23とともに褐色土の堆積を検出した。半載し焼土であることを確認した。焼土中にはベンガラが少量認められた。

重複関係：U遺物集中-23 と同一地点に認められた。また、南側に近接してUS-3、U遺物集中-24を確認した。層位、出土遺物などから、四者は関連するものと考えられる。

遺物出土状況：土器はVI群が3点、石器はスクレイパー1点、フレイク6点が出土した。

性格：U遺物集中-23に関係する炉、もしくはUS-3の被熱礫と関係する焼き火跡と考えられる。

時期：出土遺物から、縄文時代後北C₁期と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

(4) 炭化物集中

UCB-2 (図IV-26, 136-63, 169-71、図版33・97・115)

位置・立地：N24、調査区東側、標高20.5mほどの河岸段丘上。

規模：(0.33×0.22×0.05) + (0.42×0.24×0.04) m

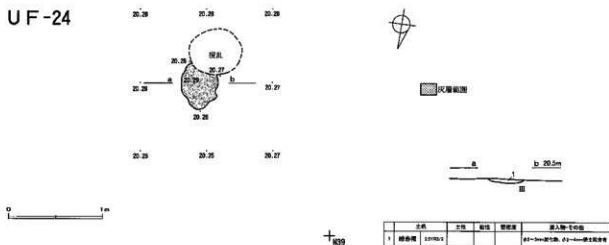
確認・調査・土層：Ⅲ層を5cm程掘り下げた際、炭化木片を密集した状態で検出した。

重複関係：重複する遺構は無い。

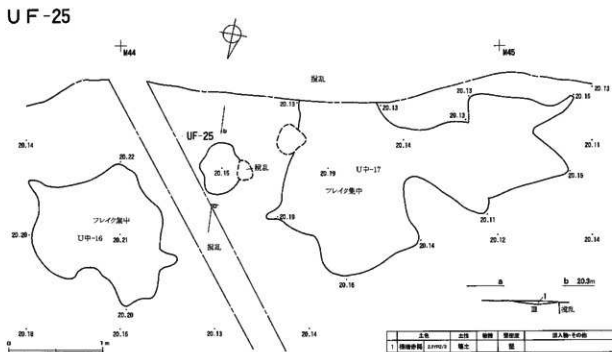
遺物出土状況：土器はV群c類が4点。石器はフレイクが1点、台石が1点、礫は礫片が1点出土した。

性格：焼き火跡と考えられる。

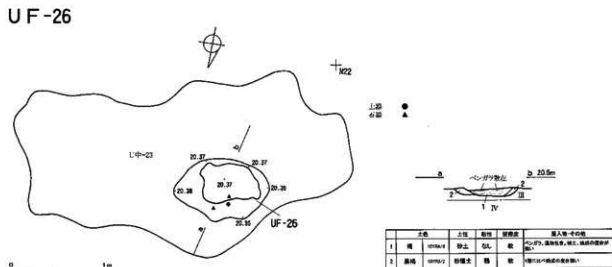
UF-24



UF-25



UF-26



図IV-25 UF-24~26

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉の可能性がある。(坂本)

掲載遺物

土器：63は浅鉢。タンネットウL式。(佐藤)

石器：71は台石である。遺構に近接して出土した。素材は砂岩製の分厚い転蹠である。敲打痕が湾曲する面の頂部を中心に、顕著に観察される。(坂本)

UCB-3 (図IV-26、図版33)

位置・立地：M19、調査区東側、標高20.5mほどの河岸段丘上。

規模：(0.56×0.29×0.09) + (0.40×0.25×0.06) m

確認・調査・土層：Ⅲ層を15cm程掘り下げた際、炭化木片をやや散在した状態で検出した。

重複関係：重複する遺構は無いが、U遺物集中-22が近接する。両者は関連するものと考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していないが、U遺物集中-22が関連するものと考えられる。

性格：焼き火跡と考えられる。

時期：U遺物集中-22の出土遺物から、縄文時代晩期後葉の可能性がある。

掲載遺物：なし。(坂本)

UCB-4 (図IV-26、図版33)

位置・立地：K31・32、調査区中央の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：1.28×0.51×0.07m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で炭化物のまとまりを確認した。1層には炭化物を多く含む。

重複関係：近接してUS-7があり、関連する可能性がある。

遺物出土状況：1層から礫1点、近接する包含層からVI群土器1点、礫片1点が出土した。

性格：焼土が確認できないことから、短時間に形成された焼き火の痕跡と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から統縄文時代後北C₁期と考える。

掲載遺物：なし。(佐藤)

UCB-5 (図IV-27、図版33)

位置・立地：K31・32、調査区中央の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：0.74×0.38×0.05m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で炭化物のまとまりを確認した。1層には炭化物を多く含む。

重複関係：近接してU遺物集中-126(土器集中)があり関連するものと考えられる。

遺物出土状況：1層からフレイク1点、近接する包含層からフレイク1点が出土した。

性格：焼土が確認できないことから、短時間に形成された焼き火の痕跡と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から統縄文時代前半期中葉と考える。

掲載遺物：なし。(佐藤)

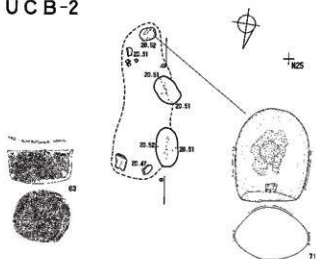
(5) 灰集中

灰集中-1 (図IV-27、図版33)

位置・立地：N42、調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：1.87×(1.05)×0.06m

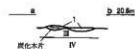
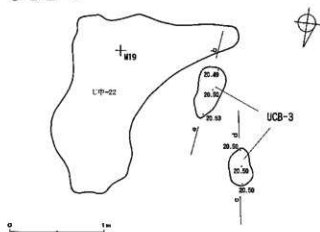
UCB-2



土層	土質	地質	埋蔵層	遺人物・寸の物
1	黒	砂礫土	埋	鉄釘・鉄釘・鉄釘の残骸

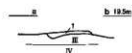
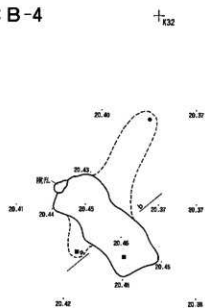


UCB-3



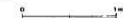
土層	土質	地質	埋蔵層	遺人物・寸の物
1	黒	砂礫土	埋	炭化木片・鉄釘の残骸
2	黒	砂礫土	埋	炭化木片の残骸

UCB-4



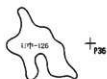
土層	土質	地質	埋蔵層	遺人物・寸の物
1	黒	砂礫土	埋	鉄釘・鉄釘の残骸

土層 ●
埋 ■

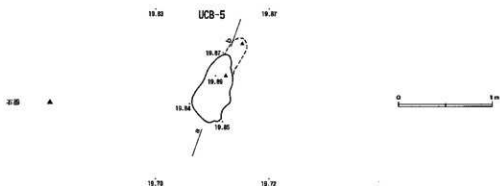


図IV-26 UCB-2~4

UCB-5



1	土色	土性	形状	埋没状況	遺入物・寸法
1	黄褐色	中硬土	中	中程度	約10×10cm程度の浅い窪み、埋没物あり



灰集中-1

142

20.37

20.36

20.33

143



20.37

20.37

20.37

20.37

20.36

20.36

20.31

20.36

20.36

20.36

20.37

20.37

20.37

20.35

20.36

20.40

20.38

20.37

20.30



1	土色	土性	形状	埋没状況	遺入物・寸法
1	灰赤	1.00002			約10×10cm程度の浅い窪み
2	灰赤	1.00004			約10×10cm程度の浅い窪み
3	灰赤	1.00003			約10×10cm程度の浅い窪み
4	緑褐色	1.00004			埋没物あり少量あり

図IV-27 UCB-5, 灰集中-1

確認・調査・土層：Ⅲ層を3cmほど掘り進めたところ、Ⅲ層上位で灰赤色のまとまりを確認した。灰のまとまりの違いから1～4層に分層した。1～4層にはややしっかりとした骨片を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：覆土中から礫1点、礫片3点が出土した。

性格：灰が投棄されたものとする。

時期：確認面からアイヌ文化期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

(6) 礫集中

US-1 (図IV-28、169-72、図版34・115)

位置・立地：M47、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.01×1.17m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で礫のまとまりを確認した。礫は破砕して礫片となっているものが多い。

重複関係：近接してUF-14があり、関連する可能性がある。

遺物出土状況：ピエス・エスキュー1点、フレイク1点、礫5点（すべて被熱）、礫片71点（被熱54点）が出土した。礫・礫片には砂岩40点、泥岩29点、シルト岩6点、チャート1点がある。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から縄文時代後北C₁式期と考える。

(佐藤)

掲載遺物

石器：72はピエス・エスキューである。石材は薄茶色で透明度の高い黒曜石である。主に上下方向からの剥離面で構成される。正裏両面に剥離が生じて縁辺は鋭角化し、縦断面形は凸レンズ状となっている。

(坂本)

US-2 (図IV-28、図版34)

位置・立地：L24、調査区東側、標高20.2m程の河岸段丘上。

規模：1.20×0.85m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。炭化木片の散在箇所に近接して5点の礫がまとまり、これを中心とした半径0.4m程の範囲に被熱礫が散在していた。

重複関係：重複する遺構は無いが、U遺物集中-13が近接する。

遺物出土状況：土器はVI群が2点した。礫・礫片は8点が出土し、内、5点が被熱していた。礫・礫片には砂岩（6点）、チャート（2点）が認められる。礫の大きさは全て10cm程度のものであった。

性格：礫を加熱した施設、もしくは加熱した礫を持ち込みまとめたものと考えられる。

時期：出土遺物、および近接するU遺物集中-13との関係から、縄文時代晩期後葉、もしくは縄文時代後北C₁式期と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

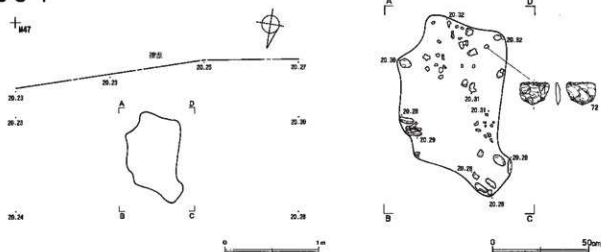
US-3 (図IV-28、図版34)

位置・立地：M・N22、調査区東側、標高20.4m程の河岸段丘上。

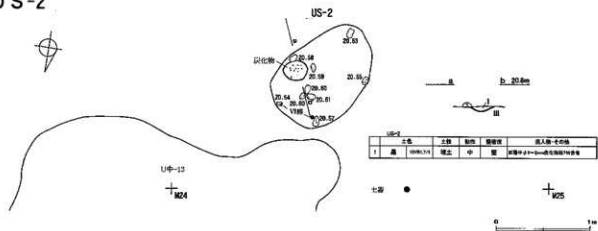
規模：1.18×0.96m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。

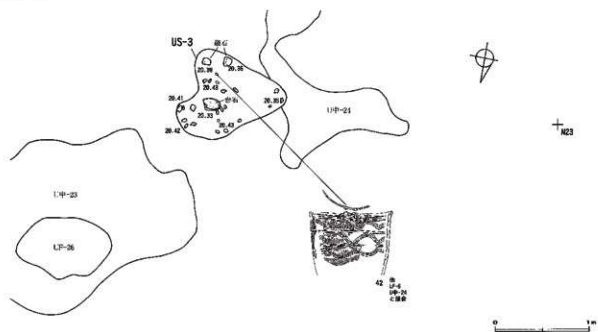
US-1



US-2

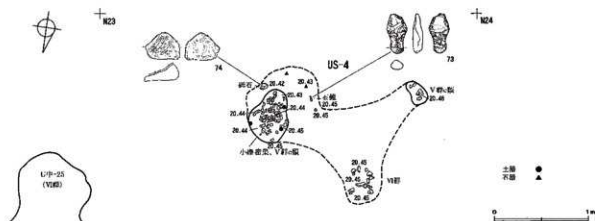


US-3

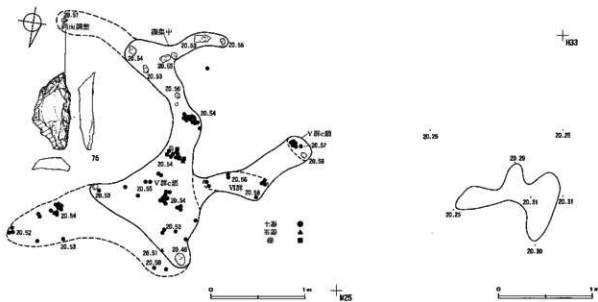


図IV-28 US-1~3

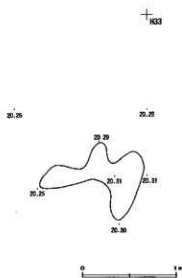
US-4



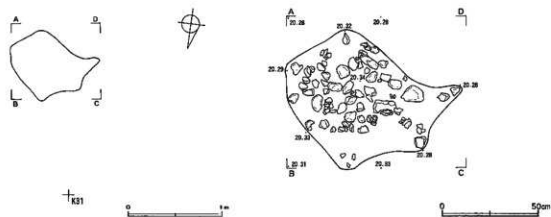
US-5



US-6



US-7



図IV-29 US-4~7

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

重複関係：U遺物集中-24に接している。また、UF-26、U遺物集中-23が近接する。層位、出土遺物から、四者は関連するものと考えられる。

遺物出土状況：土器はⅥ群が1点、石器は台石が1点、礫石が2点出土した。土器はUF-6、U遺物集中-24と接合関係がある。UF-6とは直線で約73mの距離がある。

礫・礫片は26点が出土し、約半数の12点が被熱していた。岩石種類は砂岩(20点)、チャート(6点)である。検出状況は、台石を中心に5cm程度の礫が散在し、その外側に礫石が2点認められた。

性格：加熱した礫を持ち込み作られた施設と考えられる。台石、礫石はこの施設に関係した作業に使用された可能性がある。

時期：出土遺物から、統縄文時代後北C₁式期と考えられる。(坂本)

掲載遺物

土器：42はUF-6で記載した。(佐藤)

US-4 (図IV-29, 169-73・74, 図版34・115)

位置・立地：N23, 調査区東側、標高20.4m程の河岸段丘上。

規模：0.57×0.42m

確認・調査・土層：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に、密集した状態の小礫を確認した。

重複関係：重複遺構はないが、U遺物集中-25にやや近接している。

遺物出土状況：土器はⅥ群が18点、Ⅴ群c類が8点、小礫の範囲(以下US-4)より0.8~1.3mほど離れた箇所に、それぞれまとまった状態で検出された。また、Ⅴ群c類の内2点はUS-4の範囲から出土した。

石器は砥石が1点、石錐が1点、フレイク2点が礫集中に近接して出土した。

礫・礫片は93点が出土し、無被熱であった。3cm前後の小礫を主体とする。礫・礫片には砂岩(91点)、泥岩(1点)、チャート(1点)が認められる。

このほか、包含層で取上げた遺物で、US-4の北側2mほどの範囲に、黒曜石のフレイクが100点ほど散在していた。

性格：小礫を持ち込み作られた施設と考えられる。砥石、石錐はこの施設に関係した作業に使用された可能性がある。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉、もしくは統縄文時代後北C₁式期と考えられる。

掲載遺物

石器：掲載した2点は礫集中に近接して出土した。73は石錐である。黒曜石の小原石を素材としている。先端部には自然面を残置しており、磨耗したように観察される。(坂本)

US-5 (図IV-29, 169-75, 図版35・115)

位置・立地：L24, 調査区東側、標高20.5m程の河岸段丘上。

規模：2.50×1.78m

確認・調査・土層：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に、やや散在する礫のまとまりを確認した。

重複関係：重複遺構はない。

遺物出土状況：土器はⅤ群c類が94点、Ⅵ群が12点、それぞれまとまりをもって出土している。石器は両面調整石器1点、フレイク1点が出土している。

礫・礫片は16点が出土し、14点(内、礫片は13点)が被熱していた。礫・礫片には砂岩(10点)、

泥岩（1点）、チャート（5点）が認められる。南側に8点がややまとまって検出された。礫は5～20cmのものがみられるが、10cm大が主体である。

性格：加熱した礫を持ち込んだもの、もしくは廃棄したものと考えられる。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉の可能性が高いと考えられる。

掲載遺物

石器：75は両面調整石器である。黒曜石製である。剥片を素材とし、腹面側に右側縁から剥離を加えた後、背面側に急角度の縁辺加工を施している。先端部は両側縁加工により尖頭形を呈する。背面側の加工は65～90°を測る。 (坂本)

US-6 (図IV-29、図版35)

位置・立地：H32、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.13×0.82m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で礫のまとまりを確認した。

重複関係：近接してUF-2があり、確認した高さが異なるものの、関連する可能性がある。

遺物出土状況：礫10点（被熱なし）、礫片8点（被熱なし）が出土した。礫・礫片はすべて砂岩である。

性格：集めた礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

US-7 (図IV-29、図版35)

位置・立地：J30・31、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：0.94×0.71m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で礫のまとまりを確認した。礫は破砕して礫片となっているものがある。

重複関係：近接してUCB-4があり、関連する可能性がある。

遺物出土状況：礫27点（被熱21点）、礫片47点（被熱42点）が出土した。礫・礫片は砂岩55点、泥岩8点、凝灰岩8点、チャート2点、安山岩1点である。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

US-8 (図IV-30、図版35)

位置・立地：J・K31、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.19×0.53m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で礫のまとまりを確認した。礫は破砕して礫片となっているものがある。

重複関係：一部が重なってUSP-1、U遺物集中-109、近接してUF-1があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク2点、礫27点（被熱1点）、礫片7点（被熱なし）が出土した。礫・礫片は砂岩28点、チャート4点、閃緑岩2点がある。

性格：礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から統縄文時代後北C₁式期と考える。

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

掲載遺物：なし。(佐藤)

US-9 (図IV-30、図版36)

位置・立地：K33・34、調査区中央の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：0.75×0.45m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で礫のまとまりを確認した。礫は破砕して礫片となっているものがある。

重複関係：一部が重なってUSP-1、U遺物集中-109（フレイク集中）、近接してUF-1があり、関連すると考える。

遺物出土状況：礫12点（被熱なし）が出土した。礫は砂岩9点、礫岩2点、閃緑岩1点がある。

性格：礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と近接する遺構の状況から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。(佐藤)

US-10 (図IV-30、図版36)

位置・立地：N35・36、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.87×0.40m

確認・調査・土層：Ⅲ層上面で礫のまとまりを確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：礫9点（被熱なし）、礫片15点（被熱なし）が出土した。礫・礫片は砂岩16点、泥岩4点、凝灰岩3点、片岩1点がある。

性格：礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面からアイヌ文化期と考える。

掲載遺物：なし。(佐藤)

US-11 (図IV-30、図版36)

位置・立地：O32、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.88×0.48m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で礫のまとまりを確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：礫13点（被熱なし）、礫片5点（被熱なし）が出土した。礫・礫片は砂岩15点、珪岩2点、凝灰岩1点がある。

性格：礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。(佐藤)

US-12 (図IV-30、図版36)

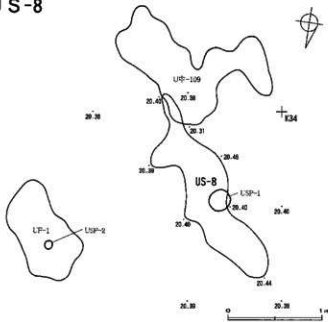
位置・立地：P40、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.63×0.34m

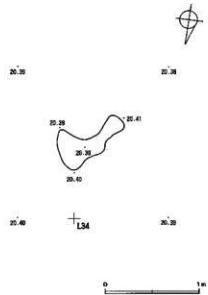
確認・調査・土層：Ⅲ層上面で礫のまとまりを確認した。近接するUS-14よりはややまばらである。

重複関係：近接してUS-14があり、関連すると考える。

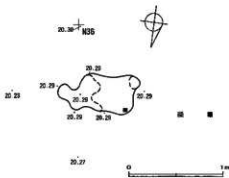
US-8



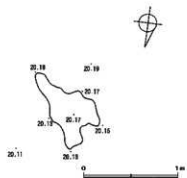
US-9



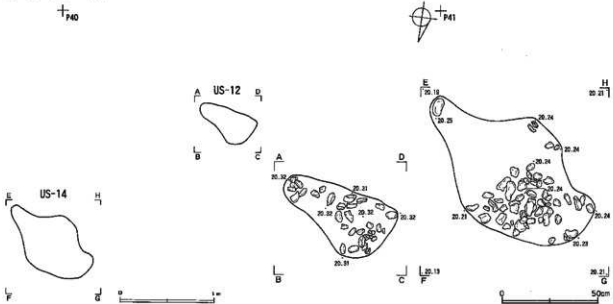
US-10



US-11



US-12・14



図IV-30 US-8~12・14

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

遺物出土状況：VI群土器1点、フレイク1点、加工痕のある礫1点、礫19点（被熱3点）、礫片16点（被熱8点）が出土した。礫・礫片は砂岩28点、泥岩5点、珪岩・片岩・チャート各1点がある。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面からアイヌ文化期と考える。

掲載遺物：なし。

（佐藤）

US-13（図IV-31、169・170-76~80、図版36・115・116）

位置・立地：○・P42・P41、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：2.05×0.95m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で扁平な礫のまとまりを確認した。礫石・礫は平坦面を上にして置かれている。礫石・礫には直線的な被熱痕跡が確認できることから、火を用いる場所で、埋められて立て置かれた状態で使用していたと考える。礫石・研磨石材はUS-15と接合した。

重複関係：近接してUS-15があり接合関係もあることから関連すると考える。

遺物出土状況：両面調整石器1点、礫石43点（すべて被熱）、研磨石材1点（被熱なし）、礫5点（被熱4点）、礫片105点（被熱3点）が出土した。礫・礫片は砂岩109点、泥岩1点がある。両面調整石器は本遺構には伴わないと考える。

性格：何らかの施設で使用した礫石・礫を集め置いたと考える。

時期：US-15と接合関係にあることからアイヌ文化期と考える。

（佐藤）

掲載遺物

石器：5点を掲載した。77・78はUS-15出土遺物と接合している。

76は両面調整石器である。黒曜石製である。剥片を素材とし、背面側にやや緩角度の剥離を加えた後、腹面側に平坦剥離をおこない、再び背面側に急角度の縁辺加工を施している。

77は研磨石材である。緑色泥岩のやや扁平な礫素材で、正裏面に擦痕が観察される。US-13北側と、US-15礫集中部から出土したものが接合しており、US-15出土遺物が被熱している。出土状況からは礫集中を構成する礫片として持ち込まれ、使用されたと考えられる。

78~80は礫石である。78は緻密な砂岩を石材としている。正裏面・右側面・下面が入念に使い込まれており、滑らかに湾曲している。正面側左下部に接合する破片がUS-13から出土している。接合面縁辺が磨耗しており、US-15において破損もしくは分割後、US-13に持ち運ばれたと理解できる。しかし、移動後に使用された痕跡はほとんど観察できない。79・80はUS-13の板状砂岩礫のまとまりから出土している。部分的に平滑化したすり面が観察されるが、ほとんど使用されていないようである。

（坂本）

US-14（図IV-30、図版36）

位置・立地：P39・40、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.04×0.59m

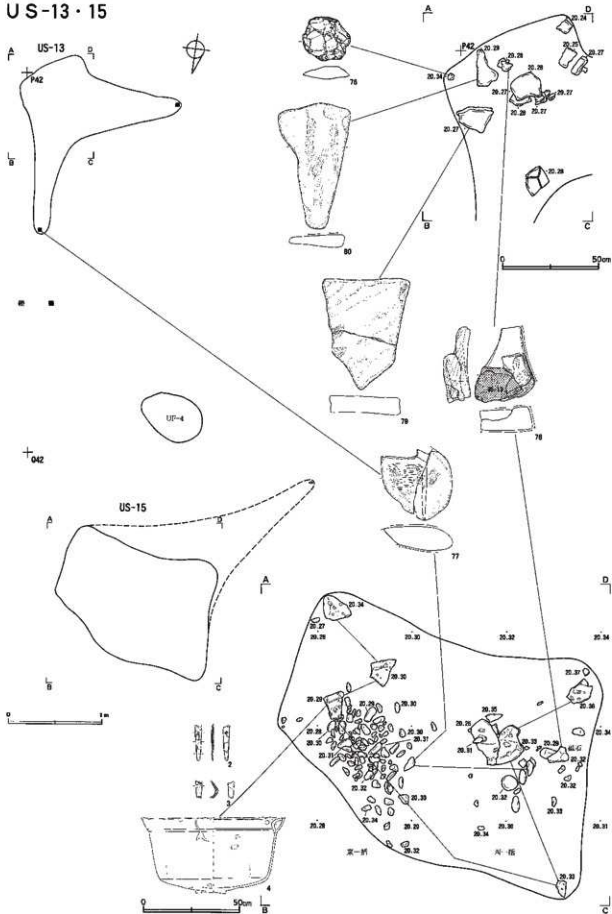
確認・調査・土層：Ⅲ層上面で礫のまとまりを確認した。密集する部分がある。

重複関係：近接してUS-12があり、関連すると考える。

遺物出土状況：礫16点（すべて被熱）、礫片3点（すべて被熱）が出土した。礫・礫片は砂岩45点、泥岩10点、チャート3点、安山岩・玉髓各1点がある。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

US-13・15



図IV-31 US-13・15

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

時期：確認面からアイス文化期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

US-15 (図Ⅳ-31, 169-76・77, 170-78~80, 図版37・116・117・124・125)

位置・立地：Q42, 調査区西側の標高20.3mの河岸段丘上。

規模：2.04×1.44m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。礫は大きく2ヶ所のまとまりに分かれており、焼成を受け割れたものも多かった。鉄鍋の一部は礫の上に置かれたような状況で出土した。鉄鍋片の1点は重機によるTa-b火山灰除去作業中に移動したもので、Ta-b降下時に一部が地表に露出していたと考えられる。なお、近接して刀子片も出土している。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼成を受けた礫・礫片188点、鉄鍋片1個体、刀子片2点の他、砥石2点、研磨石材3点、フレイク3点が出土した。礫・礫片は砂岩168点、チャート8点、泥岩4点、緑色泥岩3点、安山岩・珪岩・玄武岩・閃緑岩・片岩各1点である。

性格：礫の上で火を焚き、鉄鍋を使用したものと推測される。

時期：検出状況からTa-b降下時(1667年)から若干遡る時期の遺構と推測される。よって、アイス文化期(中世末頃併行)の遺構と考えられる。

(藤原)

掲載遺物

石器：77・78の2点を掲載した。US-13との接合資料であるため、記載はUS-13でおこなった。

(坂本)

鉄製品：2～3は刀子の基部。2は直線的な基部で目釘穴が残る。3は湾曲している。2の基部が直線的に残っていることから、意図的に湾曲させたと考える。4は内耳鉄鍋。1個体が復元できた。他の破片も同一個体と考える。底部はやや扁平で、胴部は直線的である。口縁部は内湾しながら開き、口縁部内側の張り出しは明瞭である。内耳部の断面は円形で、湯口は一文字湯口である。(佐藤)

(7) 遺物集中

U遺物集中-1 (図Ⅳ-32, 137-64, 170-81・82, 図版38・97・116)

位置・立地：N・O51・52, 調査区西側の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：3.29×0.89m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中と土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器111点、フレイク集中からスクレイパー1点、ピエス・エスキュー1点、Rフレイク2点、フレイク70点、ベンガラ1か所が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

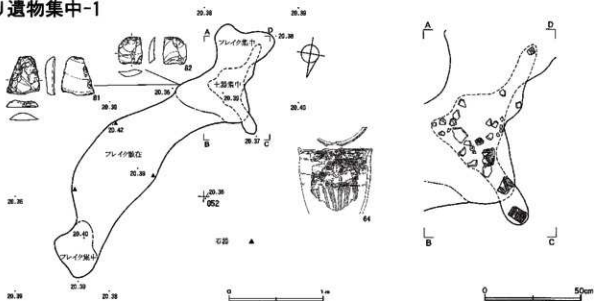
時期：確認面および出土遺物から縄文時代後北B式期と考える。

掲載遺物

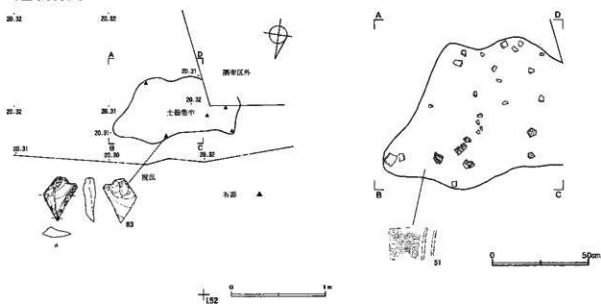
土器：64は深鉢の口縁部から胴部上半。突起は2個1組がある。口縁部、胴部上半に竹管状工具による縦縞貼付文の文様。後北B式。(佐藤)

石器：81・82とも黒曜石製である。81はスクレイパーである。縦長剥片を素材とし、両側縁に連続的な調整を加えている。下半を欠損する。

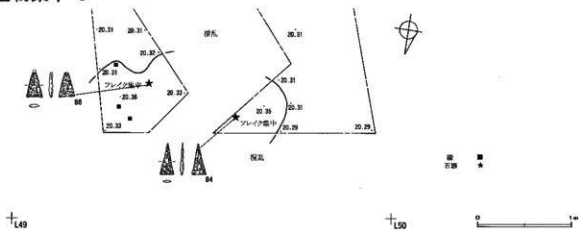
U遺物集中-1



U遺物集中-2



U遺物集中-3



図IV-32 U遺物集中-1～3

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

82はピエス・エスキューである。正裏面とも全て使用により生じた上下方向の剥離面で構成されている。81・82は産地分析をおこなった。分析結果についてはⅦ章に掲載した。(坂本)

U遺物集中－2 (図Ⅳ-32, 170-83, 図版38・116)

位置・立地：K53・54、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(1.37) × 0.68m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中を確認した。遺物の分布は調査区外に広がると考える。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器55点、石鏃1点、スクレイパー1点、石錐1点、フレイク1点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：51は深鉢の口縁部。微隆起線文により文様を施文する。突起部は欠損している。後北C₁式。

(佐藤)

石器：83は石錐である。黒曜石製である。背面側両側縁加工により下端が尖るように整形されている。

83については産地分析をおこなった。分析結果の内容はⅦ章に掲載した。

(坂本)

U遺物集中－3 (図Ⅳ-32, 170-84・85, 図版38・116)

位置・立地：K49、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(2.04) × (0.86) m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。攪乱により大部分を削平される。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からⅥ群土器6点、石鏃2点、礫片3点が出土した。フレイクは調査後に紛失したため詳細は不明である。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

(佐藤)

掲載遺物

石器：84・85は石鏃である。2点とも黒曜石製である。基部がわずかに内湾し、側縁は84が器体中位からやや末広がりとなり、85は直線的である。84は薄手に整形されている。

(坂本)

U遺物集中－4 (図Ⅳ-33, 図版38)

位置・立地：M43、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.02 × 0.75m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

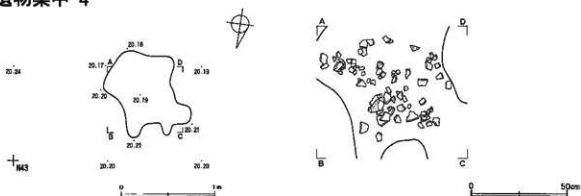
遺物出土状況：土器集中からⅤ群c類土器1,114点、礫15点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

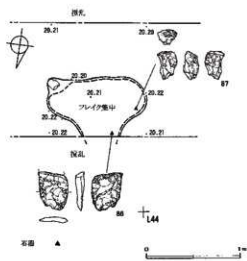
掲載遺物：なし。

(佐藤)

U遺物集中-4



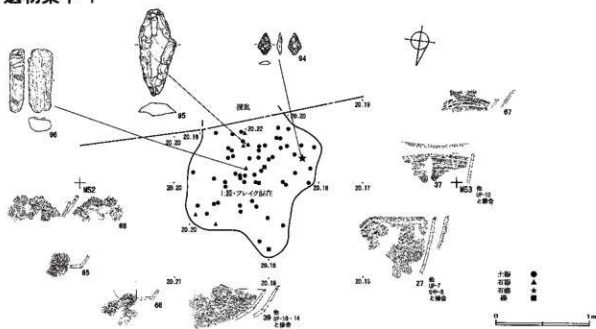
U遺物集中-5



U遺物集中-6



U遺物集中-7



図IV-33 U遺物集中-4~7

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

U遺物集中－5 (図IV-33, 170-86・87、図版38・116)

位置・立地：K43・44、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.04×(0.63) m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。攪乱により一部を削平される。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中から両面調整石器1点、フレイク40点、石核1点、礫片1点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面と周辺の包含層の出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。(佐藤)

掲載遺物

石器：86は両面調整石器である。上半部が欠損した後、折れ面から裏面側に剥離を施して再加工を試みたようである。87は石核である。黒曜石製である。下部には正面方向からの古い剥離面が観察されるが、最終的には上部に設けられた平坦打面から、一定方向の連続的な作業がおこなわれている。両者とも黒曜石製である。(坂本)

U遺物集中－6 (図IV-33, 170-88~93、図版39・116)

位置・立地：K45、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：2.06×1.27m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。フレイクの石材は黒曜石が中心で、西側にチャートがまとまっていた。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からVI群土器5点、石鏃5点、石槍2点、スクレイパー3点、Rフレイク4点、Uフレイク2点、フレイク364点(チャート製62点)、礫片3点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面から統縄文時代後北C₁式期と考える。(佐藤)

掲載遺物

石器：88~91は石鏃である。黒曜石製である。形態は全て三角形を呈する。88・89は基部がやや内湾するもの、90・91は平坦なものである。88は右側縁下部に素材打面を残置しており、部分的に厚みを残している。90は調整が粗く、形状がやや歪である。

92・93はスクレイパーである。92は黒曜石製、93は頁岩製である。92の右側縁は連続的な調整が施され、刃部角は50°前後を測る。93は軽微な調整がやや不連続にみられるもので、刃部角も35°程度で薄い。(坂本)

U遺物集中－7 (図IV-33, 137-65~68, 170-94~96、図版39・97・116)

位置・立地：L・M52、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.59×(1.52) m

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で土器集中を確認した。攪乱により一部を削平される。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器111点、石鏃1点、スクレイパー4点、Rフレイク3点、Uフレイク1点、フレイク51点、矢柄研磨器1点、礫片3点が出土した。土器は周辺のUP-7・10・14、U遺物集中－8と接合した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：27はUP-7、37・39はUP-10に記載した。65～66は深鉢または鉢の底部。67～68は浅鉢。67は外面と内面に沈線文で文様を施文する。すべてタンネットウ式。 (佐藤)

石器：94は石鎌である。黒曜石製である。有茎鎌でカエシはやや不明瞭である。中央部に厚みを残している。

95はスクレイパーである。黒曜石製である。裏面側打面部付近が一次剥離時に階段状剥離を起こし厚さを減じたため、器体の中ほどで段差が生じている。両側縁に急角度の調整を連続的に加えており、刃部角は下端付近と上半部で85°を測る。

96は矢柄研磨器である。石材は軽石を用い、棒状に整形している。正面中央部に浅い溝状の凹みがあるほか、左側面・裏面には幅1～5mmほどの刻み状の痕跡が観察される。刻みは側面が厚さ方向にやや連続して、裏面が石器長軸方向に生じている。 (坂本)

U遺物集中-8 (図IV-34, 137-69, 171-97～100, 図版39・97・117)

位置・立地：M51・52、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：3.08×(2.38) m

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で土器片とフレイクが混在する遺物集中を確認した。土器片は細かな破片が遺構範囲全体から、周辺の遺構と接合する複数個体の破片が混じり合っており出土した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器239点、石鎌1点、スクレイパー3点、両面調整石器1点、ピエス・エスキーユ1点、Rフレイク5点、石核1点、フレイク99点、礫片5点が出土した。土器はUP-5・7、UF-11・19・20と接合した。

性格：周辺の遺物集中と土器破片の出土状況が異なることから、フレイクと土器を寄せ集めて破壊した可能性があると考ええる。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：24はUP-5、27・31はUP-7、60はUF-20に記載した。69は深鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウ式。 (佐藤)

石器：97～99はスクレイパーである。石材は97がチャート、98・99が黒曜石である。97はナイフ形を呈するものである。縦長剥片素材とみられ、打面部側は両面調整により基部加工されている。両側縁は1～2mm程度の小型剥離が連続的に施されており、左側縁が直線状、右側縁が外湾する形態である。刃部角は60°ほどである。98・99はエンドスクレイパーである。98の刃部は80～95°を測る急角度なもので、縁辺が磨耗している。99の刃部は60°とやや緩角度である。

100はピエス・エスキーユである。黒曜石製である。上端部に平坦面を有し、断面は楔形を呈する。上下方向からの剥離面が主だが、直交(横)方向からの剥離も2面ほど観察される。当初横方向で機能したが、左側縁欠損後、使用方向の転換がおこなわれたと考えられる。 (坂本)

U遺物集中-9 (図IV-34, 138-70・71, 図版39・97)

位置・立地：N43・44、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：3.87×1.52m

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中とフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器64点、フレイク集中から石鏃1点、Rフレイク1点、フレイク118点が出土した。土器はU遺物集中-17と接合した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：70～71は小型の深鉢。70の突起は1個である。口縁部から底部下半まで微隆起線文により文様を施文する。71の突起は2個1組と1個が2対で組み合う。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。すべて後北C₁式。 (佐藤)

U遺物集中-10 (図Ⅳ-35, 171-101~105, 図版40・117)

位置・立地：M39、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：3.20×1.78m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からⅥ群土器1点、石鏃2点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、Rフレイク7点、フレイク283点、棒状原石1点、敲石1点、台石1点、礫片2点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。 (佐藤)

掲載遺物

石器：101・102は石鏃である。粘板岩製である。101は基部がわずかに内湾するもの、102は平坦なものである。101の背面側には素材の厚みを減ずるような調整が施され、その後縁辺加工により整形している。102は縁辺加工のみが施され、正三角形に近い形状となっている。

103は両面調整石器である。黒曜石製である。正面側に厚みを残し、亀甲状となっている。下端折れ面から加えた調整が階段状剥離となり、加工を終了している。

104はスクレイパーである。黒曜石製である。分厚い亀甲状を呈する。周囲全縁を急角度に調整するラウンドスクレイパーで、刃部角は80～90°を測る。裏面全面が転礫の自然面で構成されている。

105は台石である。安山岩製である。やや扁平な転礫素材で、正面側の上半部に敲打痕がまもって観察される。 (坂本)

U遺物集中-11 (図Ⅳ-35, 139-72・73, 171-106~109, 図版40・98・117)

位置・立地：M39、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

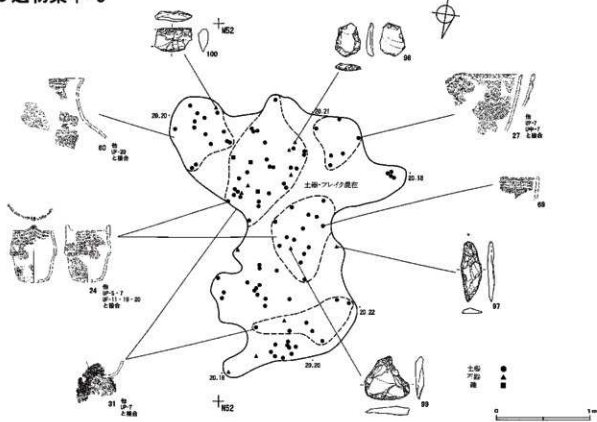
規模：(3.83) × (2.10) m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中とフレイク集中を確認した。黒曜石製フレイクが多い範囲と東側に粘板岩製フレイクが多い範囲がある。攪乱により削平される。

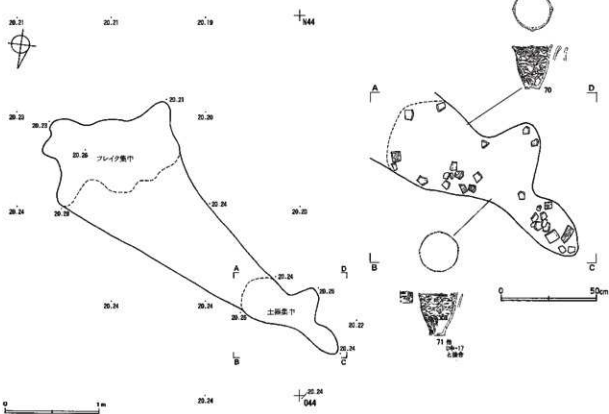
重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器71点、フレイク集中から石鏃6点、スクレイパー2点、両面調整石器3点、Rフレイク5点、黒曜石製フレイクが多い範囲からフレイク2,873点(頁岩95点、粘板岩6点)・粘板岩製フレイクの多い範囲からフレイク75点(頁岩1点、粘板岩62点)、礫1点が出土

U 遺物集中-8



U 遺物集中-9



図IV-34 U遺物集中-8・9

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：72は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は2個1組である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。73は小型の深鉢の口縁部と胴部下半である。同一個体と考える。口縁部と胴部上半、突起部内面に微隆起線文により文様を施文する。突起部内面に竹管状工具による刺突がある。すべて後北C₁式。 (佐藤)

石器：掲載した4点は全て黒曜石製フレイクの集中範囲から出土している。

106・107は石鏃である。黒曜石製である。三角形を呈し、基部がやや内湾する。側縁が器体中央部からやや末広がりととなっている。108は両面調整石器である。節理割れによって生じた黒曜石小原石片を素材としている。109はスクレイパーである。黒曜石製である。右側縁には粗い両面調整が施され、左側縁に小型剥離による連続的な刃部調整がおこなわれている。

掲載資料の内、106・109については黒曜石産地分析をおこなった。分析結果の内容はⅦ章に掲載した。 (坂本)

U遺物集中-12 (図IV-36、139-74・75、171-110~113、図版40・41・98・117)

位置・立地：M39、調査区西側の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：4.49×2.68m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中とその周辺に分布する土器集中を確認した。

土器集中は大きく4か所のまとまりに分かれる。

重複関係：UP-13の上に形成しているが、UP-13の堆積状況から併存していると考えられる。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器236点、フレイク集中を中心に石鏃5点、石槍1点、石錐1点、両面調整石器3点、Rフレイク5点、フレイク1,154点(粘板岩514点、玉髓2点、片岩1点、チャート1点)、石核1点、すり石2点、方割石1点、加工痕ある礫1点、礫片3点が出土した。土器はUP-13、U遺物集中-122(土器集中・フレイク集中)・125(フレイク集中)と接合した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：74は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は1個である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。75は小型の深鉢の口縁部から胴部下半。すべて後北C₁式。 (佐藤)

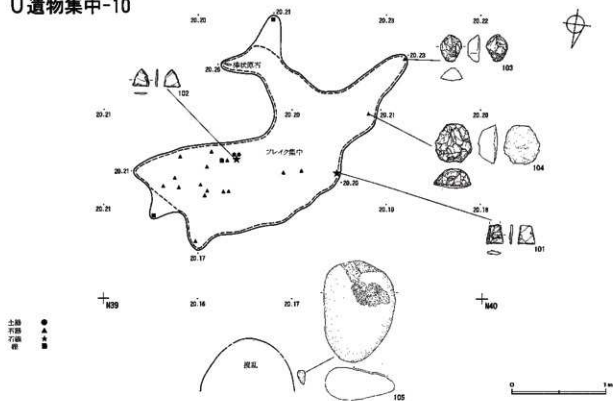
石器：110・111は黒曜石製フレイク集中範囲に近接して、112・113は土器集中範囲から2点がまともに出土した。

110・111は石鏃である。三角形を呈し、基部は110が内湾、111が平坦である。側縁は両者とも直線的である。111は素材面を広く残すが薄手に整形されている。

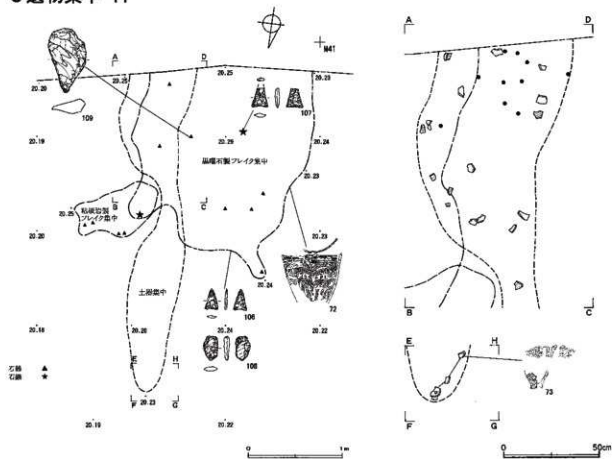
112・113はすり石である。112は安山岩製、113は泥岩製である。112は主に正裏面の中央部が、113は下端部の狭い範囲が滑らかとなっている。

掲載資料の内、110・111は黒曜石産地分析をおこなった。結果についてはⅦ章に記載した。(坂本)

U 遺物集中-10

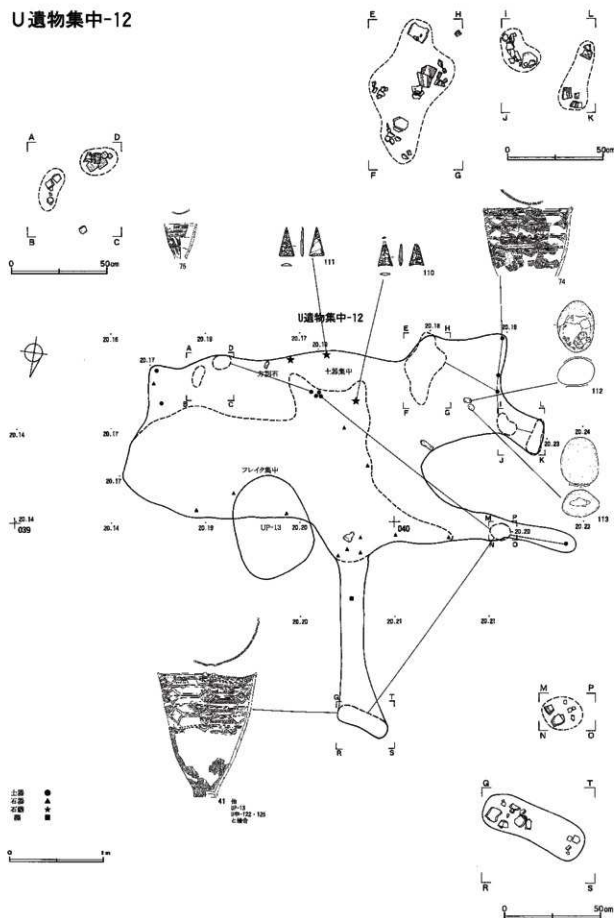


U 遺物集中-11



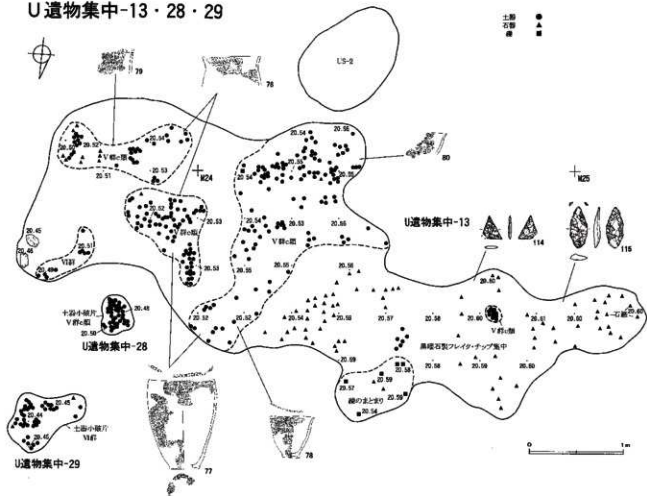
図IV-35 U 遺物集中-10・11

U遺物集中-12

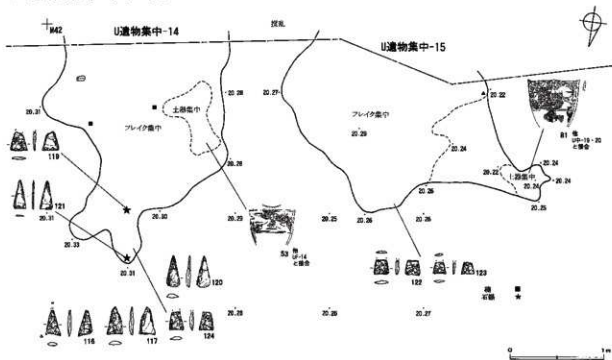


図IV-36 U遺物集中-12

U遺物集中-13・28・29



U遺物集中-14・15



図IV-37 U遺物集中-13~15・28・29

U遺物集中-13 (図IV-37, 140-76~80, 171-114・115, 図版41・98・99・117)

位置・立地: L23・24, M23・24・25, 調査区東側~中央部, 標高20.5~20.6mの河岸段丘上。

規模: 6.76×2.85m

確認・調査・土層: Ⅲ層を3cmほど掘り下げた際に土器片がまとまって出土し、その西側に黒曜石のフレイクがやや散在する状態を検出した。更に2cmほど掘り下げ、両面調整石器やRフレイクなどを確認した。調査段階では、V群c類土器とVI群土器が、フレイクを伴って混在するものと認識したため、ひとまとまりの遺物集中として取り扱った。また、遺物範囲の北西側には、3~6cm大の礫の散漫なまとまりが検出された。

重複関係: 重複する遺構は無いが、南側にUS-2、北側にU遺物集中-28 (V群c類のまとまり)、U遺物集中-29 (VI群のまとまり) が近接している。

遺物出土状況: 土器はV群c類土器が360点、VI群土器が17点出土した。それぞれがまとまりを有し、V群c類は南西側、VI群は北東側に主に分布する状況が認められた。フレイクの分布範囲には、V群c類、VI群の土器片がともに少数分布している。

石器は石鏃3点、両面調整石器1点、Rフレイク6点、フレイク62点が出土した。石鏃は三角形鏃1点、木葉形を呈するもの2点が認められる。木葉形は加工が粗く不整形である。フレイクは黒曜石製が主体で、ほかに頁岩、粘板岩、緑色泥岩が1点ずつ出土している。

礫は3~6cmの小礫と、10cm大のものがあり、両者は分布を違え、それぞれがまとまって出土している。礫は砂岩(11点)、泥岩(2点)、凝灰岩(1点)が認められる。

性格: 黒曜石の小フレイク多数と石鏃、両面調整石器が共伴することから、石器を製作した場であると考えられる。また、それに伴い、US-2などの小規模な礫の施設が形成されたことが推測される。

時期: 縄文時代晩期後葉および統縄文時代後北C₁時期に形成され、主に晩期後葉に多くの遺物が遺されたと考えられる。(坂本)

掲載遺物

土器: 図示した資料はすべてU遺物集中-13から出土した。76~77は深鉢。76はための沈線文で文様を施文する。78~80は鉢。79は胴部から口縁部にくびれる部分に、沈線文で文様を施文する。すべてタンネットU式。(佐藤)

石器: 2点とも黒曜石製フレイク集中範囲から出土している。114・115は石鏃である。黒曜石製である。114はほぼ正三角形を呈し、基部は平坦、側縁は直線的と捉えられる。115は木葉形を呈する。加工はやや粗く、素材面、素材の折れ面を残置している。(坂本)

U遺物集中-14 (図IV-37, 171-116~121, 図版41・117)

位置・立地: M41・42, 調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模: (2.63) × (2.11) m

確認・調査・土層: Ⅲ層中位で粘板岩を主体とするフレイク集中とその中に分布する土器集中を確認した。攪乱により削平される。フレイクの石材は近接するU遺物集中-15 (土器集中とフレイク集中) と異なり、粘板岩が主体である。

重複関係: 近接してU遺物集中-15 (土器集中とフレイク集中) があり、関連すると考える。

遺物出土状況: 土器集中からVI群土器16点、フレイク集中からVI群土器30点、石鏃13点(粘板岩7点、頁岩1点)、フレイク2,025点(粘板岩1,307点、頁岩38点)、礫片4点が出土した。

性格: 石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：53はUF-14に記載した。

(佐藤)

石器：6点を掲載した。全て三角形を呈する石鏃である。粘板岩と黒曜石のフレイク集中に伴って出土している。石材は、116が頁岩、119が黒曜石で、他は全て粘板岩である。粘板岩の内、117・118・120は泥岩に近い。基部は、116が明瞭に内湾するもの、117・118がわずかに内湾するもの、119・121が平坦なものである。側縁は、116～118の凹基が器体中位からやや末広がりとなるもので、120と119・121の平基が直線的なものである。調整は、116～120が器体の厚みを減ずるような緩斜度の加工を施すが、121は薄いフレイク素材を利用し、縁辺部のみを整形している。119については黒曜石産地分析をおこなった。分析結果についてはⅦ章に掲載した。

(坂本)

U遺物集中-15 (図IV-37, 140-81, 171-122・123, 図版41・99・117)

位置・立地：M42・43、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.98×(1.60)m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中と近接する土器集中を確認した。攪乱により削平される。フレイクの石材は近接するU遺物集中-14(土器集中とフレイク集中)と異なり、黒曜石が主体である。

重複関係：近接してU遺物集中-14があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器25点、礫片1点、フレイク集中からⅥ群土器36点、石鏃10点(頁岩1点)、石槍1点、両面調整石器2点、Rフレイク2点、フレイク1,658点(粘板岩3点、頁岩1点)、礫片4点が出土した。土器はU遺物集中-19・20と接合した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：81は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は1個である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。すべて後北C₁式。

(佐藤)

石器：2点とも黒曜石製の石鏃で上半部を欠損している。形態は三角形を呈するとみられ、基部はわずかに内湾する。122・123とともに黒曜石産地分析をおこなった。結果についてはⅦ章に掲載した。

(坂本)

U遺物集中-16 (図IV-38, 140-82, 図版99)

位置・立地：M43・44、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.80×1.38m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中を確認した。

重複関係：近接してUF-25、U遺物集中-17(土器集中とフレイク集中)があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中からⅥ群土器17点、両面調整石器3点、Rフレイク1点、フレイク814点(頁岩15点)、礫1点、近接してⅥ群土器4点が出土した。

性格：埴に伴う石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

掲載遺物

土器：82は小型の壺の胴部上半から底部。後北C₁式。(佐藤)

U遺物集中-17 (図IV-38, 140-83, 171-124~127, 図版99・117)

位置・立地：M44・45、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：3.50×(1.95) m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中とフレイク集中を確認した。

重複関係：近接してUF-25、U遺物集中-16 (フレイク集中) があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器14点、フレイク集中から石鏃6点、スクレイパー1点、ビエス・エスキュー1点、Rフレイク4点、フレイク909点 (粘板岩19点、頁岩7点)、礫片2点が出土した。土器はU遺物集中-9と接合した。

性格：炬に伴う石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：71はU遺物集中-9に記載した。83は深鉢の口縁部。微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。(佐藤)

石器：124~126は石鏃である。124・125が黒曜石製、126が粘板岩製である。形態は三角形を呈し、基部は平坦、側縁は直線的と捉えられる。127はビエス・エスキューである。頁岩製である。上下方向に主に使用されているが、背面側縁にはやや軽微な調整が観察される。124・125は黒曜石産地分析をおこなった。結果についてはⅦ章に掲載した。(坂本)

U遺物集中-18 (図IV-38, 図版42)

位置・立地：L21・22、調査区東側、標高20.0m程の河岸段丘上。

規模：2.50×(1.04) m

確認・調査・土層：Ⅲ層を3cmほど掘り下げた際に粘板岩製のフレイクがやや多く出土した。更に3cmほど掘り下げてまとまりを確認した。

重複関係：重複する遺構は無いが、幅2mの攪乱を挟んで2.8mほど北西側にはU遺物集中-24が近接し、U遺物集中-18と同様にVI群土器と粘板岩製のフレイクが分布している。

遺物出土状況：土器はV群c類5点、VI群22点が出土した。VI群は粘板岩製フレイクの分布範囲から出土している。石器はフレイクが152点出土し、内130点が粘板岩製であった。粘板岩フレイクは1cm未満の小片が大半を占めるが、2~3cm大のものも20点ほど含まれている。

性格：粘板岩を用いた、石器製作の場と考えられる。石器素材の生産を目的とした剥離作業がおこなわれていた可能性がある。

時期：出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考えられる。

掲載遺物：なし。(坂本)

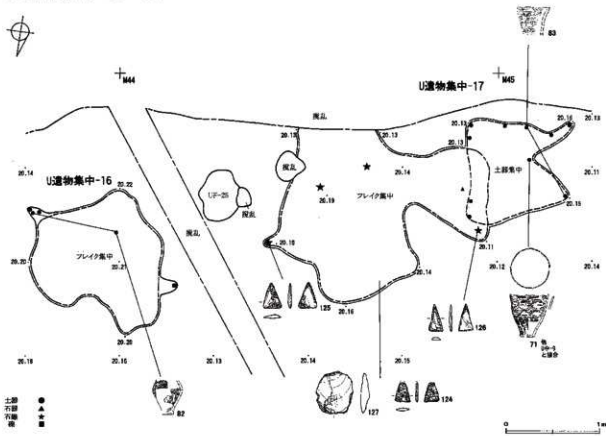
U遺物集中-19 (図IV-39, 172-128, 図版42・118)

位置・立地：M・N40・41、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

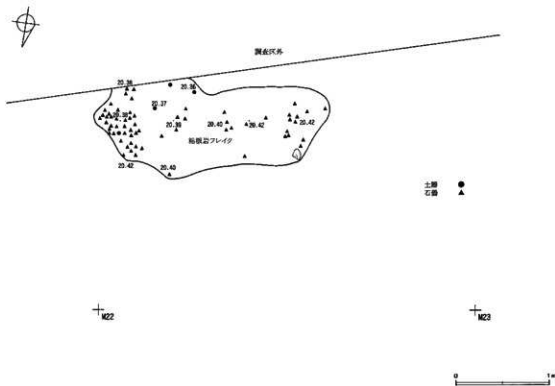
規模：(2.51)×2.04m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中とその周辺に土器の散在するまとまりを確認した。フレ

U遺物集中-16・17



U遺物集中-18



図IV-38 U遺物集中-16~18

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

イクの石材は近接するU遺物集中-20（フレイク集中）と同じく、粘板岩が主体である。

重複関係：近接してU遺物集中-20があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中から石鏃5点、石槍1点、フレイク132点（粘板岩90点、頁岩3点）、礫片2点、周辺の土器の散在するまともりからVI群土器15点、至近の包含層からスクレイパー1点、礫片1点が出土した。土器はU遺物集中15・20と接合した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：15はU遺物集中-15に記載した。 (佐藤)

石器：128は石鏃である。石材は粘板岩だが泥岩に近い。三角形を呈し基部はわずかに内湾する。側縁は直線的である。正面側に主に平坦剝離を加えている。 (坂本)

U遺物集中-20 (図IV-39, 172-129, 図版42・118)

位置・立地：M・N41・M42、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：3.25×1.72m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中とその周辺に土器の散在するまともりを確認した。フレイクの石材は近接するU遺物集中-19（フレイク集中）と同じく、粘板岩が主体である。

重複関係：近接してU遺物集中-19があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中からVI群土器47点、石鏃1点、石槍1点、スクレイパー1点、フレイク537点（粘板岩451点、頁岩1点）、礫片2点、周辺の土器の散在するまともりからVI群土器5点、至近の包含層から礫石1点、礫1点、礫片1点が出土した。土器はU遺物集中-15・19と接合した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：81はU遺物集中-15に記載した。 (佐藤)

石器：129は石鏃である。粘板岩製。形態は三角形で、基部平坦、側縁は直線的である。紙状に剝離した薄いフレイクを素材とし、加工は縁辺部のみ施されている。 (坂本)

U遺物集中-21 (図IV-39, 172-130, 図版42・118)

位置・立地：N42、調査区西側の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.87×1.21m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中から石鏃2点、石槍1点、Rフレイク3点、フレイク195点（粘板岩2点、頁岩1点）、礫1点が出土した。

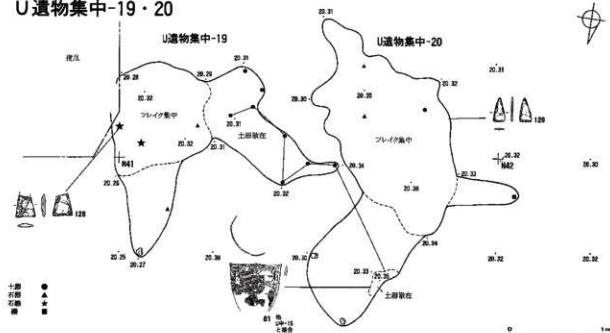
性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物、周辺の遺構の状況から統縄文時代後北C₁式期と考える。 (佐藤)

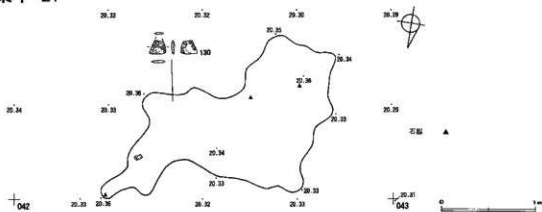
掲載遺物

石器：130は石鏃である。黒曜石製である。形態は三角形で平坦な基部を有す。側縁形状が左右非対称で形状は整っていない。上半部を欠損している。 (坂本)

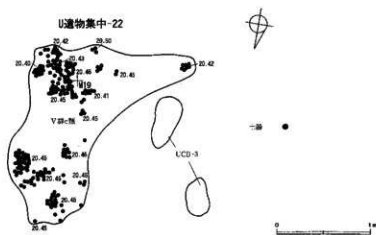
U遺物集中-19・20



U遺物集中-21



U遺物集中-22



図IV-39 U遺物集中-19~22

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

U遺物集中-22 (図IV-39、図版42)

位置・立地：L・M18・19、調査区東側、標高20.2mの河岸段丘上。

規模：2.45×1.11m

確認・調査・土層：Ⅲ層を15cmほど掘り下げた際に土器の小破片が検出され、更に数cm掘り下げてまとまりを確認した。大まかに3か所のまとまりを有していた。

重複関係：重複関係はないが、UCB-3が近接しており、関連が考えられる。

遺物出土状況：土器のみで構成された遺物集中で、V群c類が457点出土した。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物：なし。

(坂本)

U遺物集中-23 (図IV-40, 171-131・132、図版118)

位置・立地：N21・22、調査区東側、標高20.4m前後の河岸段丘上。

規模：3.62×1.83m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に黒曜石製フレイクがややまとまって出土した。

重複関係：UF-26が同一地点に位置し、また、南側に近接してUS-3、U遺物集中-24を確認した。層位、出土遺物などから、四者は関連するものと考えられる。

遺物出土状況：土器はVI群が24点、散漫に分布していた。石器は石鏃3点、フレイク54点が出土した。全て黒曜石製である。このほか礫が2点、UF-26に近接して出土した。

性格：フレイクは0.1g未満のチップ類が主体であり、細かな二次加工技術による製品生産を目的とした、石器製作場であったと考えられる。

時期：遺物および検出層位から、統縄文時代後北C₁式期と考えられる。

掲載遺物

石器：131・132は石鏃である。両者とも黒曜石製。131はカエシが明瞭な有茎のもの、132は三角鏃である。132は正三角形に近く、基部は内湾している。側縁は直線的である。

(坂本)

U遺物集中-24 (図IV-40, 141-84~86, 172-133, 図版42・99・100・118)

位置・立地：M・N21・22、調査区東側、標高20.4m程の河岸段丘上。

規模：3.01×1.33m

確認・調査・土層：Ⅲ層を9cmほど掘り下げた際にVI群土器と粘板岩製フレイクがややまとまって出土した。さらに数cm掘り下げ、分布範囲を確認した。

重複関係：US-3に接し、また、北側に近接してUF-26、U遺物集中-23が、南側にはU遺物集中-18が位置する。層位、出土遺物などから、これらは関連するものと考えられる。

遺物出土状況：土器はVI群が63点出土し、US-3の南側と西側に二つのまとまりをもって認められた。土器はUF-6、US-3、U遺物集中-27の遺物と接合関係がある。UF-6とは直線で約71mの距離がある。

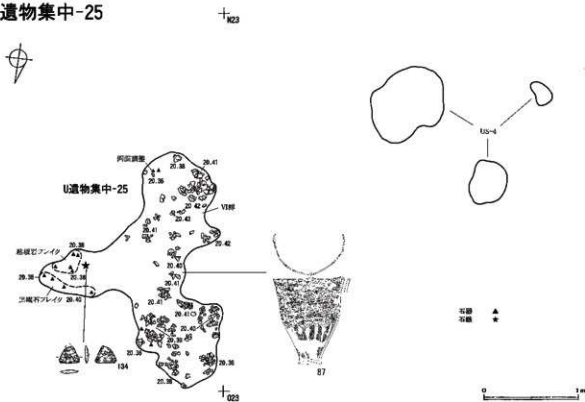
石器はスクレイパー1点、フレイク14点(内、粘板岩製13点)が出土し、ほとんどが南側のまとまりに分布していた。粘板岩製フレイクは2~5cmのものが主である。礫は5点が出土し、散漫に分布していた。礫は砂岩、チャートがある。

性格：少数ながら粘板岩フレイクが認められ、U遺物集中-18と関連した石器製作作業がおこなわれた場と考えられる。また、集石施設(US-3)が関係したことが推測される。

U遺物集中-23・24



U遺物集中-25



図IV-40 U遺物集中-23~25

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

時期：遺物および検出層位から、統縄文時代後北B式期と考えられる。 (坂本)

掲載遺物

土器：42はUF-6に記載した。84は大型の深鉢の口縁部から胴部上半。85は大型の深鉢の口縁部と胴部。同一個体と考える。口縁部と胴部上半に竹管状工具による擬縄貼付文の文様を施文する。横位の短沈線文を連続して施文する。86は小型の深鉢の口縁部と胴部。同一個体と考える。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。84・85は後北B式。86は後北C₁式。 (佐藤)

石器：133はスクレイパーである。左側縁下部と右側縁全縁を急角度調整しており、斜刃のエンドスクレイパーとなっている。刃部角は70°～90°を測る。 (坂本)

U遺物集中-25 (図IV-40, 141-87, 172-134, 図版42・100・118)

位置・立地：N22、調査区東側、標高20.4m程の河岸段丘上。

規模：2.50×1.56m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際にVI群土器多数がまとまって出土した。さらに数cm掘り下げ、石器などを含めた分布範囲を確認した。

重複関係：重複関係はないが、東側に近接してUS-3、U遺物集中-24が、南側にはUS-4が位置する。層位、出土遺物などから、これらは関連する可能性がある。

遺物出土状況：土器はVI群が308点出土した。石器は石鏃1点、両面調整石器1点、Rフレイク1点、フレイク12点（黒曜石製7点、粘板岩製5点）が出土した。石器の分布は土器分布範囲の北東側にまとまって認められた。

時期：遺物および検出層位から、統縄文時代後北C₁式期と考えられる。 (坂本)

掲載遺物

土器：87は中型の深鉢。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。 (佐藤)

石器：134は石鏃である。黒曜石製である。正三角形に近く、基部平坦、側縁は直線的と捉えられる。 (坂本)

U遺物集中-26 (図IV-41, 172-135・136, 図版43・118)

位置・立地：N・O20、調査区東側、標高20.3m程の河岸段丘上。

規模：0.75×0.40m

確認・調査・土層：Ⅲ層を15～20cmほど掘り下げた際にV群c類土器の小破片が密集して出土した。

重複関係：重複関係はないが、北側にU遺物集中-30が近接する。層位、出土遺物などから、両者は関連する可能性がある。

遺物出土状況：土器はV群c類が212点出土した。大半が1～2cmほどの小破片で、剥落などが激しい。石器は石鏃が2点出土した。

時期：遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

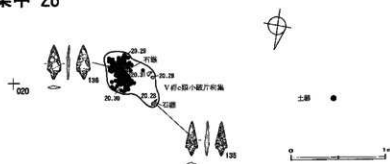
掲載遺物

石器：135・136は石鏃である。黒曜石製である。有茎鏃でカエシは比較的明瞭である。側縁は135が直線的、136がやや外湾している。136は素材面を広く残置するが非常に薄手である。 (坂本)

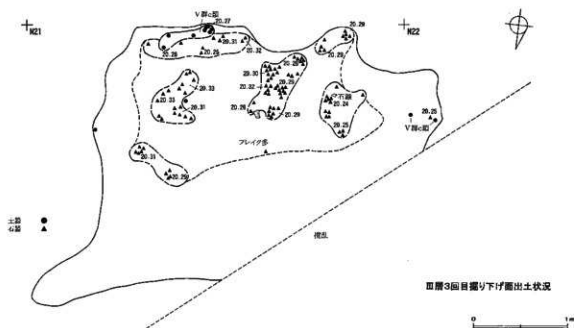
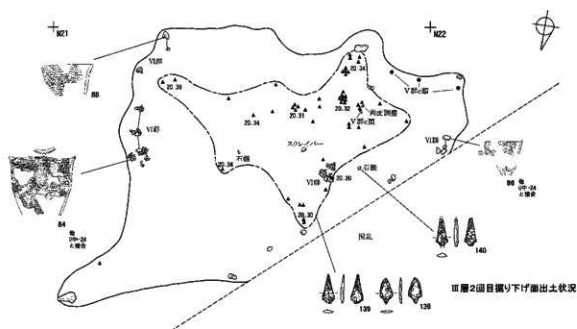
U遺物集中-27 (図IV-41, 141-88, 172-137～140, 図版43・100・118)

位置・立地：N21・22、調査区東側、標高20.3m程の河岸段丘上。

U 遺物集中-26



U 遺物集中-27



図IV-41 U 遺物集中-26・27

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

規模：4.90×(2.74) m

確認・調査・土層：Ⅲ層2回目(上面から10cmほど)掘り下げの際に、3×2mほどの範囲から黒曜石製石器が多量に出土した。また石器に近接して、Ⅵ群を主とする複数の小規模な土器片のまとまりが認められた。遺物取上げ後、さらにⅢ層3回目(5cm)掘り下げをおこない、おおよそ重複する範囲から黒曜石製石器が多量に出土した。3回目掘り下げの際にはⅤ群c類の土器が出土した。

重複関係：重複関係はない。

遺物出土状況：土器はⅤ群c類が24点、Ⅵ群が97点出土した。Ⅴ群c類は主に3回目の掘り下げ、Ⅵ群は全て2回目の掘り下げ土層から出土している。また、平面で観察すると、Ⅴ群c類は南側、Ⅵ群は北東側に分布がまとまる。土器はU遺物集中-24と接合関係がある。

石器は石鏃7点、両面調整石器5点、スクレイパー4点、Rフレイク49点、フレイク237点が3m×3mほどの範囲から出土した。掘り下げ回数ごとの出土状況は、各器種いずれも、2・3回目ともほぼ同数ずつ出土している。また、全体の2割ほど(302点中69点)が被熱していた。被熱石器は、石器分布範囲の中央部付近に多く認められた。礫・礫片は6点出土し、4点が被熱していた。礫の分布は、遺物集中範囲の西側を囲むように認められた。

性格：主に石器製作場と考えられる。

時期：遺物から、縄文時代晩期後葉および統縄文時代後北B式期に形成されたと判断できる。石器は5cmほどの高低差をもって出土したが、重複する分布から一時期に遺されたものとみられる。石鏃の形態からは晩期後葉の可能性が考えられる。(坂本)

掲載遺物

土器：84はU遺物集中-24に記載した。88は深鉢の口縁部。口縁部と胴部上半に竹管状工具による擬縄貼付文の文様を施文する。後北B式。(佐藤)

石器：掲載した4点は全て有茎の石鏃で、石材は黒曜石である。4点ともカエシが比較的明瞭である。側縁は137・138が緩やかに外湾するもの、139・140が直線的で若干末広がりとなるものである。137～139は素材面を広く残置するが薄手に仕上げられている。(坂本)

U遺物集中-28 (図IV-37)

位置・立地：M23、調査区東側、標高20.5m程の河岸段丘上。

規模：0.48×0.35m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際にⅤ群c類土器がまとまって出土した。

重複関係：重複関係はないが、南側にU遺物集中-13が近接する。層位、出土遺物などから、両者は関連する可能性がある。

遺物出土状況：土器はⅤ群c類が82点出土した。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物：なし。(坂本)

U遺物集中-29 (図IV-37)

位置・立地：M23、調査区東側、標高20.5m程の河岸段丘上。

規模：0.89×0.60m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際にⅥ群土器がまとまって出土した。

重複関係：重複関係はないが、南側にU遺物集中-13が近接する。

遺物出土状況：土器はVI群が41点、石器は黒曜石製フレイクが2点出土した。

時期：統縄文時代後北C₁式期である。

掲載遺物：なし。

(坂本)

U遺物集中-30 (図IV-42)

位置・立地：O20、調査区東側、標高20.4m程の河岸段丘上。

規模：1.33×1.29m

確認・調査・土層：Ⅲ層を15cmほど掘り下げた際に黒曜石製フレイクがまとまって出土した。

重複関係：南側にU遺物集中-26が接するが、両者は5cmほどの高低差を有する。

遺物出土状況：土器はV群c類が3点、石器は石鏃が2点（折れ接合により1点）、フレイクが23点出土した。石鏃の形態は三角形凹基である。

時期：縄文時代後期後葉もしくは統縄文時代後北C₁式期と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

U遺物集中-101 (図IV-42, 172-141~144, 図版118)

位置・立地：E34、調査区中央の標高20.1mの河川からやや離れた河岸段丘上。

規模：0.13×0.11m

確認・調査・土層：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に上位の緑色泥岩を確認した。更に掘り下げると、4点の緑色泥岩製の石斧原材が積み重なった状態で検出された。明瞭な土坑は確認できなかったが、泥岩直下のⅢ層の黒味がやや弱いため、浅い皿状の掘り込みがあった可能性がある。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：石斧原材4点が出土した。

性格：緑色泥岩原石もしくは石斧原材を保管しておいたデポと推測される。

時期：周囲から遺物の出土がほとんど無いため不明であるが、検出層位から統縄文時代後北式期の遺構と推測される。

(藤原)

掲載遺物

石器：141は研磨石材、142~144は石斧原材である。石材は全て緑色泥岩である。いずれも側縁を敲打・研磨するなどして側縁を整形している。

141・142は10cm未満の小型扁平鏃、143・144は15cm前後の大型で厚い鏃を素材としている。いずれも簡単な加工と刃部作出のみを残した、石斧に程近い形状をしている。素材獲得段階から石斧の形状・大きさを規定していたこと、また、簡易的な作業で使用可能となる原材を集めていたことが考えられる。

(坂本)

U遺物集中-103 (図IV-42, 図版43)

位置・立地：I28、調査区中央の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：0.32×0.25m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中を確認した。

重複関係：近接してU遺物集中-107（土器集中）・108（フレイク集中）があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中からフレイク31点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

時期：確認面および近接する遺構の状況から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

U遺物集中-104 (図IV-43、図版43)

位置・立地：I31、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：0.96×0.82m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。

重複関係：一部が重なる状態でU遺物集中-105（土器集中）があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中からVI群土器7点、石鎌2点、石核2点、Rフレイク2点、フレイク1,901点（粘板岩27点）、礫片2点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

U遺物集中-105 (図IV-43、142-89、図版43・100)

位置・立地：I31、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.15×0.82m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中を確認した。

重複関係：一部が重なる状態でU遺物集中-104（フレイク集中）があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器171点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：89は中型の深鉢。後北C₁式。

(佐藤)

U遺物集中-106 (図IV-43、172-145~147、図版44・118)

位置・立地：I33、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.12×1.04m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。フレイクの石材は黒曜石と粘板岩が約4：6である。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中から石鎌6点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、Rフレイク6点、フレイク1,004点（粘板岩591点、頁岩3点、泥岩2点、玉髓1点）、礫1点、礫片16点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

石器：145は石鎌、146はRフレイクである。いずれも粘板岩製である。145は三角形を呈し、基部平坦、側縁はわずかに外湾する。146は三角形に整形されており、石鎌の原材もしくは未成品の可能性がある。147はスクレイパーである。ナイフ形を呈する。縦長剥片素材とみられ、打面部側は両面調整により基部加工されている。両側縁には連続的な側縁加工が施されており、左側縁が外湾、右側

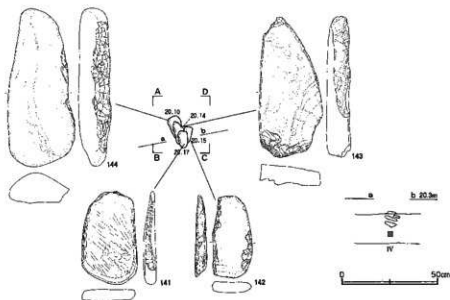
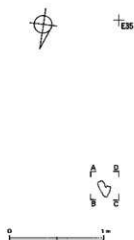
U遺物集中-30



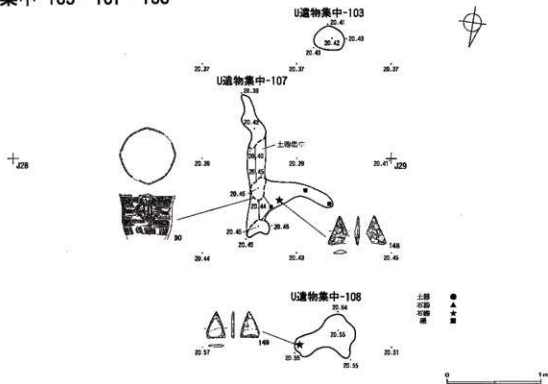
0.25 ▲

0 1m

U遺物集中-101



U遺物集中-103・107・108



図IV-42 U遺物集中-30・101・103・107・108

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

縁が直線状となっている。刃部角は左側縁45°、右側縁60°で、外湾形態の側縁が鋭利である。(坂本)

U遺物集中-107 (図Ⅳ-42, 142-90, 173-148, 図版43・100・119)

位置・立地：I・J28、調査区中央の標高20.5m付近の河岸段丘上。

規模：1.51×0.24m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中を確認した。

重複関係：近接してU遺物集中-103（フレイク集中）・108（フレイク集中）があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器46点、石鏃1点、フレイク3点、礫1点、礫片1点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北B式期と考える。

掲載遺物

土器：90は中型の深鉢。突起は1個である。口縁部と胴部上半に竹管状工具による擬縄貼付文の文様を施文する。横位と斜位の短沈線文を連続して施文する。後北B式。(佐藤)

石器：148は石鏃である。黒曜石製である。形態は正三角形に近く、基部が内湾する。側縁は直線的である。(坂本)

U遺物集中-108 (図Ⅳ-42, 173-108, 図版43・44・119)

位置・立地：J28、調査区中央の標高20.6m付近の河岸段丘上。

規模：0.66×0.47m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位でフレイク集中を確認した。フレイクの石材は粘板岩が主体である。

重複関係：近接してU遺物集中-103（フレイク集中）・107（土器集中）があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中から石鏃1点、Rフレイク1点、フレイク22点（粘板岩17点）が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から統縄文時代後北C式期と考える。(佐藤)

掲載遺物

石器：149は石鏃である。粘板岩製である。三角形を呈し、基部は平坦である。側縁はわずかに外湾する。調整は縁辺にのみ施している。(坂本)

U遺物集中-109 (図Ⅳ-43, 173-150, 図版119)

位置・立地：J・K33、調査区中央の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：1.75×0.87m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。

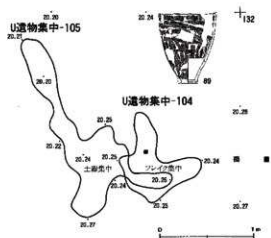
重複関係：近接してUF-1、USP-1、US-8があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中から石鏃2点、両面調整石器1点、フレイク776点（頁岩2点、粘板岩1点、玉髓1点）、礫片1点が出土した。

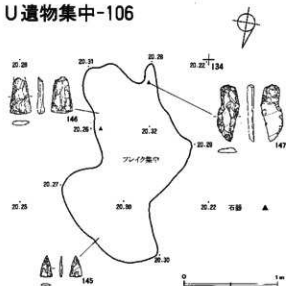
性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から統縄文時代後北C式期と考える。(佐藤)

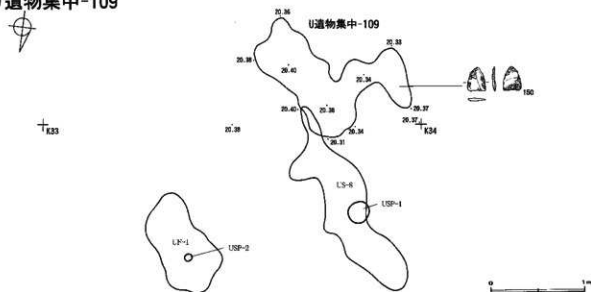
U遺物集中-104・105



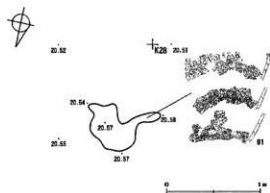
U遺物集中-106



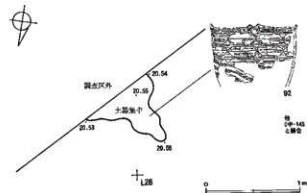
U遺物集中-109



U遺物集中-111



U遺物集中-115



図IV-43 U遺物集中-104・105・109・111

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

掲載遺物

石器：150は石鏃である。黒曜石製である。三角形を呈し、基部はやや内湾、側縁は外湾する。調整は基部、側縁、先端部に散発的に施される。(坂本)

U遺物集中-111 (図Ⅳ-43, 143-91, 図版44・100)

位置・立地：K27・28、調査区中央の標高20.6m付近の河岸段丘上。

規模：0.75×0.50m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器90点、石鏃1点、フレイク3点、礫片2点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代前半期中葉と考える。

掲載遺物

土器：91は深鉢。すべて同一個体と考える。沈線文で文様を施文する。統縄文時代前半期前葉の土器と考えたが、タンネットウL式の可能性もある。(佐藤)

U遺物集中-115 (図Ⅳ-43, 143-92, 図版44・101)

位置・立地：K25・26、調査区中央の標高20.6m付近の河岸段丘上。

規模：(0.68) × (0.80) m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中を確認した。遺物の分布は調査区外に広がると考える。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器82点が出土した。土器はU遺物集中-143と接合した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：92は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は2個1組と1個が2対で組み合う。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。(佐藤)

U遺物集中-116 (図Ⅳ-44, 144-93・94, 図版44・101)

位置・立地：M32、調査区中央の標高20.4m付近の河岸段丘上。

規模：1.40×0.73m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器197点、礫片8点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代前半期中葉と考える。

掲載遺物

土器：93は中型の深鉢。口縁部は内湾気味で、口唇下部で弱く外反する。口縁部に沿って斜行縄文を施文し、以下は縦走する帯状縄文。94は小型の深鉢。すべて統縄文時代前半期中葉の土器である。(佐藤)

U遺物集中-117 (図Ⅳ-44, 144-95, 図版44・101)

位置・立地：N35、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.76×0.46m

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器72点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期と考える。

掲載遺物

土器：95は深鉢。タンネットウL式。

(佐藤)

U遺物集中-119 (図IV-44, 145-96~98, 173-151, 図版101・119)

位置・立地：M・N37・38、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：2.74×0.99m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中とフレイク集中を確認した。フレイクの石材は粘板岩が主体である。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器48点、フレイク集中から石鏃1点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、フレイク588点(粘板岩560点)が出土した。土器はU遺物集中-121(土器集中)・122(フレイク集中)と接合した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から続縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：96・97は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。96は突起が2個1組である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。97は突起が1個である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。98は小型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は1個である。口縁部と胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。すべて後北C₁式。

(佐藤)

石器：151はスクレイパーである。黒曜石製である。縦長剥片を素材とし、打面側を両面調整により基部加工している。右側縁は長軸に並走し直線的だが、左側縁は下半から長軸に対し斜行する。刃部調整は平坦剥離で、刃部角30°前後の鋭利な縁辺を作り出している。

(坂本)

U遺物集中-121 (図IV-44, 146-99, 図版45・101)

位置・立地：O36、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：2.23×1.21m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器141点、フレイク2点、礫片1点が出土した。土器はU遺物集中-119(土器集中・フレイク集中)と接合した。

時期：確認面および出土遺物から続縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：96~97はU遺物集中-119に記載した。99は深鉢の口縁部。微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。

(佐藤)

U遺物集中-122 (図Ⅳ-45, 173-152, 図版45・119)

位置・立地：O37・38、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.47×1.44m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からⅥ群土器6点、石鏃2点、Rフレイク2点、フレイク3,036点(粘板岩2,918点)、礫12点、礫片4点が出土した。土器はUP-13、U遺物集中-12(土器集中・フレイク集中)・119(土器集中・フレイク集中)・125(フレイク集中)と接合した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：41はUP-13、98はU遺物集中-119に記載した。(佐藤)

石器：152は石鏃である。石材は黒曜石である。三角形を呈し、基部は内湾、側縁はおおむね直線的と捉えられる。(坂本)

U遺物集中-123 (図Ⅳ-45, 図版45)

位置・立地：O・P38、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：1.12×0.65m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中を確認した。

重複関係：近接してUF-7、U遺物集中-125(フレイク集中)があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器439点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

U遺物集中-125 (図Ⅳ-45, 146-100, 173-153・154, 図版45・102・119)

位置・立地：O・P38・39、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.98×0.67m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位でフレイク集中を確認した。フレイクの石材は粘板岩が主体である。土器は上部に散在していた。

重複関係：近接してUF-7、U遺物集中-123(土器集中)があり、関連すると考える。

遺物出土状況：フレイク集中からⅥ群土器61点、石鏃1点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク86点(粘板岩81点、玉髓3点、碧玉1点)、蔽石1点が出土した。土器はUP-13、U遺物集中-12(土器集中・フレイク集中)・122(フレイク集中)と接合した。碧玉製フレイクはこの1点のみの出土である。

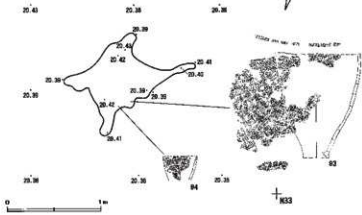
時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

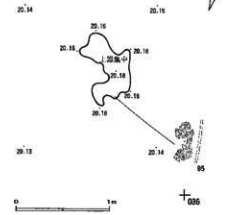
土器：41はUP-13に記載した。100は大型の深鉢の口縁部から胴部下半。口縁部から胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。(佐藤)

石器：153は石鏃である。黒曜石製である。三角形を呈し、基部は抉り状の加工により内湾する。側縁は若干外湾する。器体中央に厚みを残すが、基部は素材形状を利用して薄手となっている。154は蔽石である。砂岩製である。棒状の礫を素材とし、正面側の平坦面に蔽打痕が発生している。蔽打痕

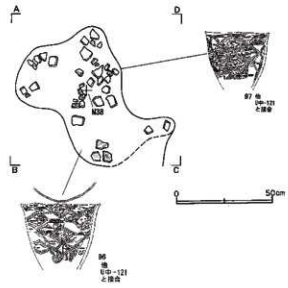
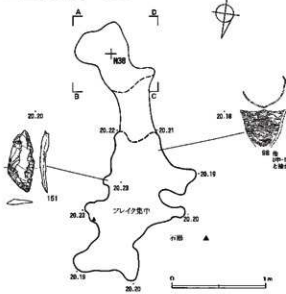
U遺物集中-116



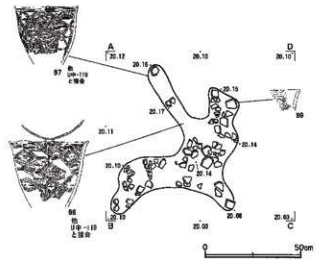
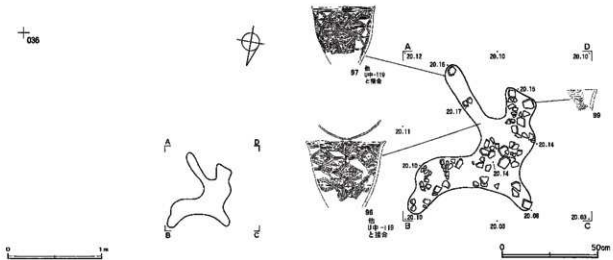
U遺物集中-117



U遺物集中-119



U遺物集中-121



図IV-44 U遺物集中-116・119・121

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

は柄円形に広がるが、円形のまとまりが複数接続したものと観察される。(坂本)

U遺物集中-126 (図Ⅳ-45, 147-101, 図版45・102)

位置・立地：O・P35、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：0.96×0.51m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中を確認した。

重複関係：近接してUCB-5があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器233点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代前半期中葉と考える。

掲載遺物

土器：101は大型の深鉢。口縁部は直線的に開く。口縁部に沿って横位の帯状縄文を施文し、以下は縦走する帯状縄文。統縄文時代前半期中葉の土器である。(佐藤)

U遺物集中-128 (図Ⅳ-46, 図版45)

位置・立地：P40、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.43×0.35m

確認・調査・土層：Ⅲ層中位で土器集中を確認した。

重複関係：至近にUF-6があり、関連すると考える。

遺物出土状況：土器集中からⅥ群土器156点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物：なし。(佐藤)

U遺物集中-131 (図Ⅳ-46, 147・148-102・103, 173-155, 図版46・102・119)

位置・立地：P44、調査区西側の標高20.2mの河岸段丘上。

規模：1.18×0.68m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に後北C₁式土器が検出され、更に5cm掘り下げてまとまりを確認した。やや大型の破片がまとまるが、口縁部の向きなどは揃っていない。

遺物出土状況：Ⅵ群土器142点、スクレイパー1点が出土した。

時期：統縄文時代後北C₁式期である。(藤原)

掲載遺物

土器：102・103は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。(佐藤)

石器：155はスクレイパーである。全縁を連続的に調整しており、末端は長軸に対し斜刃となっている。刃部角は75°前後を測る。(坂本)

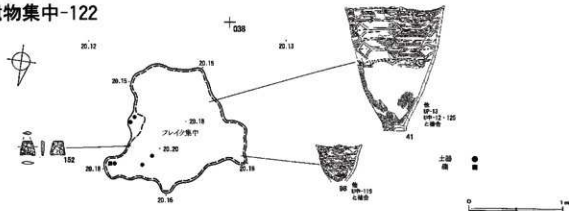
U遺物集中-133 (図Ⅳ-46, 148-104, 図版46・102)

位置・立地：P・Q44、調査区西側の標高19.8mの河川湾入部段丘縁。

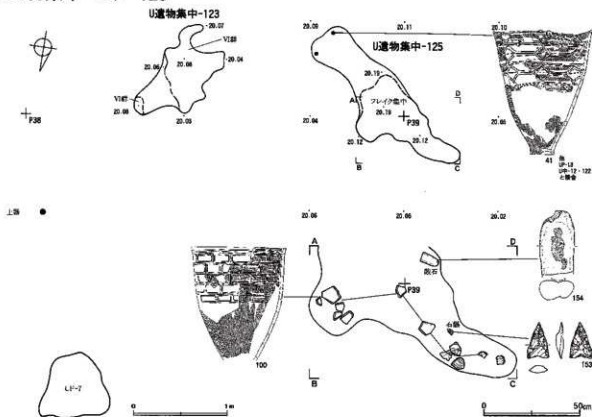
規模：0.29×0.15m

確認・調査・土層：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に確認した。破片数は少ないが、口縁部が揃い、潰れたようにまとまっていた。

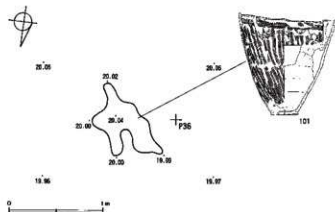
U遺物集中-122



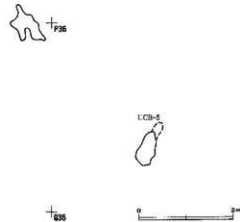
U遺物集中-123・125



U遺物集中-126



U遺物集中-125



図IV-45 U遺物集中-122・123・125・126

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

遺物出土状況：V群c類土器22点が出土した。

時期：縄文時代晩期後葉、大洞A¹式相当の時期である。(藤原)

掲載遺物

土器：104は鉢。口縁部外面、内面に沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。(佐藤)

U遺物集中-134 (図IV-46, 148-105, 図版46・102)

位置・立地：P・Q38、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘縁。

規模：1.14×0.80m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で近接する土器集中2か所を確認した。本来は、それぞれ別のまとまりであると考ええる。

重複関係：なし。

遺物出土状況：南側の土器集中からVI群土器82点、礫3点、礫片1点、北側の土器集中からVI群土器95点が出土した。南側の土器集中はUF-7と接合した。

時期：確認面および出土遺物から統縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：43はUF-7に記載した。105は中型の深鉢。突起は1個である。(佐藤)

U遺物集中-136 (図IV-47, 149-106, 図版46・103)

位置・立地：Q44、調査区西側の標高20.2mの河岸段丘上。

規模：1.05×0.47m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に後北C₁式土器が検出され、更に5cm掘り下げてまとまりを確認した。やや大型の破片がまとまっている。

遺物出土状況：VI群土器40点が出土した。

時期：統縄文時代後北C₁式期である。(藤原)

掲載遺物

土器：106は中型の深鉢の口縁部から胴部上半。突起は2個1組である。口縁部から胴部上半に微隆起線文により文様を施文する。後北C₁式。(佐藤)

U遺物集中-137 (図IV-47, 173-156, 図版47・119)

位置・立地：Q47、調査区西側の標高20.1mの河岸段丘上。

規模：0.95×0.55m

確認・調査・土層：Ⅲ層を5cmほど掘り下げた際に黒曜石のフレイク・チップがやや多く出土していた。更に10cmほど掘り下げてまとまりを確認した。なお、隣接するP47区では25点、P48区では30点もの石鏃が出土している。

重複関係：重複する遺構は無い。

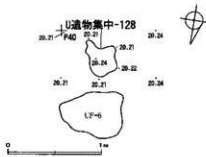
遺物出土状況：黒曜石のフレイク・チップ772点の他、石鏃1点、石核1点、両面調整石器2点、Rフレイク1点、ピエス・エスキーユ1点、焼成を受けた礫1点、VI群土器3点が出土した。

性格：隣接して石鏃が多く出土していることから、石鏃等の石器製作跡であろう。

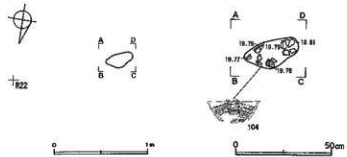
時期：フレイク・チップ集中出土の土器および検出層位から、統縄文時代後北式期の遺構である。

(藤原)

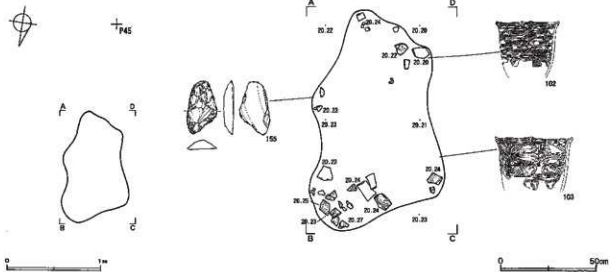
U遺物集中-128



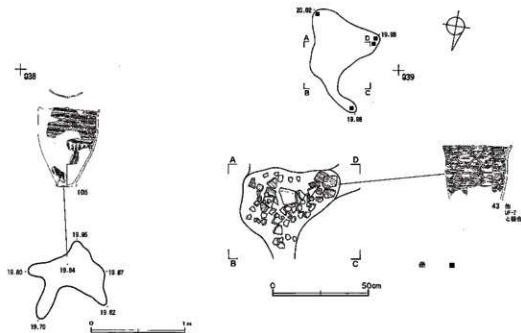
U遺物集中-133



U遺物集中-131



U遺物集中-134



図IV-46 U遺物集中-128・131・134

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物

掲載遺物

石器：156は石鏃である。黒曜石材材である。三角形を呈し、基部・側縁はわずかに外湾する。素材面を広く残置するが薄手である。(坂本)

U遺物集中-138 (図IV-47, 150-107, 図版47・103)

位置・立地：R40、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘縁。

規模：2.28×1.31m

確認・調査・土層：Ⅲ層下位で土器集中を確認した。土器片は細かいものが多かった。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器1,345点、VI群土器1点、フレイク3点、礫2点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：107は深鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。(佐藤)

U遺物集中-140 (図IV-47, 150-108, 図版47・103)

位置・立地：R43、調査区西側の標高20.2mの河岸段丘上。

規模：0.53×0.47m

確認・調査：Ⅲ層を20cmほど掘り下げた際に大型破片の多いタンネットウL式土器のまとまりを確認した。黒色土の落ち込みがあったが、半截した結果、木根の攪乱と判断した。なお、隣接して縄文時代晩期後葉の小型破片の土器集中が検出された。

遺物出土状況：V群c類土器1,779点、フレイク1点が出土した。

時期：縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期である。(藤原)

掲載遺物

土器：108は深鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。(佐藤)

U遺物集中-142 (図IV-48, 150-109, 図版47・103)

位置・立地：Q44・45、調査区西側の標高20.2mの河岸段丘上。

規模：2.66×0.82m

確認・調査：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に小破片の後北C₁式土器のまとまりを確認した。口縁部、底部のまとまりは無かった。

遺物出土状況：VI群土器127点が出土した。

時期：続縄文時代後北C₁式期である。(藤原)

掲載遺物

土器：109は中型の深鉢。口縁部とその下に微隆起線文により文様を施文する。縦の連続する短沈線文がある。後北C₁式。(佐藤)

U遺物集中-143 (図IV-48, 150-110, 図版47・103)

位置・立地：L25、調査区中央の標高20.5m付近の河岸段丘上。

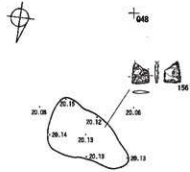
規模：(1.79)×1.73m

確認・調査・土層：Ⅲ層上位で土器集中を確認した。遺物の分布は調査区外に広がると考える。

U 遺物集中-136

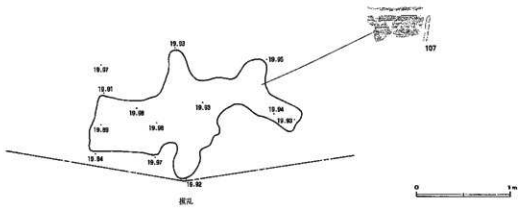


U 遺物集中-137



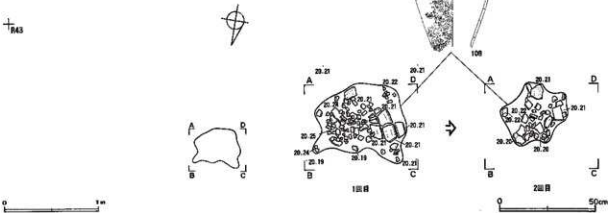
U 遺物集中-138

B40



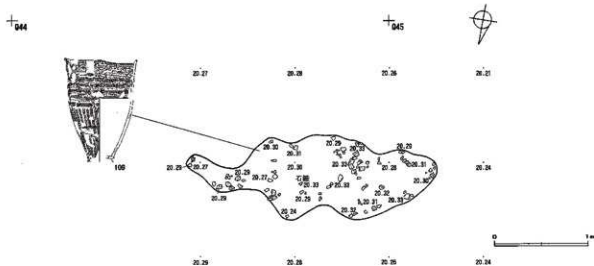
U 遺物集中-140

B43

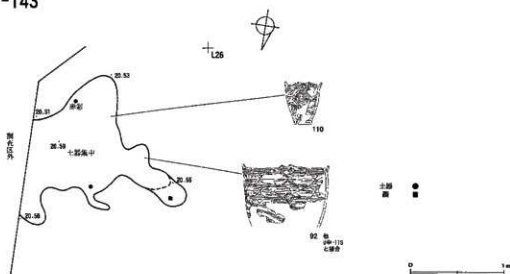


図IV-47 U遺物集中-136~138・140

U遺物集中-142



U遺物集中-143



図IV-48 U遺物集中-142・143

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からVI群土器77点、礫片1点が出土した。土器はU遺物集中-115（土器集中）と接合した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後北C₁式期と考える。

掲載遺物

土器：92はU遺物集中-115に記載した。110は赤彩された小型の深鉢。口縁部から胴部下半まで微隆起線文により文様を施文する。主に微隆起線の間を赤彩している。後北C₁式。 (佐藤)

3 V層の遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

LH-1 (図IV-49, 151-111, 図版48~50・103)

位置・立地：M28・29、調査区東側の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(2.45/2.25) × (2.36/2.22) × 0.14m 長軸方向：— 平面形：円形

確認・調査・土層：VI層上面で大型の暗褐色土の落ち込みを確認した。覆土は最下層のみの確認で、堆積状況は土質が均質であることから自然堆積の可能性が高い。床面に地床炉と柱穴2基、壁際に柱穴2基を確認した。地床炉は中央がくぼんでいるが、明瞭な掘り込みはないものとする。1層には微細な骨片が少量と炭化物を含む。床面と壁際の柱穴は浅いものである。床面から6点の土器片が出土した。

重複関係：近接してLH-2があり、まとまりを持つものとする。

床面・壁面：床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：床面からIII群b類土器6点が出土した。

性格：掘り込みの形状、地床炉、柱穴から、竪穴式住居と考える。

時期：床面出土の遺物から縄文時代中期後半である。

掲載遺物

土器：111は深鉢。北筒式である。 (佐藤)

LH-2 (図IV-49, 151-112・113, 図版50・51・103)

位置・立地：N29・30、調査区東側の標高20.0m付近の河岸段丘縁。

規模：(2.08/1.54) × (1.94/1.51) × 0.14m 長軸方向：— 平面形：不整形

確認・調査・土層：VI層上面で大型の黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。床面に焼土と柱穴1基を確認した。焼土は土器片と炭化物、焼土粒が混じるもので、焼成層はない。そのため、地床炉が壊されたとする。床面の柱穴はしっかりとした深いものである。焼土中から少量の土器片が出土した。

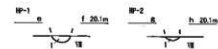
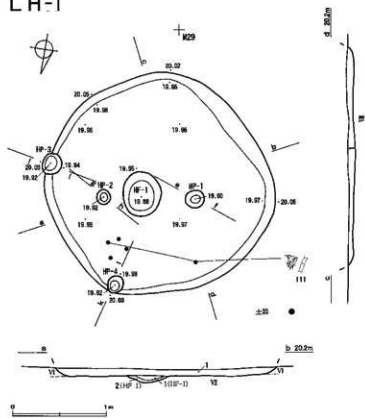
重複関係：近接してLH-2があり、まとまりを持つものとする。

床面・壁面：床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：床面からIII群b類土器17点、覆土中からIII群b類土器6点、フレイク2点、礫2点、礫片2点が出土した。

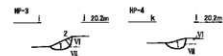
性格：掘り込みの形状、焼土、柱穴から、竪穴式住居と考える。

LH-1



HP-1					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-2	中	厚	

HP-2					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-1	中	厚	



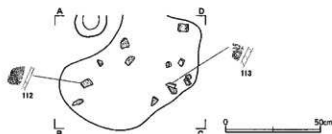
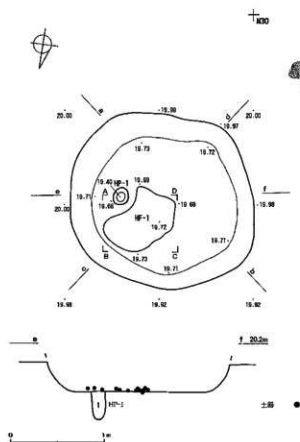
HP-3					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-2	中	中厚	
2	黒褐色	HPM-2	中	厚	

HP-4					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-2	中	中厚	

HP-1					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-2	中	中厚	20×20cm程度の土塊、20×10cm、黒土器片
2	黒褐色	HPM-2	中	中厚	20×20cm程度の土塊、20×10cm、黒土器片

LH-1					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-1	中	中厚	HP-1/2

LH-2



HP-1					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-1	中	中厚	27×23cm
2	黒褐色	HPM-2	中	中厚	20×27cm
3	黒褐色	HPM-2	中	中厚	27×23cm
4	黒褐色	HPM-4	中	中厚	20×27cm

HP-2					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-2	中	厚	20×20cm程度の土塊、20×10cm程度の土器片

HP-3					
1	土色	土層	形状	層厚	遺入物・寸法
1	黒褐色	HPM-2	中	中厚	

図IV-49 LH-1・2

時期：焼土出土の遺物から縄文時代中期後半である。

掲載遺物

土器：112～113は深鉢。113は口縁部の近くで、横位の連続する刺突が2段に巡る。すべて北筒式である。 (佐藤)

LH-3 (図IV-50～52, 151・152-114・115, 173-157～164, 図版52～55・104・119)

位置・立地：N・O19・20・21、調査区東側、標高20.0mの河岸段丘上。

規模：(5.09/4.73) × (4.38/4.00) × 0.55m

規模：7.68×6.21 (掘上げ土範囲) 長軸方向：N-60°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：火山灰を重機及び人力で除去中に大きな落ち込みを確認した。さらに隣接する調査区の25%調査終了後、東側断面のV層中に厚さ5cm黄褐色の土層の堆積を確認した。周囲に掘り上げ土が廻る住居跡を想定してトレンチ調査を実施し、黒色土の落ち込みを確認した。覆土は壁周辺が厚く、中央部は薄い堆積状態を示す。

重複関係：重複する遺構は無い。

床面・壁面：床面のほぼ中央部に石組み炉と石組み炉によって壊されている浅い長方形の土壌が検出された。石組みは南東側の残りが良好であるが、北西側は石組みが認められず、抜き取り痕もなかった。柱穴状ピットは南側から4基検出された。いずれも浅く、明瞭ではなかった。住居跡周辺0.5～2mに厚さ5～10cmほどの掘上げ土を検出した。

遺物出土状況：遺物は北から西側の覆土中からまとまって出土した。覆土は壁周辺が厚く、中央部は薄い堆積状態を示し、北側から1個体、西側壁際から2個体のIV群A類の伊達山式が横倒しの状態で出土した。いずれも床面から10～15cmほど上位の覆土中からの出土である。しかし、北側のまとまりと中央部の床面直上の破片資料と接合した。現地では床面遺物と考えていた。

性格：堅穴式住居と考える。

時期：時期のわかる床面出土の遺物が無いが、覆土出土の縄文時代後期初頭伊達山式土器の出土状態から伊達山式直前ないし伊達山式の頃と考えられる。 (熊谷)

掲載遺物

土器：114は深鉢の口縁部と胴部、底部。同一個体と考える。口縁部下に上下2段の円形刺突があり、胴部に幅の広い貼付が巡る。115は深鉢。口縁部下に円形刺突が1段巡る。胴部には幅の広い貼付が2段巡る。口縁部内面に縄文を施文する。調査者は伊達山式としているが、IV群A類、タブコブ式と考える。分類は一次分類をそのまま生かしたため、ほかの破片も含めて集計上はすべてIII群B類となっている。 (佐藤)

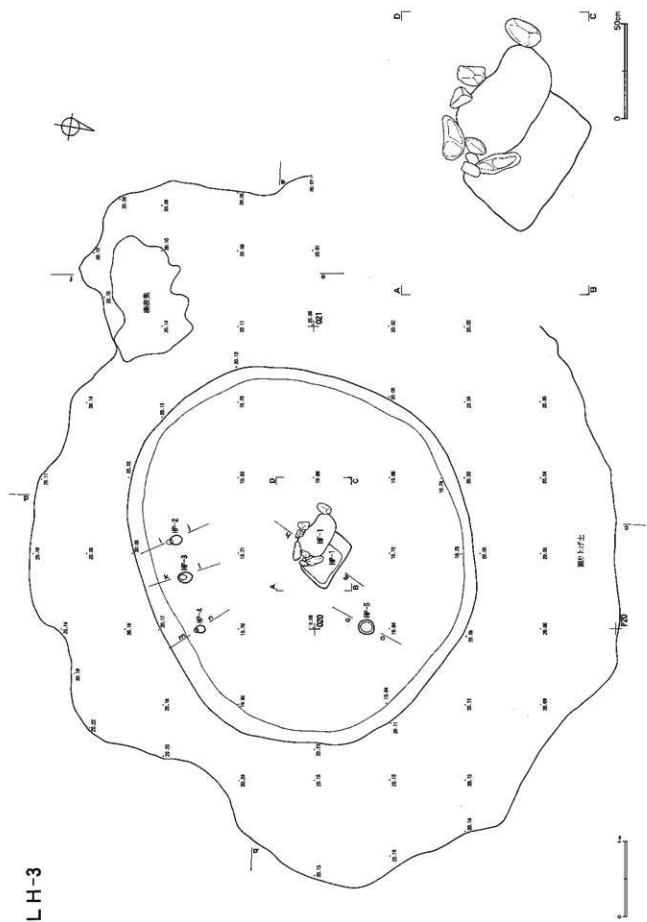
石器：159は床面、他は全て覆土出土である。162は西側壁際からまとまって出土した土器と近接して出土している。

157・158は石鏃である。黒曜石製である。有茎でカエシは不明瞭である。素材面が残置し、やや厚みを残している。

159は石錐である。平面は菱形を呈する。157・158の石鏃に形態は類似するが、先端部を急角度調整により錐状に加工している。

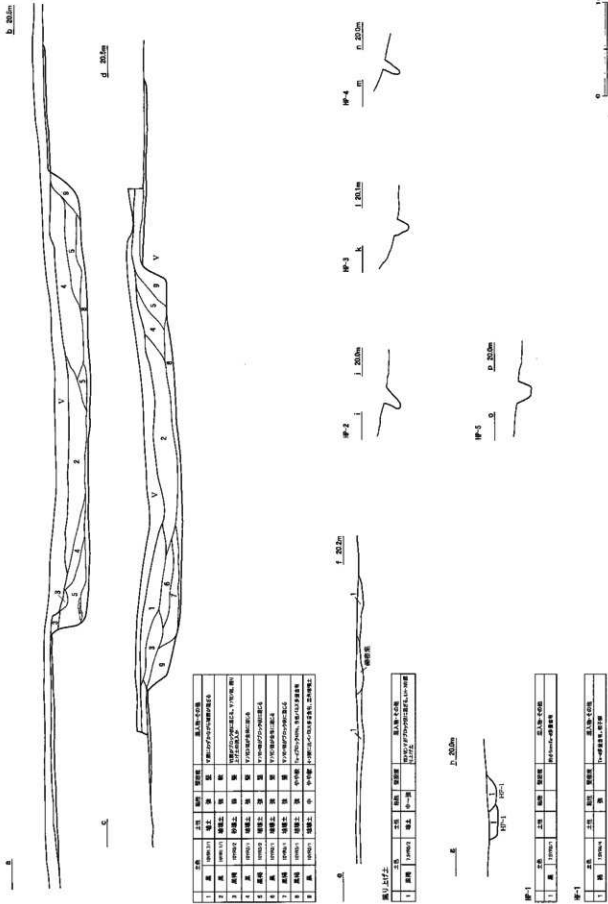
160・161は石槍である。黒曜石製である。有茎でカエシが不明瞭である。161は左右非対称でやや歪な形状をしている。

162は石斧である。石材は緑色泥岩である。胴半部を大きく欠損している。刃部は両刃、円刃で全



図IV-50 LH-3

LH-3



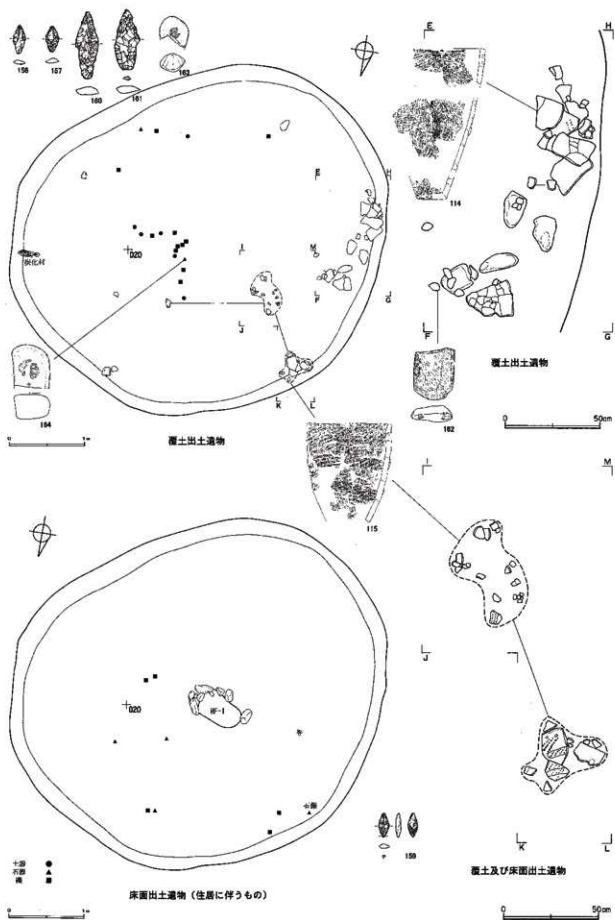
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
2	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
3	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
4	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
5	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
8	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
9	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
2	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
3	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
4	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
5	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
8	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
9	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
2	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
3	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
4	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
5	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
8	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
9	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
10	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000

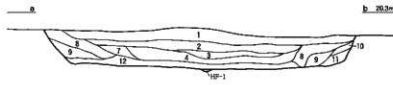
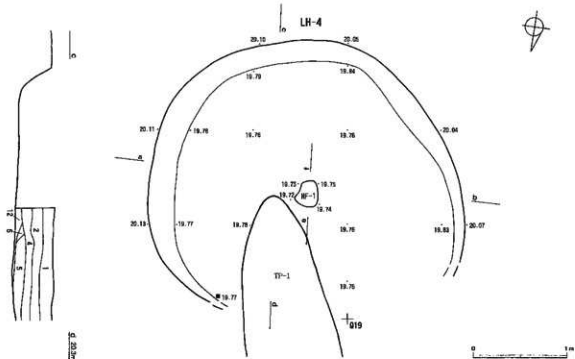
図IV-51 LH-3

3 V層の遺構と出土遺物



図IV-52 LH-3

LH-4



TF-1

土名	土質	粘性	埋蔵層	記入例-その例
1	黄	中砂質	埋	埋

土名	土質	粘性	埋蔵層	記入例-その例
1	黄	中砂質	埋	埋
2	黄	中砂質	埋	埋
3	黄	中砂質	埋	埋
4	黄	中砂質	埋	埋
5	黄	中砂質	埋	埋
6	黄	中砂質	埋	埋
7	黄	中砂質	埋	埋
8	黄	中砂質	埋	埋
9	黄	中砂質	埋	埋
10	黄	中砂質	埋	埋
11	黄	中砂質	埋	埋
12	黄	中砂質	埋	埋

図IV-53 LH-4

3 V層の遺構と出土遺物

体的な形状は短冊形を呈するとみられる。打ち欠き整形の後、入念な研磨を施している。

163・164は敲石である。石材は砂岩で、163の石質はやや緻密である。163は円礫素材で、湾曲面の頂部に敲打痕がまとまって観察される。164は直角礫素材で、平坦面に敲打痕が観察される。いずれも下半部を大きく欠損している。(坂本)

LH-4 (図IV-53、図版55・56)

位置・立地：LQ18・19、調査区東側、標高20.0mの河岸段丘

規模：(3.53) / (3.15) × (3.12/2.77) × 0.43m 長軸方向：N-57°-W 平面形：不整形
確認・調査・土層：火山灰を重機及び人力で除去中に径2m、深さ20cm程の小さな落ち込みを確認した。ベルトを設定してトレンチ調査を実施し、黒色土の落ち込みを確認した。また、床面の中央部から北東側に溝状の黒色土の落ち込みが検出された。北東側は平成16年度調査範囲に伸び、現道とのクリアランス部分のため調査できなかった。

重複関係：TP-1を壊して構築している。

床面・壁面：壁の立ち上がりは明瞭である。床面のほぼ中央部から長軸30cmほどの不整形の焼土を検出した。柱穴状ピットは検出されなかった。床面のほぼ中央部から北側にTP-6が検出された。

遺物出土状況：床面から礫1点が、覆土からⅢ群b類5点、V群c類2点、フレイク1点、Rフレイク2点、礫片1点が出土している。土器はいずれも小破片である。

性格：竪穴式住居と考える。

時期：縄文時代中期後半もしくはそれよりも若干新しい時期と捉えられる。

掲載遺物：なし。

(熊谷)

(2) 土坑

LP-1 (図IV-54、153・154-116~118、図版57・104・105)

位置・立地：R44、調査区西側の標高19.7mの河岸段丘上。

規模：(0.74/0.51) × (0.70/0.51) × 0.24m 長軸方向：- 平面形：円形

確認・調査・土層：Ⅵ層上面まで掘り下げた際に、円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は平らで、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中からややまとまったV群c類土器53点、礫6点が出土した。また、炭化物、炭化クルミ殻も検出された。土器はLF-15、L遺物集中-120と接合関係がある。

性格：火を用いた作業に使われたものと推測される。

時期：縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構である。

(藤原)

掲載遺物

土器：116~118は深鉢。116は沈線文で文様を施文する。118は舟形土器。刺突文で文様を施文する。すべてタンネトウL式。

(佐藤)

LP-2 (図IV-54、154-119~122、173-165・166、図版57・105・106・119)

位置・立地：Q46、調査区西側の標高19.7mの河岸段丘上。

規模：(0.54/0.33) × (0.51/0.34) × 0.12m 長軸方向：- 平面形：円形

確認・調査・土層：V層上面でIV層がくぼんでいた。トレンチを入れた結果、小ピットであることが確認できたため、遺物を残したまま、VI層上面まで掘り下げ調査した。覆土はTa-dの混じる自然堆積である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は浅い皿状である。

遺物出土状況：坑底面に近い覆土下位からV群c類土器38点および礫4点がまとまって出土した。また、その下の坑底面に玉髓の原石が1点置かれていた。この他にスクレイパー1点、Rフレイク3点、フレイク4点が出土した。

性格：不明である。

時期：縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構である。

(藤原)

掲載遺物

土器：119～120は深鉢。119は細線文で文様を施文する。120は小型のものである。121は鉢。122は浅鉢。すべてタンネトウL式。

(佐藤)

石器：掲載した2点は覆土からの出土である。165はスクレイパーである。主に素材打面部から右側縁に連続的な急角度調整を加え、エンドスクレイパーとしている。刃部角は右側縁60°、末端部85°を測る。166はRフレイクである。背面側に平坦剥離をしているが、上半部が欠損した後、折れ面から腹面側に4回程度の剥離を加えている。

(坂本)

LP-3 (図IV-55, 155-123・124, 173-167・168, 図版58・105・106・119)

位置・立地：Q・R45、調査区西側の標高19.8mの河岸段丘上。

規模：(1.22/0.89) × (1.18/0.79) × 0.52m **長軸方向**：N-30°-W **平面形**：不整楕円形

確認・調査・土層：R45区をVI層上面まで掘り下げた際に黒色土の落ち込みを確認した。Rラインに沿ってベルトを残し、Q45区もVI層まで下げ、プランを確認した。断面観察から掘りこみ面はV層上面から10cmほど下位である。覆土はTa-dの混じる人為的に戻してある。

重複関係：坑口部にLF-16が位置する。

坑底・壁面：坑底面はややくぼみ、壁面は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況：埋土中位からほぼ2個体の散在したV群a類土器139点および石鏃1点、赤・緑などの色彩豊かな礫15点などがまとまって出土した。これらの遺物の分布は北側に偏る傾向がある。

性格：埋土中位の遺物出土状況および埋め土であることから、墓坑の可能性がある。

時期：縄文時代晩期前葉、東三川I式期の遺構である。

(藤原)

掲載遺物

土器：123・124は深鉢。123は口唇部に斜めの刻みがある。124は口縁部が内湾する。東三川I式。

(佐藤)

石器：掲載した2点は覆土からの出土である。167は石鏃である。石材は小球類が顕著に入る黒曜石である。有茎でカエシは比較的明瞭である。168はピエス・エスキューである。チャートの扁平な小礫を素材としている。

(坂本)

LP-4 (図IV-56, 155-125, 図版58・105)

位置・立地：N・O33、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(1.03/0.60) × (0.86/0.44) × 0.65m **長軸方向**：N-54°-E **平面形**：楕円形

3 V層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：V層上面でLF-20をトレンチ調査した際にその下に黒褐色土の落ち込みを確認した。掘り込み面はV層上面で、覆土は埋め戻しである。1層上面に少量の遺物がまどまっていた。**重複関係**：LF-20が上面にあり、本遺構に伴うものとする。近接してLP-5があり、まどまりをもつと考える。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：1層からV群c類土器2点、フレイク5点、礫2点、礫片4点、2層からV群c類土器2点が出土した。土器はLF-54・89と接合した。LF-89とは約40m離れている。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑の可能性があると考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物

土器：125は深鉢。舟形土器である。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

LP-5 (図IV-56、図版59)

位置・立地：N33・34、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(1.39/1.12) × (0.98/0.75) × 0.44m **長軸方向**：N-73°-W **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：V層上面でIV層の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、その下に黒褐色土の落ち込みを確認した。掘り込み面はV層上面で、覆土は埋め戻しである。1層上面に少量の遺物がまどまっていた。

重複関係：近接してLP-5があり、まどまりをもつと考える。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：1層からV群c類土器38点、スクレイパー1点、Rフレイク3点、フレイク4点、礫4点、礫片4点、2層から玉髓製の原石1点が出土した。

性格：遺物出土状況および土層の堆積状況から、墓坑と考える。

時期：縄文時代晩期後葉である。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-6 (図IV-55、図版59)

位置・立地：P48・49、調査区西側の標高19.6mの河岸段丘上。

規模：(0.88/0.65) × (0.81/0.55) × 0.37m **長軸方向**：N-87°-W **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：P48区をVI層上面まで掘り下げた際に黒色土の落ち込みを確認した。49ラインに沿って半裁した結果、P49区にまたがる土坑であることが判明したため、P49区側はV層を残したまま掘り上げた。断面観察から掘りこみ面はV層上面から10cmほど下位である。覆土はTa-dの混じる自然堆積である。位置や形状などからLP-6～8は関連する一連の遺構と推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は平坦であるが一部に木根の攪乱がある。また、壁面は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況：埋土中からV群a類土器17点が出土した。

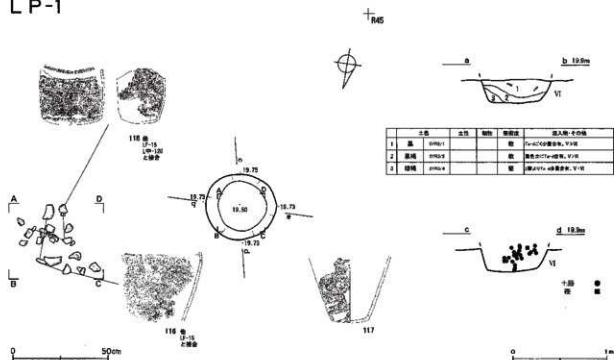
性格：不明である。

時期：掘り込み面および周辺出土の遺物から、縄文時代晩期前葉の遺構である。

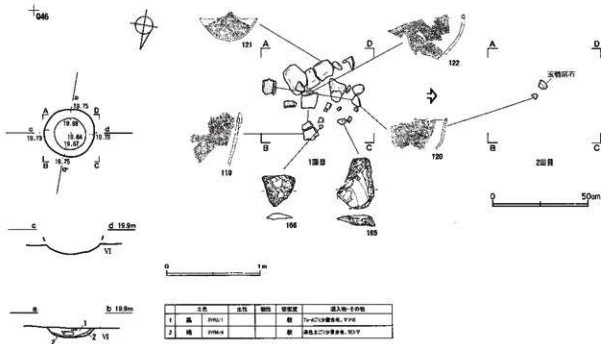
掲載遺物：なし。

(藤原)

LP-1

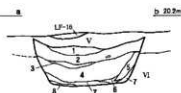
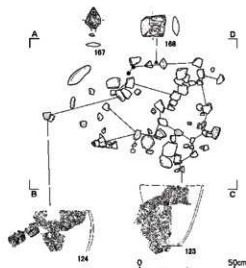
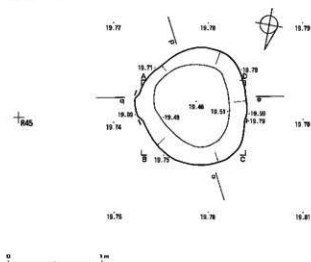


LP-2



図IV-54 LP-1・2

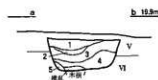
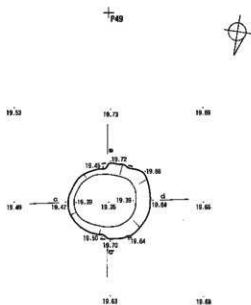
LP-3



土層	土名	地質	層構成	遺入物・その他
1	黒層	2000.1	壁	70-cCの遺構等, V層
2	黒	2000.2	壁	70-cの遺構等, V層
3	黒	2000.3	壁	70-b1aの遺構等, V層
4	黒	2000.4	壁	70-b2の70-cの遺構等, V層
5	砂礫層	2000.5	壁	70-cの遺構, V層
6	砂礫層	2000.6	壁	70-b2の70-cの遺構の埋没土の砂礫層, 埋没土
7	砂礫層	2000.7	壁	70-cの70-cの遺構の埋没土の砂礫層, 埋没土
8	砂礫層	2000.8	壁	70-cの70-cの遺構の埋没土の砂礫層, 埋没土



LP-6

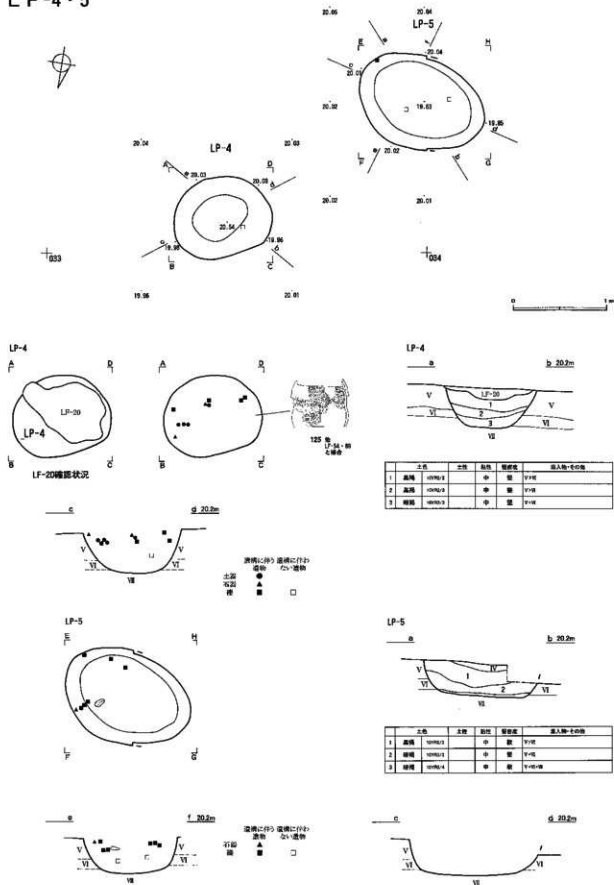


土層	土名	地質	層構成	遺入物・その他
1	黒	2000.1	壁	70-a層
2	黒	2000.2	壁	70-b層, 70-c層
3	黒	2000.3	壁	70-cの遺構等, V層
4	黒	2000.4	壁	70-cの遺構等, V層
5	黒	2000.5	壁	70-b2の70-c, V層



図IV-55 LP-3・6

LP-4・5



図IV-56 LP-4・5

3 V層の遺構と出土遺物

LP-7 (図IV-57、図版59)

位置・立地：P48、調査区西側の標高19.4mの河岸段丘上。

規模：(0.69/0.60) × (0.66/0.55) × 0.08m 長軸方向：— 平面形：円形

確認・調査・土層：VI層上面まで掘り下げた際に円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積で、LP-8に隣接している。位置や形状などからLP-6～8は関連する一連の遺構と推測される。重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：不明である。

時期：LP-6～8は同時期と推測されることから、縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構である可能性がある。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LP-8 (図IV-57、173-169、図版59・119)

位置・立地：P47・48、O47・48、調査区西側の標高19.4mの河岸段丘上。

規模：(0.63/0.50) × (0.62/0.45) × 0.11m 長軸方向：— 平面形：円形

確認・調査・土層：VI層上面まで掘り下げた際に円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積で、LP-7に隣接している。位置や形状などからLP-6～8は関連する一連の遺構と推測される。重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：覆土中からピエス・エスキーユ1点が出土した。

性格：不明である。

時期：LP-6～8は同時期と推測されることから、縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構である可能性がある。

(藤原)

掲載遺物

石器：169はピエス・エスキーユである。黒曜石製である。裏面右側縁には横方向からの剥離がみられるが、すべて上下方向からの剥離により切られている。

(坂本)

LP-9 (図IV-57、図版60)

位置・立地：P42、調査区西側の標高19.8mの河岸段丘上。

規模：(0.98/0.79) × (0.89/0.69) × 0.20m 長軸方向：N-75°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を25cmほど掘り下げた際に楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。一部の壁は木根攪乱により不明瞭であった。覆土はTa-dの混じる自然堆積である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は若干くぼむ皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中からⅢ群b類土器21点、礫1点が出土した。

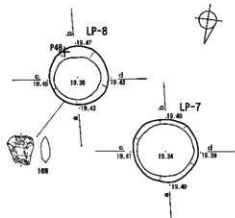
性格：不明である。

時期：覆土中出土の土器から、縄文時代中期後半の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LP-7・8



土名	土層	形状	層数	遺人跡・中心点
1	黒土	円形	1	7c-10遺人跡、V10

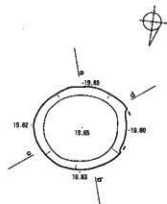


土名	土層	形状	層数	遺人跡・中心点
1	黒土	円形	1	7c-10遺人跡、V10

0 1m

LP-9

+P42

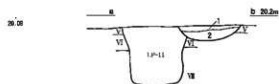
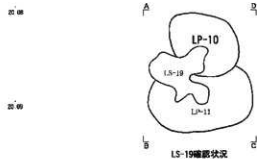
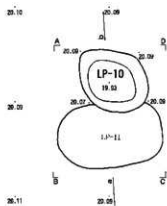


土名	土層	形状	層数	遺人跡・中心点
1	黒土	円形	1	V10遺人跡
2	黒土	円形	1	7c-10遺人跡、V10
3	埋砂層	円形	1	7c-10遺人跡、7c-10埋砂層、C、100-101、V
4	埋砂層	円形	1	7c-10遺人跡、V10



0 1m

LP-10



土名	土層	形状	層数	遺人跡・中心点
1	黒土	円形	1	中・中継
2	埋砂層	円形	1	約2-4m埋砂層、埋砂層、V10

0 1m

図IV-57 LP-7~10

LP-10 (図IV-57、図版60)

位置・立地：M32、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(0.84/0.56) × (0.66/0.43) × 0.17m 長軸方向：N-60°-W 平面形：卵形

確認・調査・土層：V層中位で礫集中と黒褐色土の落ち込み2か所を確認した。掘り込み面はV層中位で、覆土は自然堆積と考える。LS-19はLP-10・11の上面に一部が重なるが、LP-10の1層から被熱した礫が出土していることから、LP-10に伴うものとする。

重複関係：LP-11より新しい。LS-19はLP-10から礫を掻きだしたものの可能性がある。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：1層から、フレイク2点、礫2点、礫片3点(被熱1点)、2層からフレイク2点が出土した。

性格：LS-19が伴うものと考え、浅い土坑に加熱した礫を入れ込んだ施設と考える。

時期：確認面と周辺の包含層出土遺物から縄文時代中期後半～後期中葉である。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-11 (図IV-58、図版60・61)

位置・立地：M32、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(1.12/0.80) × ((0.70)/0.48) × 0.66m 長軸方向：N-83°-W 平面形：隅丸長方形

確認・調査・土層：V層中位で礫集中と黒褐色土の落ち込み2か所を確認した。掘り込み面はV層中位で、覆土は埋め戻しと考える。4層は遺体層と考える。

重複関係：LP-10、LS-19より古い。LS-19はLP-10・11の上面に一部が重なるが、LP-10の1層から被熱した礫が出土していることから、LP-10に伴うものと考え、本遺構には関連しないと考える。覆土中の遺物は伴わないと考える。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がったあとオーバーハングし、VII層上面付近から丸みを帯びて広がる。

遺物出土状況：1層からI群b-3類土器7点、礫2点(被熱1点)、3層からI群b-3類土器1点が出土した。

性格：形状と堆積状況から墓坑と考える。

時期：確認面と形状、周辺の包含層出土遺物から縄文時代中期後半～後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-12 (図IV-58、173-170・171、図版61・119)

位置・立地：N28、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：(1.00/0.42) × (0.94/0.39) × 0.27m 長軸方向：- 平面形：円形

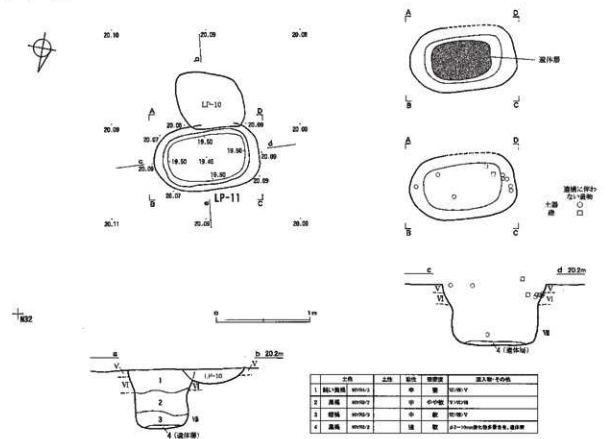
確認・調査・土層：V層下位で黒褐色土の落ち込みを確認した。掘り込み面はV層中位で、覆土は埋め戻しと考える。覆土上部から剥片石器・フレイクがまとまって出土した。フレイクは頁岩が中心で、大きさは4～6cm程度のやや大きめのものである。遺構内で接合を試みたが、接合するものはなかった。大きさがそろっていることと接合結果から、選んで持ち込まれた可能性がある。

重複関係：なし。

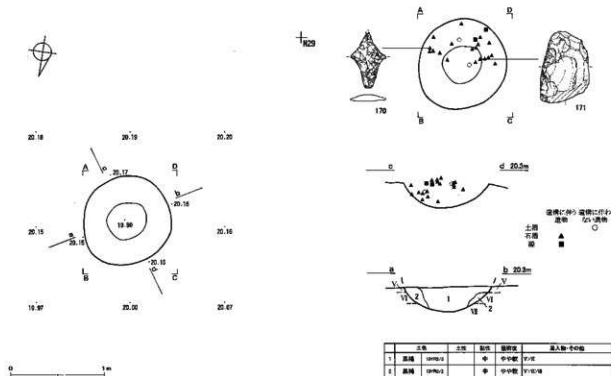
坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：1層からIV群a類土器1点、石槍1点、ヘラ状石器1点、Rフレイク1点、フレイク20

LP-11



LP-12



図IV-58 LP-11・12

3 V層の遺構と出土遺物

点(頁岩15点)、黒曜石製の原石1点、礫1点、礫片1点、2層からIV群b類土器1点が出土した。

性格: 堆積状況と遺物出土状況から墓坑の可能性はある。

時期: 確認面と出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉と考える。(佐藤)

掲載遺物

石器: 掲載した2点は覆土から出土している。170が黒曜石製、171が頁岩製である。170は石槍である。有茎でカエシは強く張り出し十字形を呈す。薄手で丁寧に整形されている。171はヘラ状石器である。正裏面に連続的な調整が施され、縁部付近が斜めとなる素材形状を利用して刃部は両刃となっている。刃部角は末端65°、左側縁85°を測る。(坂本)

LP-14 (図IV-59、図版61)

位置・立地: Q40, 調査区西側の標高19.6mの河岸段丘上。

規模: (0.57/0.44) × (0.49/0.35) × 0.17m 長軸方向: N-37°-E 平面形: 楕円形

確認・調査・土層: V層を20cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。礫の充填している小土坑で、セクション図は作成できなかった。礫は4回にわたって取り上げた。

重複関係: 重複する遺構は無い。

坑底・壁面: 坑底面は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況: 覆土中から焼成を受けた礫・礫片324点がびっしりと詰まった状態で出土した。また、礫と礫の間からは炭化物も多く検出された。礫・礫片は砂岩196点、泥岩92点、チャート19点、片岩10点、玄武岩3点、安山岩2点、玉髄・珪岩各1点がある。

性格: V層を掘りくぼめて礫をまとめその上で火を焚いたもの、もしくは焼いた礫をくぼみにまとめたものであろう。

時期: 検出層位および周辺出土の土器から、縄文時代中期後半の遺構と推測される。

掲載遺物: なし。(藤原)

LP-15 (図IV-59、図版61・62)

位置・立地: O・P41, 調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模: (1.16/0.91) × (0.97/0.79) × 0.39m 長軸方向: N-83°-W 平面形: 楕円形

確認・調査・土層: V層を10cmほど掘り下げた際に礫1点を確認した。その周囲の土色がやや明るくしまりも弱めであったため、調査区に沿ってトレンチを入れたところ、VI層上面でプランが確認できた。断面観察からV層上面から10cmほど下位が掘りこみ面であると推測される。覆土はTa-dの混じる人為的埋戻しである。

重複関係: 重複する遺構は無い。

坑底・壁面: 坑底面は平らで、壁面は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況: 土坑中央の坑口部から砂岩の大型礫1点が出土した。

性格: 坑口部の礫出土状況および埋戻しであることから、墓坑の可能性はある。

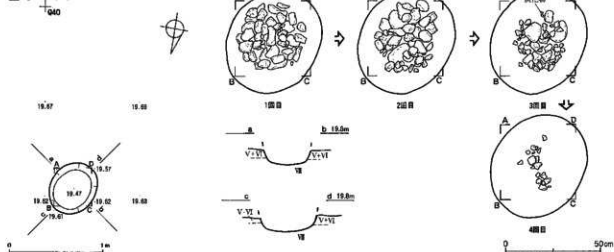
時期: 掘り込み面および周辺出土の土器から、縄文時代晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物: なし。(藤原)

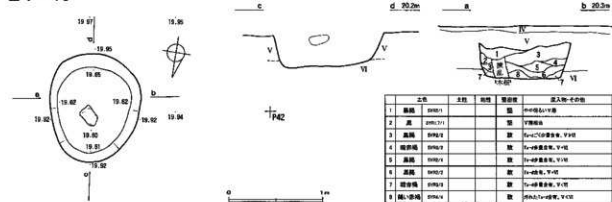
LP-16 (図IV-59、図版62)

位置・立地: P39, 調査区中央の標高19.6mの河岸段丘上。

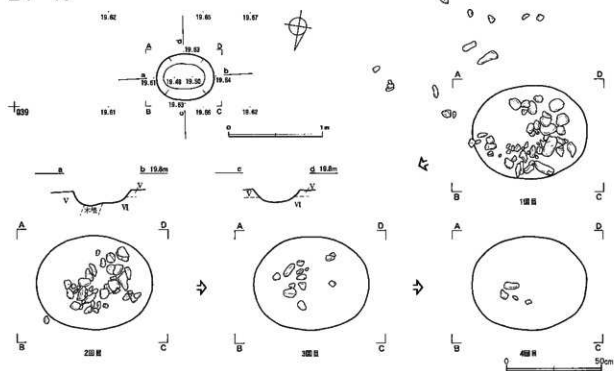
LP-14



LP-15



LP-16



図IV-59 LP-14~16

3 V層の遺構と出土遺物

規模：(0.61/0.44) × (0.50/0.26) × 0.17m 長軸方向：N-79°-E 平面形：楕円形
確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。礫の充満している小土坑で、セクション図は作成できなかった。礫は4回にわたって取り上げた。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から焼成を受けた礫・礫片149点がまとまって出土した。この内の1点には加工痕が認められた。また、炭化物も多く検出された。礫・礫片は砂岩100点、頁岩18点、チャート12点、泥岩6点、片岩5点、礫岩3点、安山岩・珪岩各2点、軽石1点がある。

性格：V層を掘りくぼめて礫をまとめその上で火を焚いたもの、もしくは焼いた礫をくぼみにまとめたものであろう。

時期：周辺出土の土器から、縄文時代後期中葉もしくは晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。 (藤原)

LP-17 (図IV-60、図版62)

位置・立地：J32・J・K33、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：(0.46/0.32) × (0.33/0.32) × 0.12m 長軸方向：N-52°-W 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層下位で礫のまとまりを確認した。その後精査を行い、黒褐色土のまとまりを確認したため、本来は土坑内に礫があったと考える。覆土は自然堆積である。

重複関係：なし。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：本来は覆土中と考えるV層3回目から礫20点(すべて被熱)、礫片9点(被熱4点)が出土した。礫・礫片は砂岩16点、泥岩12点、片麻岩1点がある。

性格：浅い土坑に加熱した礫を入れ込んだ施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代中期後半～晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

LP-18 (図IV-60、図版62)

位置・立地：L33、調査区中央の標高19.5mの河岸段丘上。

規模：(0.52/0.39) × (0.32/0.20) × 0.14m 長軸方向：N-65°-W 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を25cmほど掘り下げた際に礫がまばらにまとまっており、その礫を取り上げるとややずれた位置に黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はTa-dの混じる自然堆積である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は皿状で、壁面は急角度で立ち上がる。

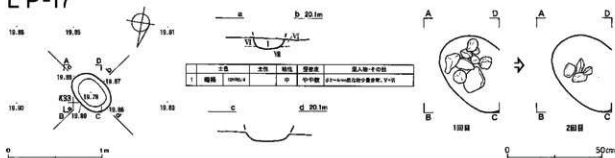
遺物出土状況：坑口部から焼成を受けた礫・礫片46点がまとまって出土した。また、炭化物も検出された。礫・礫片は砂岩40点、泥岩・礫岩各2点、珪岩・チャート各1点がある。

性格：V層を掘りくぼめて礫をまとめその上で火を焚いたもの、もしくは焼いた礫をくぼみにまとめたものであろう。土坑と礫の位置がずれているのは礫を掻き出したためと推測される。

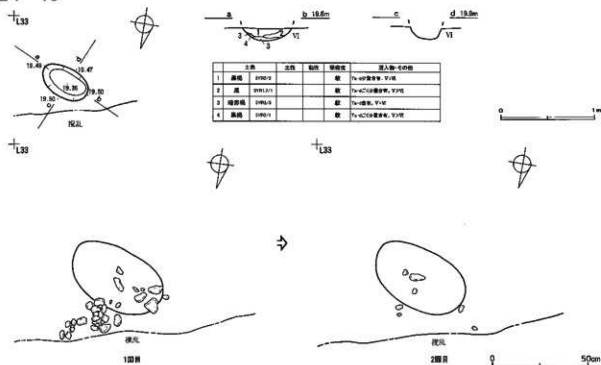
時期：周辺出土の土器から、縄文時代後期中葉もしくは晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。 (藤原)

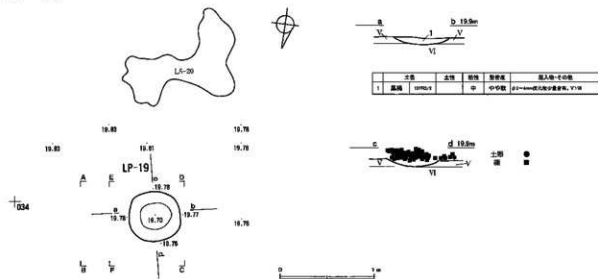
LP-17



LP-18



LP-19



図IV-60 LP-17~19

LP-19 (図IV-60・61、図版62・63)

位置・立地：N・O34、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：(0.55/0.33) × (0.53/0.28) × 0.19m 長軸方向：— 平面形：円形

確認・調査・土層：V層中位で礫集中と黒褐色土の落ち込み2か所を確認した。掘り込み面はV層中位で、覆土は自然堆積と考える。LS-20はLP-19の上面に一部が重なり、LP-19の1層から被熱した礫が出土していることから、LP-19に伴うものと考えられる。

重複関係：LS-20はLP-19から礫を掻きだしたものの可能性がある。

坑底・壁面：坑底面は丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：1層から、IV群b類土器3点、V群a類土器1点、V群c類16点、フレイク3点、礫99点(77点)、礫片84点(被熱63点)が出土した。礫・礫片は砂岩155点、チャート14点、泥岩10点、珪岩3点、片岩1点がある。

性格：LS-20が伴うものと考え、浅い土坑に加熱した礫を入れ込んだ施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代後期中葉～晩期後葉である。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-22 (図IV-61、174-172・173、図版63・120)

位置・立地：Q13、調査区東側、標高20.2m程の河岸段丘上。

規模：(1.76/1.35) × (1.27/0.97) × 0.18m 長軸方向：N-47°-W 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：Q13区のV層を15cm程掘り下げた面で、10cm大の被熱礫で主に構成された礫集中を確認した。トレンチ調査の結果、VII層を5～10cm程度まで掘り込んだ土坑であることを認めた。周囲を数cm掘削し、VI層上面を検出した状態で土坑のプランを確認した。また、礫の多くは確認した覆土の上面～上位で出土した。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は凹凸があり、不安定なものであった。北西側が全体よりも5cmほど深く掘り込まれていた。壁面は緩やかに立ち上がる。礫の出土位置から、土坑の掘り込みは構築面から20～30cm程度の深さであると考えられる。

遺物出土状況：石器は敲石2点、礫は、礫25点、礫片109点、計134点出土した。出土遺物136点の内、被熱するものは115点あり、86%に及ぶ。礫片は89%が被熱していた。石器・礫の石材は、砂岩・泥岩が97点、チャートが30点を占める。

性格：加熱した礫を浅い掘り込みに投入して利用した施設と考えられる。

時期：掘り込み面および周辺出土の遺物から、縄文時代中期後半、もしくは縄文時代晩期前葉の可能性はある。

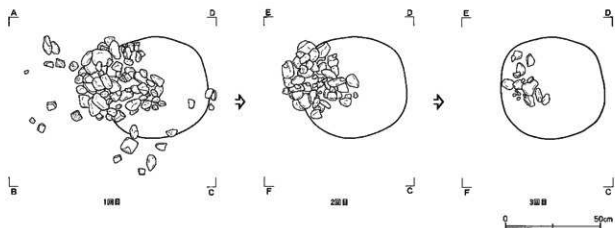
掲載遺物

石器：敲石2点を掲載した。2点とも覆土から出土している。石材は172が安山岩、173が砂岩である。172は拳大の円礫を素材とし、平端面中央部に敲打痕が観察される。片側縁が緩やかに湾曲するのに対し、逆側縁はくの字状に突出している。173は棒状礫を素材とし、幅広い上半部側に敲打痕が観察される。

(坂本)

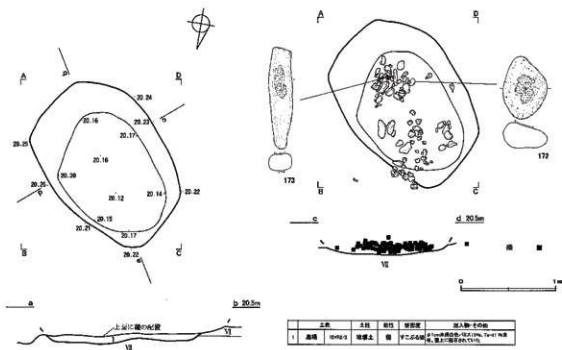
LP-24 (図IV-61、図版63)

位置・立地：P・Q9、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

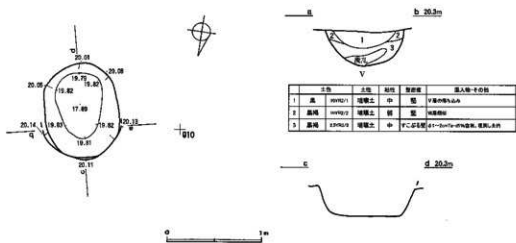


LP-22

†G13



LP-24



図IV-61 LP-19・22・24

3 V層の遺構と出土遺物

規模：(1.02/0.80) × (0.84/0.34) × 0.37m 長軸方向：N-15°-W 平面形：楕円形
確認・調査・土層：P9区をVI層まで掘り下げた際に、黒色土の落ち込みを確認した。Qラインに沿って半截した結果、Q9区にまたがる土坑であることが判明した。断面観察から構築面はV層上面から15cmほど下位である。覆土は、上位が黒色土の自然堆積、下位がTa-dの小ブロックが混ざる人為堆積と考えられる。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は湾曲するが、長軸方向ではほぼ水平に構築されている。一部に木根の攪乱がある。壁面はやや急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：不明である。

時期：掘り込み面および周辺出土の遺物から、縄文時代中期後半の可能性はある。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LP-25 (図IV-62, 174-174, 図版64・120)

位置・立地：P14・15、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

規模：(1.72/1.06) × (1.16/0.58) × 0.77m 長軸方向：N-52°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：P15区のV層を15cm程掘り下げた面で、黒褐色土の落ち込みを検出した。15ラインに沿ってベルトを設定し、半截掘削をおこない土坑であることを確認した。ベルトを残置し、P14区をVI層上面まで掘り下げ、風倒木痕を一部掘り込んで構築された土坑プランを確認した。坑底面確認のため、全体を掘り下げたが、壁面と坑底を構成するVII層の堆積が脆弱で、覆土中の崩落土と土性が酷似し、区分が非常に困難な状態であった。そのため、坑底面と覆土の判断は、堅密度を基準とした。厚く堆積した崩落土を坑底と誤認し、掘り抜いていない可能性があり、あるいはTピットであったかもしれない。形状・規模はTP-4・7・10の坑底に杭穴状ピットを有するタイプに類似している。

覆土は、上位がTa-dブロックを多量に含有する人為堆積土、下位が流入・崩落による自然堆積土と考えられる。覆土上位層には黒曜石のフレイク・チップが多量に包含されていた。遺構周辺のP14・15区、Q15・16区では、V層を10cm前後掘り下げた高さから1,700点に及ぶ多量の黒曜石製フレイクが出土している。LP-25のフレイクはこれらの一部が混入したものと考えられる。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底は凹凸があり、不安定である。崩落土を誤認した可能性がある。壁は急角度に立ち上がり、坑口付近で緩やかに広がりをみせる。

遺物出土状況：土器はⅢ群b類2点、石器は両面調整石器2点、Rフレイク5点、フレイク727点が出土しており、全て人為堆積と捉えられる上位層（1～3層）から出土している。

性格：Tピットの可能性はある。

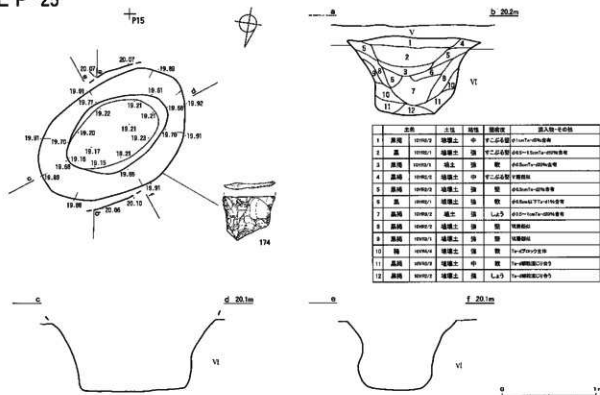
時期：縄文時代中期後半もしくは中期後半より若干古い時期と考えられる。

掲載遺物

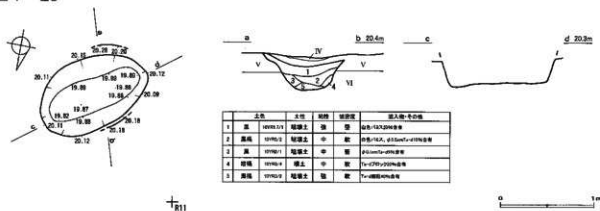
石器：174は両面調整石器である。薄手に整形しているが、裏面左下端からの剥離が原因で上半部を破損している。

(坂本)

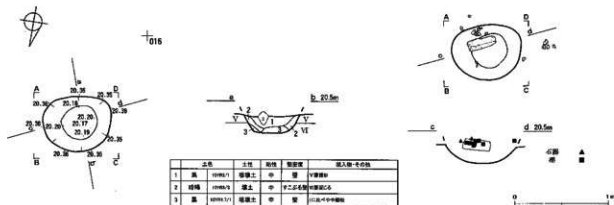
L P-25



L P-28



L P-29



図IV-62 LP-25・28・29

3 V層の遺構と出土遺物

LP-28 (図IV-62、図版64)

位置・立地：Q10、調査区東側、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模：(1.22/1.03) × (0.76/0.36) × 0.46m 長軸方向：N-58°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層上面の精査時にIV層(Ta-c)の落ち込みを確認した。土層観察のためベルトを設定し、周囲を15cm掘り下げてプラン確認した。断面観察の結果、構築面はV層上面から5cmほど下位に認められた。覆土は、上位が黒色土の自然堆積、下位がTa-dの小ブロックが混ざる人為堆積と考えられる。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は凹凸があり、やや湾曲する。坑底東側が7cmほど深く掘り込まれている。壁面はやや急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：不明である。

時期：掘り込み面および周辺出土の遺物から、縄文時代晩期前葉の可能性がある。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LP-29 (図IV-62、図版64・65)

位置・立地：O15、調査区東側、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：(0.73/0.38) × (0.60/0.35) × 0.19m 長軸方向：N-65°-E 平面形：不整形

確認・調査・土層：O15区はV層上位から中位が削平された状況であった。V層を5cmほど掘り下げた面で、黒色土の落ち込みの中に長さ30cmを超える砂岩製の角礫と礫のまとまりを確認した。また、周囲にはプラン確認面より若干上位に小礫のまとまりや、黒曜石製のフレイクの散在状況を確認した。さらに半截掘削により、土坑であることを確認した。構築面は検出面と遺物の出土状況から、V層中位と考えられる。覆土は、上位が黒色土を主体とするが、角礫などの配置から人為堆積の可能性がある。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面はおおむね平坦である。壁面は若干緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：石器は、石核1点、フレイク1点が出土している。石核は黒曜石製の小角礫片を素材とし、剥離作業は1回である。礫・礫片は22点出土し、20点が砂岩製であった。覆土中の礫片の多くは、角礫が自然破砕した際に生じたものと考えられる。石器・礫とも全て覆土上位～上面で出土している。

性格：不明である。

時期：構築面および周辺の出土遺物から、縄文時代晩期前葉の可能性がある。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LP-30 (図IV-63、図版65)

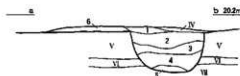
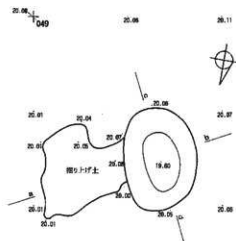
位置・立地：O49、調査区西側の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(1.09/0.52) × (0.78/0.38) × 0.47m 長軸方向：N-15°-W 平面形：楕円形

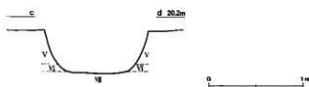
確認・調査・土層：V層上面でIV層の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しと考える。5層は遺体層の可能性もある。東側に堀上げ土を確認した。

重複関係：LP-31～34はいずれも同一の確認面で、土層の堆積状況も良く似ており、土坑群葬の可

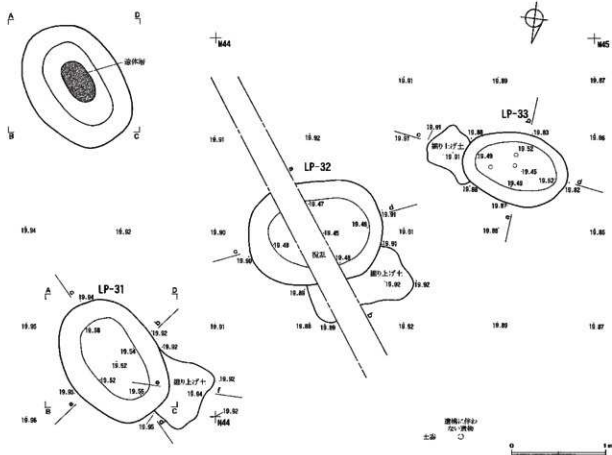
LP-30



工点	工法	層位	発見品	遺物年代	遺物年代の推定
1	掘削	19000.0	埴土	中	中中群 (朝日ヶ丘遺跡A)
2	掘削	19000.0	埴土	中	中中群
3	掘削	19000.0	埴土	中	中中群
4	掘削	19000.0	埴土	中	中中群
5	掘削	19000.0	埴土	中	中中群
6	掘削	19000.0	埴土	中	中中群



LP-31・32・33



図IV-63 LP-30~33

3 V層の遺構と出土遺物

能性がある。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がり、坑口部は直立気味になる。

遺物出土状況：覆土中から礫1点、礫片3点が出土した。

性格：堆積状況と周辺の遺構の状況から土坑墓と考える。

時期：確認面から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-31 (図IV-63・64、図版66)

位置・立地：M44、調査区西側の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(1.38/0.95) × (0.99/0.52) × 0.43m **長軸方向**：N-46°-W **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：V層上面でIV層の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しと考える。4層は遺体層と考える。西側に堀上げ土を確認した。

重複関係：LP-31~34はいずれも同一の確認面で、土層の堆積状況も良く似ており、土坑墓群の可能性はある。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がり、坑口部は直立気味になる。

遺物出土状況：覆土中から礫1点、礫片3点が出土した。

性格：堆積状況と周辺の遺構の状況から土坑墓と考える。

時期：確認面から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-32 (図IV-63・64、図版67)

位置・立地：M44、調査区西側の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：(1.44/1.00) × (1.14/0.87) × 0.46m **長軸方向**：N-53°-E **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：V層上面でIV層の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しと考える。中央部が攪乱を受けている。北側に堀上げ土を確認した。

重複関係：LP-31~34はいずれも同一の確認面で、土層の堆積状況も良く似ており、土坑墓群の可能性はある。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がり、坑口部は直立気味になる。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：堆積状況と周辺の遺構の状況から土坑墓と考える。

時期：確認面から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

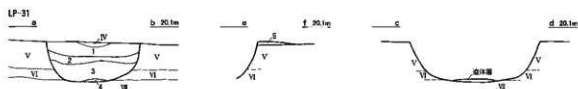
LP-33 (図IV-63・64、図版67)

位置・立地：M44、調査区西側の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：(1.13/0.87) × (0.77/0.51) × 0.43m **長軸方向**：N-87°-E **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：V層上面でIV層の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しと考える。東側に堀上げ土を確認した。

重複関係：LP-31~34はいずれも同一の確認面で、土層の堆積状況も良く似ており、土坑墓群の可能性はある。



土層	土質	層位	層厚	遺入物・その他
1	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm
2	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm(7.0cm)
3	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm
4	黒褐色	硬土	中	中・中層 遺体遺体, 7.0cm
5	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm

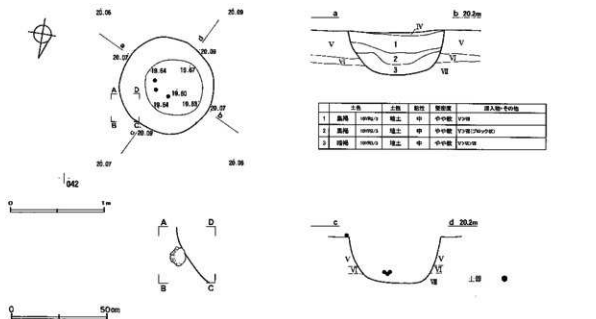


土層	土質	層位	層厚	遺入物・その他
1	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm
2	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm(7.0cm)
3	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm



土層	土質	層位	層厚	遺入物・その他
1	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm
2	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm(7.0cm)
3	黒褐色	硬土	中	中・中層 7.0cm

LP-34



図IV-64 LP-31~34

3 V層の遺構と出土遺物

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がり、坑口部は直立気味になる。

遺物出土状況：1層からV群c類土器3点が出土した。

性格：堆積状況と周辺の遺構の状況から土坑墓と考える。

時期：確認面から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-34 (図IV-64、図版67)

位置・立地：N42、調査区西側の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(1.04/0.58) × (1.00/0.61) × 0.50m **長軸方向**：— **平面形**：円形

確認・調査・土層：V層上面でIV層の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しと考える。坑口部と2層中から土器片が出土した。

重複関係：LP-31～34はいずれも同一の確認面で、土層の堆積状況も良く似ており、土坑墓群の可能性はある。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がり、坑口部は直立気味になる。

遺物出土状況：坑口部からV群c類土器1点、2層からV群c類土器3点が出土した。

性格：堆積状況と周辺の遺構の状況から土坑墓と考える。

時期：確認面から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-35 (図IV-65、図版68・69)

位置・立地：M20、調査区東側、標高20.0mほどの河岸段丘上。

規模：(1.30/0.95) × (1.13/0.59) × 0.63m **長軸方向**：N-9°-W **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：V層上面検出時に、Ta-cが円形に落ち込む状態を確認した。土層観察用のベルトを設定し、周囲を15cmほど掘り下げてプラン確認をおこない、LP-39と切り合う状態を認めた。

設定ベルトに沿ったトレンチ調査により、LP-35がLP-39を破壊して構築された状況を確認した。

構築面は土層観察結果からV層上面から5cmほど下位と考えられる。覆土は、Ta-dブロックを多量に含有し、人為堆積と考えられる。LP-35・39については、坑底下位50cm以上の深さまでトレンチ調査を行い、Tピットの可能性を検討した上で、土坑と判断した。

重複関係：LP-39を破壊し構築されている。

坑底・壁面：坑底面は凹凸が激しく、南東から北西方向に向かって傾斜している。壁はやや急角度に立ち上がるが、全体的に不整形であった。

遺物出土状況：土器はV群c類が7点、石器はRフレイク1点、フレイク1点が出土している。また、礫・礫片が5点出土している。

性格：不明である。

時期：LP-39より新しい時期に構築されている。掘り込み面および出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

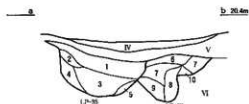
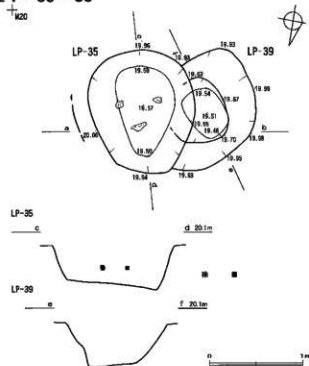
掲載遺物：なし。

(坂本)

LP-36 (図IV-65、図版68)

位置・立地：L23、調査区東側、標高19.9mほどの河岸段丘上。

LP-35・39



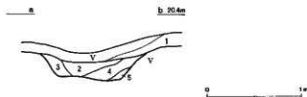
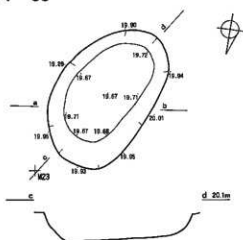
LP-35

層	土色	土性	形状	厚さ	遺入物・その他
1	黄褐色	粘壤土	中	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
2	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
3	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
4	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
5	褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘

LP-39

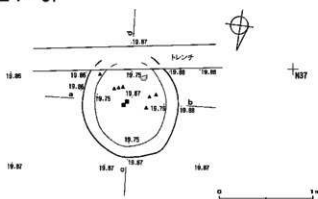
層	土色	土性	形状	厚さ	遺入物・その他
6	黄褐色	粘壤土	中	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
7	黄褐色	粘土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
8	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
9	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
10	褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘

LP-36



層	土色	土性	形状	厚さ	遺入物・その他
1	黄褐色	粘壤土	中	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
2	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
3	黄褐色	粘土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
4	黄褐色	粘土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘、鉄釘
5	黄褐色	粘壤土	厚	厚	鉄釘、鉄釘、鉄釘

LP-37



層	土色	土性	形状	厚さ	遺入物・その他
1	黄褐色	粘壤土	中	厚	鉄釘、鉄釘



図IV-65 LP-35~37・39

3 V層の遺構と出土遺物

規模：(1.60/1.18) × (1.04/0.67) × 0.40m 長軸方向：N-33°-E 平面形：楕円形
確認・調査・土層：V層上面検出時に、Ta-cが楕円形に落ち込む状態を確認した。土層観察用のベルトを設定し、周囲を15cmほど掘り下げてプラン確認をおこなった。半截掘削により坑底を確認し、掘り込み40cm弱の浅い土坑と判断した。構築面は土層観察結果からV層上面から10cmほど下位と考えられる。また、土坑の西側には、掘上げ土とみられる土の堆積（1層）を確認した。覆土は、Ta-dブロックを多く含有するが、周囲の掘上げ土が流入した自然堆積と考えられる。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底面は若干凹凸が認められる。壁はやや急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：不明である。

時期：構築面と周辺の出土遺物から、縄文時代晩期前葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LP-37 (図IV-65、図版68)

位置・立地：M・N36、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(1.03)/0.84) × (1.02/0.77) × 0.22m 長軸方向：N-49°-W 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は自然堆積と考える。1層上部でフレイク、礫片が出土した。

重複関係：なし。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：1層上部からフレイク6点、礫片4点が出土した。

性格：不明である。

時期：確認面および周辺の包含層出土遺物から縄文時代中期後半～晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LP-38 (図IV-66、155-126・127、図版69・106・121)

位置・立地：O42、調査区西側の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(0.73/0.42) × (0.56/0.28) × 0.12m 長軸方向：N-71°-W 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層上面で暗褐色土のまとまりと細かい土器片を主体とする遺物集を確認した。暗褐色土と遺物集中を取り除くと黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は均質で埋め戻しの可能性がある。暗褐色土中には遺物が多く含まれることから、暗褐色土のまとまりと遺物集中の形成は同時であると考える。

重複関係：なし。

坑底・壁面：坑底面はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：暗褐色土中からV群c類土器684点、Rフレイク1点、ピエス・エスキーユ1点、フレイク45点、礫13点、礫片7点、1層上部からフレイク15点、礫4点、礫片3点が出土した。

性格：不明である。

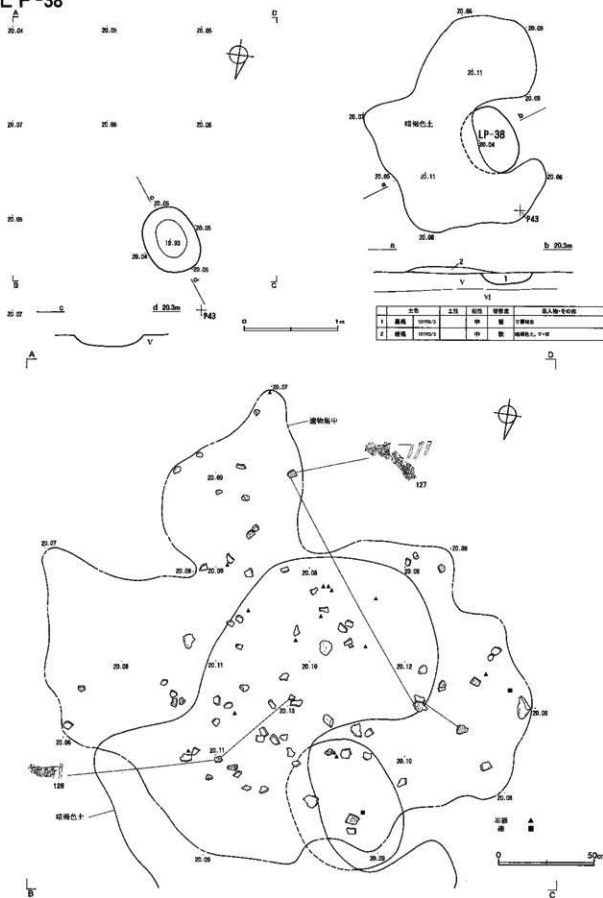
時期：暗褐色土出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：126は深鉢または鉢の口縁部。127は浅鉢。すべてタンネットウL式。

(佐藤)

LP-38



図IV-66 LP-38

3 V層の遺構と出土遺物

石器：写真図版にRフレイク（193）を掲載した。193は剥片素材で、表面の加工は軽微である。石器の原材の可能性ある。(坂本)

LP-39 (図IV-65、図版69)

位置・立地：M20、調査区東側、標高19.9mほどの河岸段丘上。

規模：(1.26/0.39) × (1.04/0.48) × 0.50m 長軸方向：N-44°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層上面検出時に、Ta-cが円形に落ち込む状態を確認した。土層観察用のベルトを設定し、周囲を15cmほど掘り下げてプラン確認をおこない、LP-35と切り合う状態を認めた。

設定ベルトに沿ったトレンチ調査により、LP-39がLP-35によって破壊された状況を確認した。壁面と坑底を構成するVII層の堆積が脆弱で、覆土中の崩落土と土性が酷似し、区分が非常に困難な状態であった。そのため、坑底面と覆土の判断は、堅密度を基準とした。構築面は土層観察結果からV層上面から20cmほど下位と考えられる。覆土は、Ta-dブロックを多量に含有し、乱れた状態であった。LP-35・39については、坑底下位50cm以上の深さまでトレンチ調査を行い、Tピットの可能性を検討した上で、土坑と判断した。

重複関係：LP-35により破壊されている。

坑底・壁面：坑底面は狭く凹凸が激しい。壁は急角度に立ち上がるが、中位から坑口に向かって緩やかに立ち上がる。全体的に不整形であった。

遺物出土状況：土器はV群c類が1点、石器はフレイク1点が出土している。

性格：不明である。

時期：LP-35より古い時期に構築されている。掘り込み面から、縄文時代晩期後葉以前と考えられる。

掲載遺物：なし。(坂本)

LP-41 (図IV-67、図版69・70)

位置・立地：N25・26、調査区中央、標高20.1mほどの河岸段丘上。

規模：(0.47/0.25) × (0.38/0.16) × 0.14m 長軸方向：N-43°-W 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げ、V層下位～VI層上面まで検出した際に、黒褐色土の楕円形の落ち込みを認めた。黒褐色土中には礫が密集し、半截掘削の結果、覆土中に礫が折り重なるように出土する状況を確認した。土坑の掘り込みは10cm前後と浅く、礫は覆土上位に包含されていた。遺構の検出状況および礫の出土状況から、構築面はV層の下位と考えられる。覆土は、VI層起源の暗黄褐色土ブロックを多く含有し、人為堆積と考えられる。

重複関係：LS-16が5cmほど上位に存在し、LP-41構築面はLS-16の分布面と捉えられる。両者は一連の遺構であろう。また、近接遺構LS-15・LP-42も同様の関係を有するとみられる。

坑底・壁面：坑底面は若干凹凸が認められる。壁はやや急角度に立ち上がる。浅鉢状の形態を呈する。

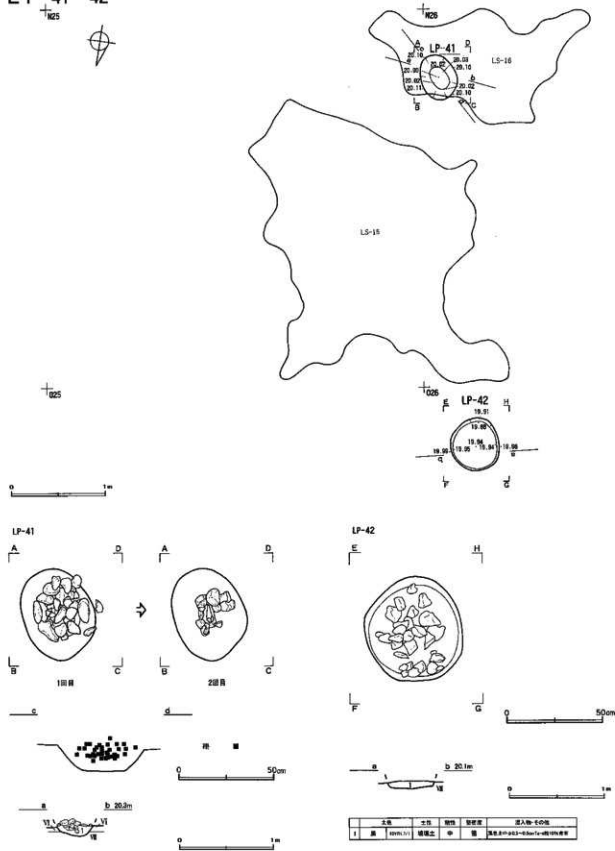
遺物出土状況：礫9点、礫片34点、計43点が出土している。礫・礫片の岩石種類は砂岩42点、チャート1点である。また39点が被熱していた。

性格：浅い土坑に加熱した礫を投入して使用した施設と考えられる。

時期：構築面と周辺の出土遺物からは、縄文時代中期後半もしくは後期前葉の可能性があるが、LP-42、LS-15・16と同時期とみられ、中期後半と考えられる。

掲載遺物：なし。(坂本)

LP-41・42



図IV-67 LP-41・42

3 V層の遺構と出土遺物

LP-42 (図IV-67、図版70)

位置・立地：O26、調査区中央、標高20.0mほどの河岸段丘上。

規模：(0.56/0.50) × (0.53/0.47) × 0.08m 長軸方向：— 平面形：円形

確認・調査・土層：VI層上面を検出した際に、黒色土の円形の落ち込みを認めた。黒色土中には礫が折り重なるように密集して出土した。遺構の検出状況および礫の出土状況から、構築面はV層の下位と考えられる。土坑の掘り込みは10cm未満と浅く、礫は覆土上位に包含されていた。覆土はTa-dブロックを多く含有し、人為堆積と考えられる。

重複関係：LS-15が8cmほど上位に存在し、LP-42構築面はLS-15の分布面と捉えられる。両者は一連の遺構であろう。また、近接遺構LS-16・LP-41も同様の関係を有するとみられる。

坑底・壁面：坑底面は若干凹凸が認められるがおおむね平坦である。壁はやや急角度に立ち上がる。浅皿状の形態を呈する。

遺物出土状況：礫5点、礫片29点、計34点が出土している。礫・礫片の岩石種類は砂岩31点、チャート3点である。また31点が被熱していた。

性格：浅い土坑に加熱した礫を投入して使用した施設と考えられる。

時期：構築面と周辺の出土遺物からは、縄文時代中期後半もしくは後期前葉の可能性があるが、LP-41、LS-15・16と同時期と捉えられ、中期後半と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

(3) Tピット

TP-1 (図IV-68、図版71)

位置・立地：P・Q18、調査区東側の標高19.5mの河岸段丘上。

規模：(3.34/3.13) × (1.05/0.22) × 1.53m 長軸方向：N-72°-E 平面形：溝形

確認・調査・土層：V層上面で平坦面を検出した。住居跡を想定し調査区壁面に沿ってトレンチを入れたところ、黒色土が深くまで落ち込んでいることが分かった。Tピットの可能性を考え、VI層上面まで掘り下げた際に、溝状の黒色土の落ち込みを確認した。覆土はTa-dバミスの多く混じる自然堆積である。

重複関係：中期後半頃の住居跡LH-4に切られている。

坑底・壁面：坑口部はTa-dの崩落が著しく、大きく広がっているが、En-a以下はほとんど崩落が認められず幅が狭い。坑底部は平坦で、壁面は下位が垂直気味に、上位は広がって立ち上がっており、北側は若干オーバーハンクしている。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：落とし穴である。

時期：重複関係から後期前葉以前であり、周辺出土の土器から、縄文時代中期後半、北筒式の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

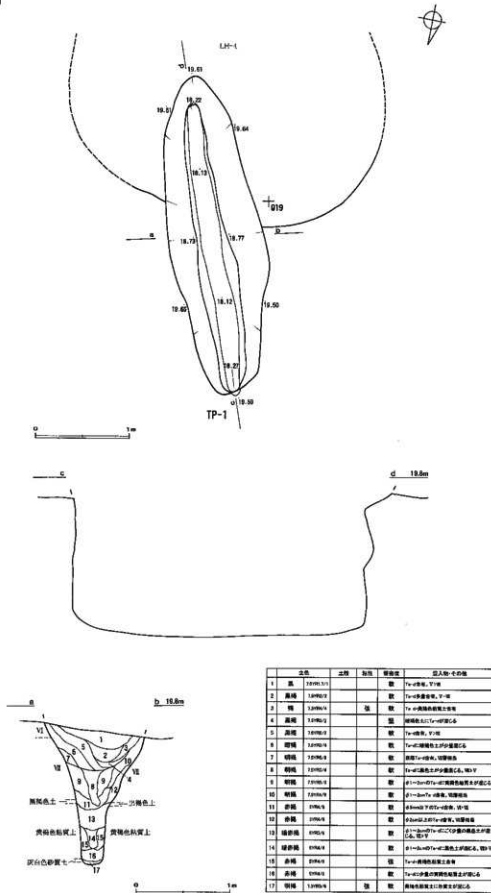
TP-2 (図IV-69、156-128~130、図版71・106)

位置・立地：P23・24、調査区東側の標高19.5mの湾入部河岸段丘上。

規模：(3.40/2.93) × (1.29/0.21) × 1.82m 長軸方向：N-89°-W 平面形：溝形

確認・調査・土層：LS-23調査中に黒色土の落ち込みを確認した。LS-23はTP-2が完全に埋まり

TP-1



図IV-68 TP-1

3 V層の遺構と出土遺物

切らない窪地を利用したものと推測される。断面観察によると掘りこみ面はV層上面から15cmほど下位である。覆土はTa-dバミスの多く混じる自然堆積である。

重複関係：Ⅲ層の土坑UP-3に切られる。また、TP-2廃絶後にLS-23が形成された。

坑底・壁面：坑口部はTa-dの崩落が著しく、大きく広がっているが、En-a以下はほとんど崩落が認められず幅が狭い。坑底部は平坦で、壁面は下位が垂直気味に、上位は広がって立ち上がっており、北側はオーバーハングしている。

遺物出土状況：覆土1層から焼成を受けた礫が90点出土した。これらはLS-23に関連するものである。この他に、V群a類土器104点、フレイク2点が出土した。土器はL遺物集中-104と接合関係がある。

性格：落とし穴である。

時期：LS-23は後期初頭であるから、それ以前である。掘り込み面および周辺出土の土器から、縄文時代中期後半、北筒式頃の遺構と推測される。

(藤原)

掲載遺物

土器：128は深鉢。129は鉢。130は深鉢または鉢の底部。すべてタンネットウL式。

(佐藤)

TP-3 (図IV-70, 174-175, 図版72・120)

位置・立地：P・Q42・43、調査区西側の標高19.7mの河岸段丘上。

規模：(3.12/1.38) × (1.04/0.14) × 2.96m **長軸方向**：N-53°-W **平面形**：溝形

確認・調査・土層：VI層上面まで掘り下げた際に、溝状の黑色土の落ち込みを確認した。覆土はTa-dバミスの多く混じる自然堆積である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑口部はTa-dの崩落が著しく、大きく広がっているが、En-a以下はほとんど崩落が認められず幅が狭い。坑底部はゆるやかにくぼんでおり、壁面は下位が垂直気味に、上位は広がって立ち上がっている。

遺物出土状況：覆土上位からⅢ群b類土器1点、敲石1点が出土した。

性格：落とし穴。

時期：時期判別が可能な遺物が出土していないため不明である。TP-1・2と形状・長軸方向などが類似していることから、ほぼ同様の時期で、縄文時代中期後半の遺構と推測される。

(藤原)

掲載遺物

石器：175は敲石である。扁平礫を素材とし、幅広い平坦面の長軸上に敲打痕が観察される。覆土上位の自然堆積層から出土している。

(坂本)

TP-4 (図IV-70, 図版72)

位置・立地：K・L28、調査区中央の標高20.0mの河岸段丘上。

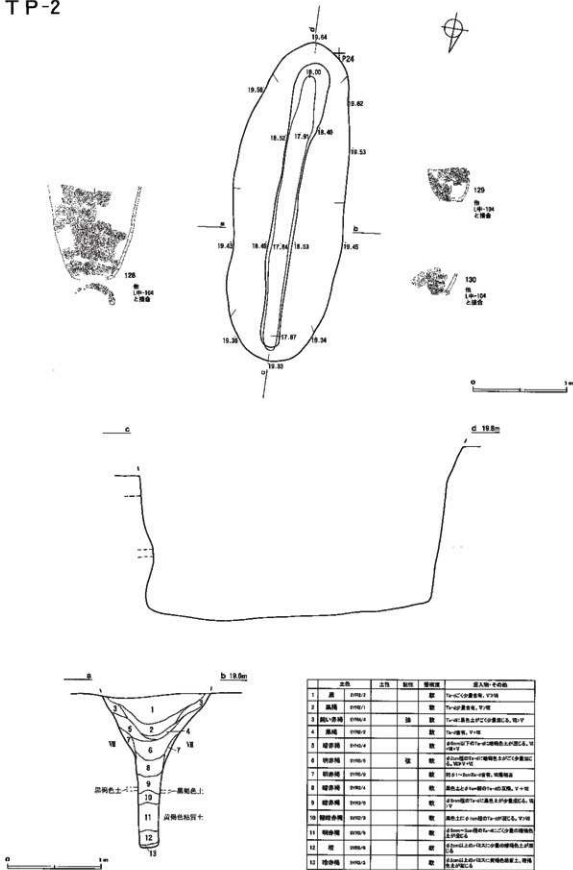
規模：(1.38/0.76) × (1.00/0.21) × 1.22m **長軸方向**：N-64°-W **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：VI層上面まで掘り下げた際に、楕円形の黑色土の落ち込みを確認した。長軸方向に大きくトレンチを入れて半裁した。覆土はTa-dバミスの多く混じる自然堆積で、杭跡の痕跡も確認できた。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑口部はTa-dの崩落が著しく、大きく広がっている。坑底部は平坦で、壁面は緩やか

TP-2



図IV-69 TP-2

3 V層の遺構と出土遺物

に広がって立ち上がっている。また、坑底面に杭跡3ヶ所が確認され、このうち1ヶ所はほぼ同じ位置に刺し換えている。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：落とし穴である。

時期：遺物が出土していないため不明である。TP-1～3とは形状が異なっており、時期差があるものと推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

TP-5 (図IV-71、図版73)

位置・立地：N14、調査区東側、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模： $(0.42/0.22) \times (0.86/0.22) \times 1.02$ m **長軸方向**：N-35°-W **平面形**：溝形
確認・調査・土層：Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。調査区壁面を土層観察に利用し、半截掘削をおこなった。結果、深く掘り込まれた断面漏斗形の堆積状況を確認し、Tピットと判断した。調査区内部分が狭く、また調査工程の関係上、坑底を確認することができなかった。断面観察から、構築面はV層下位とみられる。覆土はTa-dの多く混じる自然堆積である。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：壁面は急角度に立ち上がる。坑底に向かって幅が狭まり溝状となることが考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：落とし穴

時期：構築面およびTP-1・2と形状・長軸方向などが類似していることから、縄文時代中期後半の可能性ある。

(坂本)

TP-6 (図IV-71、図版73)

位置・立地：O19、調査区東側、標高19.9mほどの河岸段丘上。

規模： $(3.26/1.82) \times (0.63/0.14) \times 1.35$ m **長軸方向**：N-54°-W **平面形**：溝形
確認・調査・土層：Ⅶ層上面で長楕円形に落ち込む黒褐色土を検出した。半截掘削をおこない、深く掘り込まれた断面漏斗形の堆積を確認し、Tピットと判断した。覆土は上位が黒色・黒褐色土、中位から下位がTa-d主体土で構成され、全て、流入、壁崩落などの自然堆積と捉えられる。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑口部は、長軸方向の末端部でⅦ層 (Ta-d) の崩落が著しく、大きく広がっているが、短軸方向はほとんど崩落が認められず幅が狭い。坑底部は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がっている。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：落とし穴

時期：周辺出土の土器、TP-1・2と形状・長軸方向などが類似していることから、縄文時代中期後半の可能性ある。

掲載遺物：なし。

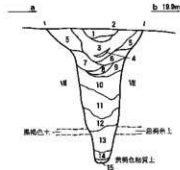
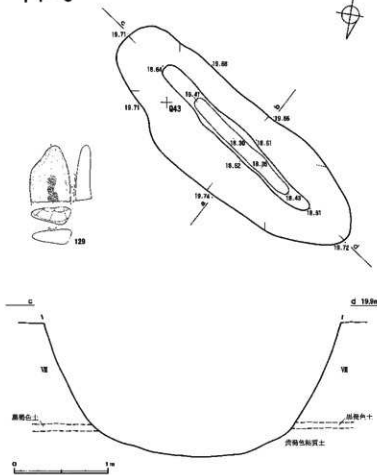
(坂本)

TP-7 (図IV-72、図版73・74)

位置・立地：M・N22・23、調査区東側、標高19.7mほどの河岸段丘上。

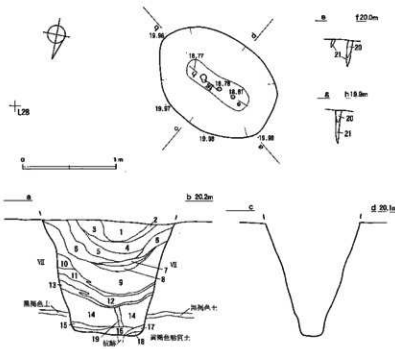
規模： $(1.38/0.86) \times (1.03/0.29) \times 1.11$ m **長軸方向**：N-29°-W **平面形**：楕円形

TP-3



工号	名称	形状	特徴	出土品その他
1	黒土	円形	壁	Te-cの遺物、V-10
2	緑砂層	円形	壁	黒土にTe-cを埋め、壁V
3	黒土	円形	壁	Te-cの少量を埋め、V-10
4	黄い砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、黄砂層
5	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、V-10
6	黄い砂層	円形	壁	Te-c埋土、Te-c埋土の黒褐色土を埋め、黒砂層
7	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
8	黒土	円形	壁	Te-c埋土を埋め、V-10
9	黄い砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
10	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
11	黄い砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
12	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
13	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
14	黒砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層
15	黄褐色粘質土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、Te-c埋土を埋め、黒砂層

TP-4

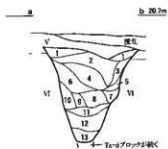
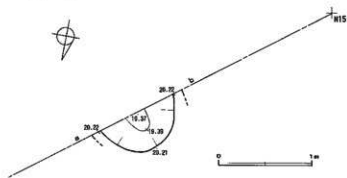


工号	名称	形状	特徴	出土品その他
1	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
2	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
3	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
4	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
5	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
6	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
7	黄い砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
8	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
9	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
10	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
11	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
12	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
13	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
14	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
15	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
16	緑砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
17	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
18	黄い砂層	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
19	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
20	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10
21	黒土	円形	壁	黒土埋下のTe-cを埋め、V-10

図IV-70 TP-3・4

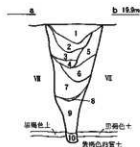
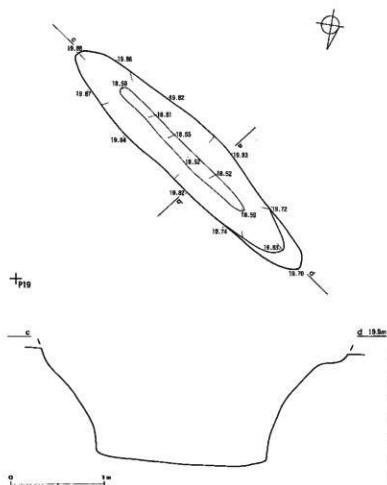
3 V層の遺構と出土遺物

TP-5



層	土質	土質	形状	層厚	遺物・その他
1	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
2	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
3	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
4	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
5	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
6	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
7	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
8	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
9	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
10	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
11	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
12	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
13	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片

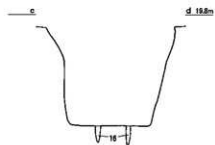
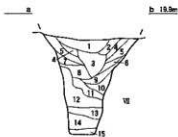
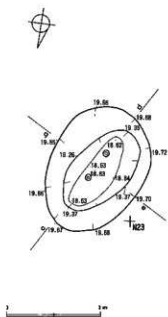
TP-6



層	土質	土質	形状	層厚	遺物・その他
1	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
2	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
3	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
4	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
5	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
6	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
7	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
8	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片
9	黒砂	砂質土	中	約2.0m	土器片

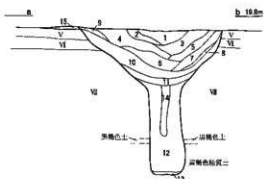
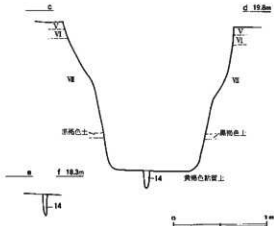
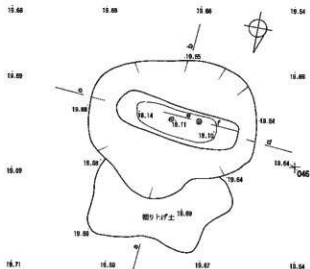
図IV-71 TP-5・6

TP-7



土層	土名	階級	形状	埋没深	裏入れ物・その他
1	黒土	19010.1	中	底	鉄ハシラ付アコウツクコシ
2	黒土	19010.1	中	底	アコウツク
3	黒土	19010.1	中	底	アコウツク
4	黒土	19010.2	中	底	アコウツク
5	褐色土	19010.2	中	底	アコウツク
6	砂	19010.2	中	底	アコウツク
7	砂	19010.2	中	底	アコウツク
8	砂	19010.2	中	底	アコウツク
9	砂	19010.2	中	底	アコウツク
10	砂	19010.2	中	底	アコウツク
11	砂	19010.2	中	底	アコウツク
12	砂	19010.2	中	底	アコウツク
13	砂	19010.2	中	底	アコウツク
14	砂	19010.2	中	底	アコウツク
15	砂	19010.2	中	底	アコウツク
16	黒土	19010.2	中	底	アコウツク

TP-8



土層	土名	階級	形状	埋没深	裏入れ物・その他
1	黒土	19010.1	中	底	アコウツク
2	砂	19010.4	中	底	アコウツク
3	黒土	19010.1	中	底	アコウツク
4	砂	19010.1	中	底	アコウツク
5	黒土	19010.1	中	底	アコウツク
6	砂	19010.4	中	底	アコウツク
7	砂	19010.1	中	底	アコウツク
8	砂	19010.1	中	底	アコウツク
9	砂	19010.1	中	底	アコウツク
10	砂	19010.1	中	底	アコウツク
11	砂	19010.1	中	底	アコウツク
12	砂	19010.1	中	底	アコウツク
13	砂	19010.1	中	底	アコウツク
14	砂	19010.1	中	底	アコウツク
15	砂	19010.1	中	底	アコウツク
16	砂	19010.1	中	底	アコウツク
17	砂	19010.1	中	底	アコウツク
18	砂	19010.1	中	底	アコウツク
19	砂	19010.1	中	底	アコウツク
20	砂	19010.1	中	底	アコウツク
21	砂	19010.1	中	底	アコウツク
22	砂	19010.1	中	底	アコウツク
23	砂	19010.1	中	底	アコウツク
24	砂	19010.1	中	底	アコウツク
25	砂	19010.1	中	底	アコウツク
26	砂	19010.1	中	底	アコウツク
27	砂	19010.1	中	底	アコウツク
28	砂	19010.1	中	底	アコウツク
29	砂	19010.1	中	底	アコウツク
30	砂	19010.1	中	底	アコウツク
31	砂	19010.1	中	底	アコウツク
32	砂	19010.1	中	底	アコウツク
33	砂	19010.1	中	底	アコウツク
34	砂	19010.1	中	底	アコウツク
35	砂	19010.1	中	底	アコウツク
36	砂	19010.1	中	底	アコウツク
37	砂	19010.1	中	底	アコウツク
38	砂	19010.1	中	底	アコウツク
39	砂	19010.1	中	底	アコウツク
40	砂	19010.1	中	底	アコウツク
41	砂	19010.1	中	底	アコウツク
42	砂	19010.1	中	底	アコウツク
43	砂	19010.1	中	底	アコウツク
44	砂	19010.1	中	底	アコウツク
45	砂	19010.1	中	底	アコウツク
46	砂	19010.1	中	底	アコウツク
47	砂	19010.1	中	底	アコウツク
48	砂	19010.1	中	底	アコウツク
49	砂	19010.1	中	底	アコウツク
50	砂	19010.1	中	底	アコウツク
51	砂	19010.1	中	底	アコウツク
52	砂	19010.1	中	底	アコウツク
53	砂	19010.1	中	底	アコウツク
54	砂	19010.1	中	底	アコウツク
55	砂	19010.1	中	底	アコウツク
56	砂	19010.1	中	底	アコウツク
57	砂	19010.1	中	底	アコウツク
58	砂	19010.1	中	底	アコウツク
59	砂	19010.1	中	底	アコウツク
60	砂	19010.1	中	底	アコウツク
61	砂	19010.1	中	底	アコウツク
62	砂	19010.1	中	底	アコウツク
63	砂	19010.1	中	底	アコウツク
64	砂	19010.1	中	底	アコウツク
65	砂	19010.1	中	底	アコウツク
66	砂	19010.1	中	底	アコウツク
67	砂	19010.1	中	底	アコウツク
68	砂	19010.1	中	底	アコウツク
69	砂	19010.1	中	底	アコウツク
70	砂	19010.1	中	底	アコウツク
71	砂	19010.1	中	底	アコウツク
72	砂	19010.1	中	底	アコウツク
73	砂	19010.1	中	底	アコウツク
74	砂	19010.1	中	底	アコウツク
75	砂	19010.1	中	底	アコウツク
76	砂	19010.1	中	底	アコウツク
77	砂	19010.1	中	底	アコウツク
78	砂	19010.1	中	底	アコウツク
79	砂	19010.1	中	底	アコウツク
80	砂	19010.1	中	底	アコウツク
81	砂	19010.1	中	底	アコウツク
82	砂	19010.1	中	底	アコウツク
83	砂	19010.1	中	底	アコウツク
84	砂	19010.1	中	底	アコウツク
85	砂	19010.1	中	底	アコウツク
86	砂	19010.1	中	底	アコウツク
87	砂	19010.1	中	底	アコウツク
88	砂	19010.1	中	底	アコウツク
89	砂	19010.1	中	底	アコウツク
90	砂	19010.1	中	底	アコウツク
91	砂	19010.1	中	底	アコウツク
92	砂	19010.1	中	底	アコウツク
93	砂	19010.1	中	底	アコウツク
94	砂	19010.1	中	底	アコウツク
95	砂	19010.1	中	底	アコウツク
96	砂	19010.1	中	底	アコウツク
97	砂	19010.1	中	底	アコウツク
98	砂	19010.1	中	底	アコウツク
99	砂	19010.1	中	底	アコウツク
100	砂	19010.1	中	底	アコウツク

図IV-72 TP-7・8

3 V層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：Ⅶ層上面まで掘り下げた際に、楕円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截掘削をおこない、深く掘り込まれた断面漏斗形の堆積を確認し、Tピットと判断した。坑底には長軸方向に並ぶ2基の小型円形プランを検出した。これらを半截調査し、杭穴状ピットと確認した。

覆土は上位が黒色・黒褐色土、中位から下位がTa-dブロック混じり、およびTa-d主体土、坑底直上が黒色土で構成されていた。全て流入、壁崩落などの自然堆積と捉えられる。

重複関係：LF-86・90（縄文時代晩期後葉）が30cmほど上位のV層中に確認されており、これより古いと判断できる。

坑底・壁面：坑底部は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がり、坑口部付近で大きく広がっている。坑底面には杭穴状ピット2基が確認された。遺構長軸上に20cmほどの間隔で設置され、坑底から20cmほどの深さまで、ほぼ垂直に打ち込まれていた。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：落とし穴

時期：形状・長軸方向・位置関係から、TP-10、LP-25と関連することが考えられ、縄文時代後期前葉より古い、もしくは中期後半より古い時期の可能性がある。

掲載遺物：なし。 (坂本)

TP-8 (図IV-72、図版74)

位置・立地：N・O45、調査区西側の標高19.7m付近の河岸段丘上。

規模：(1.81/0.85) × (1.59/0.30) × 1.58m **長軸方向**：N-71°-W **平面形**：小型の溝形

確認・調査・土層：V層中位で黒褐色土の落ち込みと暗褐色土の広がりを確認した。北側に堀上げ土を確認し、掘り込み面はV層中位である。覆土は自然堆積で、覆土の中位から下位にかけて杭の痕跡を確認した。坑底面に杭跡を2か所確認した。

重複関係：なし。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は直立して立ち上がり、Ⅶ層中位から大きく広がる。

遺物出土状況：1層からフレイク1点、礫1点が出土した。

性格：落とし穴である。

時期：確認面と周辺の包含層出土遺物から縄文時代中期後半～後期前葉である。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

TP-9 (図IV-73、図版75)

位置・立地：N・O39、調査区中央の標高19.7m付近の河岸段丘上。

規模：(3.36/2.75) × (1.35/0.08) × 1.67m **長軸方向**：N-45°-W **平面形**：溝形

確認・調査・土層：V層中位で黒褐色土の落ち込みと暗褐色土の広がりを確認した。北側に堀上げ土を確認し、掘り込み面はV層中位である。覆土は自然堆積である。

重複関係：なし。

坑底・壁面：坑底面は平坦で、壁は直立して立ち上がり、Ⅶ層上部から大きく広がる。

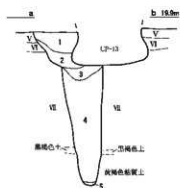
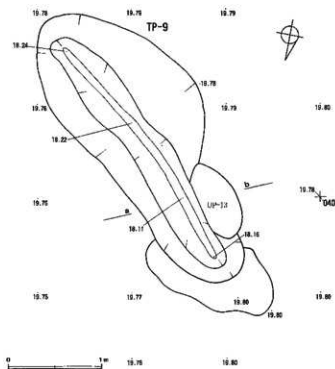
遺物出土状況：1層からV群c類土器1点、フレイク7点、礫片10点が出土した。

性格：落とし穴である。

時期：確認面と周辺の包含層出土遺物から縄文時代中期後半～後期前葉である。

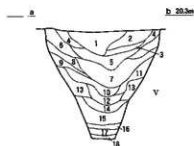
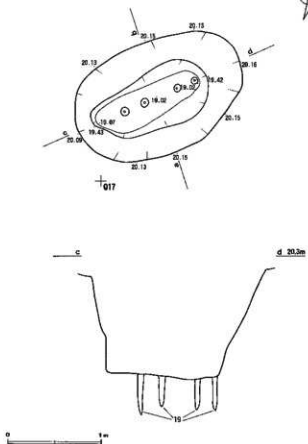
掲載遺物：なし。 (佐藤)

TP-9



層	土名	土層	方位	層厚	遺人物・その他
1	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
2	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
3	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
4	灰褐色粘質土	中	中	0.15m	中層部
5	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部

TP-10



層	土名	土層	方位	層厚	遺人物・その他
1	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
2	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
3	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
4	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
5	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
6	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
7	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
8	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
9	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
10	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
11	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
12	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
13	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
14	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部
15	黒褐色土	中	中	0.15m	中層部

図IV-73 TP-9・10

TP-10 (図IV-73、図版75)

位置・立地：P16・17、調査区東側、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模：(1.87/1.18) × (1.20/0.37) × 1.17m 長軸方向：N-58°-E 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を20cmほど掘り下げた面で、楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截掘削をおこない、深く掘り込まれた断面漏斗形の堆積を確認し、Tビットと判断した。坑底には長軸方向に並ぶ4基の小型円形プランを確認した。半截調査し、坑底から打ち込まれた杭穴状ビットであることを確認した。

覆土は上位が黒色土、中位から下位がTa-dブロックや砂壤土を多く含む黒褐色土、坑底直上が黒色土で構成されていた。全て流入、壁崩落などの自然堆積と捉えられる。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：坑底部は若干南西側が深く掘り込まれるが、おおむね平坦である。壁面は急角度に立ち上がり、中位から坑口部付近にかけて広がっている。坑底面には杭穴状ビット4基が確認された。遺構長軸上に、20cm間隔で2基一對のものが、40cm間隔で二対設置されている。杭穴状ビットは坑底から30~45cmほどの深さまで、ほぼ垂直に打ち込まれていた。

遺物出土状況：IV群a類土器が5点出土している。

性格：落とし穴である。

時期：出土土器から、縄文時代後期前葉、もしくはこれより古い時期と考えられる。形状・長軸方向・位置関係から、TP-7、LP-25と関連することが考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

(4) 焼土

LF-1 (図IV-74)

位置・立地：Q18・19、調査区東側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：0.44×0.31×0.06m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際ににぶい赤褐色土のまとまりを確認した。やや黄色味を帯びた明瞭な焼土である。隣接してLF-2があり、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたフレイク1点、礫1点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半、北筒式期の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-2 (図IV-74、157-131・132、図版106)

位置・立地：Q18、調査区東側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.46×0.39×0.09m 平面形：楕円形

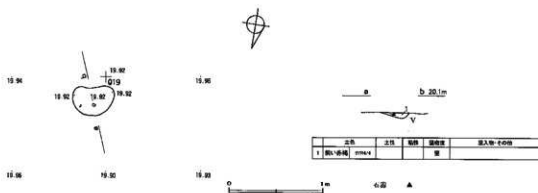
確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に極暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、隣接して北筒式土器片がまとまって出土した。

重複関係：重複する遺構は無い。

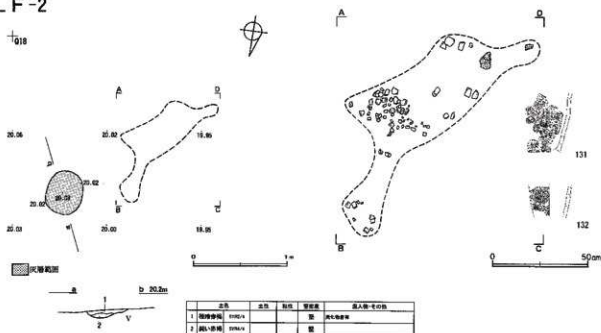
遺物出土状況：焼土に隣接してIII群b類土器192点がまとまって出土した。

性格：炉である。

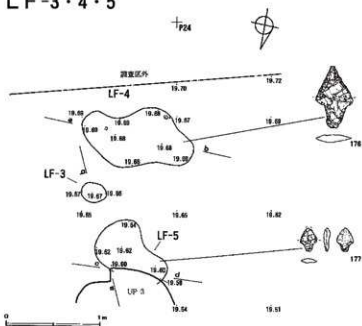
LF-1



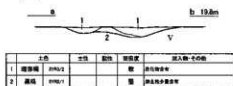
LF-2



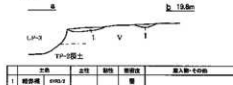
LF-3・4・5



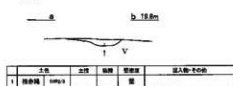
LF-4



LF-3



LF-5



図IV-74 LF-1~5

3 V層の遺構と出土遺物

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半、北筒式期の遺構と推測される。
(藤原)

掲載遺物

土器：131～132は深鉢。すべて北筒式である。
(佐藤)

LF-3 (図IV-74)

位置・立地：P23、調査区東側の標高19.6mの河川湾入部段丘縁。

規模：0.27×0.20×0.04m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。小さく不明瞭な焼土で、周辺に炭化物が散在していた。

重複関係：上位にL遺物集中-114があり、またTP-2 廃絶後の埋り切らないくぼみに位置する。浅いくぼみを利用した掘り込みの無い焼土である。なお、隣接してLF-4・5があり、関連するものと推測される。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：上位にフレイク・チップ集中があることから、石器製作に関連する炉と推測される。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉もしくは後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。
(藤原)

LF-4 (図IV-74, 174-176, 図版120)

位置・立地：P23、調査区東側の標高19.6mの河川湾入部段丘縁。

規模：1.21×0.66×0.10m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。小さく不明瞭な焼土で、周辺に炭化物が散在していた。浅いくぼみを利用した掘り込みの無い焼土である。なお、隣接してLF-3・5があり、関連するものと推測される。

重複関係：上位にP23区フレイク・チップ集中があり、またTP-2 廃絶後の埋り切らないくぼみに位置する。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたⅢ群b類土器24点、V群a類土器6点、石槍1点、両面調整石器1点、礫・礫片14点の他、黒曜石のフレイク・チップが269点と大量に出土した。

性格：上位にフレイク・チップ集中があることから、石器製作に関連する炉と推測される。

時期：焼土中・周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉もしくは後葉の遺構と推測される。
(藤原)

掲載遺物

石器：176は石槍である。黒曜石製である。有茎でカエシが明瞭に作り出されている。平面形はやや歪で縦断面も若干湾曲している。焼土から出土している。
(坂本)

LF-5 (図IV-74, 174-177, 図版120)

位置・立地：P23、調査区東側の標高19.6mの河川湾入部段丘縁。

規模：0.81×0.56×0.07m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。薄く不明瞭な焼土で、周辺に炭化物が散在していた。浅いくぼみを利用した掘り込みの無い焼土である。なお、隣

接してLF-3・4があり、関連するものと推測される。

重複関係：Ⅲ層の遺構UP-3に切られる。上位にL遺物集中-114があり、またTP-2 廃絶後の埋り切らないくぼみに位置する。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けた石鉄1点、黒曜石のフレイク34点、礫片2点が出土した。

性格：上位にフレイク・チップ集中があることから、石器製作に関連する炉と推測される。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉もしくは後葉の遺構と推測される。

(藤原)

掲載遺物

石器：177は石鉄である。焼土から出土している。石材は小球類を多量に含有する黒曜石である。小型の有茎族だが、被熱により表面が膨張している。少なからず形状が変化しているとみられる。

(坂本)

LF-6 (図IV-75)

位置・立地：Q22、調査区東側の標高19.5mの河岸段丘上。

規模：0.34×0.32×0.04m **平面形**：円形

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際にぶい赤褐色土のまとまりを確認した。濃い明瞭な焼土で、周辺に炭化物が散在していた。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：屋外炉である。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-7 (図IV-75)

位置・立地：Q22、調査区東側の標高19.5mの河岸段丘上。

規模：0.39×0.38×0.02m **平面形**：円形

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に焼土粒の混じる黒褐色土のまとまりを確認した。薄く不明瞭な焼土で、周辺に炭化物が少量散在していた。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炉である。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-8 (図IV-75)

位置・立地：Q22・23、調査区東側の標高19.6mの河岸段丘上。

規模：(0.36)×0.35×0.09m **平面形**：円形

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、焼土粒・炭化物の混じるぶい赤褐色土のまとまりを確認した。不明瞭な焼土である。

重複関係：重複する遺構は無い。

3 V層の遺構と出土遺物

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炉である。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-9 (図IV-75、図版76)

位置・立地：Q17、調査区東側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.56×0.50×0.08m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土である。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたIV群a類土器1点、IV群b類土器2点、フレイク1点が出土した。

性格：炉である。

時期：焼土中出土の土器および検出層位から、縄文時代後期前葉もしくは中葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-10 (図IV-75)

位置・立地：P22、調査区東側の標高19.8mの河岸段丘上。

規模：0.45×0.35×0.06m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に炭化物が散在していることを確認した。更に5cmほど掘り下げて、炭化物の混じる黒褐色土のまとまりを確認した。薄く不明瞭な焼土である。なお、周辺では礫が比較的多く出土している。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-11 (図IV-75)

位置・立地：Q46、調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：0.67×0.59×0.10m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際ににぶい赤褐色土のまとまりを確認した。黄色味をおびた明瞭な焼土で、骨片が大量に混じっていた。また、焼土周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器が比較的多く出土している。なお、一部は下水道の攪乱を受けている。

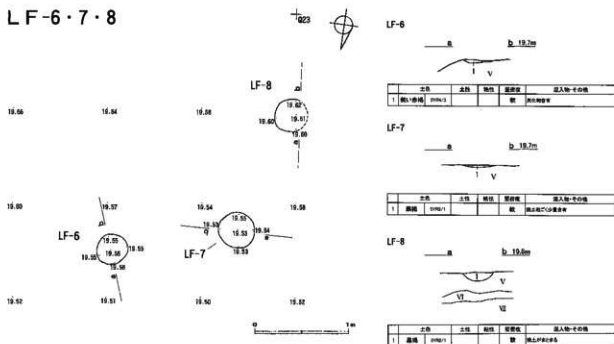
重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からV群c類土器38点、フレイク5点、礫片4点が出土した。

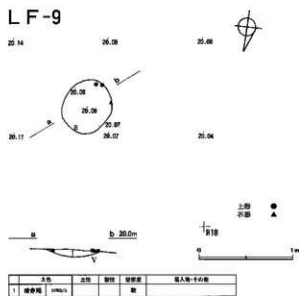
性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構と推測される。

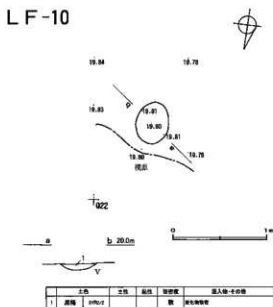
LF-6・7・8



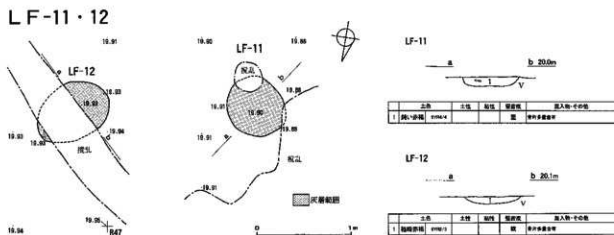
LF-9



LF-10

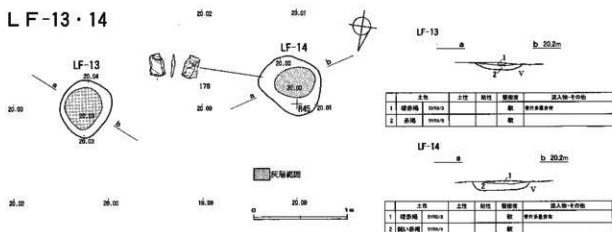


LF-11・12

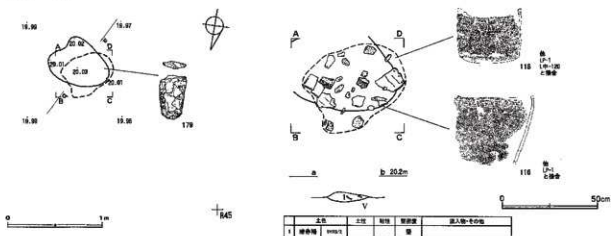


図IV-75 LF-6~12

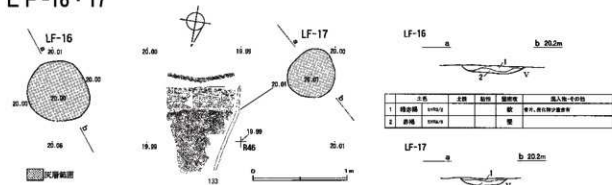
LF-13・14



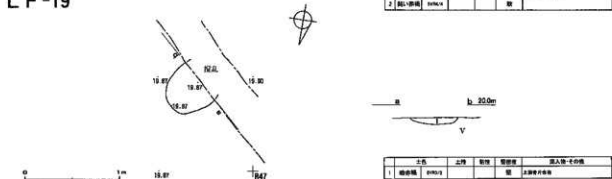
LF-15



LF-16・17



LF-19



図IV-76 LF-13~17・19

掲載遺物：なし。 (藤原)

LF-12 (図IV-75)

位置・立地：Q47、調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：0.82×0.59×0.08m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に極暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、骨片が多く混じっていた。また、焼土周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器が比較的多く出土している。なお、全体の半分程度が古い住宅による攪乱を受けている。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からV群a類土器8点、フレイク5点、礫片1点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。 (藤原)

LF-13 (図IV-76、図版76)

位置・立地：Q・R44、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.58×0.52×0.07m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、骨片が多く混じっていた。また、焼土周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器が比較的多く出土している。なお、近接してLF-14が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたV群c類土器12点、礫片1点が出土した。

性格：炉である。

時期：焼土中・周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。 (藤原)

LF-14 (図IV-76、174-178、図版120)

位置・立地：Q・R44・45、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.68×0.56×0.10m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、骨片が多く混じっていた。また、焼土周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器が比較的多く出土している。なお、近接してLF-13が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群b類土器17点、ピエス・エスキュー1点、フレイク1点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構と推測される。 (藤原)

掲載遺物

石器：178はピエス・エスキューである。焼土から出土している。黒曜石製である。正裏面に剥離が

3 V層の遺構と出土遺物

発生し、全て二次剥離と観察される。小型で器厚も薄く、使い込まれ遺棄されたものと観察される。
(坂本)

LF-15 (図IV-76, 174-179, 図版76・120)

位置・立地：Q44、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.66×0.49×0.10m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、更に掘り下げると、焼土中から焼成を受けた縄文時代晩期後葉の大型土器片が出土した。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたV群c類土器75点の他、スクレイパー1点、フレイク2点、礫2点が出土した。土器はLP-1、L遺物集中-120と接合関係がある。

性格：炉である。

時期：焼土中・焼土中出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構である。
(藤原)

掲載遺物

土器：116・117はLP-1に記載した。
(佐藤)

石器：179はスクレイパーである。焼土から出土している。腹面側両側縁を平坦剥離により調整している。上半部破損後、背面から折れ面へ2回程度の剥離をおこない、その後折れ面から背面側へ4回程度の小剥離を施している。
(坂本)

LF-16 (図IV-76)

位置・立地：Q45、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.68×0.64×0.08m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、骨片が少量混じっていた。また、焼土周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器が多く出土している。なお、近接してLF-17が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたⅢ群b類土器7点、フレイク6点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。
(藤原)

LF-17 (図IV-76, 157-133, 図版76・107)

位置・立地：Q46、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.54×0.49×0.07m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に焼土粒の混じる黒褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、骨片が少量混じっていた。また、焼土周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器が多く出土している。なお、近接してLF-16が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中から焼成を受けたⅢ群b類土器13点、Ⅴ群c類土器20点、フレイク13点が出土した。

性格：炉である。

時期：焼土中・周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構と推測される。 (藤原)

掲載遺物

土器：133は深鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

LF-19 (図IV-76)

位置・立地：Q46、調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：(0.41)×0.51×0.07m **平面形**：楕円形

確認・調査・土層：Ⅴ層を15cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、上面に骨片が多く散在していた。なお、全体の半分程度が古い住宅による攪乱を受けている。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からⅤ群c類土器2点、フレイク4点、礫1点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。 (藤原)

LF-20 (図IV-77, 157-134, 図版107)

位置・立地：N・O33、調査区中央の標高20.00m付近の河岸段丘上。

規模：0.97×0.59×0.13m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：Ⅴ層上面でいぶい赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物、2層には骨片を含む。焼土は掻き混ぜられており、下位で確認したLP-4に伴うものと考える。

重複関係：下位で確認したLP-4に伴うものと考える。

遺物出土状況：1層からⅤ群b類土器3点、近接する包含層からⅤ群b類土器17点、フレイク2点が出土した。土器はLF-24と接合した。

性格：LP-4に伴う祭祀に関連すると考える。

時期：出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：134は深鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

LF-21 (図IV-79, 174-180, 図版120)

位置・立地：Q41・42、調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：1.16×0.77×0.13m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：Ⅴ層を5cmほど掘り下げた際にいぶい赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土がおおまかに3か所に分け、その周囲には焼土粒が散在していた。

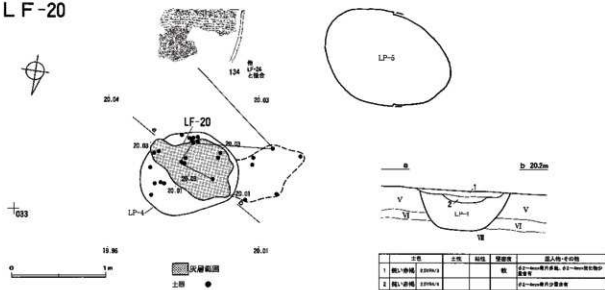
重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からⅤ群c類土器4点、フレイク7点、ピエス・エスキーユ1点が出土した。

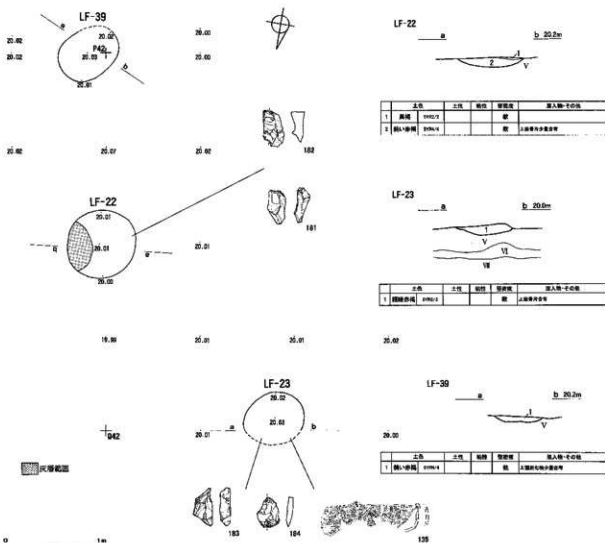
性格：炉である。

3 V層の遺構と出土遺物

LF-20



LF-22・23・39



図IV-77 LF-20・22・23・39

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構と推測される。
(藤原)

掲載遺物

石器：180はピエス・エスキューである。焼土から出土している。黒曜石製である。右側縁には連続的な調整が加えられている。
(坂本)

LF-22 (図IV-77, 174-181・182, 図版120)

位置・立地：P41・42、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.76×0.71×0.10m 平面形：円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際にふい赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、骨片が少量混じっていた。なお、近接してLF-23・39が検出され、関連するものと推測される。重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からV群a類土器1点、V群c類土器25点、黒曜石のフレイク40点、ピエス・エスキュー3点、Rフレイク2点、礫片3点、焼成粘土塊1点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構と推測される。
(藤原)

掲載遺物

石器：ピエス・エスキュー2点を掲載した。2点とも焼土から出土している。黒曜石製である。182は背部が角礫の自然面に覆われており、小原石を素材とした可能性がある。
(坂本)

LF-23 (図IV-77, 158-135, 174-183・184, 図版107・120)

位置・立地：P・Q42、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：(0.64) × (0.56) × 0.11m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に極暗赤褐色土のまとまりを確認した。薄く明瞭な焼土で、骨片が少量混じっていた。なお、近接してLF-22・39が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼土中からV群c類土器7点、ピエス・エスキュー3点、Rフレイク1点、黒曜石のフレイク39点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構と推測される。
(藤原)

掲載遺物

土器：135は浅鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。
(佐藤)

石器：ピエス・エスキュー2点を掲載した。2点とも焼土周辺の包含層から出土している。黒曜石製である。183の左側縁には潰れた剥離痕跡が観察される。
(坂本)

LF-24 (図IV-79, 174-185, 図版120)

位置・立地：O33、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

3 V層の遺構と出土遺物

規模：0.68×0.55×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：近接する包含層からV群c類土器1点、スクレイパー1点、フレイク1点、礫3点が出土した。土器はLF-20と接合した。

性格：炬と考える。

時期：出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。 (佐藤)

掲載遺物

土器：134はLF-20に記載した。

石器：185はスクレイパーである。石材は黒曜石である。上部に折れ面があるが調整を受けており、拇指形状を目的として素材を折断したことが考えられる。刃部は急角度調整され円刃である。刃部角は70°前後を測る。エンドスクレイパーである。 (坂本)

縄文時代晩期の焼土群 (LF-25~33・37) (図IV-78、図版77)

位置・立地：N~P・31~32・P33、調査区中央の標高19.3~20.0m付近の河岸段丘縁から斜面部。

規模：7.2×7.2m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で、河岸段丘縁から斜面部に焼土のまとまりを確認した。焼成部はどれも明瞭ではない。

重複関係：すべて同時期と考える。 (佐藤)

LF-25 (図IV-79)

位置・立地：N31・32、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘縁。

規模：0.85×0.71×0.13m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からV群c類土器2点、フレイク1点、近接する包含層からRフレイク1点、フレイク1点、礫2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

LF-26 (図IV-79、174-186、図版120)

位置・立地：N・O31、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘縁。

規模：0.88×0.71×0.08m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からV群c類土器4点、礫1点、近接する包含層からV群c類土器11点、スクレイパー1点が出土した。

性格：炬と考える。

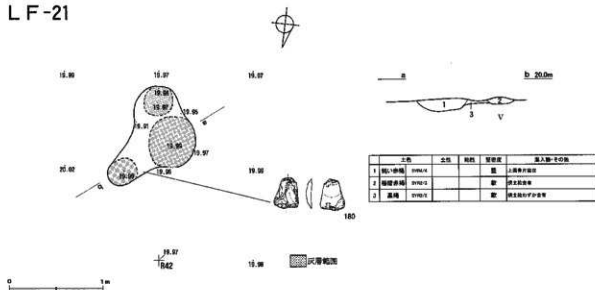
時期：確認面および近接する包含層出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。 (佐藤)

縄文時代晩期後葉の焼土群 L F - 25 ~ 33 ・ 37

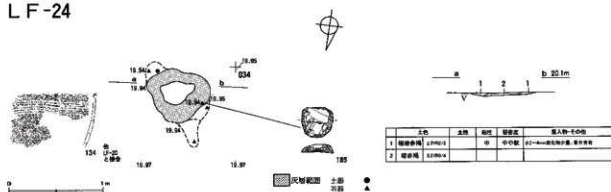


図IV-78 縄文時代晩期後葉の焼土群 (LF-25~33・37)

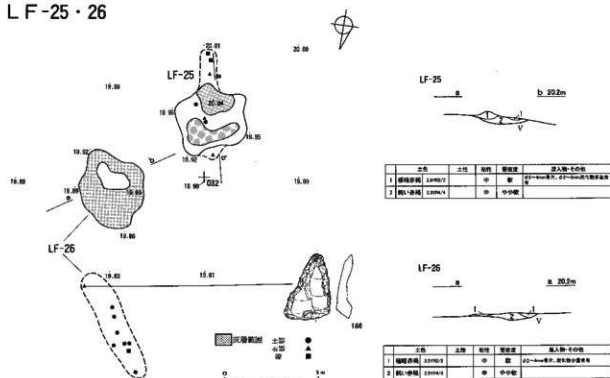
LF-21



LF-24

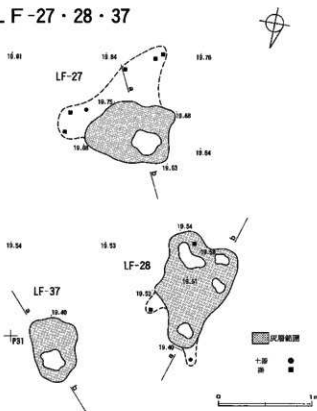


LF-25・26



図IV-79 LF-21・24~26

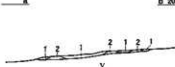
LF-27・28・37



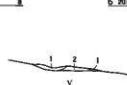
LF-27



LF-28



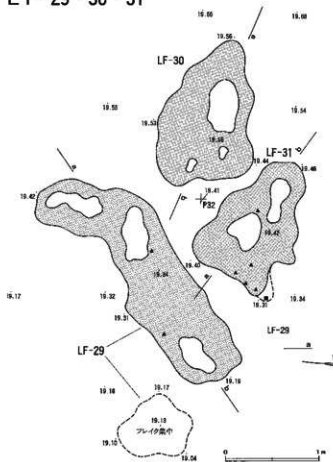
LF-37



LF-27 28 37

土名	土層	層位	層厚	遺入物・出土物
1 腐植層	2000/2	中	中・中数	2000-4000年代、灰土層層底層
2 腐植層	2000/2	中	中・中数	

LF-29・30・31



灰層範囲
土層
溝

LF-30



LF-31



LF-29



LF-29 30 31

土名	土層	層位	層厚	遺入物・出土物
1 腐植層	2000/2			2000-4000年代、灰土層層底層
2 腐植層	2000/2			

図IV-80 LF-27~31・37

3 V層の遺構と出土遺物

掲載遺物

石器：186はスクレイパーである。石材は黒曜石である。両側縁を連続的に急角度調整している。末端部は表面側に調整が施され、素材の打瘤を剥ぎ取っている。側縁の刃部角は60～75°を測る。

(坂本)

LF-27 (図IV-80)

位置・立地：O31、調査区中央の標高19.7m付近の河岸段丘斜面部。

規模：0.98×0.67×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。重複関係：なし。

遺物出土状況：近接する包含層からV群c類土器2点、礫片6点が出土した。

性格：刃と考える。

時期：確認面および近接する包含層出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-28 (図IV-80)

位置・立地：O・P31、調査区中央の標高19.6m付近の河岸段丘斜面部。

規模：1.23×0.81×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。重複関係：なし。

遺物出土状況：1層から礫1点、近接する包含層からV群c類土器1点、礫1点が出土した。

性格：刃と考える。

時期：確認面および近接する包含層出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-29 (図IV-80)

位置・立地：O・P31・P32、調査区中央の標高19.4m付近の河岸段丘斜面部。

規模：2.78×0.81×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりと近接する包含層からフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からフレイク2点、フレイク集中から両面調整石器2点、フレイク332点、礫1点が出土した。

性格：刃と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-30 (図IV-80)

位置・立地：O31・32、調査区中央の標高19.6m付近の河岸段丘斜面部。

規模：1.67×1.11×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からフレイク1点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-31 (図IV-80)

位置・立地：O・P32・P31、調査区中央の標高19.5m付近の河岸段丘斜面部。

規模：1.47×1.07×0.08m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からフレイク5点、近接する包含層から礫片1点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-32 (図IV-81)

位置・立地：O・P32、調査区中央の標高19.6m付近の河岸段丘斜面部。

規模：3.71×1.45×0.07m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からIV群b類土器3点、V群a類土器3点、礫1点、礫片2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-33 (図IV-81)

位置・立地：O・P32、調査区中央の標高19.5m付近の河岸段丘斜面部。

規模：1.28×0.98×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：なし。

遺物出土状況：近接する包含層から礫2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-34 (図IV-81)

位置・立地：P32、調査区中央の標高19.3m付近の河岸段丘斜面部。

規模：(1.27) × (0.84) × 0.05m 平面形：不整形

3 V層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：V層中位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：LF-34～36・50は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代中期後半～後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-35 (図IV-81)

位置・立地：P32・33、調査区中央の標高19.3m付近の河岸段丘斜面部。

規模：2.52×1.24×0.05m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：V層中位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：LF-34～36・50は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からⅢ群b類土器1点、近接する包含層からIV群b類土器1点、礫1点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代中期後半～後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-36 (図IV-81, 174-187, 図版120)

位置・立地：P32、調査区中央の標高19.1m付近の河岸段丘斜面部。

規模：1.12×0.58×0.13m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：V層中位で、極暗赤褐色土のまとまりと一部分が重なる状況で近接する包含層からフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-34～36・50は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からIV群b類土器5点、フレイク71点、礫2点、フレイク集中から石鏃1点、石斧1点、フレイク975点、近接する包含層からⅢ群b類土器2点、IV群b類土器2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代中期後半～後期中葉と考える。

(佐藤)

掲載遺物

石器：187は黒曜石製の石鏃である。有茎でカエシが明瞭に作り出されている。

(坂本)

LF-37 (図IV-80)

位置・立地：O・P31、調査区中央の標高19.4m付近の河岸段丘斜面部。

規模：0.70×0.50×0.05m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：なし。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

3 V層の遺構と出土遺物

LF-39 (図IV-77)

位置・立地：O・P41・42、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.67×0.51×0.06m 平面形：楕円形

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際ににぶい赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、上面に炭化物が散在していた。なお、近接してLF-22・23が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：V群a類土器10点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位、LF-22・23との関連から、縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-40 (図IV-82)

位置・立地：Q38、調査区中央の標高19.4mの河岸段丘上。

規模：0.83×0.60×0.23m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：V層を20cmほど掘り下げた際に炭化物の混じる黒褐色土および明赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土であったが、色調に大きな差があり、断面観察の結果、風倒木痕の影響を受けていることが分かった。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炉である。

時期：焼土中出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LF-41 (図IV-82)

位置・立地：P42、調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：1.28×0.55×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に数ヶ所の小さな暗極赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、周辺に炭化物がごく少量散在していた。また、焼土周辺では縄文時代後期初頭の余市式土器がややまとまって出土している。なお、近接してLF-42が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

坑底・壁面：掘り込みの無い焼土である。

遺物出土状況：焼土中からV群c類土器9点、フレイク1点が出土した。

性格：炉である。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代後期初頭、余市式期の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

3 V層の遺構と出土遺物

LF-42 (図IV-82, 174-188, 図版120)

位置・立地: P42, 調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模: 0.30×0.22×0.05m **平面形:** 楕円形

確認・調査・土層: V層を10cmほど掘り下げた際に暗赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な焼土で、焼土周辺では縄文時代後期初頭、余市式土器がややまとまって出土している。なお、近接してLF-41が検出され、関連するものと推測される。

重複関係: 重複する遺構は無い。

遺物出土状況: 焼土中からV群c類土器11点、石鏃1点、フレイク11点(黒曜石10点、玉髓1点)、礫片2点が出土した。

性格: 炉である。

時期: 周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代後期初頭、余市式期の遺構と推測される。

(藤原)

掲載遺物

石器: 188は石鏃である。黒曜石製である。有茎族で形状が整い、薄手に整形されている。(坂本)

LF-43 (図IV-82)

位置・立地: P37, 調査区中央の標高19.6mの河岸段丘上。

規模: 1.91×0.96×0.10m **平面形:** ひょうたん形

確認・調査・土層: V層を10cmほど掘り下げた際に焼土粒・Ta-dの混じる黒褐色土のまとまりを確認した。不明瞭な焼土で、上面には少量の炭化物が散在していた。なお、近接してLS-21が検出され、関連するものと推測される。

重複関係: わずかに重なってLS-21がある。

遺物出土状況: 焼土中からV群c類土器53点、礫10点(砂岩9点、泥岩1点)が出土した。

性格: 礫集中と関連する炉である。

時期: 周辺出土の土器および検出層位、LS-21との関連から、縄文時代後期中葉、手稲式期の遺構と推測される。

掲載遺物: なし。

(藤原)

LF-47 (図IV-82, 174-189・190, 図版120)

位置・立地: Q41, 調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模: 0.45×0.42×0.14m **平面形:** 円形

確認・調査・土層: V層を5cmほど掘り下げた際に赤褐色土のまとまりを確認した。明瞭な厚い焼土である。また、焼土周辺の包含層から縄文時代晩期後葉の土器片が多く出土している。

重複関係: 重複する遺構は無い。

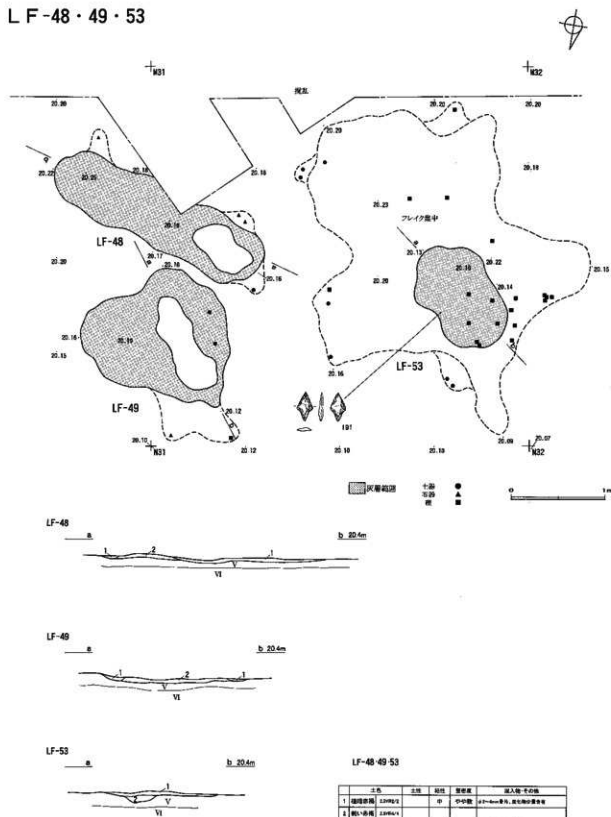
遺物出土状況: 焼土中から焼成を受けたV群c類土器4点、頁岩製の石鏃1点、スクレイパー1点、フレイク26点が出土した。

性格: 炉である。

時期: 焼土中・周辺出土の土器から、縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期の遺構と推測される。

(藤原)

L F - 48 ・ 49 ・ 53



図IV-83 LF-48・49・53

3 V層の遺構と出土遺物

掲載遺物

石器：189は石鎌である。頁岩製である。有茎で、カエシは比較的明瞭である。調整は縁辺部のみに施されるが、整った形状に仕上げられている。190はスクレイパーである。黒曜石製である。素材の両端部に刃部調整を施し、エンドスクレイパーとしている。刃部角は下端が75°、上端が65°を計測する。左側縁は折れ面だが、調整を受けており、折断した素材を用いたと考えられる。（坂本）

LF-48 (図IV-83)

位置・立地：M30・31、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：2.40×0.65×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層中位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-48～49・53は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：近接する包含層からIV群b類土器1点、フレイク3点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代後期前葉～中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-49 (図IV-83)

位置・立地：M30・31、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.70×1.39×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層中位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-48～49・53は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からIV群a類土器1点、IV群b類土器1点、近接する包含層からフレイク1点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代後期前葉～中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-50 (図IV-81)

位置・立地：Q32、調査区中央の標高18.8m付近の河岸段丘斜面部。

規模：0.72×0.48×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層中位で、極暗赤褐色土のまとまりと一部分が重なる状況で近接する包含層からフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-34～36・50は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からIV群b類土器5点、フレイク71点、礫2点、フレイク集中から石鎌1点、石斧1点、フレイク975点、近接する包含層からⅢ群b類2点、IV群b類土器2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代中期後半～後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-51 (図IV-84, 158-136, 図版107)

位置・立地：P35、調査区中央の標高19.8m付近の河岸段丘斜面部。

規模：(2.56) × (1.37) × 0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。本来は東側に続くものと考え。近接してLF-52、L遺物集中-117(フレイク集中)を確認し、関連すると考える。

重複関係：LF-51～52、L遺物集中-117は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からIV群b類土器11点、フレイク7点、礫4点、礫片2点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物

土器：136は深鉢または鉢の底部。手稲式。(佐藤)

LF-52 (図IV-84)

位置・立地：P35-36、調査区中央の標高19.6m付近の河岸段丘斜面部。

規模：1.92 × 1.31 × 0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。また小礫・礫片を多く確認した。近接してLF-51、L遺物集中-117(フレイク集中)を確認し、関連すると考える。

重複関係：LF-51～52、L遺物集中-117は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からIV群b類土器2点、V群c類3点、フレイク9点、礫18点、礫片10点、近接する包含層からIV群a類土1点、礫片1点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代後期中葉～晩期前葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-53 (図IV-83, 174-191, 図版120)

位置・立地：M31、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.21 × 0.83 × 0.12m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層中位で極暗赤褐色土のまとまりとフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-48～49・53は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からⅢ群b類土器12点、石鏃1点、礫片16点、1層とフレイク集中からフレイク476点、近接する包含層からⅢ群b類土器1点、IV群a類土器24点、礫7点、礫片10点が出土した。

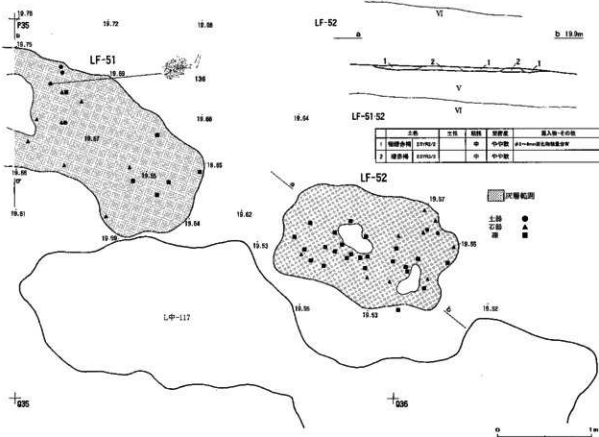
性格：炉と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代後期中葉～晩期前葉と考える。

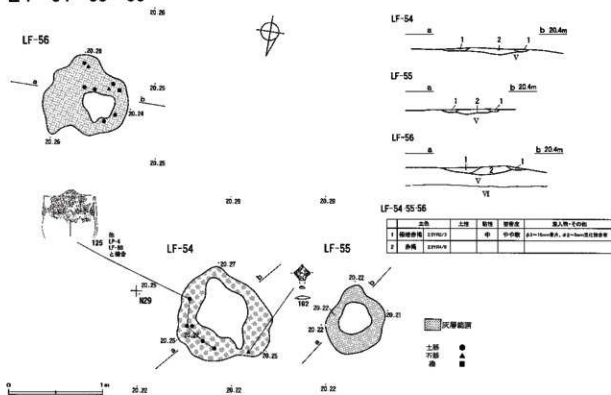
掲載遺物

石器：191は石鏃である。黒曜石製である。有茎で、カエシは比較的明瞭である。素材稜線を石器長

LF-51・52



LF-54・55・56



図IV-84 LF-51・52・54～56

軸に設定している。調整は縁辺部のみ施されるが、整った形状に仕上げられている。(坂本)

LF-54 (図IV-84, 174-192, 図版120)

位置・立地：M31、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.07×0.95×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-54～56は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からV群c類土器5点、石鏃1点が出土した。土器はLP-4、LF-89と接合した。LF-89は約40m離れている。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。(佐藤)

掲載遺物

土器：125はLP-4に記載した。

石器：192は石鏃である。黒曜石製である。小型の有茎鏃で、上半部は寸詰りの菱形を呈する。先端は錐状に突出している。(坂本)

LF-55 (図IV-84)

位置・立地：M・N29、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：0.74×0.61×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-54～56は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-56 (図IV-84)

位置・立地：M28、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：0.94×0.87×0.08m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：LF-54～56は同一の確認面で、まとまりがあることから同時期と考える。

遺物出土状況：1層からV群c類土器7点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク2点、鏃2点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-57 (図IV-85)

位置・立地：O・P32・33、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：1.09×0.69×0.13m 平面形：不整形

3 V層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：V層中位で極暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には骨片・炭化物を含む。
重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からⅢ群b類土器1点、礫片1点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代中期後半と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-58 (図IV-85、図版121)

位置・立地：M・N21、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

規模：0.75×0.63×0.12m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面精査作業の際、黒褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、上位に灰層とみられる黒褐色土、中位に焼土と捉えられる暗褐色土、下位に焼土ブロックを含む黒色土を確認した。焼土中には多量の骨片が含有されていた。

重複関係：重複関係はみられないが、同一層面にLF-59・60・94などが近接し、関連することが考えられる。

遺物出土状況：土器はV群c類45点、石器は石鏃1点、スクレイパー1点、Rフレイク2点、フレイク2点、ほかに礫片2点が出土している。遺物は灰層・焼土、遺構周辺のV層からまとまって出土した。

性格：炉である。下位層に焼土ブロックが含有されることから、人為的に掻き乱され、再び焼成を受けた可能性がある。

時期：焼土中・周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：写真図版に石鏃(194)、スクレイパー(195)、Rフレイク(196)を掲載した。195は玄武岩のフレイクを素材としたエンドスクレイパーである。

(坂本)

LF-59 (図IV-85、図版77・121)

位置・立地：M21、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

規模：0.54×0.46×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面精査作業の際、黒褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、炭化物粒と焼土ブロックを含む黒・黒褐色土を確認した。

重複関係：重複関係はみられないが、同一層面にLF-58・60・94などが近接し、関連することが考えられる。

遺物出土状況：土器はV群c類27点、石器は敲石1点、フレイク4点、ほかに小礫・礫片9点が出土している。遺物は灰層・焼土および遺構周辺のV層から散発的に出土した。

性格：炉である。

時期：焼土中・周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：写真図版に敲石(197)を掲載した。中央部に敲打痕がみられる。

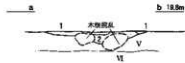
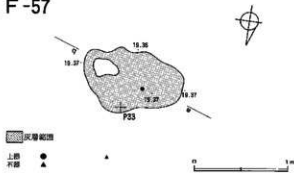
(坂本)

LF-60 (図IV-85、図版77)

位置・立地：M21、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

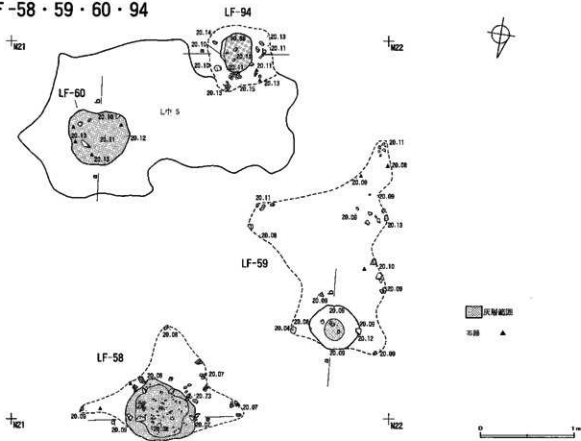
規模：0.66×0.64×0.09m 平面形：不整形

LF-57

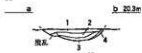


土層	土質	層別	層厚	透入物・その他
1	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
2	砂礫土	中	約0.5	

LF-58・59・60・94



LF-58



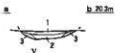
土層	土質	層別	層厚	透入物・その他
1	灰層	中	約0.5	鉄釘・鉄線
2	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
3	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
4	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線

LF-59



土層	土質	層別	層厚	透入物・その他
1	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
2	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線

LF-60



土層	土質	層別	層厚	透入物・その他
1	灰層	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
2	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
3	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線

LF-94



土層	土質	層別	層厚	透入物・その他
1	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線
2	砂礫土	中	約0.5	鉄釘・鉄線、鉄釘、鉄線

図IV-85 LF-57~60・94

3 V層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：V層上面精査作業の際、焼土ブロック、炭化物粒を含む黒色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、上位の黒色土を灰層、下位の黒・黒褐色土を焼土と判断した。

重複関係：L遺物集中-5と同一地点に位置する。L遺物集中-5はV群a類土器を主体とし、LF-60とは時期差を有する可能性があり、むしろ同一層面に近接するLF-58・59・94と関連することが考えられる。

遺物出土状況：土器はV群c類3点、石器は敲石1点、フレイク4点、ほかに礫・礫片9点が出土している。遺物は灰層・焼土および遺構周辺のV層から散発的に出土した。

性格：炉である。

時期：焼土中・周辺の出土土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-61 (図IV-86)

位置・立地：M25、調査区東側、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：0.40×0.34×0.07m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cm掘り下げた面で、褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はないが、LF-62・63・75、L遺物集中-6・8・9が近接する。検出層位、遺構規模、出土遺物から、これらと関連することが考えられる。

遺物出土状況：土器はV群a類7点、V群c類2点、石器はフレイク2点が出土している。このうちV群c類土器と石器が焼土から出土している。

性格：炉である。

時期：焼土中出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-62 (図IV-86、図版121)

位置・立地：M25、調査区中央、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：0.55×0.51×0.08m **平面形**：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、炭化物粒が若干散在する黒褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。上位黒褐色土は灰層部分と捉えられる。

重複関係：重複遺構はないが、LF-61・63・75、L遺物集中-6・8・9が近接する。検出層位、遺構規模、出土遺物から、これらと関連することが考えられる。

遺物出土状況：土器はIV群b類1点、V群c類7点、石器は石鏃1点、スクレイパー1点、フレイク6点が出土している。このうちV群c類土器6点と石鏃、スクレイパー、フレイク5点が焼土から出土している。

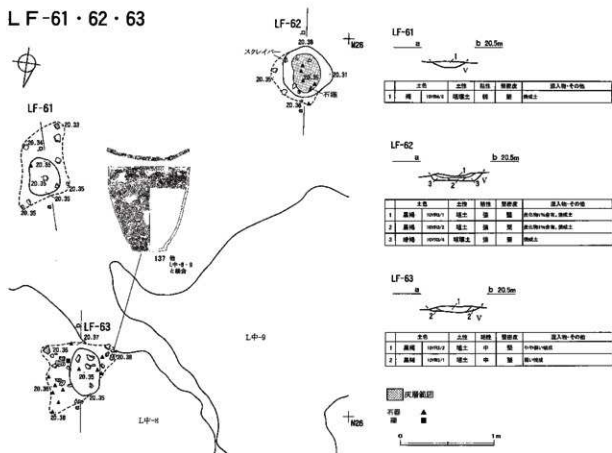
性格：炉である。

時期：焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

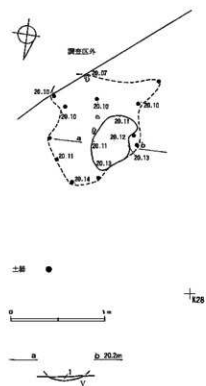
掲載遺物：石鏃(198)を写真図版に掲載した。

(坂本)

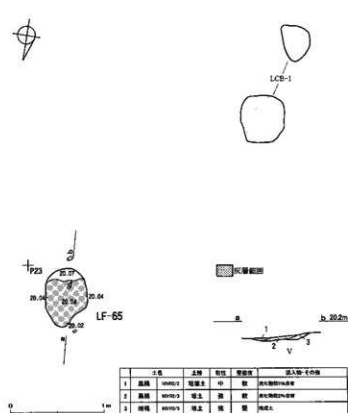
L F - 61 ・ 62 ・ 63



L F - 64



L F - 65



図IV-86 LF-61~65

3 V層の遺構と出土遺物

LF-63 (図IV-86, 158-137, 図版107)

位置・立地：M25、調査区中央、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：0.50×0.32×0.07m 平面形：不整形円形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で黒褐色土の堆積を確認した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はないが、LF-61・62・75、L遺物集中-6・8・9が近接する。検出層位、遺構規模、出土遺物から、これらと関連することが考えられる。

遺物出土状況：土器はV群c類が32点、石器はRフレイク2点、フレイク9点が出土している。また、礫片1点が出土している。土器は焼土およびその周囲からまとまって出土している。土器はL遺物集中-8・9と接合関係がある。

性格：炉である。

時期：焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (坂本)

掲載遺物

土器：137は深鉢。口縁部は無文で、縄線文で口縁部を区画する。タンネットウL式。 (佐藤)

LF-64 (図IV-86)

位置・立地：J27、調査区中央、標高20.1mほどの河岸段丘上。

規模：0.63×0.41×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から10cmほど掘り下げた面で、黒褐色土と褐色土が混在する堆積を確認した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はない。

遺物出土状況：V群a類土器9点と礫2点が、焼土の周囲より出土している。

性格：炉である。

時期：焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉と考えられる。

掲載遺物：なし。 (坂本)

LF-65 (図IV-86)

位置・立地：P23、調査区東側、標高約20.0mの河岸段丘上に立地する。西側河岸段丘縁湾入部までは6mほどの距離である。

規模：0.63×0.45×0.05m 平面形：不整形円形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、黒褐色土の堆積を確認した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：LS-10 (縄文時代後期中葉もしくは中期後半) が約5cm下位に位置する。同一層面の遺構ではLCB-1が近接している。

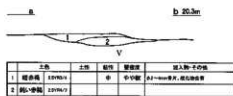
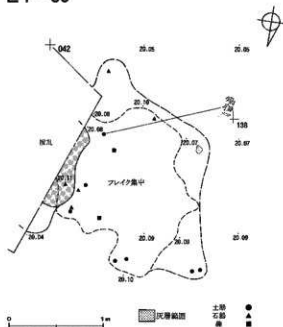
遺物出土状況：礫・礫片5点が出土し、内4点が被熱している。全て砂岩である。

性格：炉である。

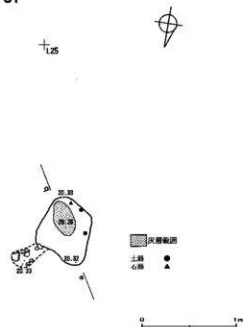
時期：LF-65より5cmほど下位に位置するLS-10からは、IV群b類土器多数がまとまって出土している。よって、縄文時代後期中葉以降と判断できる。また、周辺遺構からは、V群a類、V群b類土器が多出していることから、晩期に属する可能性が高い。

掲載遺物：なし。 (坂本)

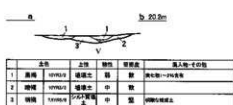
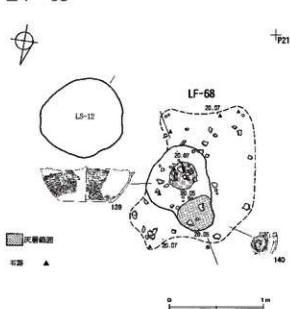
LF-66



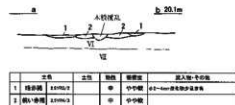
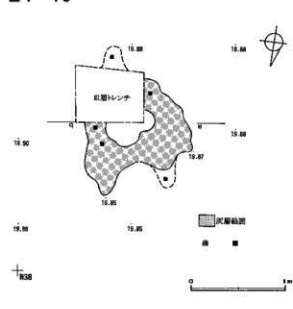
LF-67



LF-68



LF-70



図IV-87 LF-66~68・70

3 V層の遺構と出土遺物

LF-66 (図IV-87, 158-138, 図版107)

位置・立地：O41・42、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(1.26) × (0.24) × 0.13m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で極暗赤褐色土のまとまりとフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からV群c類土器7点、石槍1点、スクレイパー1点、ピエス・エスキュー1点、Rフレイク2点、石核1点、礫1点、礫片2点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：138は注口土器の注口部。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

LF-67 (図IV-87)

位置・立地：L24・25、調査区東側～中央部、標高約20.3mの河岸段丘上。

規模：0.74×0.61×0.11m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、黒褐色・暗褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はない。

遺物出土状況：V群c類土器が14点出土している。

性格：炉である。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-68 (図IV-87, 159-139・140, 図版108・121)

位置・立地：P20、調査区東側、標高約20.0mの河岸段丘上。

規模：0.94×0.67×0.08m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、黒褐色～明褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。上位の黒褐色土は灰層部分と捉えられる。

重複関係：重複遺構はない。5cmほど下位にLS-12が存在するが関係は不明である。

遺物出土状況：土器はV群c類78点、石器はピエス・エスキュー1点、フレイク6点が出土している。また、礫片が1点出土している。

性格：炉である。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物

土器：139は浅鉢。平底である。口縁部外面、内面を沈線文で文様を施文する。口縁部内面には2個1組の突起が2種、大型の突起が1個ある。140は深鉢または鉢の口縁部。幅の広い貼付で渦巻文を施す。139はV群b類、140はタンネットウL式。 (佐藤)

石器：ピエス・エスキュー (199) を写真図版に掲載した。

(坂本)

LF-69 (図IV-88)

位置・立地：M27、調査区中央、標高約20.4mの河岸段丘上。

規模：0.46×0.45×0.08m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、黒褐色～暗褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：L遺物集中-17の範囲内に位置する。

遺物出土状況：焼土周辺より出土した遺物も全てL遺物集中-17として扱った。LF-69周辺にはV群a類土器213点がまとまって出土しており、石器では石錐1点、Rフレイク1点、敲石1点、フレイク24点が出土している。また、5～10cm大の礫・礫片9点が焼土の北側に散漫に分布していた。これらの礫はほとんどが無被熱であった。この他、LF-69の東側0.6mほどに骨片が密に分布する範囲が認められた。

性格：炉である。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期前葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-70 (図IV-87、図版78)

位置・立地：M38、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：(1.59)×1.11×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：VI層上面で暗赤褐色土のまとまりを確認した。1層には炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からI群b-3類土器1点、礫2点、近接する包含層から礫1点、礫片1点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代早期後半と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

LF-71 (図IV-88)

位置・立地：N・O23、調査区東側、標高約20.4mの河岸段丘上。

規模：0.74×0.65×0.15m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から10cmほど掘り下げた面で、黒褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。焼土上位の堆積は灰層と捉えられる。

重複関係：重複する遺構はないが、同一層面でLS-7・10が近接する。しかし、LF-71において被熱礫・礫片などの出土がみられないことから、両者が関連する可能性は低いと考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：炉である。

時期：不明である。

掲載遺物：なし。

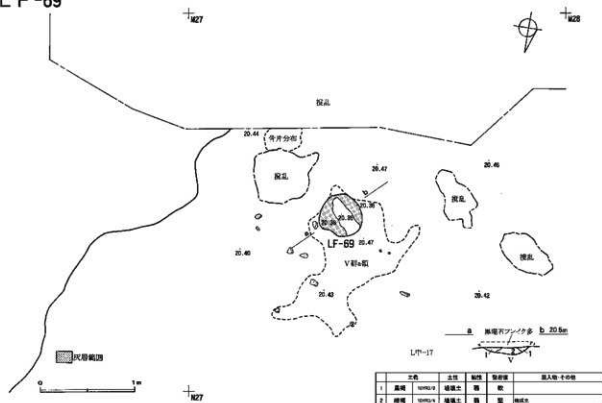
(坂本)

LF-72 (図IV-88、図版121)

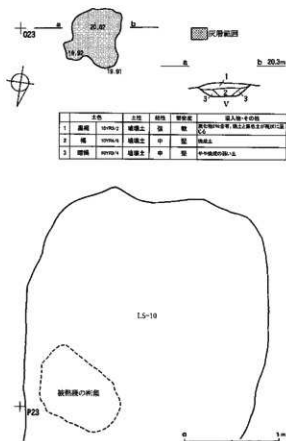
位置・立地：L23、調査区東側、標高20.1m前後の河岸段丘上。

3 V層の遺構と出土遺物

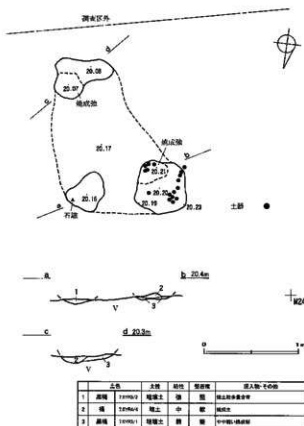
LF-69



LF-71

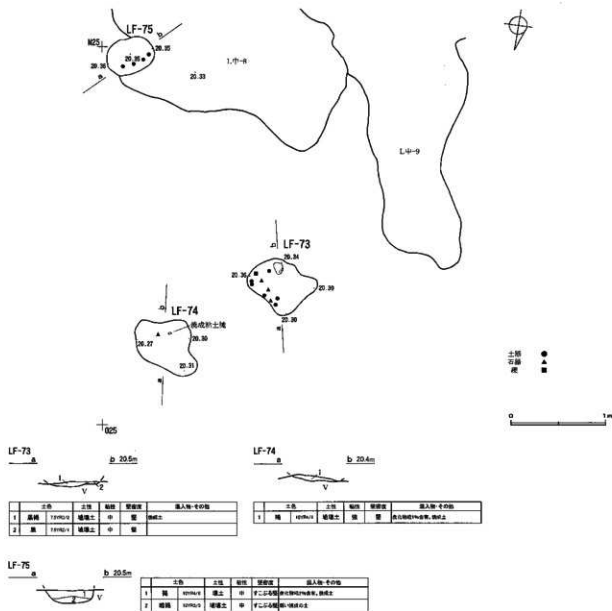


LF-72

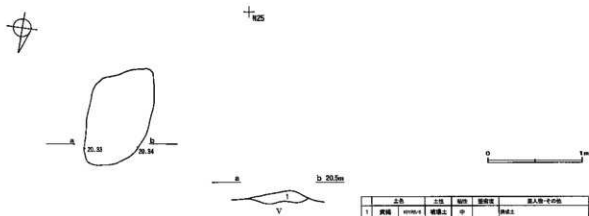


図IV-88 LF-69・71・72

L F-73・74・75



L F-76



図IV-89 LF-73~76

3 V層の遺構と出土遺物

規模：(0.41×0.41×0.05) + (0.63×0.58×0.07) + (0.66×0.44×0.08) m 平面形：不整形
確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、黒褐色土および褐色土の堆積が3か所ま
とまる状態を認めた。半載掘削により土層断面を観察し、すべて焼土であると判断した。

重複関係：重複する遺構はない。

遺物出土状況：遺物は焼土内および3か所の焼土に囲まれた範囲から出土している。土器はV群c類
が35点、石器は石鏃が1点、両面調整石器が1点、フレイクが2点、ほか礫片が2点出土している。

性格：炉である。

時期：出土遺物から縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物

石器：石鏃(200)を写真図版に掲載した。(坂本)

LF-73 (図IV-89、図版121)

位置・立地：N25、調査区中央、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：0.75×0.59×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で黒褐色土の堆積を確認した。半載掘削によ
り土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はないがLF-74が近接する。また、LF-75・76、L遺物集中-8・9がやや近
接した位置にある。検出層位、出土遺物から、これらと関連する可能性があり、LF-61~63との関
連も考えられる。

遺物出土状況：土器はV群c類が4点、石器は石鏃が1点、敲石が1点、フレイクが11点出土してい
る。遺物は全て、焼土からまともって出土している。

性格：炉である。

時期：焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物

石器：石鏃(201)と敲石(202)を写真図版に掲載した。(坂本)

LF-74 (図IV-89、図版121)

位置・立地：N25、調査区中央、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：0.78×0.58×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で褐色土の堆積を確認した。半載掘削によ
り土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はないがLF-73が近接する。また、LF-75・76、L遺物集中-8・9がやや近
接した位置にある。検出層位、出土遺物から、これらと関連する可能性があり、LF-61~63との関
連も考えられる。

遺物出土状況：土器はV群c類が6点、土製品が1点、石器はスクレイパーが1点、フレイクが8点
出土している。遺物は全て、焼土からまともって出土している。

性格：炉である。

時期：焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物

石器：スクレイパー1点を写真図版に掲載した。203はエンドスクレイパーで、刃部は鋸歯状に作り

出されている。 (坂本)

LF-75 (図IV-89)

位置・立地: M・N25, 調査区中央、標高20.4mほどの河岸段丘上。

規模: 0.52×0.38×0.14m **平面形:** 不整形円形

確認・調査・土層: V層上面から5cmほど掘り下げた面で褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係: L遺物集中-8と接する。また南東側にLF-61・62・63、L遺物集中-6・8・9が、北西側にLF-73・74が、北東側にLF-76が近接する。検出層位、遺構規模、出土遺物から、これらと関連することが考えられる。

遺物出土状況: V群c類土器が25点出土している。土器は焼土からまともって出土している。

性格: 炉である。

時期: 焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物: なし。 (坂本)

LF-76 (図IV-89、図版78)

位置・立地: N24, 調査区東側、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模: 1.19×0.69×0.11m **平面形:** 不整形円形

確認・調査・土層: V層上面から5cmほど掘り下げた面で褐色土の堆積を確認した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係: 重複遺構はない。同一層面でLF-63・75、L遺物集中-6・7・8が近接するが、出土遺物から関連性はないものと判断される。

遺物出土状況: 土器はⅢ群b類が1点、Ⅳ群b類が17点、石器はフレイクが1点出土している。遺物は全て焼土からまともって出土している。

性格: 炉である。

時期: 焼土出土の土器および検出層位から、縄文時代後期中葉と考えられる。

掲載遺物: なし。 (坂本)

縄文時代晩期の焼土群 (LF-77~81・87~88) (図IV-90)

位置・立地: M~O・51~53、P33、N49, 調査区西側の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模: 14.9×(9.8)m **平面形:** 不整形

確認・調査・土層: V層上面で、多数の遺物を伴う焼土群を確認した。1層中には骨片・炭化物を多く含む。また1層、近接する包含層から細かなベンガラを多数確認した。

重複関係: すべて同時期と考える。

性格: 炉のまとまりと考える。

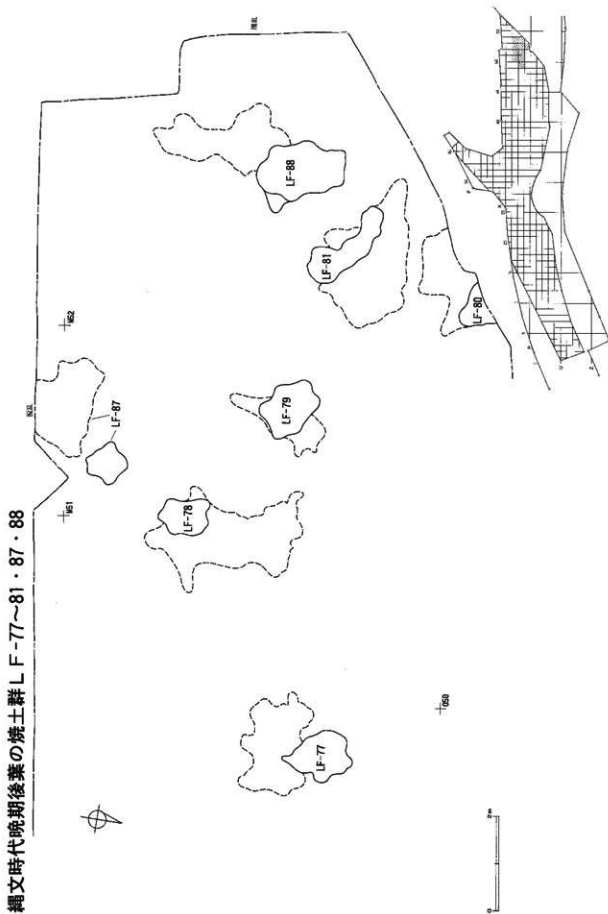
時期: 確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉である。

(佐藤)

LF-77 (図IV-91、図版121)

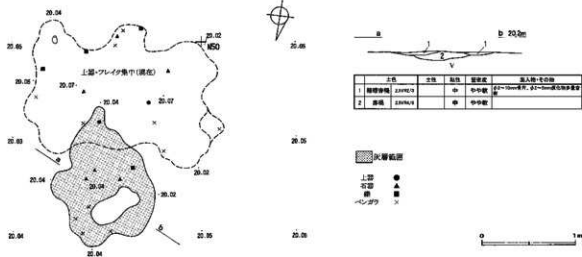
位置・立地: N49, 調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模: 1.49×1.10×0.11m **平面形:** 不整形

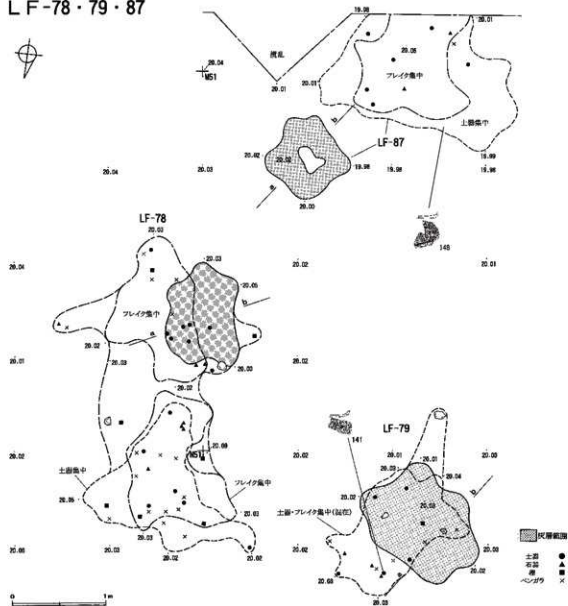


図IV-90 縄文時代晩期後葉の焼土群 (LF-77~81・87~88)

LF-77



LF-78・79・87



図IV-91 LF-77~79・87

3 V層の遺構と出土遺物

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと土器片、フレイクの混在する遺物集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層中からV群c類土器20点、石鏃1点、フレイク8点、礫片1点、ベンガラ4か所、遺物集中からⅢ群b類土器1点、V群c類土器306点、石鏃4点、石錐4点、ピエス・エスキュー3点、フレイク158点、礫2点、礫片30点、ベンガラ6か所、近接する包含層からベンガラ1か所が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。 (佐藤)

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃(204・205)、石錐(206・207)を掲載した。207は腹面側にバルブの発達する深い剥離を施した後に刃部を形成し、再び腹面側に散発的な剥離を加えている。 (坂本)

LF-78 (図IV-91・92、図版78・121)

位置・立地：M50・51、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：1.14×0.75×0.10m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと一部が重なる状況でフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層中からV群c類土器30点、石槍1点、Rフレイク1点、フレイク29点、礫片6点、フレイク集中からV群c類土器200点、石鏃7点、スクレイパー1点、ピエス・エスキュー2点、Rフレイク5点、フレイク539点、礫3点、礫片10点、ベンガラ15か所、近接する包含層からV群c類土器1点、スクレイパー1点、礫1点、礫片2点、ベンガラ1か所が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃(208~210)、石槍(211)、スクレイパー(212・213)を掲載した。212・213は縦長剥片を素材とし、連続的な側縁調整を施している。213は玄武岩製である。 (坂本)

LF-79 (図IV-91・92、160-141、図版108・121)

位置・立地：N51、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：1.39×1.01×0.14m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと、一部が重なる状況で土器片とフレイクの混在する遺物集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：遺物集中からV群c類土器65点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、ピエス・エスキュー1点、Rフレイク2点、フレイク106点、石斧1点、敲石1点、礫3点、礫片7点、ベンガラ5か所、近接する包含層から礫片1点が出土した。

性格：炉と考える。

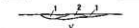
時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

LF-78
a b 20.2m

	土名	土層	形状	埋蔵深	遺人類・その他
1	埋蔵土層	1370m/s	円	中～中深	217-219号溝内、221-222号溝内埋蔵品発見
2	表層	1370m/s	円	中～中深	

LF-79
a b 20.2m

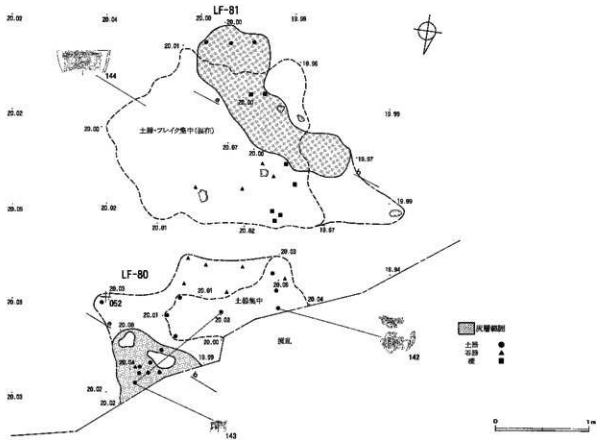
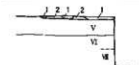
	土名	土層	形状	埋蔵深	遺人類・その他
1	埋蔵土層	1370m/s	円	中～中深	217-219号溝内、221-222号溝内埋蔵品発見
2	表層	1370m/s	円	中～中深	

LF-87
a b 20.2m

	土名	土層	形状	埋蔵深	遺人類・その他
1	埋蔵土層	1370m/s	円	中～中深	217-219号溝内、221-222号溝内埋蔵品発見
2	表層	1370m/s	円	中～中深	



LF-80・81

LF-80
a b 20.2m

	土名	土層	形状	埋蔵深	遺人類・その他
1	埋蔵土層	1370m/s	円	中～中深	217-219号溝内、221-222号溝内埋蔵品発見
2	表層	1370m/s	円	中～中深	

LF-81
a b 20.2m

	土名	土層	形状	埋蔵深	遺人類・その他
1	埋蔵土層	1370m/s	円	中～中深	217-219号溝内、221-222号溝内埋蔵品発見
2	表層	1370m/s	円	中～中深	

図IV-92 LF-78～81・87

3 V層の遺構と出土遺物

掲載遺物

土器：141は浅鉢。底部外面に沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：写真図版にスクレイパー (214)、石斧 (215) を掲載した。214は側縁調整を施したものである。215は剥片素材で、表面側には剥離面を残置する程度の研磨が加えられている。 (坂本)

LF-80 (図IV-92, 160-142・143, 図版108)

位置・立地：O52、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(0.95) × 0.70 × 0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと、近接して土器集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からV群c類土器11点、土器集中からV群c類土器31点、両面調整石器1点、フレイク1点、近接する包含層からフレイク5点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：142は浅鉢。縦の貼付けがある。143はミニチュア土器。沈線文で文様を施文する。すべてタンネットウL式。 (佐藤)

LF-81 (図IV-92, 160-144, 図版108・121)

位置・立地：N52、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：2.03 × 0.79 × 0.10m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと、一部が重なる状況で土器片とフレイクの混在する遺物集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からV群c類土器4点、土器集中からV群b類土器7点、V群c類土器530点、石鏃4点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、Rフレイク7点、ピエス・エスキューユ4点、フレイク288点、敲石1点、礫1点、礫片11点が出土した。

性格：炬と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：144は鉢。口縁部下に1段の縄線文が巡る。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃 (216~218)、スクレイパー (219)、ピエス・エスキューユ (220)、Rフレイク (221・222)、敲石 (223) を掲載した。219の刃部は鋸歯状を呈している。221・222は挿入する加工が施されるものである。 (坂本)

LF-82 (図IV-93, 160-145~147, 図版108・121)

位置・立地：M22、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

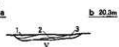
規模：0.71 × 0.64 × 0.06m 平面形：不整形円形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、炭化物粒と骨片が散在する黒褐色・褐色

L F-82・84・86

+
K22

LF-82



1	土名	土層	形状	埋没層	遺入物・その他
1	腐植	10P10.1	埋没土	浅	遺物埋没、遺物埋没層
2	腐植	10P10.1	埋没土	浅	遺物埋没層、遺物埋没層、埋没土
3	腐植	10P10.1	埋没土	中	中層埋没層、埋没土

LF-84

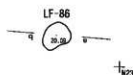
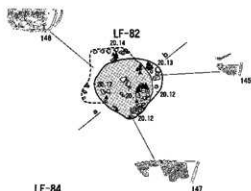


1	土名	土層	形状	埋没層	遺入物・その他
1	腐植	10P10.1	埋没土	中	遺物埋没層、埋没土

LF-86



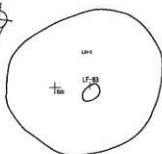
1	土名	土層	形状	埋没層	遺入物・その他
1	腐植	10P10.1	埋没土	中	遺物埋没層、埋没土



不図 ▲

0 1m

L F-83

+
K20

1	土名	土層	形状	埋没層	遺入物・その他
1	腐植	10P10.1	埋没土	浅	埋没土

0 2m

0 1m

L F-85



1	土名	土層	形状	埋没層	遺入物・その他
1	腐植	10P10.1	埋没土	浅	遺物埋没層、埋没土

0 1m

図IV-93 LF-82~86

3 V層の遺構と出土遺物

土の堆積を確認した。半載掘削により土層断面を観察し、灰層が残存する焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はない。同一層面でLF-84・86、L遺物集中-21が近接する。

遺物出土状況：土器はV群a類40点、V群b類1点、V群c類11点が、石器はRフレイク1点、フレイク34点が出土している。このほか砂岩の被熱礫片が2点出土している。焼土中からまとまって出土したのはV群a類、V群b類土器および石器全点である。しかし、V群c類は灰層と同レベルで出土しており、遺構相伴遺物はむしろV群c類の可能性が高いかもしれない。

性格：炉である。

時期：焼土中出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉もしくは晩期後葉と考えられる。

(坂本)

掲載遺物

土器：145は深鉢または鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。146～147は浅鉢の口縁部。すべてタンネットウL式。

(佐藤)

石器：写真図版にRフレイク(224)を掲載した。鋸歯状刃部をもつスクレイパーの破片の可能性はある。

(坂本)

LF-83 (図IV-93)

位置・立地：N・O20、調査区東側、LH-3の覆土中に位置する。LH-3は標高20.1m前後の河岸段丘上に立地する。

規模：0.64×0.43×0.08m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：LH-3覆土上位の自然堆積層を10cmほど掘り下げた面で、褐色土の堆積を確認した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：LH-3埋没途中の凹みを利用し、覆土上に形成されている。

遺物出土状況：砂岩製の被熱礫片が1点出土している。検出層位のLH-3覆土からはIV群a類土器が主に出土している。

性格：住居埋没過程の凹みを利用した炉である。

時期：焼土中出土の土器および検出層位から、縄文時代後期前葉で、LH-3より新しいと考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-84 (図IV-93)

位置・立地：M・N22、調査区東側、標高20.1m前後の河岸段丘上。

規模：0.86×0.49×0.05m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、暗褐色土の堆積を検出した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。焼土中には5mm程度の骨片が散在していた。

重複関係：重複する遺構はない。同一層面でLF-82・86、L遺物集中-21が近接する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：炉である。

時期：周辺遺構の出土遺物から、縄文時代晩期中葉もしくは晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-85 (図IV-93)

位置・立地：M・N23、調査区東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：0.74×0.55×0.08m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：V層上面から10cmほど掘り下げた面で、暗褐色土の堆積を確認した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複遺構はない。同一層面でLF-92が近接する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。検出層面の周辺包含層ではⅢ群b類土器が主に出土しており、また、LF-92からもⅢ群b類土器が出土している。

性格：炉である。

時期：近接遺構および周辺出土遺物から、縄文時代中期後半の可能性がある。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-86 (図IV-93、図版78)

位置・立地：M22、調査区東側、標高約20.1mの河岸段丘上。

規模：0.32×0.28×0.04m 平面形：不整楕円形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、炭化物粒の散在する暗褐色土の堆積を検出した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：下位Ⅶ層上面でTP-7が確認されており、これより新しいと判断できる。また同一層面でLF-82・84、L遺物集中-21が近接する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

性格：炉である。

時期：周辺遺構の出土遺物から、縄文時代晩期中葉もしくは晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-87 (図IV-91・92、160-148、図版108・121)

位置・立地：M51、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：0.90×0.89×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと、近接する包含層からほぼ重なる状態で土器集中とフレイク集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からV群c類土器1点、土器集中からV群c類土器753点、フレイク集中から石錐1点、Rフレイク8点、フレイク54点、石核1点、礫3点、礫片5点が出土した。

性格：炉と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：148は浅鉢または鉢。舟形土器の底部である。タンネトウL式。

(佐藤)

石器：写真図版に石鎌(225)、Rフレイク(226・227)を掲載した。226・227は鋸歯状の刃部をもつものである。226は錐状の短い突出部が2か所作り出されている。

(坂本)

3 V層の遺構と出土遺物

LF-88 (図IV-94, 160-149・150, 図版108・121)

位置・立地：N52、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：1.95×1.23×0.11m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面で、極暗赤褐色土のまとまりと、一部が重なる状況で土器片とフレイクが混在する遺物集中を確認した。1層には骨片・炭化物を含む。

重複関係：なし。

遺物出土状況：1層からV群c類土器1点、フレイク7点、遺物集中からⅢ群b類土器1点、V群c類土器639点、石鏃2点、石錐2点、スクレイパー1点、ピエス・エスキューユ1点、Rフレイク4点、フレイク185点、礫7点、礫片21点、土製品1点、ベンガラ1か所、近接する包含層から礫片1点が出土した。

性格：好と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：149は鉢。150は浅鉢。すべてタンネットウL式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃(228)、石錐(229)、スクレイパー(230)、Rフレイク(231)を掲載した。230は鋸歯状の刃部をもつエンドスクレイパーである。 (坂本)

LF-89 (図IV-94, 図版121)

位置・立地：N23、調査区東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：0.72×0.60×0.06m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、暗褐色土の堆積を検出した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。焼土粒、炭化物粒が含有される。

重複関係：重複遺構はない。同一層面でLF-90・91が近接する。

遺物出土状況：土器はV群c類2点、石器はRフレイクが1点、フレイクが12点出土している。また礫片が1点出土している。土器はLP-4、LF-54と接合した。LP-4とは約40m離れている。

性格：好である。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (坂本)

掲載遺物

土器：125はLP-4に記載した。 (佐藤)

石器：写真図版にRフレイク(232)を掲載した。鋸歯状で、小型の突出部が作り出されている。 (坂本)

LF-90 (図IV-94)

位置・立地：N22、調査区東側、標高約20.1mの河岸段丘上。

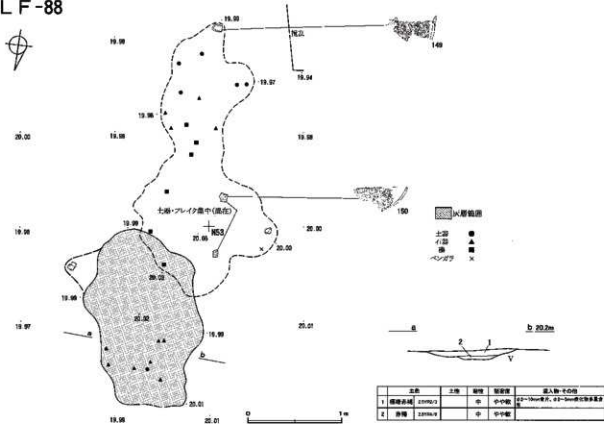
規模：0.51×0.44×0.03m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、褐色土の堆積を検出した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

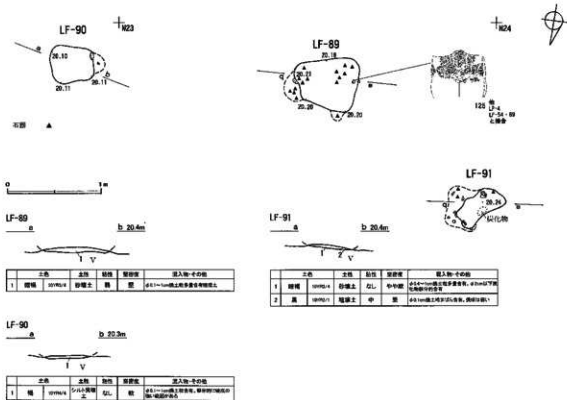
重複関係：重複する遺構はない。同一層面でLF-89・91が近接する。

遺物出土状況：V群c類土器1点、礫片1点が出土している。土器はLP-4、LF-54・89と接合関係がある。

LF-88



LF-89・90・91



図IV-94 LF-88~91

3 V層の遺構と出土遺物

性格：炉である。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-91 (図IV-94)

位置・立地：N23・24、調査区東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：0.54×0.30×0.03m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、暗褐色土の堆積を検出した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：下位VII層上面でTP-7が確認されており、これより新しいと判断できる。同一層面ではLF-89・90が近接する。

遺物出土状況：土器はV群c類が9点、石器はフレイクが3点あり、ほかに礫・礫片が2点出土している。

性格：炉である。

時期：出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-92 (図IV-95)

位置・立地：N24、調査区東側、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模：0.42×0.35×0.04m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から10cmほど掘り下げた面で、炭化物粒が散在する褐色～黒褐色土の堆積を検出した。半截掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：重複する遺構はない。同一層面ではLF-85が近接する。

遺物出土状況：Ⅲ群b類土器が1点出土している。

性格：炉である。

時期：遺構および周辺包含層の出土遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LF-93 (図IV-95)

位置・立地：O21・22、調査区東側、標高20.0mほどの河岸段丘上。

規模：0.84×0.59×0.09m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から10cmほど掘り下げた面で、炭化物粒が密集する黒褐色～褐色土の堆積を検出した。半截掘削により土層断面を観察し、灰層部分をともなう焼土と判断した。

重複関係：LS-7の範囲内に位置し、両者は共伴関係にあると捉えられる。

遺物出土状況：周辺の出土遺物は全てLS-7の遺物として扱った。LS-7は被熱礫・礫片のほか、Ⅲ群b類土器が主体的に出土している。

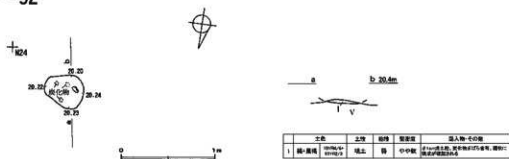
性格：炉である。

時期：LS-7出土遺物から、縄文時代中期後半と考えられる。

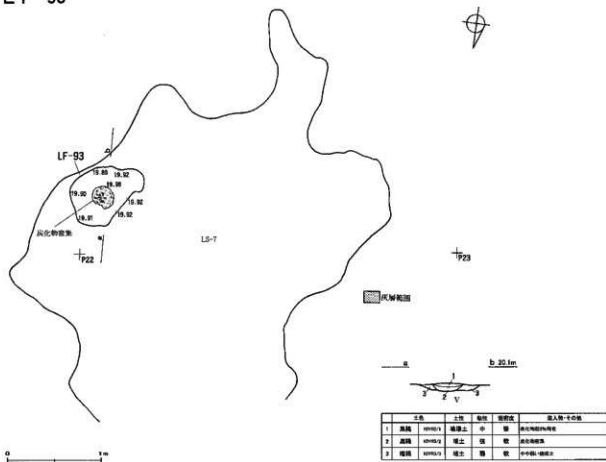
掲載遺物：なし。

(坂本)

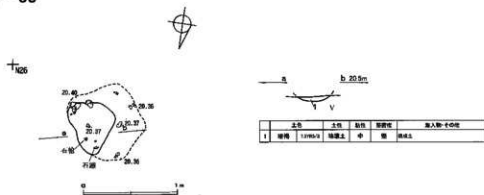
LF-92



LF-93



LF-95



図IV-95 LF-92・93・95

3 V層の遺構と出土遺物

LF-94 (図IV-85、図版121)

位置・立地：L・M21、調査区東側、標高20.1mほどの河岸段丘上。

規模：0.42×0.33×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面精査作業の際、焼土ブロック、炭化物粒を含む黒色土の堆積を確認した。また、被熱礫片を主体とするやや散漫な礫のまとまりが、焼土を取り囲むような状態で出土した。半載掘削により焼土断面を観察し、上位に灰層部分とみられる土、下位に焼土ブロックを多量に含む土を確認した。

重複関係：L遺物集中-5に接する。また、同規模の焼土遺構LF-58・59・60が近接する。L遺物集中-5はV群a類土器を、LF-58～60はV群c類土器を主体とし、両者は時期差を有する。

遺物出土状況：石器はスクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク6点が、礫は礫2点、礫片20点が出土している。礫・礫片は19点が被熱している。また、礫・礫片は、砂鈔21点、チャート1点で占められている。

性格：礫を加熱した施設、もしくは礫を加熱してこの場で利用した施設と推測される。焼土ブロックを含有する堆積からは、礫加熱後、集めた礫および焼土を掻き混ぜたことが考えられる。

時期：周辺の出土の土器および検出層位から、縄文時代晩期前葉もしくは晩期後葉と考えられる。

掲載遺物

石器：写真図版にスクレイパー (233) を掲載した。鋸歯状の刃部をもつエンドスクレイパーである。(坂本)

LF-95 (図IV-95、図版121)

位置・立地：N26、調査区中央、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：0.61×0.45×0.05m 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、暗褐色土の堆積を検出した。半載掘削により土層断面を観察し、焼土と判断した。

重複関係：約10cm下位にLS-16 (縄文時代中期後半) が位置し、これより新しいと捉えられる。

遺物出土状況：石鏃1点、石槍1点、フレイク4点、敲石2点、礫4点、礫片12点が出土している。

性格：炉である。

時期：周辺包含層よりV群c類土器が多数出土することから、縄文時代晩期後葉の可能性がある。

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃 (234)、石槍 (235)、敲石 (236・237) を掲載した。236は2回破損したが、継続して敲石として使用され、3回目の破損で遺棄されている。(坂本)

(5) 炭化物集中

LCB-1 (図IV-96、161-151、図版78・108)

位置・立地：O23、調査区の中央部付近、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模：(0.41×0.29×0.06) + (0.55×0.51×0.04) m

確認・調査・土層：V層上面から5cmほど掘り下げた面で、炭化物粒の密集範囲を検出した。半載掘削により土層断面を観察し、5cm前後の厚さに炭化物が密に分布する状態を確認した。

重複関係：重複する遺構はないが、同一層面ではLF-65がやや近接する。

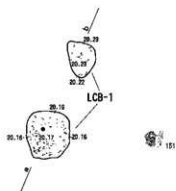
遺物出土状況：V群c類土器が1点出土している。

LCB-1



+P23

+P24

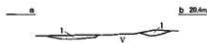


+P23



+P24

上層 ●



工名	土質	形状	埋没状況	出土層・中心値
1	黄砂土	溝	埋没	表層埋没深約5cm

図IV-96 LCB-1

3 V層の遺構と出土遺物

性格: 焼き火跡と考えられる。

時期: 出土遺物から、縄文時代晩期後葉の可能性がある。(坂本)

掲載遺物

土器: 151は深鉢または鉢。縦の貼付けがある。タンネットウL式。(佐藤)

(6) 礫集中

LS-1 (図IV-97、図版79)

位置・立地: Q9、調査区東側、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模: 2.19×0.94m

確認・調査・土層: V層を5cmほど掘り下げた際に、やや散漫な礫のまとまりを検出した。トレンチ調査による断面観察、および遺物取上げ後に下位を精査したが、掘り込みなどは確認できなかった。また、礫のまとまりから0.6mほど西側には散漫な炭化物の分布が認められた。

重複関係: 重複する遺構は無い。北西側には炭化物の分布を挟み、LS-2が近接する。

遺物出土状況: 礫7点(被熱6点)、礫片28点(被熱26点)が出土した。9割を超える礫が被熱している。礫・礫片は、砂岩29点、泥岩4点、チャート2点で占められる。礫・礫片はやや散漫に分布しており、本来LS-2に属するものが、人為的な要素で移動した可能性がある。

性格: 加熱した礫を持ち込んで機能した施設、もしくは被熱礫が廃棄されたものと考えられる。礫の加熱には、近接する炭化物分布範囲が関係する可能性がある。

時期: 検出層位より下位からはⅢ群b類土器が多出しており、これよりも新しい、中期後半以降のものと考えられる。また、周囲包含層ではV群a類土器が比較的まとまって出土しているため、晩期前葉の可能性が高いと考えられる。

掲載遺物: なし。(坂本)

LS-2 (図IV-97、図版79)

位置・立地: Q・R10、調査区東側、標高20.2mほどの河岸段丘上。

規模: 3.38×1.57m

確認・調査・土層: V層を5cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。トレンチ調査による断面観察、および遺物取上げ後に下位を精査したが、掘り込みなどは確認できなかった。また、礫のまとまりから0.3mほど南東側には散漫な炭化物の分布が認められた。

重複関係: 重複する遺構は無い。南東側には炭化物の分布を挟み、LS-1が近接する。

遺物出土状況: 礫5点(被熱3点)、礫片162点(被熱133点)が出土した。8割を超える礫が被熱している。礫・礫片の岩石種類は砂岩120点、チャート41点、安山岩5点、火山礫1点がある。遺構内東側0.6mほどの範囲は礫分布が密であり、設置時(機能時)はこの地点に礫がまとめられていたことが推測できる。また、LS-1の分布も、LS-2のまとまりから人為的な要素により移動して、形成された可能性がある。

性格: 加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられる。礫の加熱には、近接する炭化物分布範囲が関係する可能性がある。

時期: 検出層位より下位からはⅢ群b類土器が多出しており、これよりも新しい、中期後半以降のものと考えられる。また、周囲包含層ではV群a類土器が比較的まとまって出土しているため、晩期前葉の可能性が高いと考えられる。

掲載遺物：なし。 (坂本)

LS-3 (図IV-97、図版79)

位置・立地：O14、調査区東側、標高20.4mほどの河岸段丘上。

規模：2.51×1.12m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。さらに5cmほど掘り下げまとまりを確認した。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：礫27点（被熱26点）、礫片8点（被熱6点）が出土した。礫・礫片は砂岩30点、泥岩5点がある。遺構範囲中央部の礫の分布がやや密であり、設置時（機能時）はこの地点に礫がまとめられていたかもしれない。

性格：加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられる。

時期：不明である。

掲載遺物：なし。 (坂本)

LS-4 (図IV-98、図版80・122)

位置・立地：N・O37、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：2.03×1.23m

確認・調査・土層：V層中位で礫のまとまりと近接してフレイク集中を確認した。礫は破砕して礫片となっているものが多い。

重複関係：なし。

遺物出土状況：礫12点（被熱11点）、礫片70点（被熱62点）、フレイク集中からIV群b類土器29点、V群c類土器20点、石鏃3点、フレイク51点、礫片1点、近接する包含層からV群c類土器1点が出土した。礫・礫片は砂岩80点、安山岩2点がある。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。 (佐藤)

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃（238）を掲載した。 (坂本)

LS-5 (図IV-99、図版80)

位置・立地：M38、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：2.05×1.59m

確認・調査・土層：V層上位で小礫を主体とする礫のまとまりと近接してフレイク集中を確認した。礫は破砕して礫片となっているものが多い。

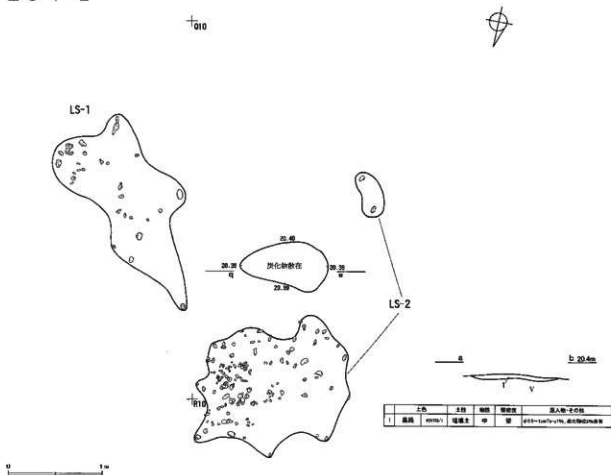
重複関係：なし。

遺物出土状況：礫113点（被熱9点）、礫片28点（被熱2点）、フレイク集中からフレイク236点、近接する包含層からI群b-3類土器2点、V群c類土器5点が出土した。礫・礫片は砂岩129点、チャート9点、凝灰岩3点がある。

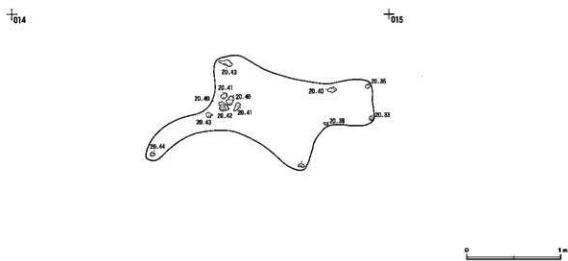
性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。 (佐藤)

LS-1・2



LS-3



図IV-97 LS-1~3

掲載遺物：なし。

LS-7 (図IV-99、図版80・81・122)

位置・立地：O・P21・22、調査区東側、標高約19.9mの河岸段丘上。

規模：4.75×3.24m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりが検出された。さらに5cmほど掘り下げ、まとまりを確認した。礫密集部の下位に土坑の存在を想定し、トレンチ調査をおこなったが、礫が落ち込んで出土する状況を確認するにとまり、掘り込み痕跡は検出できなかった。小さな凹み地形を利用した、もしくは浅い掘り込みが構築されていた可能性がある。

重複関係：LF-93が同一地点に位置する。両者は伴件関係にあると判断できる。LF-93はLS-7の大量の被熱礫を加熱した施設であると考えられる。また、北側にLS-22が接しており、両者は一連の施設であると考えられる。このほか、同一層面にLS-8・10が近接している。

遺物出土状況：土器はⅢ群b類75点、Ⅳ群a類1点、Ⅳ群b類1点、Ⅴ群a類1点、Ⅴ群c類4点が出土している。Ⅲ群土器のみが、多数の礫と共に、2回目の掘り下げ土層からも出土している。

石器は石鏃1点、Rフレイク1点、フレイク23点、石斧原材1点、石皿1点が出土している。石皿と石斧原材は遺構範囲の南側に、棒状礫と共に近接して出土した。

礫は、礫24点（被熱8点）、礫片391点（被熱374点）が出土している。礫・礫片の9割以上が被熱している。礫・礫片の岩石種類には、砂岩376点、チャート25点、泥岩3点、安山岩6点、凝灰岩3点、その他2点がある。9割が砂岩で占められている。礫は1回目の検出段階は範囲内全体に、やや散漫な状態で認められた。2回目の検出段階では、密集部および密集部から南側2m程度の範囲にまとまりをみせた。密集部では1回目の検出位置から20cmほどの深さまで礫落ち込んで出土した。また、密集部の礫は179点で構成されるが、内171点、96%が被熱しており、落ち込んだ位置から出土したものに限定すれば99%におよぶ。

性格：LF-93で加熱した礫を、運び込んで機能した礫集合施設と考えられる。施設は①浅い凹みに加熱した礫を充填して機能したもの、②LF-93で加熱した礫をその場で使用したもの、③加熱した礫を平地（LS-7範囲内）に運び集合させたもの、が考えられる。範囲内に散在する被熱礫は、(a)①の礫が使用後に掻き出されたもの、(b)②・③いずれかの施設が使用後破壊され分布したものと考えられる。また、石皿を使用した作業が礫施設と関係したことが推測される。

時期：出土遺物から、縄文時代中期後半と判断できる。

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃(239)、石斧原材(240)、石皿(241)を掲載した。240は棒状礫を素材とし、打ち欠きによる側縁加工と刃部整形をおこない、刃部に研磨を加えているが、刃を砥ぎ出さずそのまま作業を終了している。241はやや凹凸のある礫の平坦面にすり面が観察される。すり面は表面の状況に応じ、斑に発達している。出土位置から、241の石皿は石斧を研磨する砥石の可能性もある。

(坂本)

LS-8 (図IV-100、161-152、図版81・108・122)

位置・立地：O・P23・24、調査区東側、標高約20.0mの河川湾入部段丘縁。

規模：2.48×1.94m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりが検出された。さらに数cm掘り下

3 V層の遺構と出土遺物

げをおこない、北側のまとまった範囲に黒曜石のフレイク集中が上下に連続して出土する状況を確認した。フレイクは微細なチップが多数含まれたため、土壌ごと採取し水洗選別をおこなった。フレイク集中部についてはトレンチ調査により断面を観察したが、掘り込みは確認できなかった。

重複関係：重複する遺構は無い。同一層面には、LS-7・10、LF-93が近接している。

遺物出土状況：土器はⅢ群b類2点、V群c類28点が出土した。Ⅲ群b類は北側の礫が小規模にまとまる地点から出土している。対してV群c類は礫集中範囲から0.5mほど離れた地点にまとまって出土している。遺構周囲には遺物の出土がほとんどなく、調査時はV群のまとまりを相伴遺物として扱った。

石器は石鏃2点、両面調整石器2点、Rフレイク1点、フレイク2, 217点が出土した。石器の石材はフレイク8点に頁岩が認められるほかは、全て黒曜石である。北側に位置する0.4×0.5mのフレイク密集範囲からは1,848点が出土し、他の石器もその周囲に主に分布している。フレイクは0.1~2cm程度のものが大多数を占める。概観すると、打面（無打面、点状、線状、リップ状が多い）、背面の剥離面構成（多方向が多い）、縦断面形状（薄手で湾曲するものが多い）などの特徴が認められる。こうしたフレイクは、石鏃・石槍・両面調整石器などを製作する際に多量に発生するものであり、出土したツールの製作に関わることが考えられる。

礫は礫24点（被熱なし）、礫片50点（被熱43点）が出土している。礫・礫片には砂岩68点、凝灰岩3点、片麻岩2点、チャート1点があり、砂岩が大半を占める。フレイク集中範囲に接して、礫片が密に分布する範囲が認められる。この集中部は礫片23点で構成され、内21点が被熱している。設置時（機能時）はこの地点に礫がまとめられていたことが考えられる。

性格：加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられる。礫集中部周辺に散在する礫は、使用後、集中部が人為的に破壊されて分布したものであろう。また、礫集中施設に近接し石鏃、石槍などの石器製作作業がおこなわれたと捉えられる。

時期：縄文時代中期後半、もしくは晩期後葉の可能性があるが、出土状況からは中期後半の可能性が高いと推測される。 (坂本)

掲載遺物

土器：152は深鉢。口縁部下に竹管状工具による刺突文が2条走る。タンネトウL式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃（242）を掲載した。 (坂本)

LS-9 (図IV-100, 161-153, 図版81・109)

位置・立地：K38・39、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：(2.88) × (1.37) m

確認・調査・土層：V層上位で礫のまとまりを確認した。調査区外に遺物の分布が広がっており、詳細は不明である。

重複関係：なし。

遺物出土状況：V群a類土器6点、V群c類土器28点、礫2点（被熱なし）、礫片64点（被熱44点）が出土した。礫・礫片は砂岩48点、チャート18点がある。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代晩期前葉～後葉と考える。

掲載遺物

土器：153は鉢または浅鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。タンネトウL式。 (佐藤)

3 V層の遺構と出土遺物

LS-10 (図IV-100, 161-154, 図版81・109・122)

位置・立地：O・P23、調査区東側、標高約20.0mの河川湾入部段丘縁。

規模：3.74×2.81m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。

重複関係：重複する遺構は無いが、同一層面にLS-7・8、LF-93が近接する。LS-22と一連の遺構の可能性はある。

遺物出土状況：土器はIV群b類173点、V群c類4点が出土している。IV群b類は範囲内に散在して、V群c類は被熱の礫密集範囲から確認している。また周辺包含層ではIII群b類土器が主に出土している。

石器は石鏃2点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク36点が出土している。石材は全て黒曜石である。分布は範囲内に散在して認められた。

礫は礫27点（被熱7点）、礫片74点（被熱59点）が出土している。礫・礫片には砂岩86点、チャート7点、凝灰岩6点、その他2点があり、砂岩が大半を占める。範囲北東側に1.0×0.6mほどの密集範囲が認められ、これを構成する68点の礫のうち50点が被熱していた。

性格：加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられ、散在する礫は人為的要素により、密集部から拡散したものと考えられる。

時期：縄文時代後期中葉の土器が出土しているが、周囲から検出される遺構、および出土遺物からは中期後半と考えられる。 (坂本)

掲載遺物

土器：154は深鉢。口縁部は大きな波状口縁で、6単位である。沈線文で多段の文様を施文する。手稲式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃(243・244)を掲載した。 (坂本)

LS-12 (図IV-101)

位置・立地：P20、調査区東側、標高20.0mほどの河岸段丘上。

規模：0.89×0.85m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。

重複関係：重複する遺構は無い。5cmほど上位にLF-68（縄文時代晩期後葉）が近接するが、関連性は不明である。

遺物出土状況：V群c類土器1点、礫2点（被熱1点）、礫片13点（被熱13点）が出土した。礫・礫片はすべて砂岩である。

性格：加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられる。

時期：縄文時代晩期後葉の可能性はある。

掲載遺物：なし。 (坂本)

LS-13 (図IV-101, 図版81)

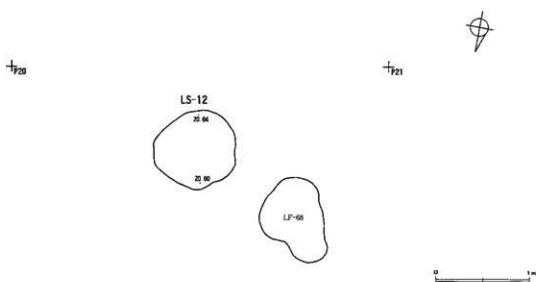
位置・立地：M20・21、調査区東側、標高20.0mほどの河岸段丘上。

規模：3.28×2.04m

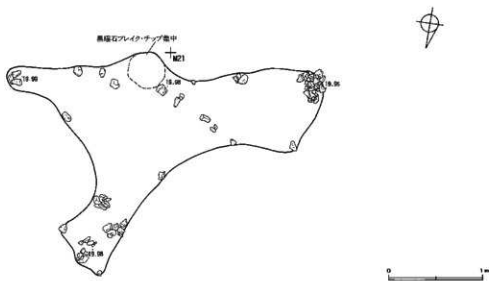
確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。

重複関係：LF-60（縄文時代晩期後葉）の約15cm下位に位置し、これより古いと捉えられる。

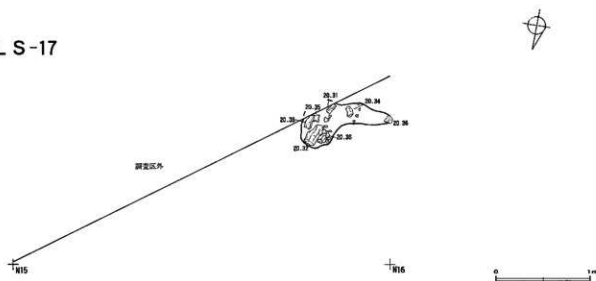
LS-12



LS-13



LS-17



図IV-101 LS-12・13・17

3 V層の遺構と出土遺物

遺物出土状況：IV群a類土器3点、フレイク23点、礫9点（被熱7点）、礫片112点（被熱111点）が出土した。フレイクの石材は22点が黒曜石、1点が玉髓である。フレイクは30cmほどの範囲にまとまり南東側に分布していた。礫・礫片には砂岩120点、安山岩1点がある。礫はおおまかに南西側と北側の二つのまとまりがみられる。

性格：加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられる。使用後、人為的要因により本来のまとまりが破壊され、散らばったものと推測される。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

掲載遺物：なし。

(坂本)

LS-14 (図IV-102, 161-155, 図版82・109)

位置・立地：M45・46、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：(4.10) × 2.15m

確認・調査・土層：V層上位で、礫のまとまりと、ほぼ重なる土器の散在する範囲を確認した。礫のまとまりは、分布が他と比べて広がっており、全体的に散在している。一部に炭化物の分布する範囲がある。攪乱により一部を削平される。

重複関係：なし。

遺物出土状況：礫131点（被熱109点）、礫片455点（すべて被熱）、土器の散在する範囲からV群c類土器103点、近接する包含層からV群c類土器1点が出土した。礫・礫片の岩石種類は砂岩532点、チャート46点、流紋岩8点、閃緑岩6点、安山岩4点、凝灰岩1点、礫岩1点である。

性格：炭化物の分布する範囲が短時間に形成された焼き火の痕跡の可能性があるので、礫を加熱した場所と考える。または、加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：155は深鉢。口縁部下は無文で、沈線文で文線を施文する。タンネットウL式と考える。(佐藤)

LS-15 (図IV-101, 図版82)

位置・立地：N25・26、調査区中央、標高約20.3mの河川湾入部段丘縁。

規模：3.74 × 2.59m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。

重複関係：近接位置のVI層上面でLP-42（縄文時代中期後半）を確認している。LP-42の構築面はLS-15分布面と捉えられ、両者は一連の遺構と考えられる。近接するLP-41・LS-16も同様の関係とみられる。また、L遺物集中-22が近接するが、関連する可能性は低いと捉えている。

遺物出土状況：土器はⅢ群b類2点、IV群b類1点が、石器は両面調整石器1点、フレイク7点が出土している。礫は、礫15点（被熱5点）、礫片248点（被熱227点）が出土した。礫・礫片の岩石種類は砂岩230点、チャート29点、凝灰岩4点である。礫はLP-42に近い西側に多く分布する。

性格：①LP-42に充填した礫を掻き出した際に生じたもの（廃棄された礫）、または②加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考えられる。②の場合でも、人為的破壊を受けているものと推測される。

時期：検出層位、出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。LS-16、LP-41・42とは同一時期と捉えられる。

3 V層の遺構と出土遺物

掲載遺物：なし。 (坂本)

LS-16 (図IV-101、図版82)

位置・立地：N25・26、調査区中央、標高20.2m前後の河川湾入部段丘縁。

規模：2.34×1.20m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。

重複関係：LS-16分布面より5cm下部、V層下位～VI層上面でLP-41(縄文時代中期後半)が確認されている。LP-41の構築面はLS-16分布面と捉えられ、両者は一連の遺構と考えられる。

遺物出土状況：フレイク8点、礫片63点(被熱54点)が出土した。礫片の岩石種類は砂岩43点、チャート20点である。遺構範囲内の南西側に礫の分布のまとまりがあり、LP-41とは0.6mほど離れている。

性格：①LP-41に充填した礫を掻き出した際に生じたもの(廃棄された礫)、または②加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考えられる。②の場合でも、人為的破壊を受けているものと推測される。

時期：LS-16、LP-41・42とは同一時期と捉えられ、縄文時代中期後半と考えられる。

掲載遺物：なし。 (坂本)

LS-17 (図IV-103、図版82)

位置・立地：M15・16、調査区東側、標高20.3mほどの河岸段丘上。

規模：1.00×(0.47)m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、砂岩の角礫片と礫片のまとまりを検出した。土坑の可能性を想定し、トレンチ調査をおこなったが、下部に掘り込みは確認できなかった。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：礫1点(被熱なし)、礫片91点(被熱なし)が出土した。石材は砂岩91点、安山岩1点である。礫片の大半は大型の角礫から破砕して生じたものとみられる。また、調査区外に遺物が連続して分布することが考えられる。

性格：不明である。

時期：不明である。

掲載遺物：なし。 (坂本)

LS-18 (図IV-103、161-156、図版82・109・122)

位置・立地：N21・22、調査区東側、標高20.0mほどの河岸段丘上。

規模：2.62×1.66m

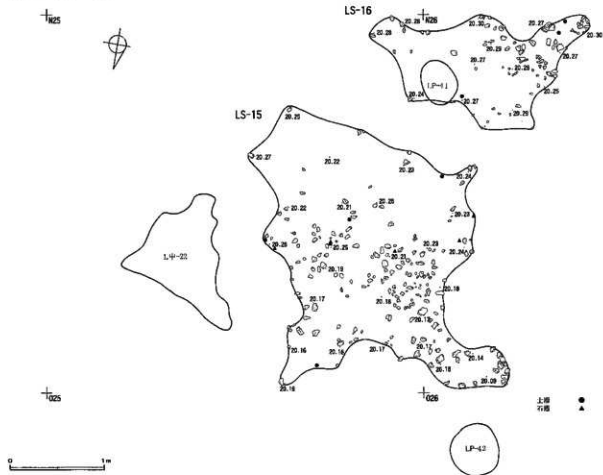
確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に、礫のまとまりを検出した。さらに5cmほど掘り下げまとまりを確認した。

重複関係：重複する遺構は無いが、LH-3掘上げ土上面から下部に確認された礫密集範囲がほぼ同一レベルに近接して位置し、関連することが考えられる。

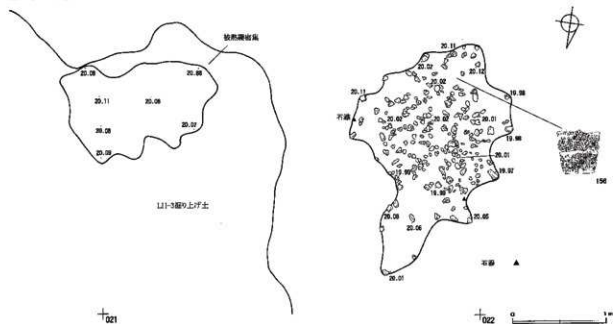
遺物出土状況：V群c類土器31点、石礫1点、フレイク5点、礫109点(被熱99点)、礫片267点(被熱262点)が出土した。礫・礫片の石材は砂岩347点、チャート24点、その他5点で、大多数が砂岩・チャートで占められる。

V群c類土器は礫密集部の上位に若干の間層を挟んで出土しており、LS-18の礫集中よりも新しい

L S - 15・16



L S - 18



図IV-103 LS-15・16・18

3 V層の遺構と出土遺物

時期に遺されたかと判断した。礫は0.4×0.4mほどの密集部が南側に位置し、その北側に接した1.2×1.2mほどの範囲に、強いまとまりが認められる。

近接する「LH-3掘上げ土、礫密集範囲」からは礫141点（被熱76点）、礫片108点（被熱55点）、計249点が出土した。礫の岩石種類は砂岩207点、チャート31点、泥岩6点、凝灰岩3点、安山岩2点がある。掘上げ土の上面から下部、5～10cmの厚さにかけて検出され、浅い掘り込みの中に礫が投入されたかと捉えられる。範囲は約1.6×1.0mで、LS-18とほぼ同規模である。また両者は礫分布密度が高く、使用後の人為的破壊を大きく受けていないと考えられる。

性格：加熱した礫を持ち込んで機能した施設と考えられる。

時期：遺構検出面および遺物出土状況からは、縄文時代中期後半以降で晩期後葉より新しいと判断される。LH-3掘上げ土礫集中の出土状況より、後期初頭に近い時期が考えられ、中期後半末の可能性が高い。 (坂本)

掲載遺物

土器：156は深鉢。舟形土器である。突起は幅の広いものと他は小さい山形のものがある。沈線で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃（245）を掲載した。 (坂本)

LS-19 (図IV-103、図版82)

位置・立地：M39、調査区中央の標高20.1m付近の河岸段丘上。

規模：0.71×0.59m

確認・調査・土層：V層中位で礫のまとまりと黒褐色土の落ち込み2か所を確認した。LP-10・11と一部が重なるが、LP-10の1層から被熱した礫が出土していることから、LP-10に伴うと考える。
重複関係：LP-11より新しく、LP-10に伴う。

遺物出土状況：IV群b類土器19点、礫21点（被熱16点）、礫片94点（被熱76点）が出土した。礫・礫片の岩石種類は砂岩68点、チャート38点、泥岩9点がある。

性格：加熱した礫を平地に持ち込んで機能した施設と考える。

時期：確認面と出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

LS-20 (図IV-104、図版83)

位置・立地：N34、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：1.28×0.89m

確認・調査・土層：V層中位で礫のまとまりを確認した。LP-19と一部が重なるが、1層から被熱した礫が出土していることから、LP-19に伴うと考える。

重複関係：LP-19に伴う。

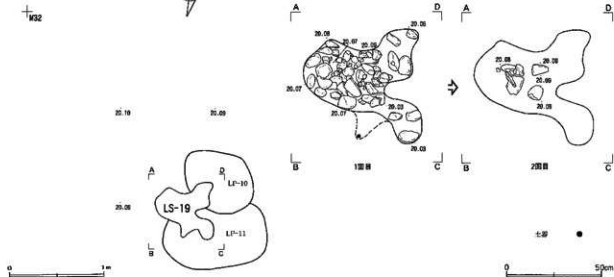
遺物出土状況：フレイク6点、礫15点（被熱14点）、礫片82点（被熱25点）が出土した。礫・礫片の岩石種類は砂岩64点、チャート22点、泥岩7点、礫岩2点、珪岩1点、流紋岩1点がある。

性格：LP-19から礫を掻きだしたものの可能性がある。

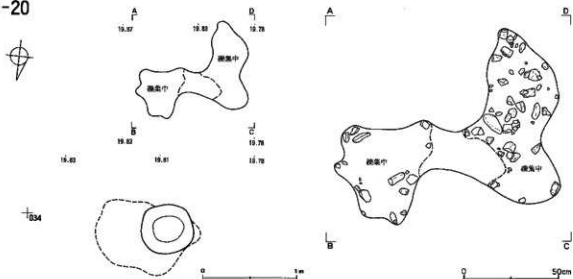
時期：確認面とLP-19出土遺物から縄文時代後期中葉～晩期後葉である。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

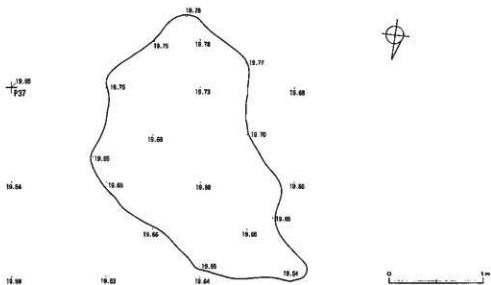
LS-19



LS-20



LS-21



図IV-104 LS-19~21

3 V層の遺構と出土遺物

LS-21 (図IV-104、図版83)

位置・立地：O・P37、調査区中央の標高19.6～19.8mにかけての河岸段丘縁緩斜面。

規模：3.07×1.86m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。礫はほとんどが焼成を受けている。なお、礫集中周辺の調査区にも焼成を受けた礫が散在していたが、まとまりはとらえられなかった。

重複関係：わずかに重複してLF-43がある。

遺物出土状況：焼成を受けた礫・礫片272点、V群a類土器5点、土製品1点、フレイク5点が出土した。礫・礫片は、砂岩206点、凝灰岩・泥岩各21点、チャート19点、玉髓5点がある。

性格：LF-43と関連し、火を用いた何らかの作業場と推測される。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代後期中葉、手稲式期の遺構である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LS-22 (図IV-104、図版83)

位置・立地：P22、調査区東側の標高19.7mの河岸段丘上。

規模：2.03×(1.63) m

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。礫は中央部にややまとまる部分があり、その周辺では散在している。礫はほとんどが焼成を受けている。なお、近接してLF-10が検出され、関連するものと推測される。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼成を受けた礫・礫片45点、敲石1点、Ⅲ群b類土器33点が出土した。礫・礫片は砂岩37点、チャート7点、安山岩1点がある。

性格：LF-10と関連し、火を用いた何らかの作業場と推測される。

時期：LF-10との関連、周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半の遺構である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LS-23 (図IV-104、図版83)

位置・立地：P23、調査区東側の標高19.6mの湾入部河岸段丘縁。

規模：2.53×1.57m

確認・調査・土層：V層を20cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。中央部はTP-2の埋まり切らないくぼみに位置し、さらに5cmほど掘り下げて確認した。礫はほとんどが焼成を受けている。また、TP-2覆土中出土の礫の多くも本来的にはこの礫集中のものと考えられる。なお、上位にLF-3～5が位置するが、関連するものではないと推測される。

重複関係：下位にTP-2、上位にLF-3～5およびL遺物集中-114が位置する。また、Ⅲ層の土坑、UP-3に切られる。

遺物出土状況：焼成を受けた礫・礫片552点、Ⅲ群b類土器2点、フレイク16点、加工痕ある礫1点が出土した。礫・礫片は、砂岩436点、凝灰岩52点、チャート26点、泥岩20点、玉髓6点、片岩・礫岩各3点、珪岩・蛇紋岩各2点、安山岩1点がある。

性格：礫の上で火を焚いたもの、もしくは焼けた礫をまとめたものと推測される。

時期：LF-3～5よりも古く、礫集中・周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半以

3 V層の遺構と出土遺物

降、晩期前葉以前の遺構と推測される。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LS-24 (図IV-105、図版83)

位置・立地：P41、調査区西側の標高19.8mの河岸段丘上。

規模：1.35×0.70m

確認・調査・土層：V層を20cmほど掘り下げた際に礫のまとまりを確認した。礫はやや散在しており、焼成を受けている。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼成を受けた礫・礫片37点が出土した。礫・礫片は、砂岩31点、チャート5点、片岩1点である。

性格：焼いた礫を移動したものと推測される。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半の遺構である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

LS-25 (図IV-105、図版83)

位置・立地：Q41、調査区西側の標高19.8mの河岸段丘上。

規模：0.69×0.33m

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に上位の礫が検出され、さらに5cmほど掘り下げまとまりを確認した。礫は全て焼成を受けている。下位を精査したが、掘り込みなどは確認できなかった。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：焼成を受けた礫・礫片21点が出土した。礫・礫片は砂岩20点、泥岩1点である。

性格：礫の上で火を焚いたもの、もしくは焼いた礫をまとめたものと推測される。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代中期後半の遺構である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

(7) 遺物集中

L遺物集中-1 (図IV-106)

位置・立地：Q12、調査区東側、標高約20.4mの河岸段丘上。

規模：1.25×1.18m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際にV群a類土器のまとまりを確認した。やや大型の破片の周囲に小破片が散在していた。

重複関係：重複関係はみられない。

遺物出土状況：V群a類土器63点、黒曜石製フレイク6点が出土した。

時期：縄文時代晩期前葉である。

掲載遺物：なし。

(坂本)

L遺物集中-2 (図IV-106、図版84)

位置・立地：Q8、調査区東側、標高約20.0mの河岸段丘上。

3 V層の遺構と出土遺物

規模：1.15×(0.60) m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際にⅢ群b類土器のまとまりを確認した。密集部の周囲には小破片が散在していた。なお、調査区外に遺物の広がりが連続するとみられる。

重複関係：重複関係はみられないが、同一面にL遺物集中-3が近接する。

遺物出土状況：Ⅲ群b類土器88点が出土した。

時期：縄文時代中期後半である。

掲載遺物：なし。

(坂本)

L遺物集中-3 (図IV-106、図版84)

位置・立地：Q・R8、調査区東側、標高約20.0mの河岸段丘上。

規模：2.33×1.20m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に小破片を主とする土器のまとまりを確認した。

重複関係：重複関係はみられないが、同一面にL遺物集中-2が近接する。

遺物出土状況：土器はⅢ群b類184点、Ⅳ群a類11点、Ⅳ群b類2点が出土している。石器は黒曜石製フレイク1点、礫は砂岩礫・礫片が1点ずつ出土している。主にⅢ群b類土器で構成されている。

時期：縄文時代中期後半である。

掲載遺物：なし。

(坂本)

L遺物集中-4 (図IV-106、図版84・122)

位置・立地：O35、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：3.12×1.75m

確認・調査・土層：V層中位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からⅣ群b類土器127点、Ⅴ群c類土器9点、石鏃3点、石錐1点、フレイク413点、近接する包含層からⅢ群b類土器2点、Ⅳ群a類土器3点、Ⅴ群c類土器2点、礫4点、礫片1点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

(佐藤)

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃(246)を掲載した。

(坂本)

L遺物集中-5 (図IV-107、図版122)

位置・立地：M21、調査区東側、標高約20.1mの河岸段丘上。

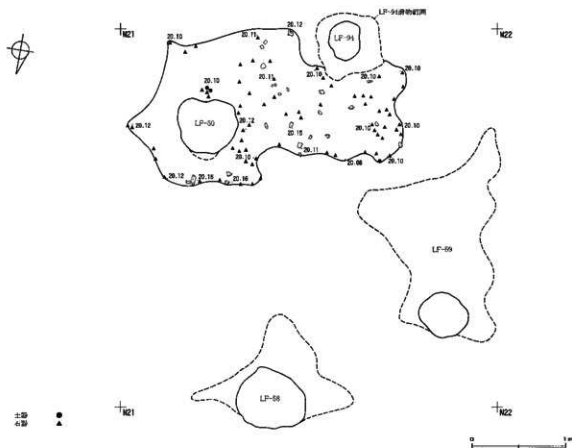
規模：2.99×1.60m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に黒曜石フレイクを主とする遺物のまとまりを確認した。

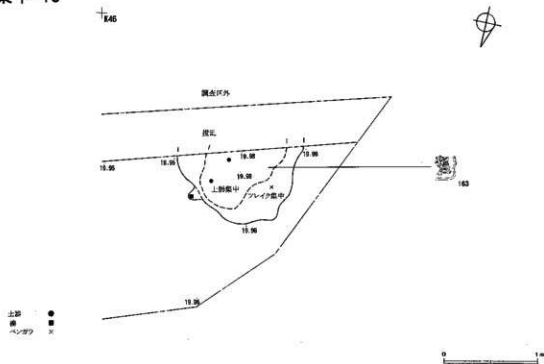
重複関係：同一検出面の同一地点にLF-60(縄文時代晩期後葉)、近接してLF-94(縄文時代晩期前葉もしくは晩期後葉)が位置する。

遺物出土状況：土器はⅤ群a類27点が、石器はスクレイパー2点、ピエス・エスキーユ4点、Rフレイク2点、フレイク53点が出土している。やや散在した分布状況であった。

L 遺物集中-5



L 遺物集中-10



図IV-107 L遺物集中-5・10

3 V層の遺構と出土遺物

時期：縄文時代晩期前葉である。LF-60とは時期差があると捉えられる。

掲載遺物

石器：写真図版にピエス・エスキーユ（247・248）とスクレイパー（249・250）を掲載した。247と248は接合している。248は使用によって半分に横折れした破片を用い、折れ面を利用して作業を継続している。（坂本）

L遺物集中-6（図IV-108・109、162-157~159、図版109）

位置・立地：M23・24・25、調査区東側～中央部、標高約20.3mの河岸段丘上。

規模：5.65×2.70m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際にV群c類土器・黒曜石製フレイクを主とする遺物のまとまりを確認した。さらに5cmほど掘り下げ、IV群b類土器・黒曜石製フレイクを主とする遺物の範囲を確認した。

重複関係：重複関係はみられないが、同一面にLF-67が近接する。また、北西方向にはL遺物集中-7～9が分布している。

遺物出土状況：土器はIV群b類36点、V群c類164点が、石器は両面調整石器2点、Rフレイク1点、フレイク141点が出土している。また、礫・礫片が17点出土している。V群c類土器は、L遺物集中-8・17と接合関係がある。

V群c類土器はV層上面から約5cm下位で出土しており、小規模な3つのまとまりが認められる。IV群b類は主にV層上面から10cm下位で出土し、小規模なまとまりを形成している。それぞれ、南西側に認められた黒曜石フレイクの集中分布範囲に接している。

フレイクを主とする石器の分布は主に南西側にまとまり、V層上面下位5～10cmの間から連続的に出土した。石器石材は黒曜石が140点を占め、他に頁岩などが少数含まれる。フレイクは0.5～2cm程度のものが大多数を占める。概観すると、打面（無打面、点状、線状、リップ状が多い）、背面の剝離面構成（多方向が多い）、縦断面形状（薄手でやや湾曲するものが多い）などの特徴が認められる。こうしたフレイクは、石鏃・石槍・両面調整石器などを製作する際に多量に発生するものであり、出土した両面調整石器の製作に関わることが考えられる。

時期：縄文時代後期中葉および晩期後葉である。石器がどちらの時期に属するかは不明である。（坂本）

掲載遺物

土器：137はLF-63に記載した。157は深鉢。沈線で文様を施文する。158～159は鉢。158の口縁部下は無文で横位の連続する2段の刺突が巡る。159は沈線文で文様を施文する。158は東三川I式。157・159はタンネットウL式。（佐藤）

L遺物集中-7（図IV-108、図版122）

位置・立地：M24、調査区東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：1.88×0.70m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に黒曜石フレイクを主とする遺物のまとまりを確認した。

重複関係：重複する遺構はないが、同一面に近接してLF-61・63・75（縄文時代晩期後葉）、L遺物集中-6・8（縄文時代晩期後葉）が位置する。

遺物出土状況：V群c類土器6点、石鏃1点、Rフレイク2点、フレイク13点、礫片2点が出土して

いる。やや散在した分布状況であった。

時期：縄文時代晩期後葉である。上記近接遺構と関連すると考えられる。

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃（251）を掲載した。（坂本）

L遺物集中－8（図IV－108、162－160、図版110・122）

位置・立地：M24・25、N25、調査区東側～中央部、標高約20.3mの河岸段丘上。

規模：4.05×1.66m

確認・調査・土層：M24区のV層を上面から5cmほど掘り下げた際に土器が折り重なるように出土した。さらにM・N25区の調査を行い、土器の密集状況・黒曜石製フレイクのまとまりを検出し、分布範囲を確認した。

重複関係：同一面でLF-63・75（縄文時代晩期後葉）、L遺物集中－9（縄文時代晩期前葉および後葉）が接する。また、L遺物集中－6・7・9（縄文時代晩期後葉）が近接する。

遺物出土状況：土器はV群c類が291点出土している。石器は石鏃3点、Rフレイク2点、フレイク11点が出土しており、全て黒曜石製である。礫は礫2点・礫片3点が出土している。

土器はLF-63を挟んで南東側と北西側に大きく二つのまとまりがみられた。石器はLF-63の周辺に主にまとまって分布していた。土器はLF-63、L遺物集中－6・9・17と接合関係がある。

時期：縄文時代晩期後葉である。LF-75・63と関連することが考えられる。（坂本）

掲載遺物

土器：160は深鉢。縄線文で文様を施文する。タンネットウL式。（佐藤）

石器：写真図版に石鏃（252・253）を掲載した。（坂本）

L遺物集中－9（図IV－109、163－161・162、図版109・110・122）

位置・立地：M25・26、N25、調査区中央、標高約20.3mの河岸段丘上。

規模：4.80×3.29m

確認・調査・土層：M25区のV層を上面から5cmほど掘り下げた際に黒曜石製フレイクが密集して出土した。M26・N25区の調査を行い、黒曜石製フレイクと土器の分布の広がりを検出し、さらに5cm掘り下げて遺物範囲を確認した。

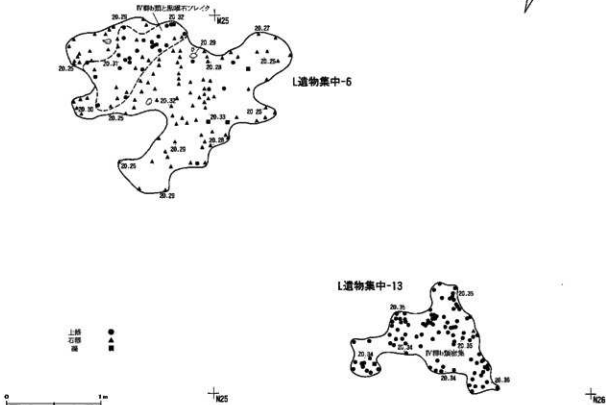
重複関係：LP-41、LS-15・16（縄文時代中期後半）が、L遺物集中－9検出面より5cm下位に位置する。また、同一面でL遺物集中－8（縄文時代晩期後葉）が接する。また、LF-61・63・75（縄文時代晩期後葉）が近接する。

遺物出土状況：土器はIV群b類が1点、V群a類が58点、V群c類が96点出土している。土器はV群a類がL遺物集中－17・18と、V群c類がLF-63、L遺物集中－8と接合している。石器は石鏃3点、石槍3点、両面調整石器8点、Rフレイク19点、スクレイパー1点、フレイク1852点、計1886点が出土している。石材は黒曜石が1,882点におよび、99%以上を占める。礫は礫5点（被熱なし）・礫片59点（被熱29点）が出土している。

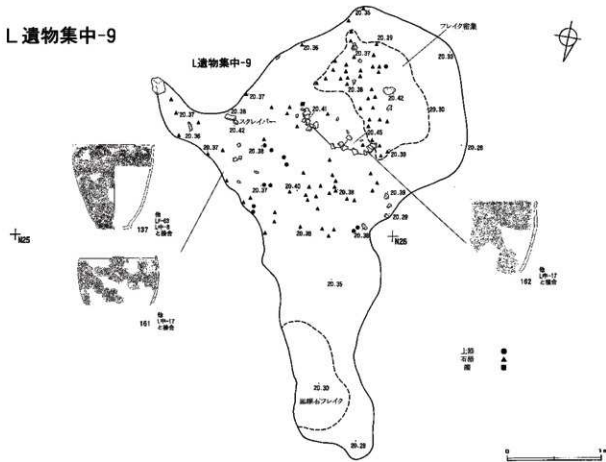
土器はV群a類が26ラインよりも北側に、V群c類は南側にまとまり、両者の分布範囲を分離することができる。

石器は土器と同様に、密集範囲およびそれに近接した分布として南北二つのまとまりが認められる。量的には南側のまとまりが、トゥール（28点・82%）およびフレイク（1,694点・91%）とも点数の

L 遺物集中-6・13



L 遺物集中-9



図IV-109 L遺物集中-6・9・13

3 V層の遺構と出土遺物

大半を占めている。ただし、両者の石器の内容は、石鏃、石槍、両面調整石器、Rフレイク・多数のフレイクを有する点でほぼ共通している。

フレイクは0.1～5cmを超えるものが認められ、2・3cm大のもの、0.3cm大のものが多数を占める。大きさ5cm前後では自然面を有するものが多い。フレイクを概観すると、4cm前後のものに平坦打面が見られるのを除き、2cm以下のフレイクは、無打面、点状、線状、リップ状を呈するものがほとんどである。また、背面の剥離面構成は多方向から成るものが、縦断面形状は薄手のものが多いなどの特徴が認められた。こうしたフレイクは、石鏃・石槍・両面調整石器などを製作する際に多量に発生するものであり、出土したツールの製作に関わることが考えられる。

礫は範囲内に散在して認められた。半数ほどが被熱している。礫の岩石種類は砂岩46点、チャート16点、その他2点である。

性格：石鏃、石槍、両面調整石器などを主とした、石器製作場と捉えられる。内容を復元すれば、原石を搬入し、粗割り、素材生産、石器の細部加工まで、一連の製作作業が行われたと考えられる。

時期：縄文時代晩期前葉と、晩期後葉に属する土器のまとまりが認められる。石器は二つのまとまりとも、同一集団による一連の作業で形成されたと考えられ、晩期前葉もしくは後葉のいずれかに属すると考えられる。(坂本)

掲載遺物

土器：137はLF-63に記載した。161～162は深鉢。161は半円形の突起で、帯縄文で文様を施文する。文様帯下に爪文が1段巡る。162は口縁部下に狭い無文部があり、縄線文で文様を施文する。161は東三川I式。162はタンネトウL式と考えるが、V群b類の可能性もある。(佐藤)

石器：写真図版に石鏃(254・255)、両面調整石器(256)、スクレイパー(257)を掲載した。

(坂本)

L遺物集中-10 (図IV-107, 163-163, 図版84・110)

位置・立地：K46、調査区西側の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(1.34) × (0.78) m

確認・調査・土層：V層上面でフレイク集中と範囲内に土器集中を確認した。一部が攪乱により削平されている。調査区外に分布が広がる可能性もある。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からフレイク128点、礫片3点、ベンガラ1か所、土器集中からV群c類土器67点、至近の包含層から礫片1点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：163は深鉢。船形土器である。縦の貼付けがある。地文の条痕文の上から細い沈線文で文様を施文する。(佐藤)

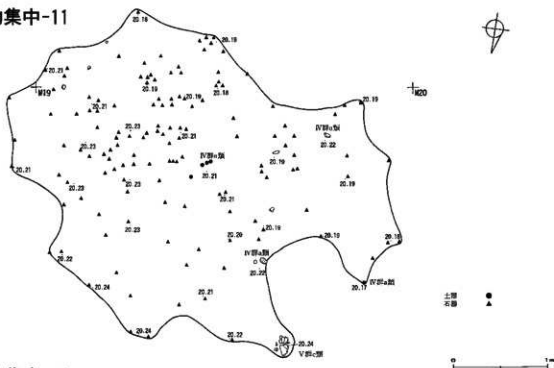
L遺物集中-11 (図IV-110, 図版122)

位置・立地：L・M18・19、調査区北東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

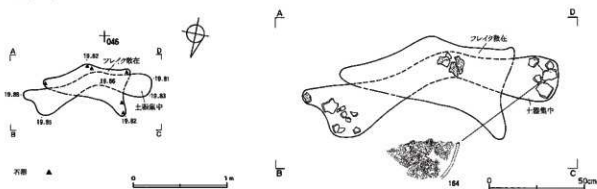
規模：4.44 × 3.13m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に黒曜石フレイクのまとまりを確認した。さらに3

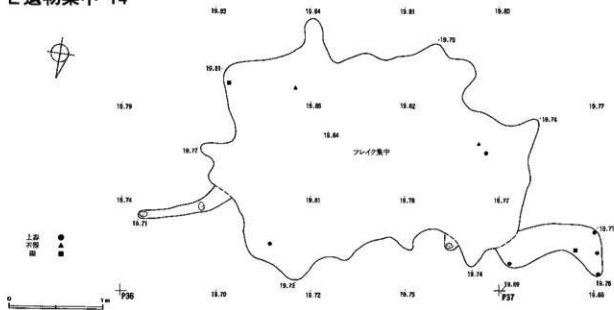
L 遺物集中-11



L 遺物集中-12



L 遺物集中-14



図IV-110 L遺物集中-11・12・14

3 V層の遺構と出土遺物

cmずつの掘り下げを3回に渡っておこない、ほぼ同一の範囲内より多数の黒曜石フレイクが出土した。なお、2・4回目の掘り下げで出土したフレイク（2回目1,011点、4回目94点）は包含層の遺物として処理している。2回目の掘り下げではフレイクの他に、両面調整石器2点、石核1点、Rフレイク1点が出土している。

重複関係：重複関係はみられない。

遺物出土状況：土器はIV群a類が14点、V類c類が39点、いずれもV層上面から5cmの検出面で出土している。石器は石鎌1点、両面調整石器4点、フレイクが1,454点出土している。包含層で扱った遺物を含めれば、両面調整石器は6点、フレイクは2,559点に及ぶこととなる。フレイクは平面分布では、北東側1.0×1.0mの範囲内に主に認められた。また、垂直分布では、2回目、3回目の掘り下げ土層にフレイクの8割以上の点数がまとまって出土した。

フレイクは0.2～2cm程度のものが大多数を占める。概観すると、打面（無打面、点状、線状、リップ状が多い）、背面の剥離面構成（多方向が多い）、縦断面形状（薄手で若干湾曲するものが多い）などの特徴が認められる。こうしたフレイクは、石鎌・石槍・両面調整石器などを製作する際に多量に発生するものであり、出土している石鎌や両面調整石器の製作に関わって生じたと考えられる。

性格：石鎌、両面調整石器などを加工した石器製作場と捉えられる。また、石器の出土状況から、深さ10～15cmほどの浅い凹地地形に遺棄もしくは廃棄されたことが考えられる。

時期：縄文時代後期中葉、もしくは晩期後半と考えられる。石器が廃棄されたものであれば、後期中葉の可能性が高いと考えられよう。

掲載遺物

石器：写真図版に石鎌（258）を掲載した。（坂本）

L遺物集中-12（図IV-110、163-164、図版84・110）

位置・立地：O45・46、調査区西側の標高20.9m付近の河岸段丘上。

規模：1.37×0.49m

確認・調査・土層：V層上面で土器集中と、ほぼ重なるフレイクの散在する範囲を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器135点、フレイクの散在する範囲からフレイク6点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物

土器：164は浅鉢。タンネットウL式。（佐藤）

L遺物集中-13（図IV-109）

位置・立地：M25、調査区東側、標高約20.3mの河岸段丘上。

規模：1.64×0.92m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際にIV群b類土器のまとまりを確認した。

重複関係：5cm上位にL遺物集中-9（縄文時代晩期後葉土器の分布範囲）が位置する。また、同一面にL遺物集中-6（縄文時代後期中葉土器の分布範囲）が位置する。

遺物出土状況：IV群b類土器216点、フレイク5点、礫・礫片2点が出土している。

時期：縄文時代後期中葉である。

掲載遺物：なし。 (坂本)

L遺物集中-14 (図IV-110、図版85・122)

位置・立地：O36・37、調査区中央の標高19.9m付近の河岸段丘上。

規模：4.95×2.76m

確認・調査・土層：V層下位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からIV群b類土器14点、石鏃4点、両面調整石器1点、フレイク464点、礫2点、礫片1点、至近の包含層からIV群b類土器4点、礫片13点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。 (佐藤)

掲載遺物

石器：写真図版に石鏃(259～261)を掲載した。 (坂本)

L遺物集中-15 (図IV-111、図版85)

位置・立地：M35、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：0.90×0.52m

確認・調査・土層：V層下位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からIV群b類土器33点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

L遺物集中-16 (図IV-111、図版85)

位置・立地：K37、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(3.51)×(1.60)m

確認・調査・土層：V層上位でフレイク集中と、ほぼ重なる土器の散在する範囲を確認した。一部を撓乱により削平されている。調査区外に分布が広がると考える。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からIV群b類土器2点、フレイク183点、礫1点、土器の散在する範囲からIV群b類土器5点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。 (佐藤)

L遺物集中-17 (図IV-112、163-165・166、図版110・122)

位置・立地：M・N26・27・28、調査区中央、標高約20.4mの河岸段丘上。

規模：(6.90)×(4.35)m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に、黒曜石製フレイクと土器片の密集状況を検出した。さらに5cm程度の掘り下げをおこない、分布範囲を確認した。また、LF-69の東側、0.3mほど

の範囲から骨片をまとめて検出した。

重複関係：LF-69（縄文時代晩期前葉）が同一地点に位置し、L遺物集中-18（縄文時代晩期後葉）が近接する。

遺物出土状況：土器はⅢ群b類44点、Ⅳ群b類2点、Ⅴ群a類218点、Ⅴ群c類893点が出土している。

Ⅲ群b類土器は全て2回目の掘り下げ面（Ⅴ層上面から10cm下位）から出土しており、1回目掘り下げ面（Ⅴ層上面から5cm下位）で出土したⅤ群a類、Ⅴ群c類土器とは、層位的に分離することができる。Ⅴ群a類土器は、LF-69の周囲からまとめて出土しており、LF-69に伴う遺物として捉えることができる。Ⅴ群c類は遺構範囲内全体に、密に分布している。よって、L遺物集中-9の出土土器はⅤ群c類によって構成されていると捉えられる。

石器は石鏃15点、石槍1点、両面調整石器5点、石錐1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、石核1点、Uフレイク1点、フレイク1165点、敲石1点が出土している。

ツール類の大半は1回目検出面から出土しており、Ⅴ群c類土器に伴うことが考えられる。フレイクは1回目検出面で782点、2回目検出面で383点が出土している。1・2回目ともほぼ同一の範囲に密に分布していた。特に、南側のⅤ群c類土器がまとまる範囲から多数出土している。

フレイクは0.2～4cm大のものまで認められ、2・3cm大のもの、1cm未満のものが多数みられる。大きき4cm前後では自然面を有するものが多い。フレイクを概観すると、4cm前後のものに平坦打面が見られるのを除き、打面形状は、無打面、点状、線状、リップ状を呈するものがほとんどである。また、背面の剝離面構成は多方向から成るもの、厚さは薄手のものが多いなどの特徴が認められた。こうしたフレイクは、石鏃・石槍・両面調整石器などを製作する際に多量に発生するものである。石鏃、両面調整石器が多数出土している状況からも、これらツールの製作に関わって生じたものと考えられる。

性格：石鏃、両面調整石器を加工した、石器製作場と考えられる。

時期：縄文時代晩期後葉である。

（坂本）

掲載遺物

土器：157はL遺物集中-6、161～162はL遺物集中-9に記載した。165は深鉢。爪文が2段に巡る。166は甕。ヘラ描き沈線文で文様を施文する。口縁部と頸部に羊歯状文がある。赤彩である。165は東三川I式。166はⅤ群b類。

（佐藤）

石器：写真図版に石鏃（262～269）、石槍（270）、つまみ付きナイフ（271）、石錐（272）、スクレイパー（273）、Rフレイク（274）を掲載した。石鏃は多数が出土しているが、全てカエシが明瞭な有茎石鏃である。273の背面は節理で生じる角礫の自然面である。

（坂本）

L遺物集中-18（図IV-112、164-167、図版110・122）

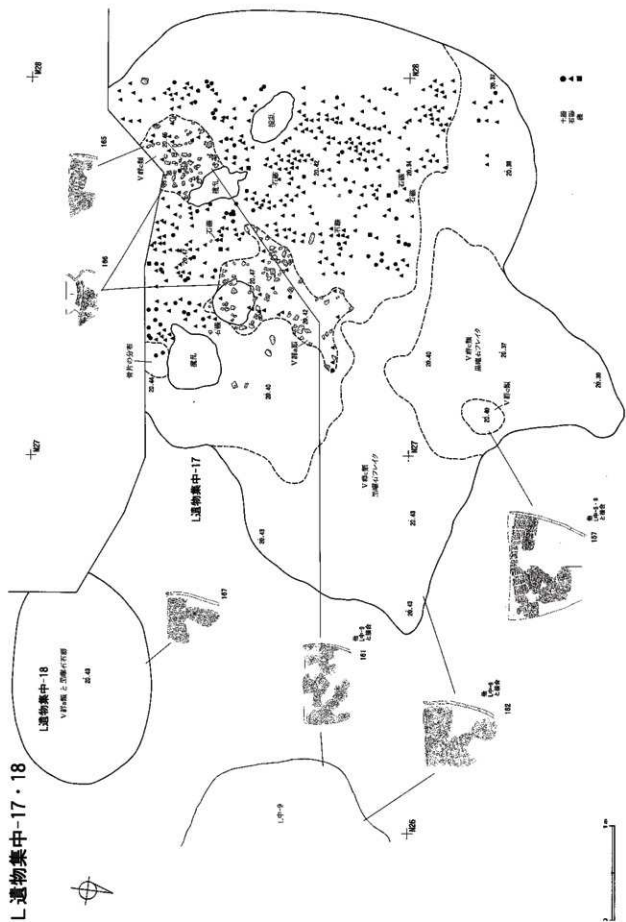
位置・立地：L・M26、調査区東側、標高約20.4mの河岸段丘上。

規模：(2.26) × (1.47) m

確認・調査・土層：Ⅴ層を上面から5cmほど掘り下げた際に、Ⅴ群a類土器と黒曜石製石器のまとまりを確認した。

重複関係：重複関係はみられない。同一面にLF-69（縄文時代晩期前葉）、LF-82（縄文時代晩期前葉もしくは後葉）、L遺物集中-17（縄文時代晩期前葉・後葉土器出土）が近接する。

遺物出土状況：Ⅴ群a類土器167点、石鏃1点、石錐1点、スクレイパー1点、フレイク20点が出土している。



図IV-112 L遺物集-17・18

L遺物集-17・18

時期：縄文時代晩期前葉である。 (坂本)

掲載遺物

土器：167は深鉢。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。集計はV群a類に含めた。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃 (275)、石錐 (276)、スクレイパー (277) を掲載した。277は短い突出部を有するエンドスクレイパーである。 (坂本)

L遺物集中-19 (図IV-111、図版85)

位置・立地：M24、調査区東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：1.79×1.50m

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に、Ⅲ群b類土器のまとまりを確認した。

重複関係：10cm上位にL遺物集中-6 (縄文時代後期中葉および晩期後葉) が位置する。

遺物出土状況：Ⅲ群b類土器183点、黒曜石製フレイク2点が出土している。

時期：縄文時代中期後半である。

掲載遺物：なし。 (坂本)

L遺物集中-21 (図IV-111、164-168、図版85・110・122)

位置・立地：M22、調査区東側、標高約20.2mの河岸段丘上。

規模：1.03×0.55m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に、V群c類土器のまとまりを確認した。

重複関係：重複遺構はみられない。

遺物出土状況：V群c類土器300点、石鏃1点、Rフレイク1点が出土している。

時期：縄文時代晩期後葉である。 (坂本)

掲載遺物

土器：168は深鉢の口縁部と底部。同一個体と考える。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃 (278) を掲載した。 (坂本)

L遺物集中-22 (図IV-113)

位置・立地：N25、調査区中央、標高20.2m前後の河岸段丘上。

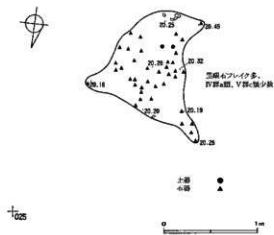
規模：1.45×1.07m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に、黒曜石フレイクを主とする遺物のまとまりを確認した。

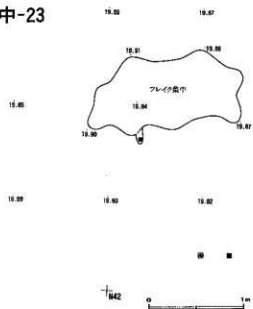
重複関係：L遺物集中-22検出面より5cm上位面にLF-75 (晩期後葉) が位置する。また、同一面ではLS-15 (縄文時代中期後半) が近接するが、両者の出土遺物を比較し、関連する可能性は低いと捉えた。

遺物出土状況：土器はIV群a類4点、V群c類13点が出土している。石器はビエス・エスキューユ1点、フレイク166点が出土している。フレイクは2cm未満のものが大半を占める。概観すると、打面形状は、無打面、点状、線状、リップ状を呈するものがほとんどである。また、背面の剝離面構成は多方向から成るものが、厚さは薄手のものが多いなどの特徴が認められた。こうしたフレイクは、石鏃・石槍・両面調整石器などを製作する際に多量に発生するものであり、これらの製作に関わって生じた

L遺物集中-22



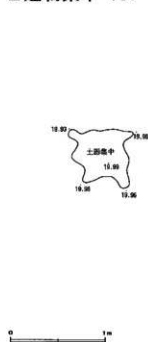
L遺物集中-23



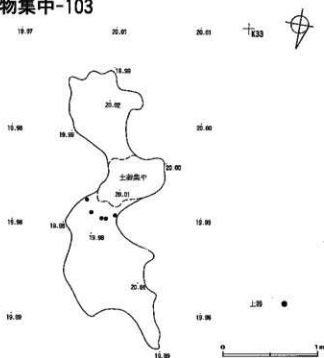
L遺物集中-24



L遺物集中-101



L遺物集中-103



図IV-113 L遺物集中-22~24・101・103

3 V層の遺構と出土遺物

ものと考えられる。その他、礫・礫片が2点みられる。

性格：石器製作場と考えられる。主に石礫、両面調整石器などの細部加工が施されたと推測される。

時期：上位に縄文時代晩期後葉の遺構（LF-75）が位置する状況、および出土遺物から、縄文時代後期前葉に形成されたと考えられる。

掲載遺物：なし。

（坂本）

L遺物集中-23（図IV-113）

位置・立地：M41・42、調査区西側の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：1.71×0.77m

確認・調査・土層：V層中位でフレイク集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からRフレイク5点、フレイク929点、至近の包含層から礫片1点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および周辺の包含層出土遺物から縄文時代中期後半と考える。

掲載遺物：なし。

（佐藤）

L遺物集中-24（図IV-113、図版122）

位置・立地：Q15、調査区東側、標高20.4m前後の河岸段丘上。

規模：2.31×1.00m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際に黒曜石製フレイクを主とする遺物のまとまりを確認した。さらに10cmほど下部まで4回に分けて掘り下げをおこない、遺物の分布範囲を確認した。土坑等の存在を想定し、断面観察、下部層位での精査作業をおこなったが、掘り込みは確認できなかった。

重複関係：重複関係はみられない。

遺物出土状況：石器はⅢ群b類3点が、2回目および3回目の掘り下げ面で出土した。石器はスクレイパー1点、Rフレイク4点、フレイク94点が出土した。石器の8割以上が検出面からから6cm下位までの層で出土している。また、礫・礫片3点が出土している。

性格：石器製作場、もしくは製作後の不要なフレイクを廃棄したのものと考えられる。出土状況から、浅い凹み地形に遺されたとみられる。

時期：縄文時代中期後半である。

掲載遺物

石器：写真図版に石礫（279）を掲載した。

（坂本）

L遺物集中-101（図IV-113、図版85）

位置・立地：J・K33、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：0.86×0.75m

確認・調査・土層：V層中位で土器集中を確認した。土器片は細かいものが多い。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からIV群b類土器487点、V群c類土器21点、フレイク2点、礫片2点が出土

3 V層の遺構と出土遺物

した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

L遺物集中-103 (図IV-113、図版86)

位置・立地：K32、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：3.03×1.07m

確認・調査・土層：V層中位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からⅢ群b類土器714点、フレイク1点が出土した。土器片は細かいものが多い。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

L遺物集中-104 (図IV-114・115、164-169~171、図版86・111・122)

位置・立地：K・L28・29、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：(3.60)×2.97m

確認・調査・土層：V層上面～上位にかけて土器集中を確認した。当初は盛土の可能性も想定したが、盛土層は確認されず、広い範囲に形成された土器を主体とする遺物集中と考える。本来の層位はV層の上位と考える。近接するL遺物集中-127とは両者の間が大きく攪乱を受けており直接の関係は不明であるが、同一のものの可能性がある。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群a類土器473点、V群c類土器185点、石鏃2点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、Rフレイク1点、フレイク19点、蔽石1点、礫8点、礫片21点が出土した。土器はTP-2と接合した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期前葉と考える。

掲載遺物

土器：128~130はTP-2に記載した。169は深鉢。A状突起が連続し、A状突起の間は沈線文で文様を施文する。爪文が2段廻る。170は深鉢または鉢。171はミニチュア土器。すべて東三川I式。

(佐藤)

石器：写真図版に石鏃(280・281)、スクレイパー(282)、蔽石(283)を掲載した。282は鋸歯状刃部をもつエンドスクレイパーである。283の裏面は大きく破損している。

(坂本)

L遺物集中-106 (図IV-116、図版86)

位置・立地：N31、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

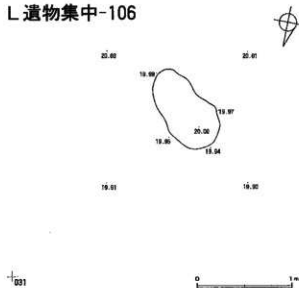
規模：0.94×0.54m

確認・調査・土層：V層中位でフレイク集中を確認した。

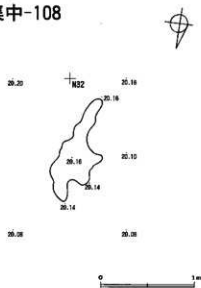
重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からIV群b類土器1点、V群a類土器1点、石鏃1点、フレイク157点が出土した。

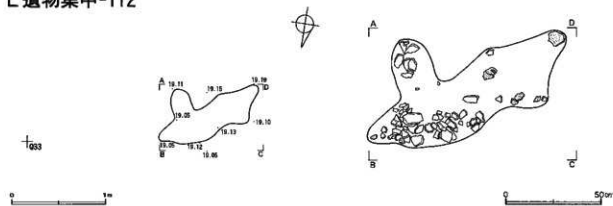
L 遺物集中-106



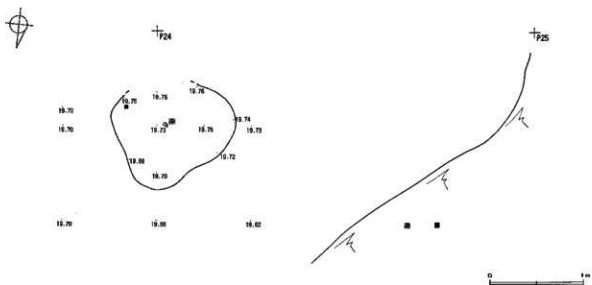
L 遺物集中-108



L 遺物集中-112



L 遺物集中-114



図IV-116 L遺物集中-106・108・112・114

3 V層の遺構と出土遺物

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉～晩期前葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

L遺物集中-108 (図IV-116、図版86)

位置・立地：N31・32、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.05×0.45m

確認・調査・土層：V層上面で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器203点が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

L遺物集中-112 (図IV-116、図版86)

位置・立地：P・Q33、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

規模：1.20×0.61m 長軸方向：— 平面形：不整形

確認・調査・土層：V層上位で土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：土器集中からV群c類土器332点、Rフレイク1点、フレイク1点、礫1点、礫片1点
が出土した。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期後葉と考える。

掲載遺物：なし。

(佐藤)

L遺物集中-114 (図IV-116、図版86)

位置・立地：P23・24、調査区東側の標高19.7mの湾入部河岸段丘縁。

規模：1.32×(1.18)m

確認・調査・土層：V層を10cmほど掘り下げた際にややまばらな黒曜石のフレイク・チップのまとまりを確認した。TP-2の埋まりきらないくぼみに位置する。下位の焼土LF-4からも多くのフレイク・チップが出土しており関連するものと推測される。

重複関係：下位に焼土LF-3～5があり、さらに下位にTP-2がある。

遺物出土状況：フレイク・チップ4,156点のほか、両面調整石器4点、V群a類土器5点、礫片33点
が出土した。フレイク・チップの石材は黒曜石4,127点、粘板岩24点、頁岩3点、蛇紋岩・泥岩各1
点である。

性格：焼土(LF-3～5)のそばの石器製作跡と考えられる。

時期：周辺出土の土器およびLF-3～5との関連から、縄文時代晩期前葉もしくは後葉の遺構である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

L遺物集中-117 (図IV-117、図版122)

位置・立地：P・Q35・36、調査区中央の標高20.2m付近の河岸段丘上。

3 V層の遺構と出土遺物

規模：6.33×2.65m

確認・調査・土層：V層上位でフレイク集中を確認した。近接するLF-51～52に関連すると思われる。重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中からⅢ群b類土器18点、Ⅳ群b類土器2点、Ⅴ群a類30点、Ⅴ群c類土器4点、石槍3点、両面調整石器1点、フレイク1,649点、礫8点、礫片22点が出土した。

性格：石器製作場と考える。

時期：確認面および近接する遺構の状況から縄文時代後期中葉～晩期前葉と考える。（佐藤）

掲載遺物

石器：写真図版に石槍（284）を掲載した。（坂本）

L遺物集中-118（図IV-117、図版87）

位置・立地：Q37、調査区中央の標高19.0～19.3mの段丘緑斜面。

規模：2.52×1.48m

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際に黒曜石のフレイク・チップがやや多く検出され、更に5cmほど掘り下げてまとまりを確認した。出土状況から斜面に沿って流れたものと推測される。重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：フレイク・チップ3,198点、両面調整石器4点、Rフレイク5点、Ⅴ群b類土器1点が出土した。フレイク・チップの石材は、黒曜石3,195点、粘板岩2点、頁岩1点である。

性格：平坦面から斜面へフレイク・チップを廃棄したものと推測される。

時期：周辺出土の土器および検出層位から、縄文時代後期中葉、手稲式期の遺構である。

掲載遺物：なし。（藤原）

L遺物集中-120（図IV-117、165-172、図版87・111）

位置・立地：R39、調査区西側の標高19.9mの河岸段丘上。

規模：0.39×0.32m

確認・調査・土層：V層を15cmほど掘り下げた際にタンネットウL式土器のまとまりを確認した。大型の破片で、口縁部・底部が折り重なっていた。

遺物出土状況：Ⅴ群c類土器20点が出土した。土器はLP-1、LF-15と接合関係がある。

時期：縄文時代晩期後葉、タンネットウL式期である。（藤原）

掲載遺物

土器：118はLP-12に記載した。172は深鉢の口縁部と底部。同一個体と考える。沈線文で文様を施文する。タンネットウL式。（佐藤）

L遺物集中-121（図IV-118、図版87）

位置・立地：Q42・43、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：0.87×0.67m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際にタンネットウL式土器が数点検出され、更に5cm掘り下げてまとまりを確認した。やや大型の破片の周囲に小破片が散在していた。なお、近接してLF-23が検出され、検出層位からも関連するものと推測される。

遺物出土状況：Ⅴ群c類土器440点、礫1点が出土した。

3 V層の遺構と出土遺物

時期：縄文時代晩期後葉、タンネトウL式期である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

L遺物集中-122 (図IV-118、図版87)

位置・立地：R39、調査区中央の標高19.3mの河岸段丘縁緩斜面。

規模：1.99×0.78m

確認・調査・土層：V層を30cmほど掘り下げたVII層 (Ta-d) 直上の中茶路式土器のまとまりを確認した。小型の破片で、緩斜面に沿って流れたように散在していた。

遺物出土状況：I群b-3類土器100点が出土した。

時期：縄文時代早期後半、中茶路式期である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

L遺物集中-123 (図IV-118、図版87)

位置・立地：QR43、調査区西側の標高20.0mの河岸段丘上。

規模：1.40×1.22m

確認・調査・土層：V層を5cmほど掘り下げた際に玉髓のフレイク・チップがまとまっているのを確認した。なお、このまとまりの範囲から定型的な石器は出土していない。また、フレイク・チップ集中周辺の包含層からは縄文時代晩期後葉の土器片が多く出土している。

重複関係：重複する遺構は無い。

遺物出土状況：フレイク・チップ746点、V群c類土器8点、Rフレイク1点、礫片1点が出土した。

フレイク・チップの石材は、玉髓679点、黒曜石51点、泥岩11点、粘板岩5点である。

性格：本遺跡出土の玉髓製石器は石錐であることから、石錐の製作跡であろう。

時期：周辺の土器および検出層位から、縄文時代晩期後葉の遺構である。

掲載遺物：なし。

(藤原)

L遺物集中-126 (図IV-118、165-173、図版87・111・122)

位置・立地：K34・35、調査区中央の標高20.0m付近の河岸段丘上。

規模：(2.03) × (1.18) m

確認・調査・土層：V層上位でフレイク集中と、重なる土器集中を確認した。

重複関係：なし。

遺物出土状況：フレイク集中から石錐1点、石核1点、石斧1点、フレイク2,384点、礫1点、土器集中からIV群b類322点が出土した。

性格：石器の製作場と考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代後期中葉と考える。

掲載遺物

土器：173は深鉢。太目の沈線文で区画する無文帯が2段ある。手稲式。

(佐藤)

石器：写真図版に石錐(285)を掲載した。

(坂本)

L遺物集中-127 (図IV-114、165-174、図版111・122)

位置・立地：M28・29、調査区中央の標高20.3m付近の河岸段丘上。

規模：4.96×(3.04) m

確認・調査・土層：V層上位で遺物集中を確認した。当初は盛土の可能性も想定したが、盛土層は確認されず、広い範囲に形成された遺物集中と考える。近接するL遺物集中-104（土器集中）とは両者の間が大きく攪乱を受けており直接の関係は不明であるが、同一のものの可能性がある。

重複関係：なし。

遺物出土状況：I群b-3類土器1点、III群b類土器17点、IV群b類土器6点、V群a類土器301点、V群c類土器10点、石鏃6点、石錐1点、スクレイパー2点、両面調整石器1点、フレイク80点、石核1点、礫24点、礫片38点が出土した。

性格：土器・石器類を遺棄したものと考える。

時期：確認面および出土遺物から縄文時代晩期前葉と考える。

掲載遺物

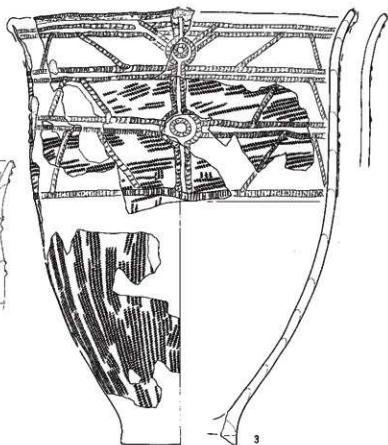
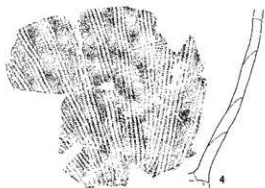
土器：174は浅鉢。タンネットウL式。 (佐藤)

石器：写真図版に石鏃(286~288)、Rフレイク(289)、石錐(290)、スクレイパー(291・292)を掲載した。288は厚手で粗い調整だが、茎部にアスファルト様の付着物が観察される。289は288と同じチャート製で、石鏃の未成品とみられる。290は透明度の高い、薄茶色の黒曜石を石材としている。291は被熱を受けた後、刃部を再加工している。 (坂本)

UP-1

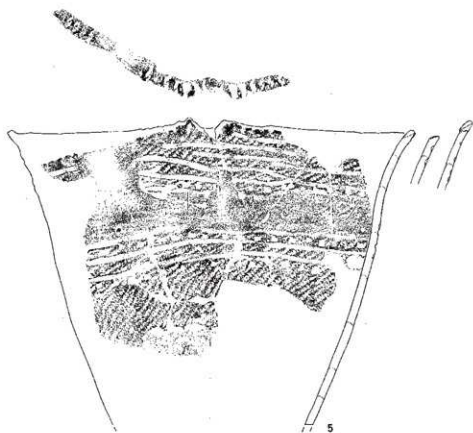


UP-2



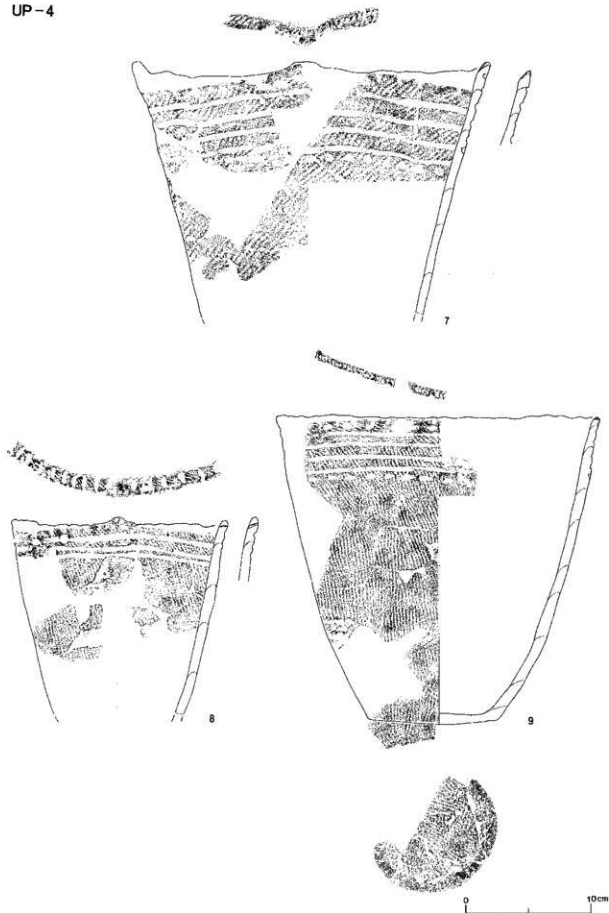
図IV-119 遺構の土器(1)

UP-4



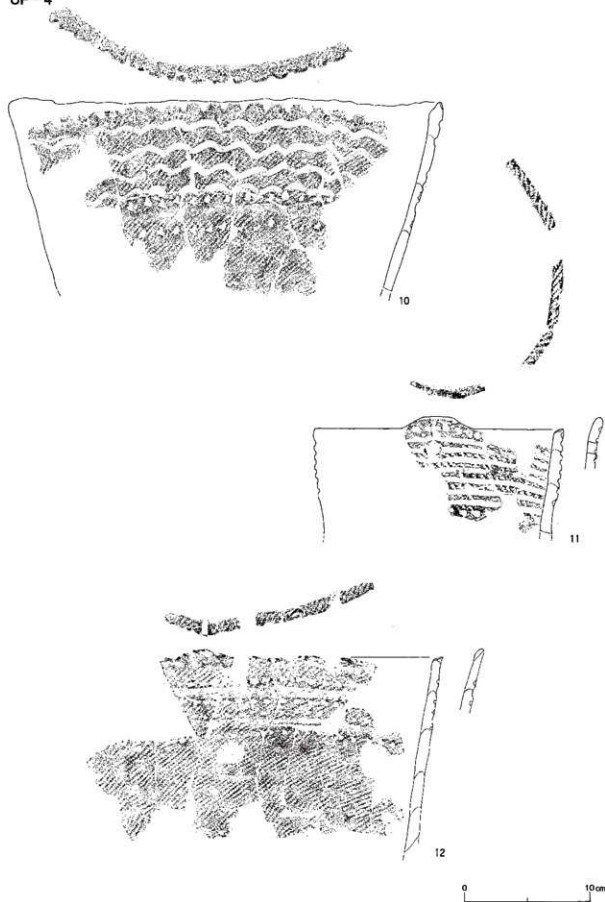
図IV-120 遺構の土器(2)

UP-4



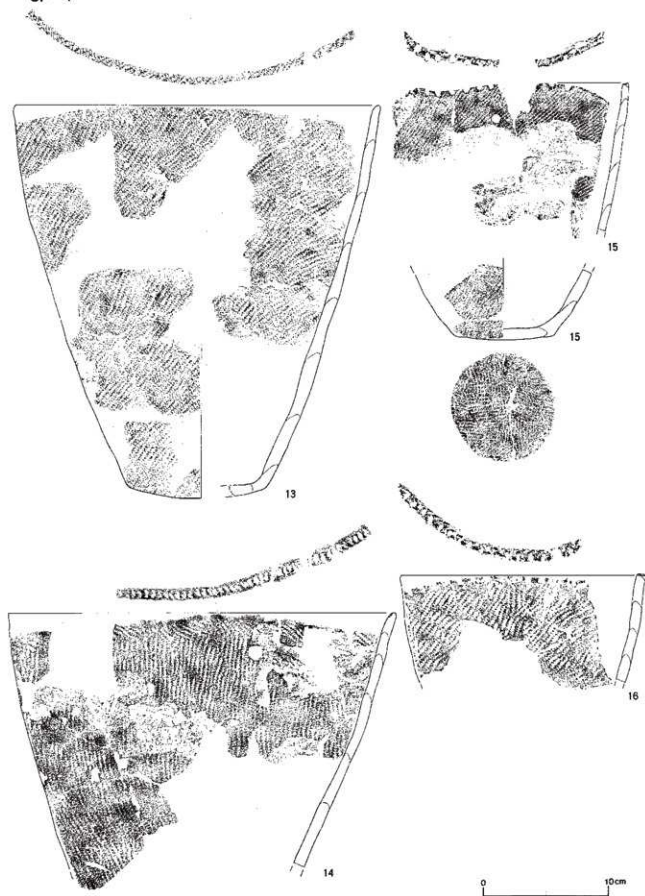
図IV-121 遺構の土器(3)

UP-4



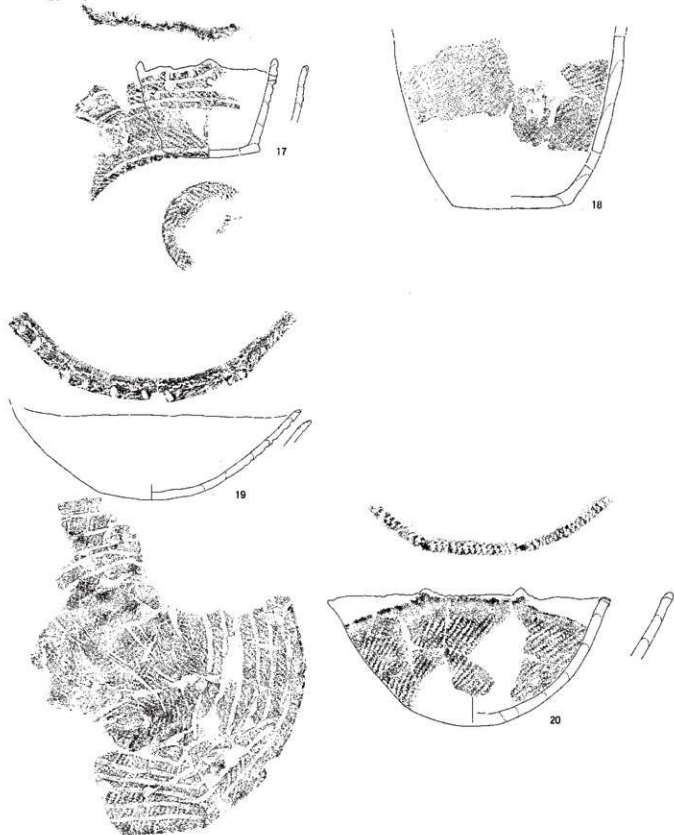
図IV-122 遺構の土器(4)

UP-4



図IV-123 遺構の土器(5)

UP-4



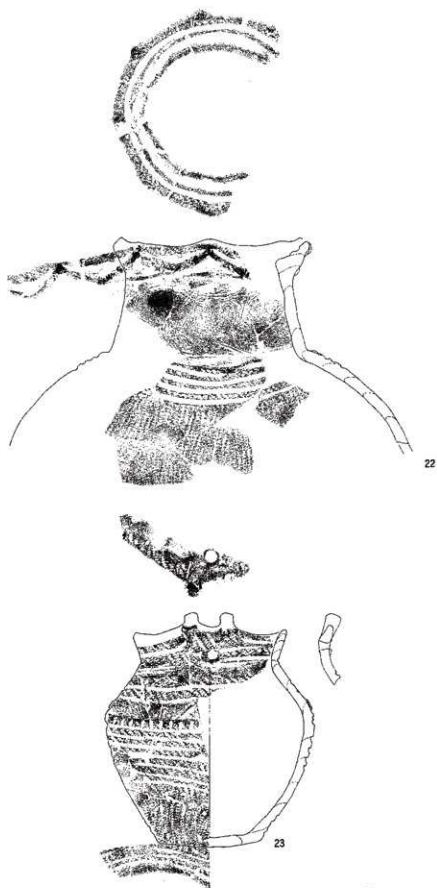
図IV-124 遺構の土器(6)

UP-4



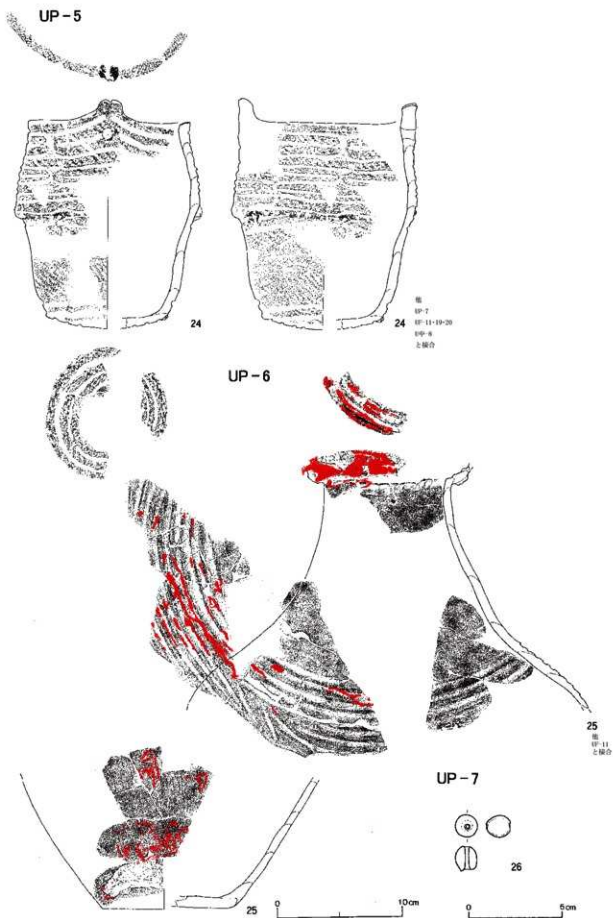
図IV-125 遺構の土器(7)

UP-4



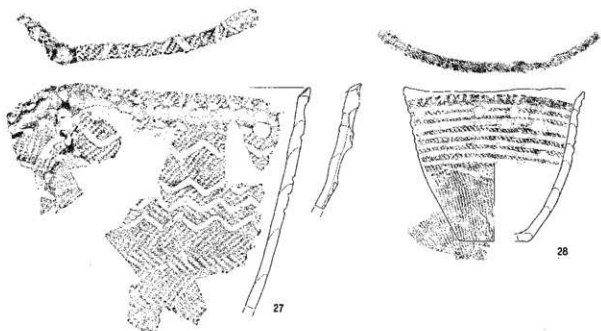
図IV-126 遺構の土器(8)

2 Ⅲ層の遺構と出土遺物



図Ⅳ-127 遺構の土器(9)

UP-7



29
 図
 1. 1-7-8
 2. 3. 4.



30



31
 図
 1. 1-7-8
 2. 3. 4.



32

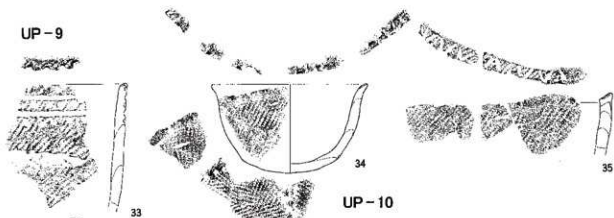


32

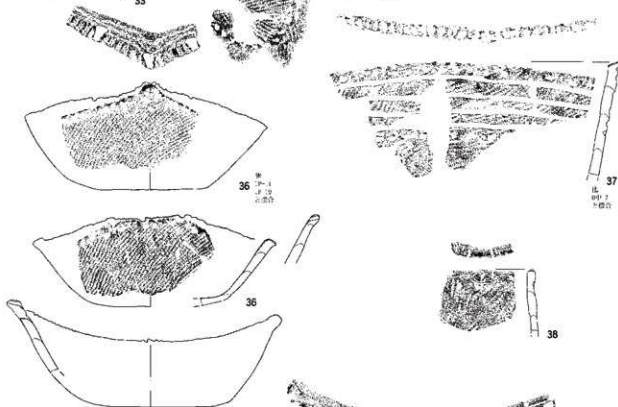


図IV-128 遺構の土器(10)

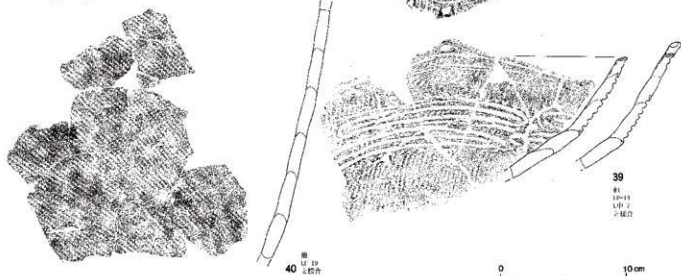
UP-9



UP-10

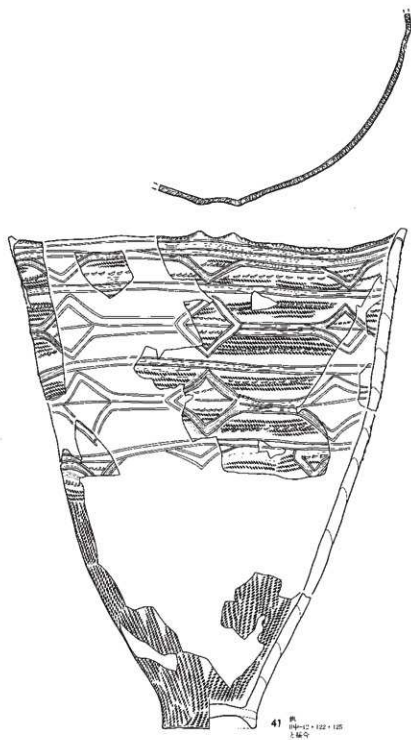


UP-11



図IV-129 遺構の土器(11)

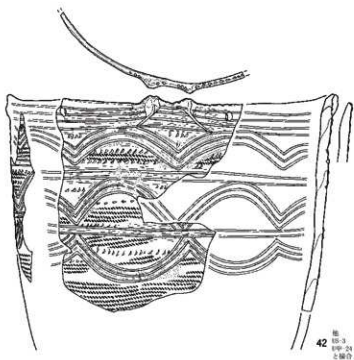
UP-13



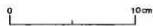
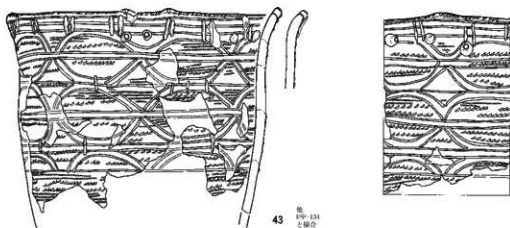
図IV-130 遺構の土器(12)

0 10 cm

UF-6

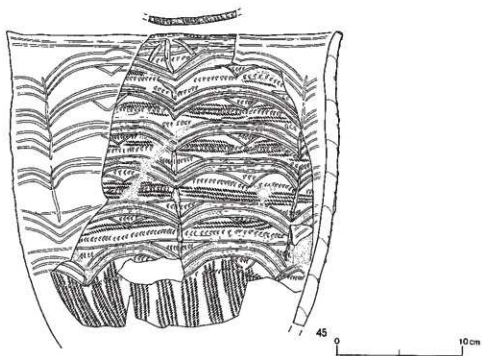


UF-7



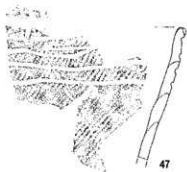
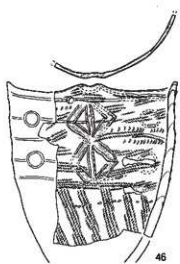
図IV-131 遺構の土器(13)

UF-9

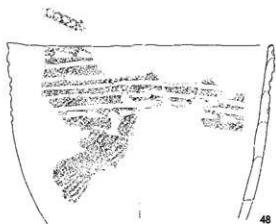


図IV-132 遺構の土器(14)

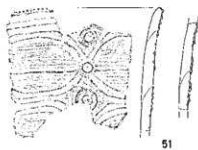
UF-10



UF-11

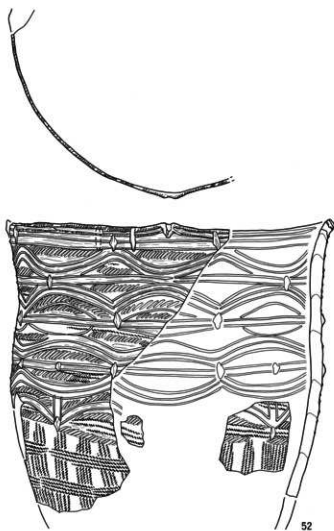


U遺物集中-2

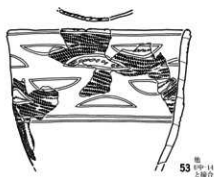


図IV-133 遺構の土器(15)

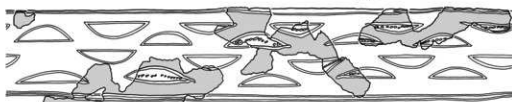
UF-14



52



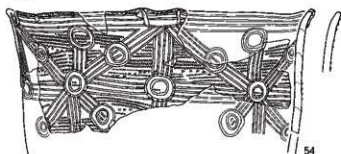
53



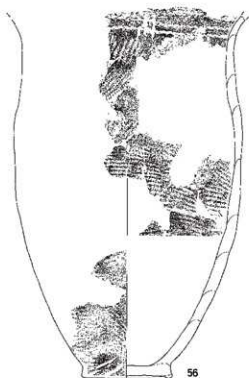
0 10cm

図IV-134 遺構の土器(16)

UF-15

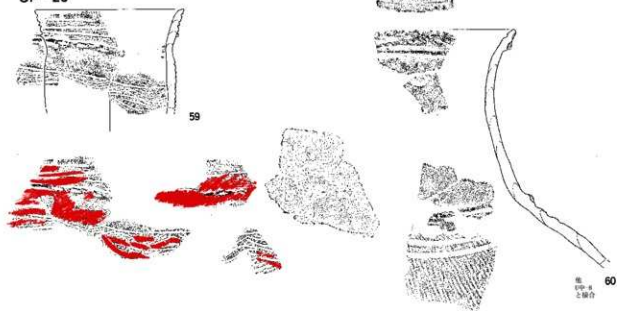


UF-19



図IV-135 遺構の土器(17)

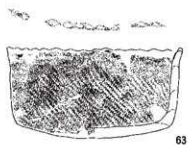
UF-20



UF-22

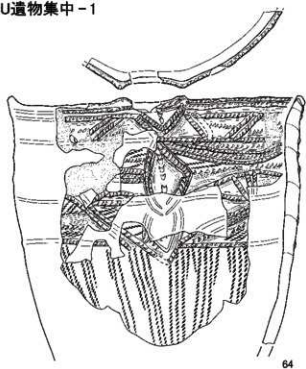


UCB-2

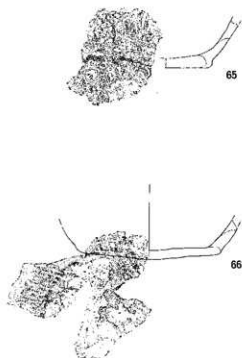


図IV-136 遺構の土器(18)

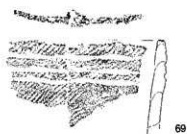
U遺物集中-1



U遺物集中-7

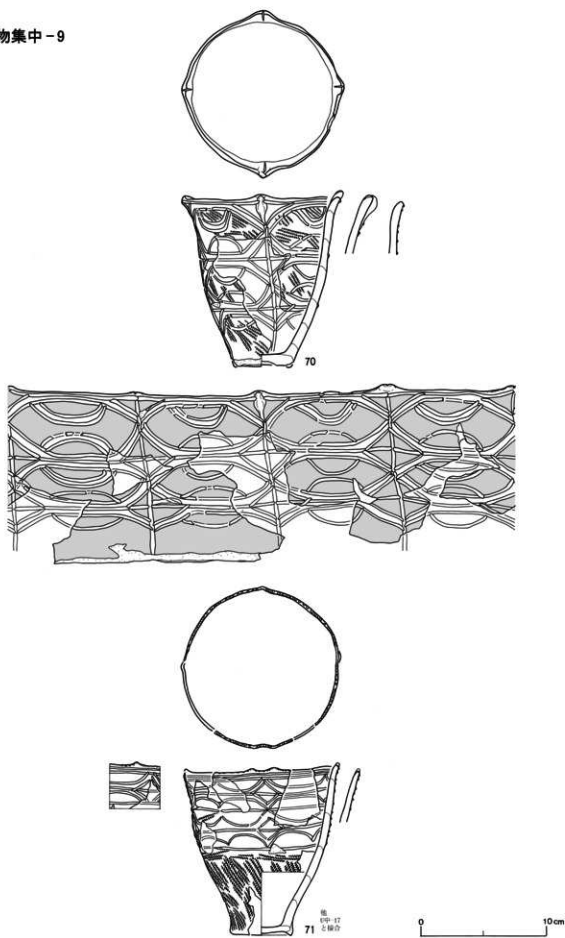


U遺物集中-8



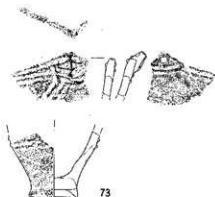
図IV-137 遺構の土器(19)

U遺物集中-9

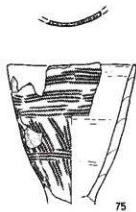
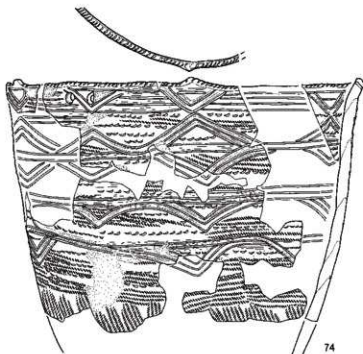


図IV-138 遺構の土器(20)

U遺物集中-11

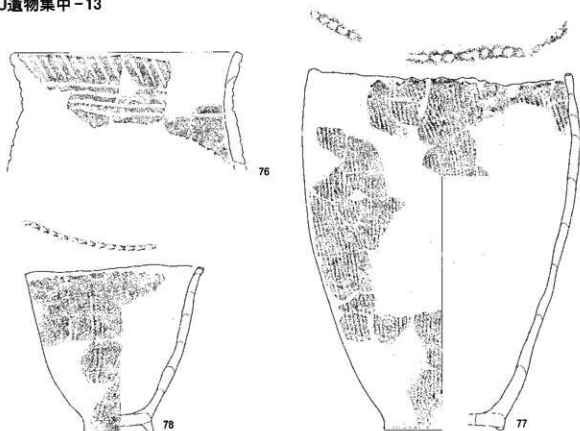


U遺物集中-12

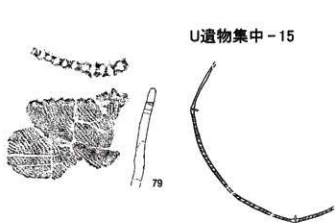


図IV-139 遺構の土器(21)

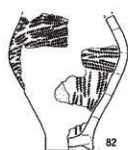
U遺物集中-13



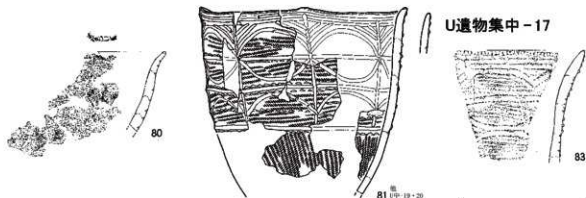
U遺物集中-15



U遺物集中-16



U遺物集中-17



81 U中-19・20
と綜合

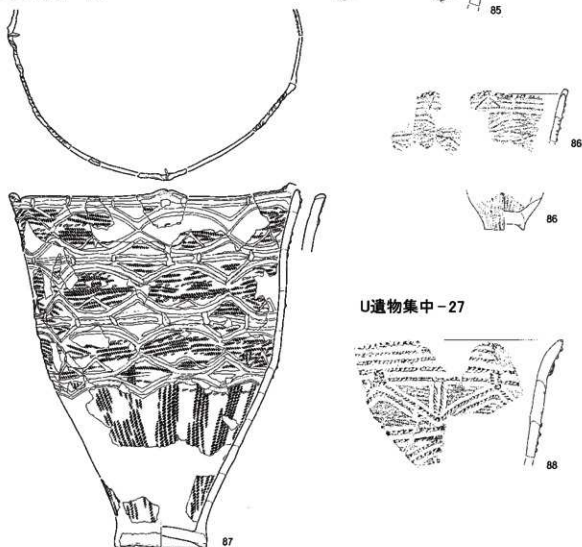


図IV-140 遺構の土器(22)

U遺物集中-24



U遺物集中-25



U遺物集中-27

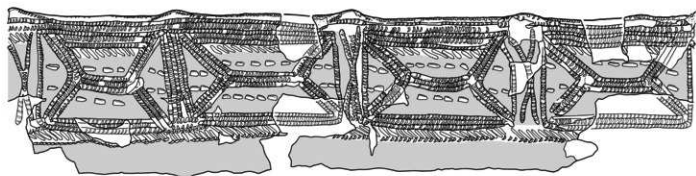
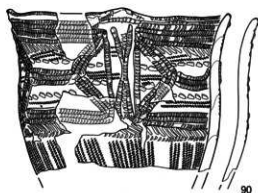
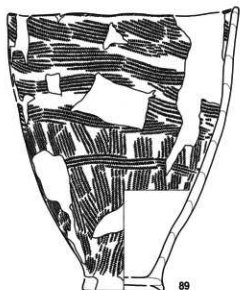


図Ⅳ-141 遺構の土器(23)

U遺物集中-105



U遺物集中-107

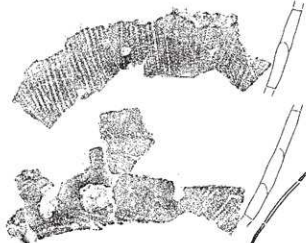


図IV-142 遺構の土器(24)

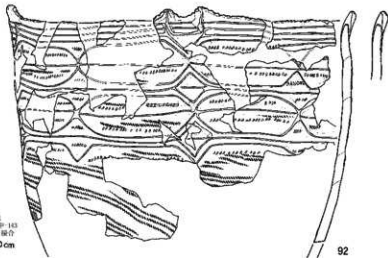
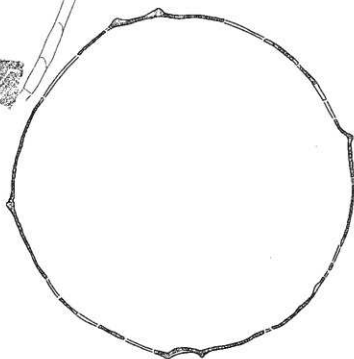
U遺物集中-111



91



U遺物集中-115



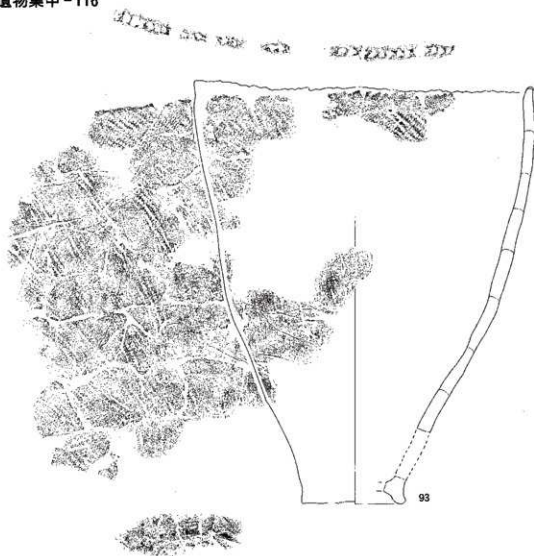
0

縮
1/3
10cm

92

図IV-143 遺構の土器(25)

U遺物集中-116

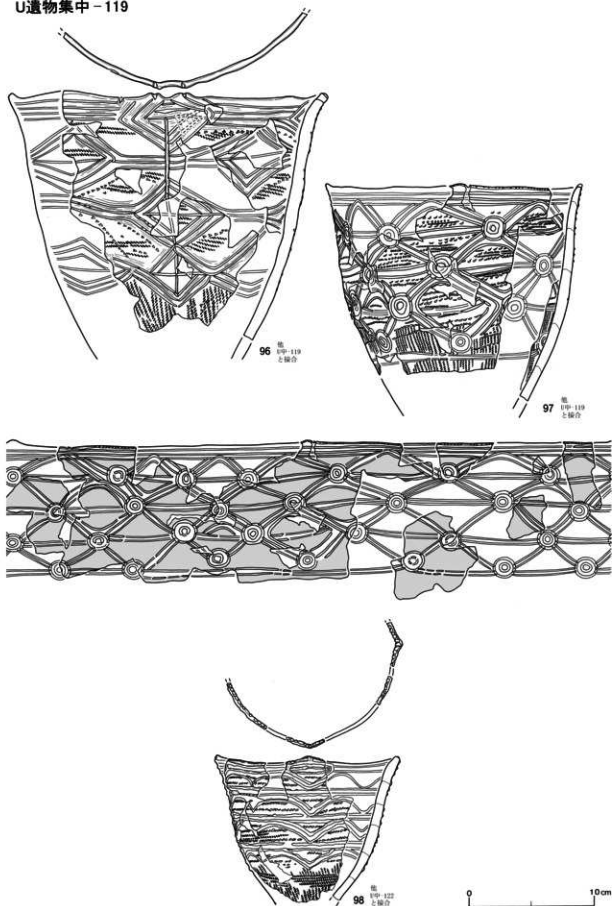


U遺物集中-117



図IV-144 遺構の土器(26)

U遺物集中-119

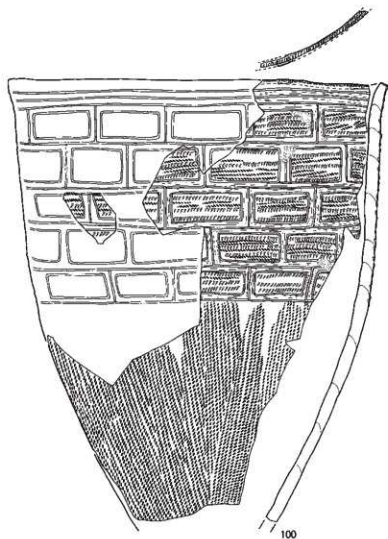


図IV-145 遺構の土器(27)

U遺物集中-121

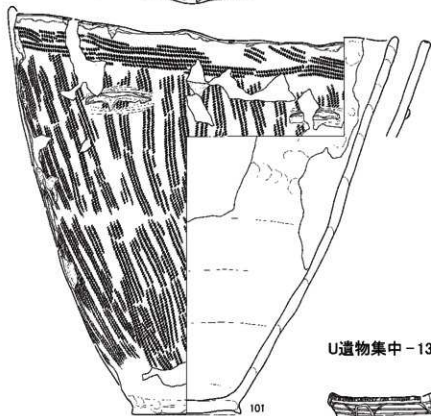
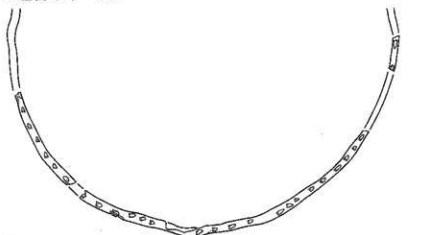


U遺物集中-125

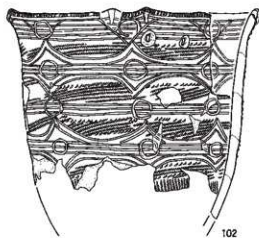


図IV-146 遺構の土器(28)

U遺物集中-126

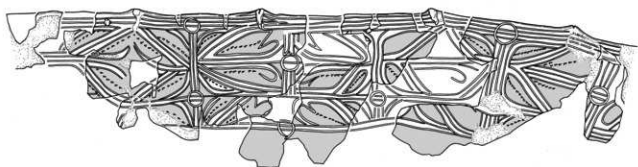
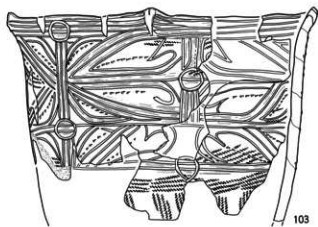


U遺物集中-131



図IV-147 遺構の土器(29)

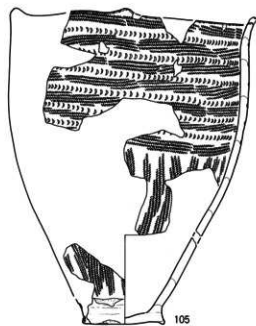
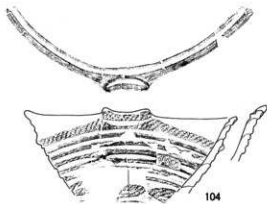
U遺物集中-131



U遺物集中-134

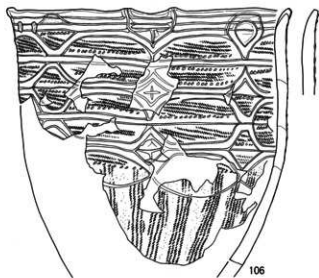
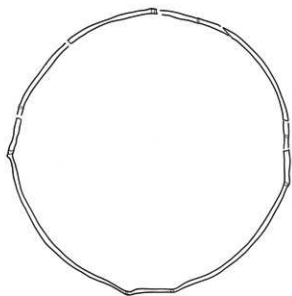


U遺物集中-133

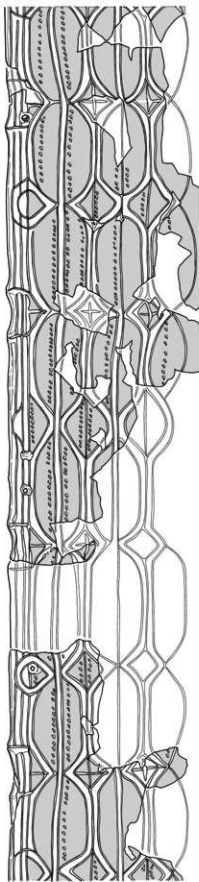


図IV-148 遺構の土器(30)

U遺物集中-136



0 10cm



図IV-149 遺構の土器(31)

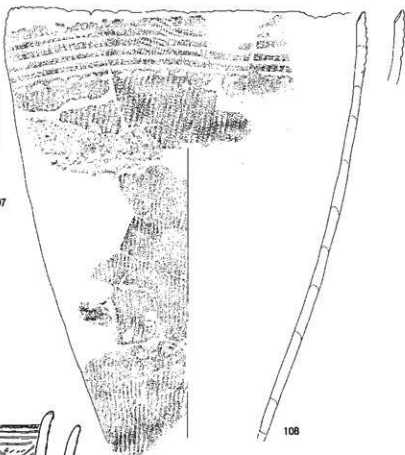
U遺物集中 - 140



U遺物集中 - 138

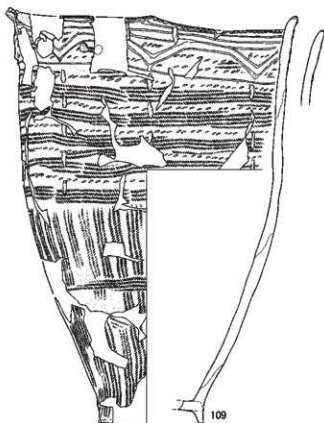


107



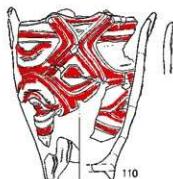
108

U遺物集中 - 142



109

U遺物集中 - 143

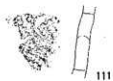


110



図IV-150 遺構の土器(32)

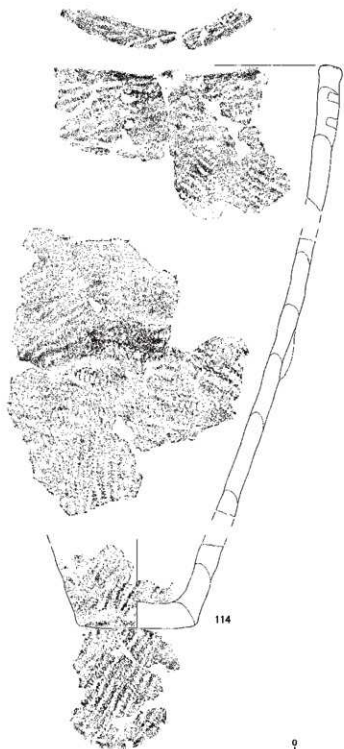
LH-1



LH-2

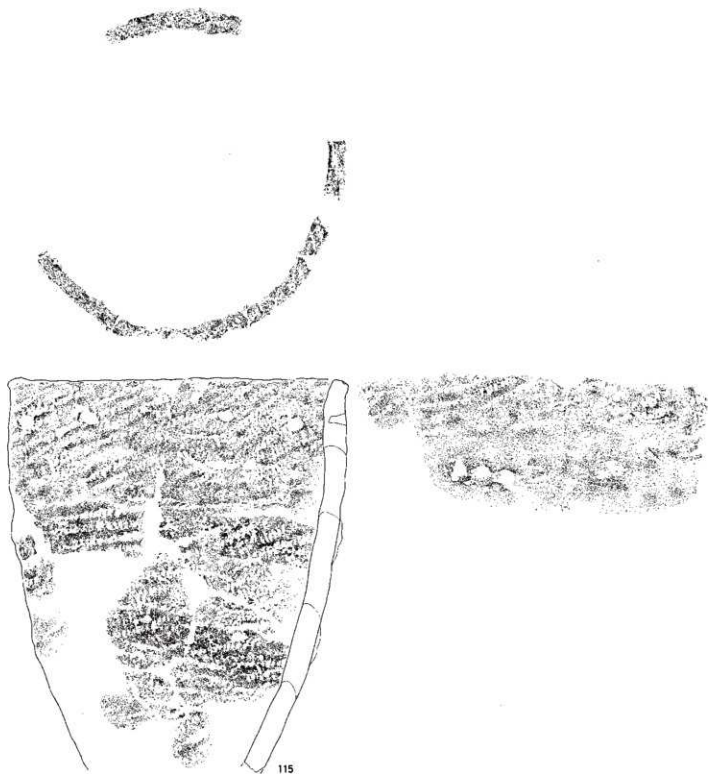


LH-3



図IV-151 遺構の土器(33)

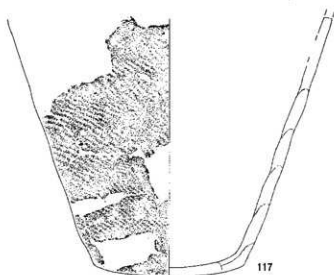
LH-3



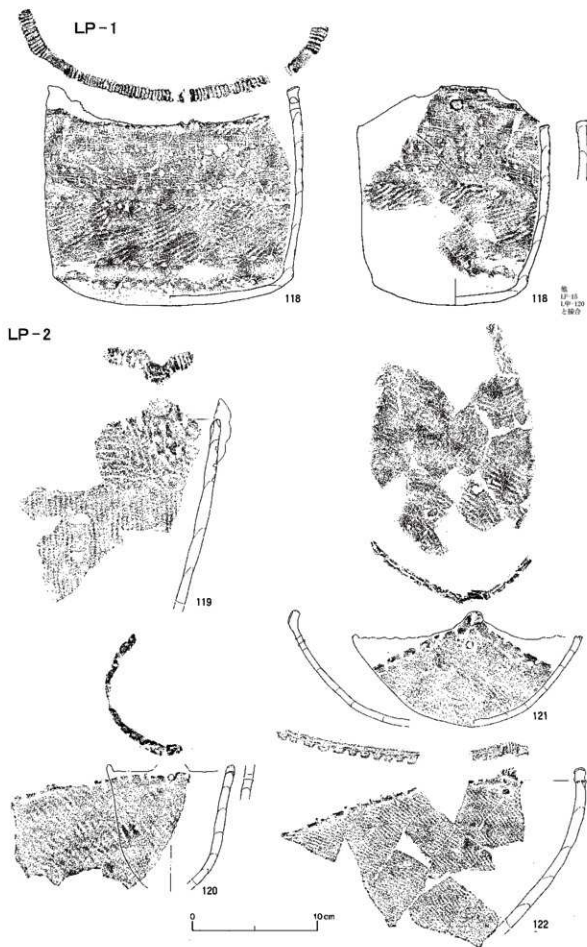
図IV-152 遺構の土器(34)

0 10cm

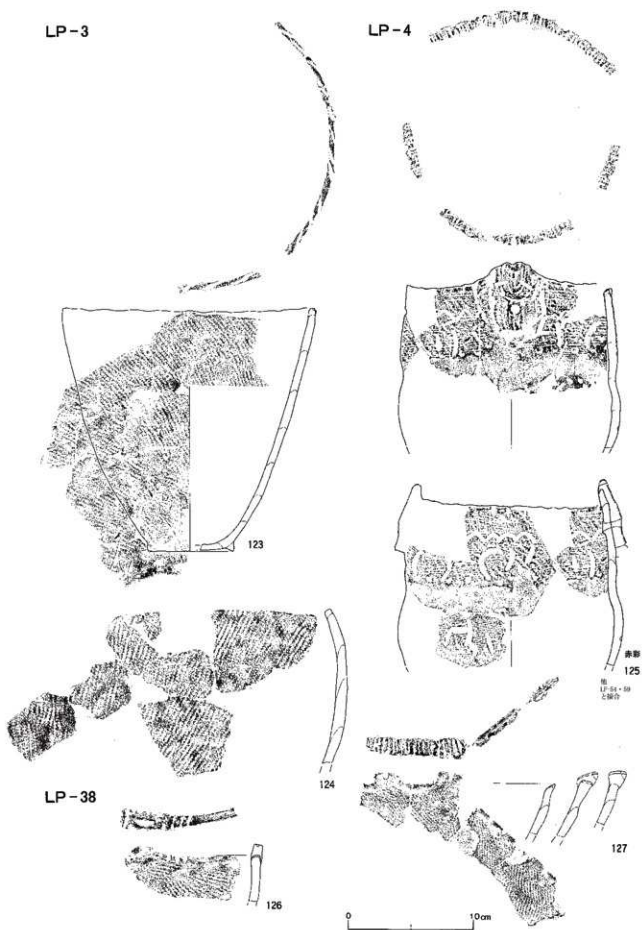
LP-1



図IV-153 遺構の土器(35)

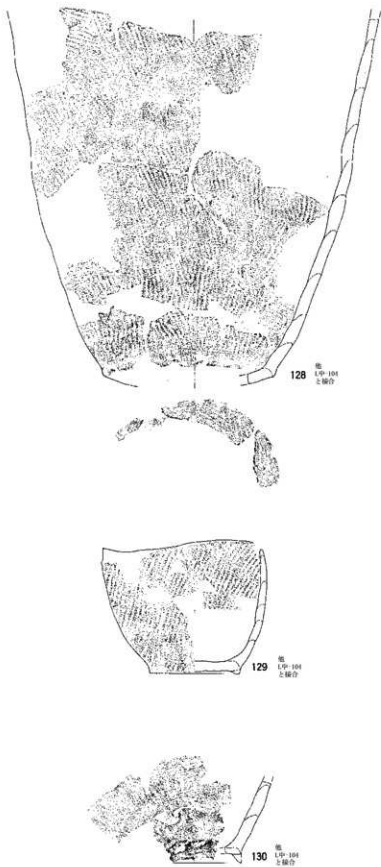


図IV-154 遺構の土器(36)



図IV-155 遺構の土器(37)

TP-2



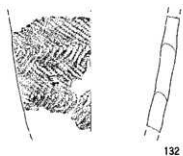
0 10cm

図IV-156 遺構の土器(38)

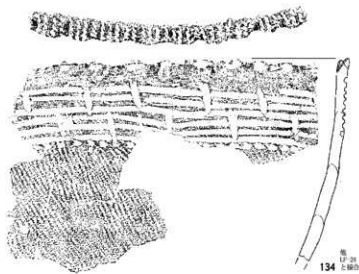
LF-2



LF-17

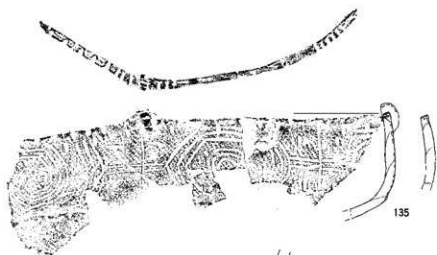


LF-20

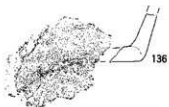


図IV-157 遺構の土器(39)

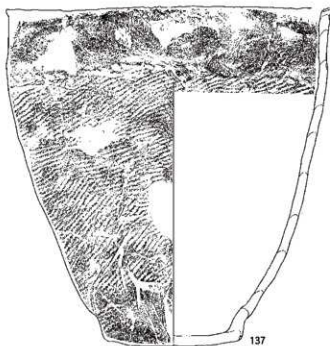
LF-23



LF-51



LF-63



LF-66



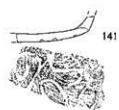
図IV-158 遺構の土器(40)

LF-68



図IV-159 遺構の土器(41)

LF-79



141

LF-80

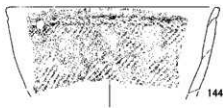


142



143

LF-81

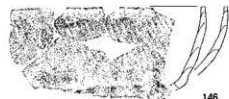


144

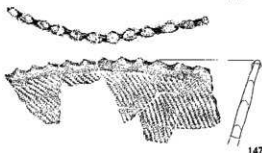
LF-82



145

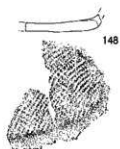


146



147

LF-87



148

LF-88



149

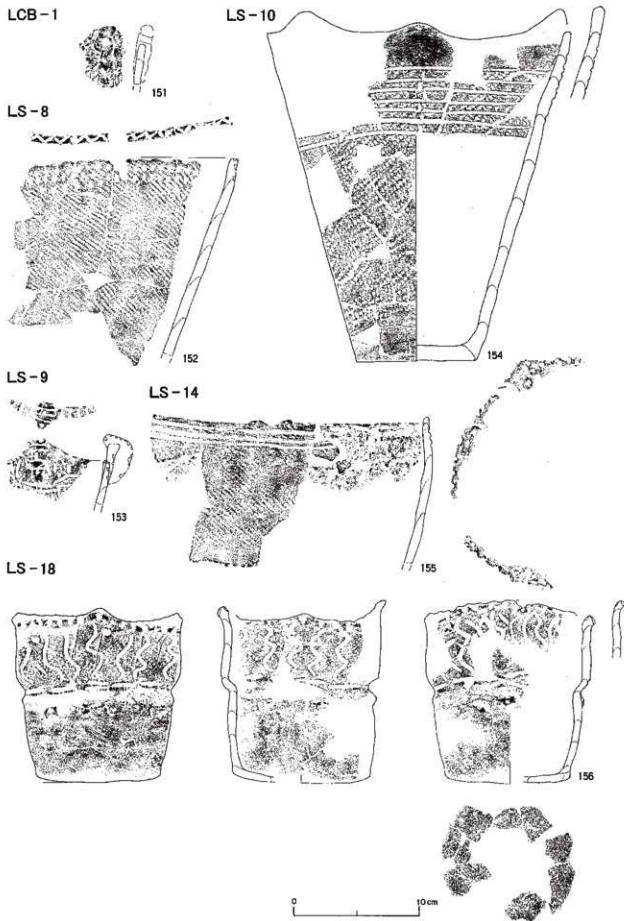


150



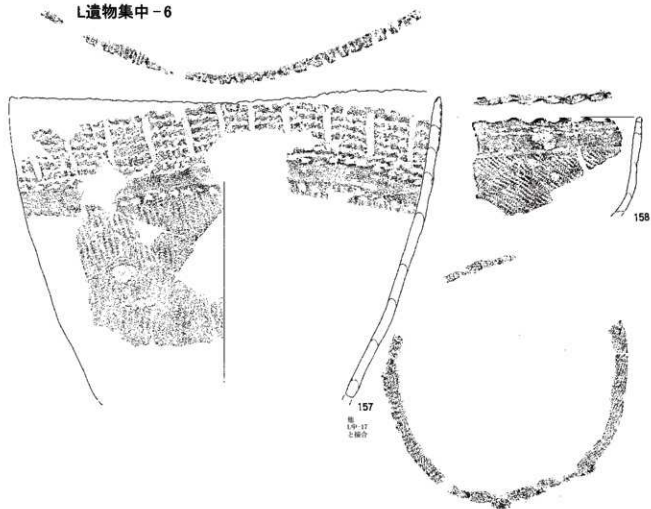
図IV-160 遺構の土器(42)

3 V層の遺構と出土遺物

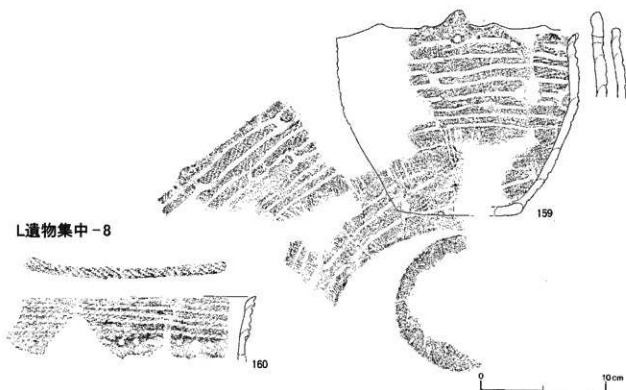


図IV-161 遺構の土器(43)

L遺物集中-6



L遺物集中-8

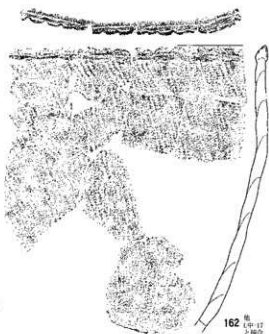


図IV-162 遺構の土器(44)

L遺物集中-9



遺
L中-17
と結合



遺
L中-17
と結合

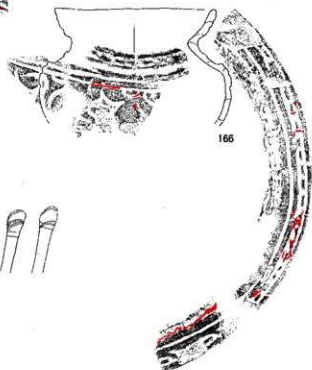
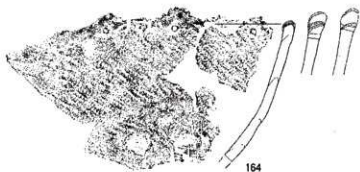
L遺物集中-10



L遺物集中-17

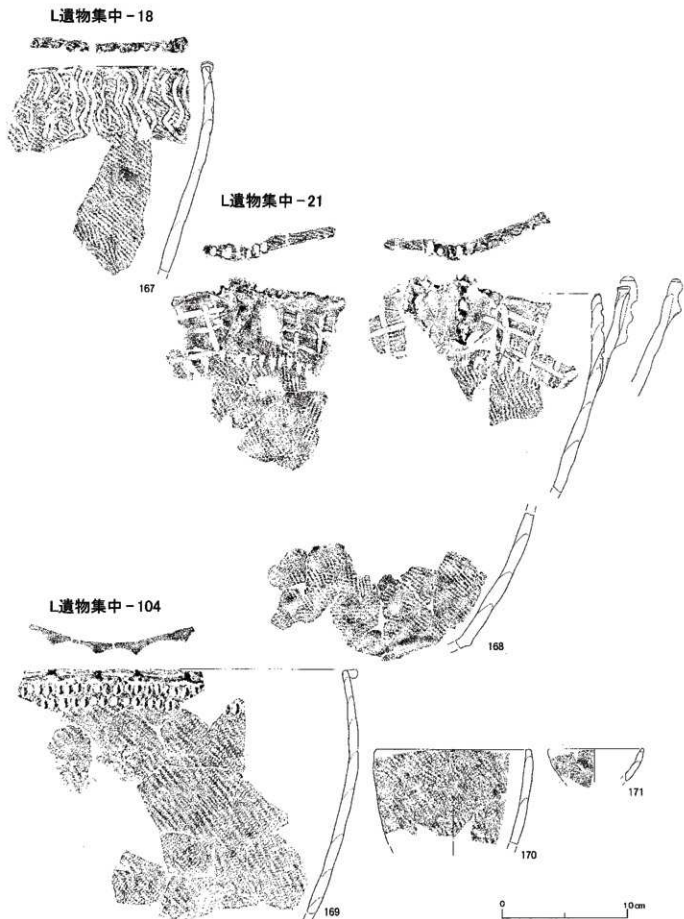


L遺物集中-12



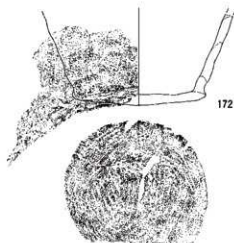
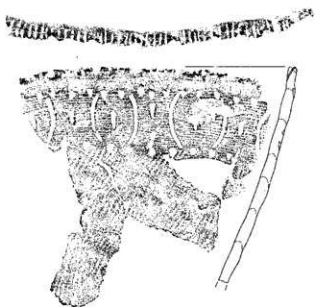
0 10cm

図IV-163 遺構の土器(45)



図IV-164 遺構の土器(46)

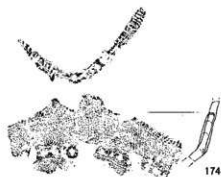
L遺物集中-120



L遺物集中-126

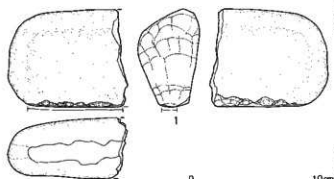


L遺物集中-127

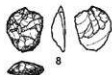


図IV-165 遺構の土器(47)

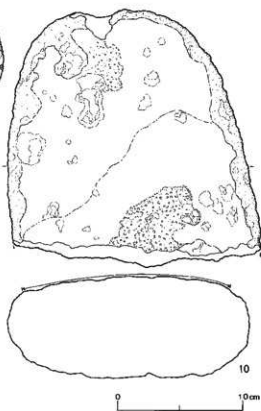
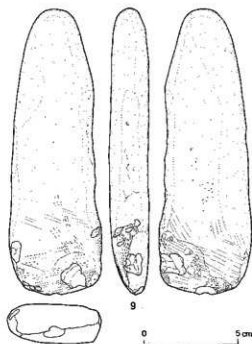
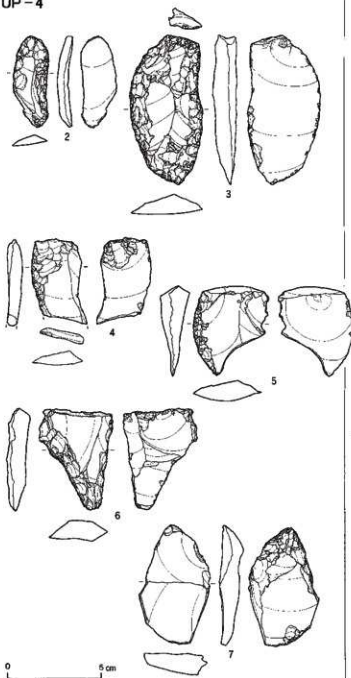
UP-1



UP-5

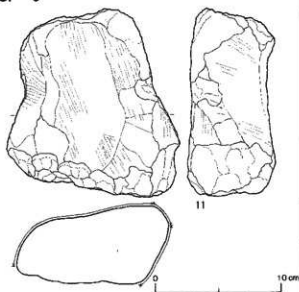


UP-4

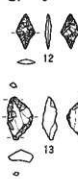


図IV-166 遺構の石器(1)

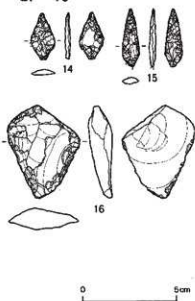
UP-5



UP-9



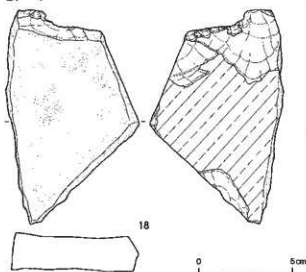
UP-10



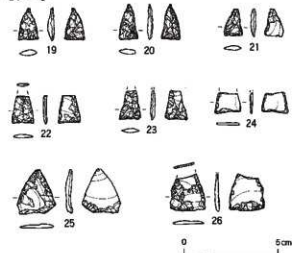
UP-11



UF-7



UF-9



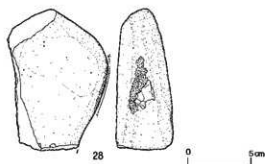
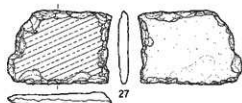
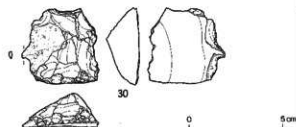
UF-10



UF-12

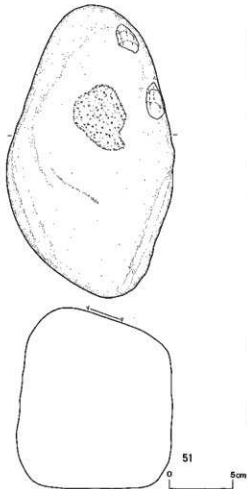
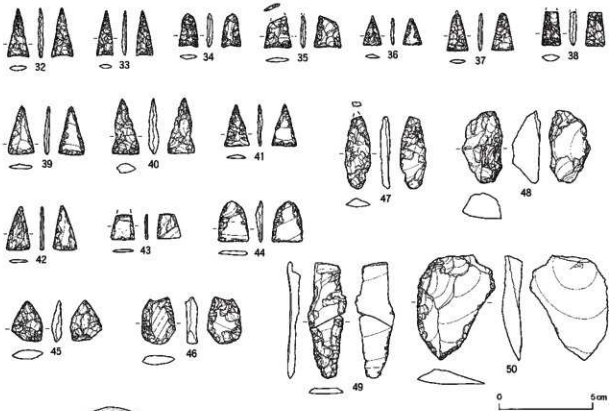


UF-11

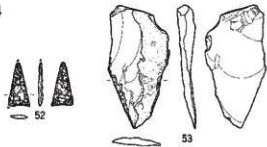


図Ⅳ-167 遺構の石器(2)

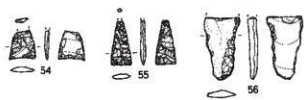
UF-13



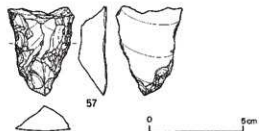
UF-14



UF-15

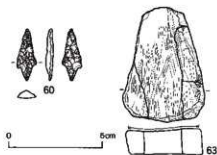
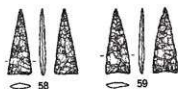


UF-19

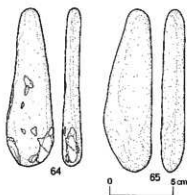
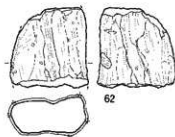
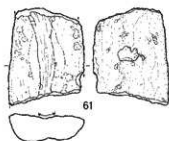


図IV-168 遺構の石器(3)

UF-20

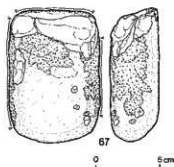
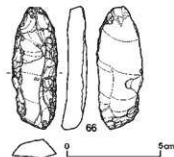


0 5cm



0 5cm

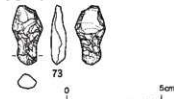
UF-21



US-1

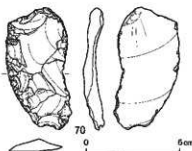


US-4

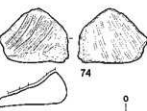
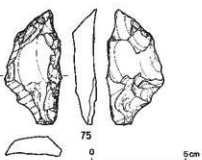


0 5cm

UF-22

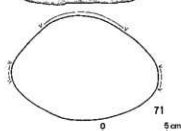
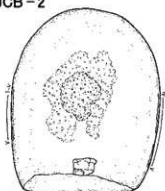


US-5



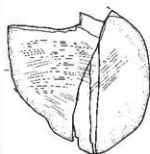
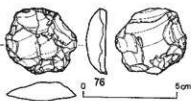
0 5cm

UCB-2



0 5cm

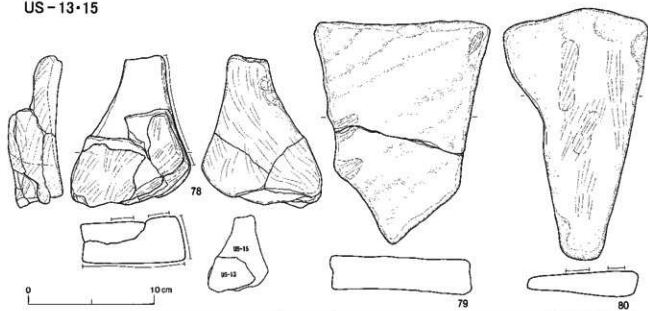
US-13-15



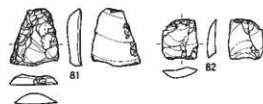
0 5cm

図IV-169 遺構の石器(4)

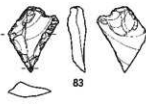
US-13-15



U遺物集中-1



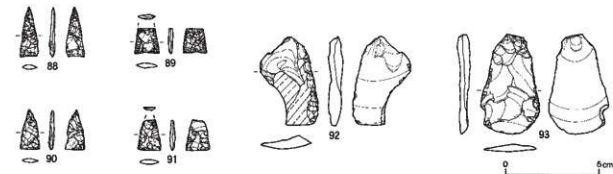
U遺物集中-2



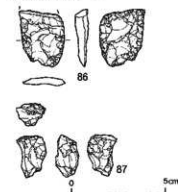
U遺物集中-3



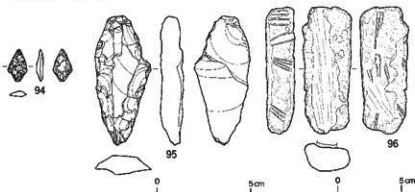
U遺物集中-6



U遺物集中-5

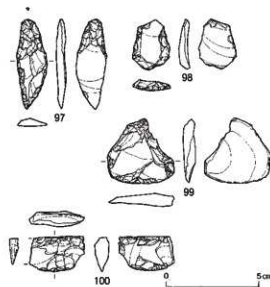


U遺物集中-7

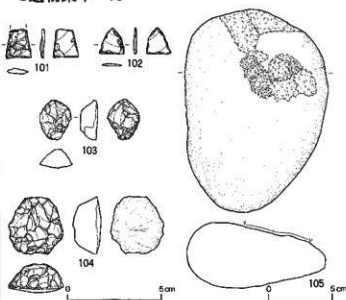


図IV-170 遺構の石器(5)

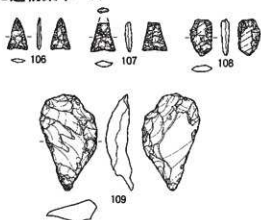
U遺物集中-8



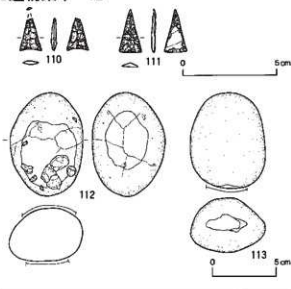
U遺物集中-10



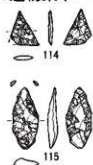
U遺物集中-11



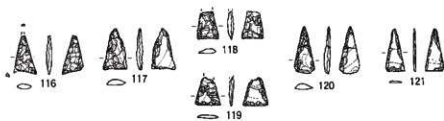
U遺物集中-12



U遺物集中-13



U遺物集中-14



U遺物集中-15



U遺物集中-17



図Ⅳ-171 遺構の石器(6)

U遺物集中-19



128

U遺物集中-20



129

U遺物集中-21



130

U遺物集中-23



131

132

U遺物集中-24



133

U遺物集中-25



134

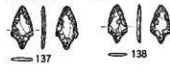
U遺物集中-26



135

136

U遺物集中-27



137

138



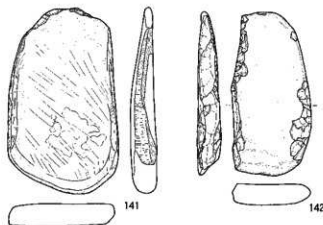
139



140

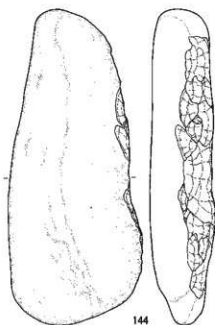
0 5cm

U遺物集中-101

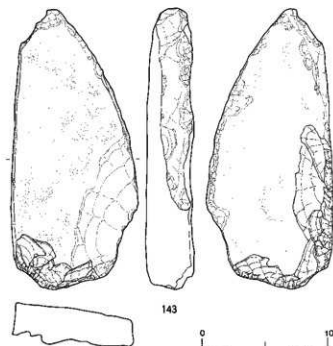


141

142



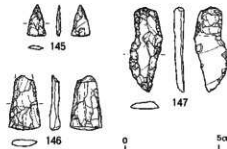
144



143

0 10cm

U遺物集中-106



145

147

146

0 5cm

図IV-172 遺構の石器(7)

U遺物集中 - 107



148

U遺物集中 - 108



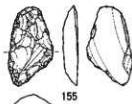
149

U遺物集中 - 109



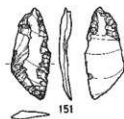
150

U遺物集中 - 131



155

U遺物集中 - 119



151



U遺物集中 - 122



152

U遺物集中 - 125



153



154

U遺物集中 - 137



156

5cm

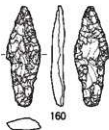
LH-3



157

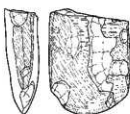
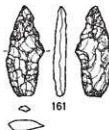
158

159



160

161



162



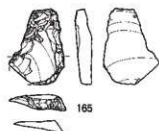
163



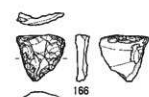
164

5cm

LP-2



165



166

LP-3



167

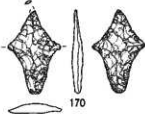
168

LP-8

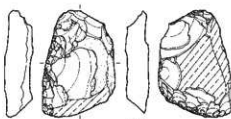


169

LP-12



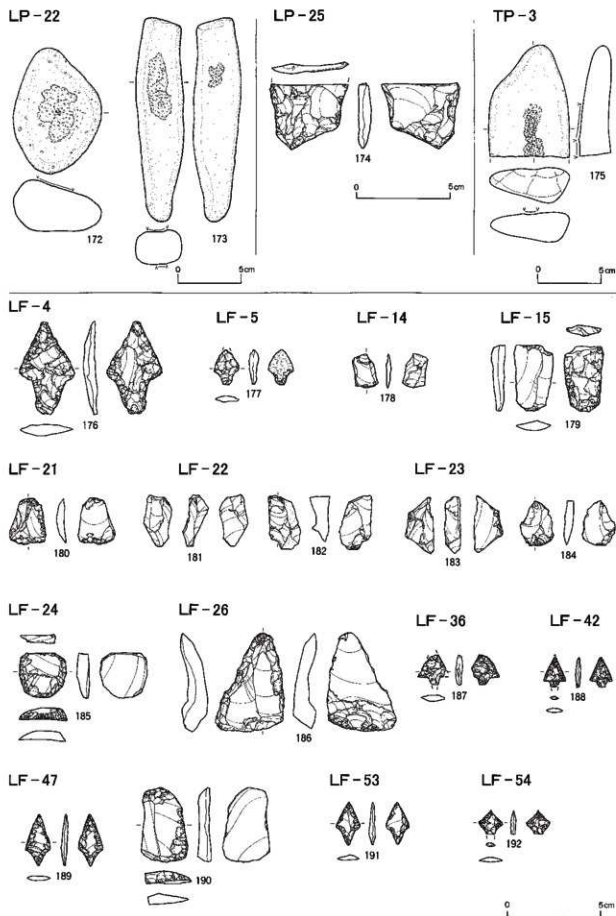
170



171

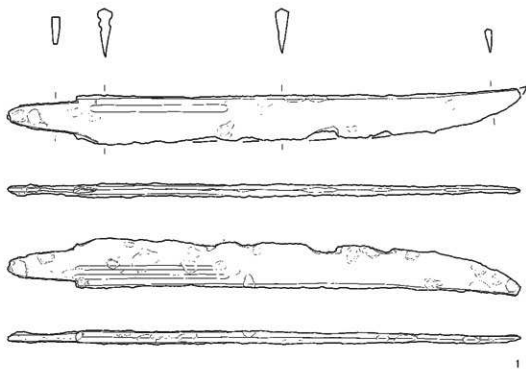


図IV-173 遺構の石器(8)

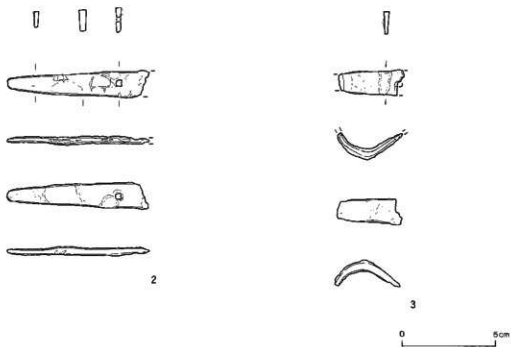


図IV-174 遺構の石器(9)

UF-16

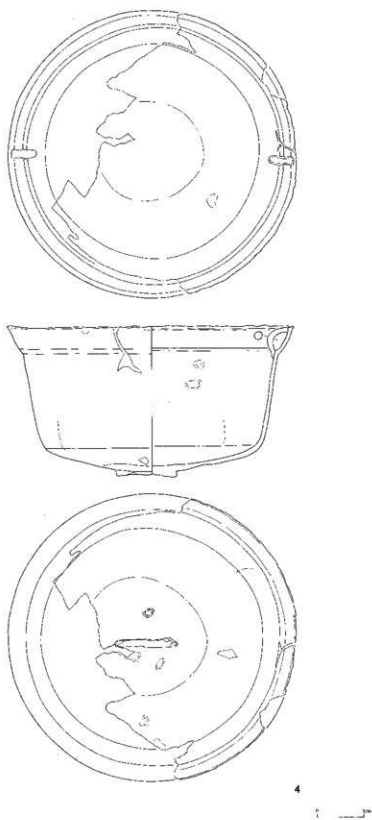


US-15



図IV-175 遺構の鉄製品(1)

US-15



図IV-176 遺構の鉄製品(2)

